

韓國日本語學會 第48回 國際學術發表大會

< 主 題 >

韓中日「日本研究」の現状と課題

< 基調講演 >

日韓対照研究の成果と残された問題
生越直樹(東京大学)

- ・ 日時：2023年 9月 23日(土)
- ・ 場所：東國大學校
(対面大会・一部オンライン(Zoom))
- ・ 主催：韓國日本語學會, 東アジア日本学研究会
東國大學校日本學研究所
- ・ 主管：韓國日本語學會
- ・ 後援：JAPAN FOUNDATION  SEOUL, (株)時事Books



韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

韓國日本語學會

第48回 國際學術發表大會

■ 日時：2023年 9月 23日(土)

■ 場所：東國大學校 惠化館(対面大会・一部オンライン(Zoom))

<Program>

10:00-12:10	■ 一般發表	【対面大会】 第1發表會場 惠化館122 第2發表會場 惠化館123 第3發表會場 惠化館124 第4發表會場 惠化館125 第5發表會場 惠化館137 第6發表會場 惠化館138 第7發表會場 惠化館139	【オンライン大会】 第8-10發表會場は 案内URLを参照
12:10-13:30	休息		
13:30-14:10	■ 開會式・總會 開會辭：盧姪鉉 會長(徳成女大) 祝 辭：加藤 剛 所長(日本国際交流基金Seoul文化Center) 學會経過報告、會計・監査報告、功勞賞・學術賞授與 次期會長・副會長 認准	<司會：辛銀眞(仁川大)>	惠化館 Ko Soon Chung seminar室
14:10-14:20	■ 研究倫理講演 蔡盛植(高麗大)	<司會：辛銀眞(仁川大)>	
14:20-14:30	休息		
14:30-15:20	■ 基調講演 生越直樹(東京大)	<司會：文彰鶴(韓國外大)> <討論：梁敏鎬(釜慶大)>	
15:20-15:30	休息		
15:30-17:40	■ 企劃發表及び 一般發表	【対面大会】 第1發表會場 惠化館122 第2發表會場 惠化館123 第3發表會場 惠化館124 第4發表會場 惠化館125 第5發表會場 惠化館137 第6發表會場 惠化館138 第7發表會場 惠化館139	【オンライン大会】 第8-10發表會場は 案内URLを参照
17:40	懇親会		

※ 発表申請後にビザ等の問題で対面での参加が困難となった方々のために、
第8・第9・第10発表会場をオンライン会場として開設いたします。
プログラムに記載のQRコードもしくはURLからご入場ください。

<第8発表会場>

第48回 国際学術大会 第8発表会場



韓国日本語學會

<https://us02web.zoom.us/j/8225550120?pwd=S1VvLzBPTy91UXlHbzdSbEhlazRmQT09>
会議 ID: 822 555 0120
password: 1234

<第9発表会場>

第48回 国際学術大会 第9発表会場



韓国日本語學會

<https://us06web.zoom.us/j/6108975810?pwd=YWViRiBCaXBScjRYZTBDOXhoT1FtZz09>
会議 ID: 610 897 5810
password: 1234

<第10発表会場>

第48回 国際学術大会 第10発表会場



韓国日本語學會

<https://us06web.zoom.us/j/7446770442?pwd=TVRiY3FIWU9sWmxJamE2S0czOWx2QT09>
会議 ID: 744 677 0442
password: 1234

<研究倫理講演>

14:10-14:20

[惠化館 Ko Soon Chung seminar室]

司會: 辛銀眞(仁川大)

연구자를 위한 연구윤리교육
研究者のための研究倫理教育
蔡盛植(高麗大)

<基調講演>

14:30-15:20

[惠化館 Ko Soon Chung seminar室]

司會: 文彰鶴(韓國外大)

討論: 梁敏鎬(釜慶大)

日韓対照研究の成果と残された問題
生越直樹
(東京大)

対面発表

第1発表会場

[恵化館 122]

□ 日本語の文法

座長: 蔡盛植(高麗大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
招請発表					
10:00 -10:30	姜柳 (中国海洋大)	生態心理学からみる属性叙述文の主観性	日	河在必 (釜山大)	申義植 (Cyber韓國外大)
10:30 -11:00	何思瑩 (名古屋大)	程度副詞の修飾機能について - 「かなり」・「なかなか」 -	日	金廷珉 (高麗大)	
11:10 -11:40	李知洙 (韓國外大)	祝詞(のりと)・宣命(せんみょう)의 助詞 「二(爾/仁)」	韓	宋在漢 (東豆川外高)	河在必 (釜山大)

□ 企劃発表: 日韓両語の「不完全な文」をめぐって

座長: 李竣瑞(聖潔大)

15:30 -16:00	尹盛熙 (関西学院大)	日韓の不完全な文と「文脈に任せる情報」について	日	中村有里 (仁川大)	生越直樹 (東京大)
16:00 -16:30	金智賢 (宮崎大)	直接引用と名詞修飾に関する日韓対照分析 - 「何じゃこりゃ状態」類の表現を中心に-	日	金知垠 (Catholic大)	
16:40 -17:10	新井保裕 (文京学院大)	日本語LINEにおける「不完全な文」の一考察 -メディアと言語構造、「表記意識」に注目して-	日	文彰鶴 (韓國外大)	
17:10 -17:40	河崎啓剛 (東京大)	日本語「です」の終助詞化と 韓国語「해요」体形成の通時的対照	日	朴孝庚 (漢陽Cyber大)	

第2発表会場

[恵化館 123]

□ 日本語と学習者

座長: 李範錫(Catholic大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	楊迪 (名古屋大)	「~ばい」の使用における「基準」について	日	金容美 (韓國外大)	杉村泰 (名古屋大)
10:30 -11:00	植松容子 (昭和女子大)	上級日本語学習者を対象とした 古語レディネス調査 -韓国語母語話者を例に-	日	工藤恵利子 (培花女大)	
11:10 -11:40	南明世 (北陸大)	日本語学習者による会話での相槌「確かに」 の使用実態に関する考察	日	宋殷美 (白石藝術大)	崔惠貞 (Catholic大)

■ 企画発表: 日本語教科書と東アジア言語のジェンダー 座長: 李美淑(明知大)

15:30 -16:00	遠藤織枝 (文教大)	日本語のジェンダー研究小史	日	蔵重優姫 (仁川大)	加藤恵梨 (愛知教育大)
16:00 -16:30	鄭相哲 (極東大)	日本語教材と国語(韓国語)教科書の ジェンダー	日	長島倫子 (建國大)	
16:40 -17:10	加藤恵梨 (愛知教育大)	中国で使用されている日本語教科書に 見られるジェンダー	日	中村智子 (培材大)	
17:10 -17:40	三枝優子 (文教大)	年少者日本語教育をとりまくジェンダー	日	畑中愛 (慶熙大)	

第3発表会場

[恵化館 124]

■ 対照言語学1

座長: 李恩美(明知大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
招請発表					
11:10 -11:40	郭蓉菲 (中南大)	中国語の“互相/相互”と日本語の「互い」との 対照研究 -言語類型論の観点から-	日	力丸美和 (九州大)	飯干和也 (祥明大)
11:40 -12:10	羅非凡 (名古屋大)	日本語の「V出す/出る」と中国語の“V出”の 対照研究	日	方允炯 (水原大)	

■ 企画発表: 多言語の日本語学習者におけるOPIデータの比較

座長: 検校裕朗(極東大)

15:30 -16:00	川口慶子 (崇實大)	教師と学生の意識変化に見るOPIの 教育的意義	日	関陽子 (漢陽大)	角ゆりか (明知大)
16:00 -16:30	安田佳奈枝 (Hanbat大)	韓国人学習者を対象にした外来語の 使用実態と課題 -OPIを用いた質的考察-	日	井口恵菜 (江原大)	
16:40 -17:10	小島堅嗣 (培材大)	多言語の在韓日本語学習者における OPIデータの比較 -コードスイッチングの観点から-	日	孫朱彦 (高麗大)	野村寛 (世明大)
17:10 -17:40	後藤歩 (檀國大)	アンケート調査の結果からみた聞き手の理解度 に影響を与える日本語学習者の音声的特徴 -ACTFL-OPIの上級レベルと中級レベルを 中心に-	日	鮫名美幸 (大邱Catholic 大)	

第4發表會場

[惠化館 125]

▣ 対照言語学2

座長: 趙大夏 (Seoul女大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	徐停宇 (建國大)	한·일 양언어 들숨 쫓소리의 소통의미와 발화의도에 중요성 日韓兩言語の吸音・ヒソソリの コミュニケーションの意味と発話意図の重要性	韓	張允娥 (釜慶大)	梁乃允 (中央大)
10:30 -11:00	高源營 (高麗大)	한일 만화에서 나타난 놀람표현 대조연구 韓日漫画における驚き表現の対照研究	韓	林序衍 (木浦海洋大)	
11:10 -11:40	郝文文 (名古屋大)	日本語の動詞「受ける」と中国語の“受到”、 “得到”、“被~”の対照研究	日	宮崎聖子 (福岡女子大)	孫榮爽 (濟州大)
11:40 -12:10	宋啓超 (広島大)	日本語と中国語の逐次通訳の遂行における 実行機能の予測 -通訳訓練経験の有無による検討-	日	伊月知子 (愛媛大)	

▣ 談話

座長: 黃永熙 (漢陽Cyber大)

15:30 -16:00	張良光 (Catholic大)	初対面自由会話における話題展開分析 -在日コリアンと日本語母語話者間の 会話資料を中心に-	日	峯崎知子 (弘益大)	郭銀心 (中央大)
16:00 -16:30	鄭賢兒 (明知大)	드라마를 통해 본 한중일 불만표명행위의 특징 -‘미생’의 한중일 버전을 분석하여- ドラマを通して見た韓中日の不满表明行為の特徴 -‘未生’の韓中日版を分析し-	韓	金智媛 (高麗大)	
16:40 -17:10	林千賀 (城西国際大)	接客場面におけるホテルスタッフの断り談話 -意味公式の分析から-	日	金鍾完 (江原大)	李恩美 (明知大)
17:10 -17:40	許明子 (名古屋大)	話し手の視点の捉え方に関する日韓対照 - 4コマ漫画のストーリーテリングの調査を 通して-	日	李承民 (慶北大)	

第5發表會場

[惠化館 137]

▣ 日本語教育 1

座長: 張根壽 (祥明大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	招請発表				
	林玉惠 (銘傳大学)	台湾日本語関係学科における観光関連授業の 現状と課題	日	脇山尚子 (東元大)	辛銀真 (仁川大)

招請発表					
10:30 -11:00	葉淑華 (中国文化大)	台湾日本語教育におけるICT活用研究の 現状と課題 -AI関連を中心に-	日	尹楨勛 (釜山外大)	
11:10 -11:40	鄭惠先 (北海道大) 永岡悦子 (流通経済大)	SELの日韓における留学生教育への応用の 可能性と意義	日	閔陽子 (漢陽大)	

■ 日本語教育2

座長: 崔殷赫(仁川大)

15:30 -16:00	中川正臣 (城西国際大) 福村真紀子 (茨城大) 本間祥子 (千葉大)	インクルーシブな社会を実現するための 言語教育実践 -「日本人のマジョリティ性」をテーマに したヒューマンライブラリーの試み-	日	高草木美奈 (大真大)	佐藤揚子 (慶熙大)
16:00 -16:30	カ丸美和 (九州大)	日本語教育におけるダイバシティ・ マネジメント -母語話者教師と非母語話者教師の割合が 教育に及ぼす影響-	日	横山菜穂子 (聖公會大)	
16:40 -17:10	中川良雄 (京都外国語 大)	日本語教師に求められる資質・能力と ネイティブ/ノンネイティブ教師の連携・協働	日	米澤史織 (淑明女大)	角ゆりか (明知大)
17:10 -17:40	杉村泰 (名古屋大)	韓国人・中国人日本語学習者における 日本語の「乗り物+で/に乗って」の選択	日	沼田浩通 (南Seoul大)	

第6発表会場

[恵化館 138]

■ 社会言語学

座長: 姜錫祐(Catholic大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	今村圭介 (東京海洋大) 李賢貞 孫美貞 李承民 李舜炯 (慶北大)	日韓両言語に対する英語からの影響の 測定比較	日	孫榮爽 (濟州大)	高恩淑 (韓國外大)
10:30 -11:00	斎藤敬太 (跡見学園女 子大)	子どもを読み手に想定した言語景觀に関する 萌芽的研究	日	市島佑起子 (鹿児島大)	
11:10 -11:40	久屋愛実 (立命館大)	大規模実時間データ分析から見えてくること -言語変化のより複雑なプロセス解明に	日	張元哉 (啓明大)	高慧禎 (Catholic関)

		向けて-			
11:40 -12:10	市島佑起子 (鹿児島大)	地方大学での留学と日本語地域方言 -元留学生の語りから見る地域方言への 視座とその特色-	日	斎藤敬太 (跡見学園女 子大)	東大)

■ 日本語と教育史

座長: 吳玗定(建國大)

15:30 -16:00	宮脇弘幸 (大連外国語 大)	朝鮮総督府編『普通学校国語読本』が描く 朝鮮・日本 -第3期国語読本を中心に-	日	成玗珂 (祥明大)	李粹暲 (嘉泉大)
16:00 -16:30	宮崎聖子 (福岡女子大)	植民地台湾における女性と青年学校、 実業補習学校	日	金ボイエ (高麗大)	
16:40 -17:10	伊月知子 (愛媛大)	元学習者が自己の歴史を経て語る 「満洲国」教育観 -斉紅深氏が取り組むオーラルヒストリー 研究の今日的意義-	日	朴善玉 (大真大)	朴英淑 (水原科學大)
17:10 -17:40	渡部恭子 (聖徳大)	日本の前代教育における子ども観の多様性 -柳田國男の視点を手がかりに-	日	蔡侖周 (Hanbat大)	

第7発表会場

[惠化館 139]

■ 言語と文化

座長: 李京哲(東國大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:00	李慶国 (追手門学院大)	戦争と平和 -日・中小学校『国語』・『語文』教科書を 中心に-	日	金義泳 (Hanbat大)	趙恩英 (釜山外大)
11:10 -11:40	張柳柳 (南京工業大)	日本における中国人モニュメントの機能の 変遷 -周恩来総理記念詩碑を中心に-	日	仲矢信介 (東京国際大)	中村有里 (仁川大)
11:40 -12:10	仲矢信介 (東京国際大)	ドラマ『深夜食堂』に見る日韓中の架橋 -日韓「バターライス」を中心に-	日	李慶国 (追手門学院大)	

■ 言語と交流

座長: 金光泰(韓瑞大)

15:30 -16:00	金龍哲 (東京福祉大)	「周辺文化」の伝承装置のメンテナンスに 関する試論 -三浦半島における地域文化の伝承実践の 仕組みを事例に-	日	崔肅京 (富士大)	宋淑正 (中央大)
16:00 -16:30	崔肅京 (富士大)	地域社会における持続可能な多文化共生に 関する研究 -Y県を事例として-	日	金玄珠 (Hanbat大)	

16:40 -17:10	王維亭 (千葉大)	日本における外国人労働者の受け入れに 関する政策の変化 -技能実習生を中心に-	日	趙恩英 (釜山外大)	
-----------------	--------------	---	---	---------------	--

オンライン発表

第8発表会場

■ 日本語学

Zoom host: 娜荷芽(内蒙古大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	辻本桜子 (甲南大)	「助言」研究の概観と今後の課題	日	金光林 (新潟産業大)	金光林 (新潟産業大)
10:30 -11:00	清水泰生 (同志社大)	スポーツ用語と一般用語とのずれ違いについて	日	金光林 (新潟産業大)	
11:10 -11:40	橋本恵子 (福岡工業大)	福岡方言に関する意識調査	日	清水泰生 (同志社大)	
11:40 -12:10	胡蘇紅 (中国社会科学院)	日本語自然会話におけるターンの 共同構築に関する一考察	日	清水泰生 (同志社大)	清水泰生 (同志社大)
12:10 -12:40	陳泳珊 (名古屋大)	「ばかり」の記述的研究 -「限定」用法と「程度」用法を中心に-	日	清水泰生 (同志社大)	

■ 日本語教育

Zoom host: 娜荷芽(内蒙古大)

15:30 -16:00	靳夢瑩 (九州大)	中国教科書における複合動詞「～だす」の 出現状況 -中国教科書を対象に-	日	娜荷芽 (内蒙古大)	娜荷芽 (内蒙古大)
16:00 -16:30	大橋真由美 (東京福祉大)	多文化共生における地域日本語教育の課題 -群馬県の地域日本語教育の取組みから-	日	娜荷芽 (内蒙古大)	
16:40 -17:10	娜荷芽 (内蒙古大)	1930～1940年代における内モンゴル人の 日本留学	日	金斑実 (商丘師範学院)	金斑実 (商丘師範学院)
17:10 -17:40	劉澤軍 (天津外国語大)	中国語を母語とする学習者における 名詞句の省略について	日	金斑実 (商丘師範学院)	

第9発表会場

□ 日本文学

Zoom host: 李東哲(山東外事職業大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:30	朴占玉 (新羅大)	『万葉集』の女流歌人についての一考察 - 大伴家持をめぐる女性 -	日	金龍哲 (東京福祉大)	金龍哲 (東京福祉大)
10:30 -11:00	安勇花 金奎 (延辺大)	志賀直哉「三つの処女作」についての考察	日	金龍哲 (東京福祉大)	
11:10 -11:40	張夢雅 (新羅大)	『源氏物語』における仏教的思想について - 藤壺、六条御息所、紫上の出家を 中心にして -	日	安勇花 (延辺大)	安勇花 (延辺大)
11:40 -12:10	庄婕享 (惠州学院)	揺らぐ明石の君の心 『源氏物語』中国語訳の比較分析を通して	日	安勇花 (延辺大)	

□ 言語と交流

Zoom host: 李東哲(山東外事職業大)

15:30 -16:00	張智超 于心 (成都東軟学院)	アニメ作品における曹操像の研究 - 「横山三国志」の受容を視点に -	日	邢璐 (新羅大)	李東哲 (山東外事職業大)
16:00 -16:30	邢璐 (新羅大)	日本戦国歴史小説の研究 - 曹操と織田信長について -	日	張智超 (成都東軟学院)	
16:40 -17:10	于心 張智超 (成都東軟学院)	日中両国の仏教説話における恋の鬼の比較研究 - 「愛」と「憎しみ」を中心に -	日	蘇文鑫 (安徽農業大)	
17:10 -17:40	蘇文鑫 (安徽農業大)	日中同形異義語「綺麗」に関する研究	日	于心 (成都東軟学院)	

第10発表会場

□ 家族と教育

Zoom host: 李東輝(大連外国語大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:30 -11:00	畢舜堯 (奈良女子大)	中国都市部女性の出産意識と子どもの価値の 関わりについて	日	李東輝 (大連外国語大)	李東輝 (大連外国語大)

11:10 -11:40	李東輝 饒勝男 (大連外国語大)	『朝日新聞』の事例からみる日本家族の 介護意識の変遷 -1980年～2019年のデータベースを中心に-	日	金光林 (新潟産業大)	金光林 (新潟産業大)
11:40 -12:10	金斑実 (商丘師範学 院)	清末民国期における河南留学生研究 -名簿を中心に-	日	金光林 (新潟産業大)	

■ 社会と文化

Zoom host: 李東輝(大連外国語大)

16:00 -16:30	菅陽子 (総合研究大 学院)	台湾阿里山ツォウ族の珈琲栽培の歴史と課題	日	滝澤修身 (長崎純心大)	滝澤修身 (長崎純心大)
16:40 -17:10	孫蓮花 (大連理工大)	日本の知的障害者向け「わかりやすい」 情報提供 -4字以上漢字列の置き換えストラテジーを 中心に-	日	菅陽子 (総合研究大 学院)	菅陽子 (総合研究大 学院)
17:10 -17:40	滝澤修身 (長崎純心大)	長崎県外海町の潜伏キリシタンをめぐる考察	日	菅陽子 (総合研究大 学院)	

地圖·交通案内

[동국대학교 찾아오시는 길]



주소 · 전화

[04620] 서울특별시 중구 필동로 1길 30 <☎ 02-2260-3114>
30, Pildong-ro 1-gil, Jung-gu, Seoul, 04620, Republic of Korea

교통편

【 지하철 이용시 】

- ☞ 3호선 동대입구역 6번 출구 이용
- ☞ 3호선 4호선 충무로역 1번 출구 이용

【 버스 이용시 】

- ☞ 장충동 (동국대입구)
 - 지선버스 7212
 - 간선버스 144, 301, 420, 407
- ☞ 대한극장 앞
 - 지선버스 7011
 - 간선버스 104, 105, 140, 463, 421, 507, 604

【 자가용 이용시 】

- ☞ 모든 자동차의 출입은 동국대 정문으로만 가능

地図・交通アクセス

【 東国大学校へのアクセス 】



● 住所・電話

☎ [〒04620] Seoul特別市 中區 筆洞路 1gil 30 <☎ 02-2260-3114>
30, Pildong-ro 1-gil, Jung-gu, Seoul, 04620, Republic of Korea

● 交通

【 地下鉄のご利用 】

- ☎ 3号線 東大入口(トンデイク)駅 6番出口
- ☎ 3号線 4号線 忠武路(チュンムロ)駅 1番出口

【 バスのご利用 】

- ☎ 獎忠洞(チャンチュンドン) (東国大入口[トングツテイク])
 - 支線バス 7212
 - 幹線バス 144, 301, 420, 407
- ☎ 大韓劇場前(テハンクツチャンイク)
 - 支線バス 7011
 - 幹線バス 104, 105, 140, 463, 421, 507, 604

【 お車のご利用 】

☎ すべての車両は正門のみ通行可能です。

學術發表會

[基調講演]

日韓対照研究の成果と残された問題	3
	生越直樹(東京大)

[企劃発表]

日韓両語の「不完全な文」をめぐって	19
	生越直樹(企画者)・尹盛熙・金智賢・新井保裕・河崎啓剛

日韓の不完全な文と「文脈に任せる情報」について	21
	尹盛熙(関西学院大)

直接引用と名詞修飾に関する日韓対照分析 - 「何じゃこりゃ状態」類の表現を中心に -	28
	金智賢(宮崎大)

日本語LINEにおける「不完全な文」の一考察 - メディアと言語構造、「表記意識」に注目して -	36
	新井保裕(文京学院大)

日本語「です」の終助詞化と韓国語「해요」体形成の通時的対照	46
	河崎啓剛(東京大)

日本語のジェンダー研究小史	53
	遠藤織枝(文教大)

日本語教材と国語(韓国語)教科書のジェンダー	56
	鄭相哲(極東大)

中国で使用されている日本語教科書に見られるジェンダー	59
	加藤恵梨(愛知教育大)

年少者日本語教育をとりまくジェンダー	61
	三枝優子(文教大)
教師と学生の意識変化に見るOPIの教育的意義	63
	川口慶子(崇實大)
韓国人学習者を対象にした外来語の使用実態と課題 -OPIを用いた質的考察-	68
	安田佳奈枝(Hanbat大)
多言語の在韓日本語学習者におけるOPIデータの比較 -コードスイッチングの観点から-	75
	小島堅嗣(培材大)
アンケート調査の結果からみた聞き手の理解度に影響を与える日本語学習者の 音声的特徴 -ACTFL-OPIの上級レベルと中級レベルを中心に-	82
	後藤歩(檀國大)

[一般発表]

■ 第1発表会場

① 生態心理学からみる属性叙述文の主観性	89
	姜柳(中国海洋大)
② 程度副詞の修飾機能について -「かなり」・「なかなか」-	99
	何思瑩(名古屋大)
③ 祝詞(のりと)・宣命(せんみょう)の助詞「ニ(爾/仁)」	103
	李知洙(韓国外大)

■ 第2発表会場

① 「〜ばい」の使用における「基準」について	110
	楊迪(名古屋大)

② 上級日本語学習者を対象とした古語レディネス調査 -韓国語母語話者を例に-	116
	植松容子(昭和女子大)

③ 日本語学習者による会話での相槌「確かに」の使用実態に関する考察	123
	南明世(北陸大)

■ 第3発表会場

① 中国語の“互相/相互”と日本語の「互い」との対照研究 -言語類型論の観点から-	129
	郭蓉非(中南大)

② 日本語の「V出す/出る」と中国語の“V出”の対照研究	138
	羅非凡(名古屋大)

■ 第4発表会場

① 한·일 양언어 들숨 쉼소리의 소통의미와 발화의도에 중요성 日韓両言語の吸音・ヒッソリの コミュニケーションの意味と発話意図の重要性	144
	徐停宇(建國大)

② 한일 만화에서 나타난 놀람표현 대조연구 韓日漫画における驚き表現の対照研究	147
	高源營(高麗大)

③ 日本語の動詞「受ける」と中国語の"受到"、"得到"、"被~"の対照研究	154
	郝文文(名古屋大)

④ 日本語と中国語の逐次通訳の遂行における実行機能の予測 -通訳訓練経験の有無による検討-	161
	宋啓超(広島大)

⑤ 初対面自由会話における話題展開分析 -在日コリアンと日本語母語話者間の会話資料を中心に-	167
	張良光(Catholic大)

⑥ 드라마를 통해 본 한중일 불만표명행위의 특징	
----------------------------	--

-‘미생’의 한중일 버전을 분석하여- ドラマを通して見た韓中日の不満表明行為の特徴 -‘未生’の韓中日版を分析し-	174
	鄭賢兒(明知大)
⑦ 接客場面におけるホテルスタッフの断り談話 -意味公式の分析から-	182
	林千賀(城西国際大)
⑧ 話し手の視点の捉え方に関する日韓対照 -4コマ漫画のストーリーテリングの調査を通して-	189
	許明子(名古屋大)
■ 第5発表会場	
① 台湾日本語関係学科における観光関連授業の現状と課題	198
	林玉恵(銘傳大学)
② 台湾日本語教育におけるICT活用研究の現状と課題 -AI関連を中心に-	206
	葉淑華(中国文化大)
③ SELの日韓における留学生教育への応用の可能性と意義	213
	鄭惠先(北海道大)・永岡悦子(流通経済大)
④ インクルーシブな社会を実現するための言語教育実践 -「日本人のマジョリティ性」をテーマにしたヒューマンライブラリー の試み-	220
	中川正臣(城西国際大)・福村真紀子(茨城大)・本間祥子(千葉大)
⑤ 日本語教育におけるダイバシティ・マネジメント -母語話者教師と非母語話者教師の割合が教育に及ぼす影響-	227
	力丸美和(九州大)
⑥ 日本語教師に求められる資質・能力と ネイティブ/ノンネイティブ教師の連携・協働	234
	中川良雄(京都外国語大)
⑦ 韓国人・中国人日本語学習者における	

日本語の「乗り物+で/に乗って」の選択	241
	杉村泰(名古屋大)

■ 第6発表会場

① 日韓両言語に対する英語からの影響の測定比較	248
	今村圭介(東京海洋大)・李賢貞, 孫美貞, 李承民, 李舜炯(慶北大)
② 子どもを読み手に想定した言語景観に関する萌芽的研究	257
	齋藤敬太(跡見学園女子大)
③ 大規模実時間データ分析から見えてくること -言語変化のより複雑なプロセス解明に向けて-	264
	久屋愛実(立命館大)
④ 地方大学での留学と日本語地域方言 -元留学生の語りから見る地域方言への視座とその特色-	274
	市島佑起子(鹿児島大)
⑤ 朝鮮総督府編『普通学校国語読本』が描く朝鮮・日本 -第3期国語読本を中心に-	282
	宮脇弘幸(大連外国語大)
⑥ 植民地台湾における女性と青年学校、実業補習学校	288
	宮崎聖子(福岡女子大)
⑦ 元学習者が自己の歴史を経て語る「満洲国」教育観 -斉紅深氏が取り組むオーラルヒストリー研究の今日的意義-	295
	伊月知子(愛媛大)
⑧ 日本の前代教育における子ども観の多様性 -柳田國男の視点を手がかりに-	302
	渡部恭子(聖徳大)

■ 第7発表会場

① 戦争と平和 -日・中小学校『国語』・『語文』教科書を中心に-	306
	李慶国(追手門学院大)

- ② 日本における中国人モニュメントの機能の変遷
 -周恩来総理記念詩碑を中心に- 313
 張柳柳(南京工業大)
- ③ ドラマ『深夜食堂』に見る日韓中の架橋
 -日韓「バターライス」を中心に- 320
 仲矢信介(東京国際大)
- ④ 「周辺文化」の伝承装置のメンテナンスに関する試論
 -三浦半島における地域文化の伝承実践の仕組みを事例に- 328
 金龍哲(東京福祉大)
- ⑤ 地域社会における持続可能な多文化共生に関する研究
 -Y県を事例として- 335
 崔肅京(富士大)
- ⑥ 日本における外国人労働者の受け入れに関する政策の変化
 -技能実習生を中心に- 338
 王維亭(千葉大)

■ 第8発表会場

- ① 「助言」研究の概観と今後の課題 345
 辻本桜子(甲南大)
- ② スポーツ用語と一般用語とのすれ違いについて 351
 清水泰生(同志社大)
- ③ 福岡方言に関する意識調査 357
 橋本恵子(福岡工業大)
- ④ 日本語自然会話におけるターンの共同構築に関する一考察 364
 胡蘇紅(中国社会科学院)
- ⑤ 「ばかり」の記述的研究
 -「限定」用法と「程度」用法を中心に- 370
 陳泳姍(名古屋大)

- ⑥ 中国教科書における複合動詞「～だす」の出現状況
 -中国教科書を対象に- 377
 靳夢瑩(九州大)
- ⑦ 多文化共生における地域日本語教育の課題
 -群馬県の地域日本語教育の取組みから- 384
 大橋真由美(東京福祉大)
- ⑧ 1930～1940年代における内モンゴル人の日本留学 391
 娜荷芽(内蒙古大)
- ⑨ 中国語を母語とする学習者における名詞句の省略について 397
 劉澤軍(天津外国語大)

■ 第9発表会場

- ① 『万葉集』の女流歌人についての一考察
 -大伴家持をめぐる女性- 405
 朴占玉(新羅大)
- ② 志賀直哉「三つの処女作」についての考察 411
 安勇花, 金奎(延辺大)
- ③ 『源氏物語』における仏教的思想について
 -藤壺、六条御息所、紫上の出家を中心にして- 414
 張夢雅(新羅大)
- ④ 揺らぐ明石の君の心『源氏物語』中国語訳の比較分析を通して 420
 庄婕淳(惠州学院)
- ⑤ アニメ作品における曹操像の研究
 -「横山三国志」の受容を視点に- 425
 張智超, 于心(成都東軟学院)
- ⑥ 日本戦国歴史小説の研究
 -曹操と織田信長について- 431
 邢璐(新羅大)

- ⑦ 日中両国の仏教説話における恋の鬼の比較研究
 - 「愛」と「憎しみ」を中心に- 438
 于心, 張智超(成都東軟学院)
- ⑧ 日中同形異義語「綺麗」に関する研究 445
 蘇文鑫(安徽農業大)
- 第10発表会場
- ① 中国都市部女性の出産意識と子どもの価値の関わりについて 451
 畢舜堯(奈良女子大)
- ② 『朝日新聞』の事例からみる日本家族の介護意識の変遷
 -1980年～2019年のデータベースを中心に- 458
 李東輝, 饒勝男(大連外国語大)
- ③ 清末民国期における河南留学生研究
 -名簿を中心に- 465
 金珽実(商丘師範学院)
- ④ 台湾阿里山ツォウ族の珈琲栽培の歴史と課題 471
 菅陽子(総合研究大学院)
- ⑤ 日本の知的障害者向け「わかりやすい」情報提供
 -4字以上漢字列の置き換えストラテジーを中心に- 476
 孫蓮花(大連理工大)
- ⑥ 長崎県外海町の潜伏キリシタンをめぐる考察 483
 滝澤修身(長崎純心大)

韓國日本語學會
第48回 國際學術發表大會

學術シンポジウム
(學術심포지엄)

基調講演

日韓対照研究の成果と残された問題¹

生越 直樹²

1. はじめに

日韓対照研究は、1980年代から本格的な取り組みがなされるようになった。その後も様々な分野で研究がなされてきたが、日本の場合、近年は発表論文の数も少なくなり、研究が停滞している印象がある。本発表では、発表者がこれまで取り組んできた日韓対照研究のテーマをいくつか取り上げ、その成果と残された問題から、日韓対照研究の進展に向けて3つの提言を示そうと思う。

2. ヴォイス（使役と受身） 一日韓対照研究と統語論

発表者が韓国語と日本語の対照研究に関心を持ち始めたのは、大阪外国語大学（現在の大阪大学外国語学部）朝鮮語学科の学部の時だった。当時、教員だった塚本勲先生が韓国語学概論のような授業をされていて、「虎と象を比べるより、虎とライオンを比べた方が虎の特徴がより明確になる。つまり、日本語と英語を比べるより、日本語と朝鮮語を比べる方が日本語の特徴がより明らかになるのだ。」というようなことをおっしゃった。確かに、構造が似ている韓国語を勉強していると、微妙なところで日本語と違う点がある。どうしてそういう違いが生じるのかを考えると、そもそもどうして日本語はそういう表現をするのか、という疑問が沸いてくる。塚本先生は、韓国語は日本語を見るための鏡になるとおっしゃったが、まさにその通りで、韓国語の学習が日本語の構造を考えるきっかけとなり、その後、韓国語と日本語の対照研究に取り組むことにつながった。

発表者が若い頃から関心を持ち続けているテーマがヴォイスである。ヴォイスに関する現象で、発表者最も興味を引かれたのは韓国語の하다動詞と日本語のサ変動

¹ 本稿は科学研究費補助金基盤研究(B)「日韓両語の「不完全な文」に関する総合的研究：情報と言語化の関係の解明にむけて」（課題番号：21H00522）の研究成果の一部である。

² 東京大学名誉教授

詞の対応であった。特に韓国語の名詞+하다の形（以下하다形と呼ぶ）、名詞+되다の形（되다形）と日本語の名詞+するの形（スル形）、名詞+されるの形（サレル形）の対応である。このテーマについては、生越(1982)のあと、柴(1986)、李成圭(1988)、鷲尾(1998)などでも論じられ、発表者も生越(2001a)、生越(2001b)で実例分析やインタビュー調査を行い、生越(2008)では一般動詞との関連にも言及した。まず、関連する諸形態の対応関係について確認しておく。これらの形態に関しては、大まかに以下の2つの対応パターンがある。

- 1)日本語スル形 —— 韓国語하다形, 日本語サレル形 —— 韓国語되다形
- 2)日本語スル形 —— 韓国語하다形・되다形

他動詞では1)のパターン、つまり能動ではスル形と하다形が対応し、受動ではサレル形と되다形が対応する。一方、自動詞では2)のパターン、日本語のスル形に対して、韓国語は하다形が対応する場合と되다形が対応する場合がある。たとえば、次のような例がある。

- (1) a. 彼がコレラに感染した。
b. 그가 콜레라에 감염되었다.
- (2) a. 彼は3カ月も欠席している。
b. 그는 석달이나 결석하고 있다.

(1)では、日本語スル形に韓国語の되다形、(2)ではスル形に하다形が対応している。(1)(2)は異なる動詞だが、日本語が同じ動詞でも韓国語では하다形が対応したり되다形が対応したりする。

- (3) a. この地方は広い盆地があちこちに発達している。
b. 이 지방에는 넓은 분지가 곳곳에 발달되어 있다.
- (4) a. この地方では早くから水産業が発達した。
b. 이 지방에서는 일찍부터 수산업이 발달하였다.

この対応は韓国語母語話者が日本語を学習するときに、誤用の原因となる。学習者

は他動詞での対応を覚えて、それを自動詞にも適用しようとする。そのため、以下のような誤用が生まれる。

- (5) 国内的には政治・経済が安定されて (安定し) すみよい国になって、国民の手で直接選出する大統領が大韓民国を指導していくでしょう。
- (6) ソウルは6.25戦争以後ずっと発展されて (発展して) きましたから、今のようなすばらしくて世界的な都市になったんです。 (生越1992:163)

(5)(6)とも韓国語では되다形が対応するので、他動詞と同じようにサレル形を使ったのであろう。発表者が韓国で日本語を教えたときも、この種の誤用はしばしば見られた。自動詞のサ変動詞は基本的に(被害受身を除き)サレル形にならないと教えれば、誤りはかなり少なくなるはずであり、誤用への対応は比較的容易であると思われる。一方、韓国語学習者にとっては、하다形と되다形の使い分けはかなり厄介な問題である。発表者は2つの形の使い分けにどういう要因が働いているのかを用例分析やインフォーマント調査を通して明らかにしようとした。生越(2008)では、하다形、되다形を他動・自動と形態の有無によって、以下の4つのタイプに分類した。

表1 하다形, 되다形のタイプ

	Qタイプ	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
~하다 hata	他動詞	自動詞	×	自動詞
~되다 toyta	受動形	×	自動詞	自動詞

(生越 2008:157)

上のQ, A, Bの各タイプは、実際の用例とインフォーマントの判断が一致しているのに対し、Cタイプは用例とインフォーマントの判断、あるいはインフォーマント間の判断に違いが見られた。自動詞を中心に分析を進めた結果、하다形と되다形の使い方には以下のような要因が働いていることを示した。

(7) 自動詞の hata 形と toyta 形の使い方

1. 名詞を動詞化するときは基本的に hata 形が使われる。(無標の形)
2. 以下の条件のときは, toyta 形が使われる。(有標の形)
 - a. 主語となるものが事態を引き起こしていない

十

b1. 事態を引き起こしたものが明らかであるとき

b2. 単なる状態変化を表す, あるいは変化後の状態に注目するとき

(生越 2008:168)

自動詞の場合, 基本的には하다形が使われ, a と b1, あるいは a と b2 の条件が揃ったときに되다形が使われると考えた。このテーマについての研究は, これまでもっぱら日本で行われ, 韓国ではそれほど行われていない。自動詞の하다形と되다形の使われ方は, 従来のヴォイスの枠組みでは捉えきれない現象だと考えられるが, 自動詞の하다動詞に限定されているため, 周辺的な現象としてあまり注目されなかったのかもしれない。しかし, 先ほど述べたように, 韓国語学習においては, 習得が難しい部分である。日本語母語話者だけでなく, 他の言語を母語とする学習者にとっても難しいであろう。하다形と되다形は話し言葉より書き言葉で使用頻度が高いため, 初級段階では問題とならず, 中級, 上級の, 特に作文において問題となる。これまで日本語と韓国語の対照研究は, 教育面では日本語教育への貢献が注目されてきたが, 日本で韓国語学習者が増えている状況では, 韓国語教育への貢献も期待されている。日韓対照研究は教育面でより重要な役割を持つようになってきていると言えよう。

하다形と되다形のほか, 日韓両語のヴォイスに関しては解明できていない問題が数多く残されている。

(8) a. 영화가 순이에게 인하를 소개시켰다.

b. ヨンヒがスニにイナを{? 紹介させた / 紹介した}。

(9) a. 잘못해서 옷이 반대로 입어졌다.

b. 間違えて服を裏表に着てしまった。(鄭宇鎮 2022:36 一部改)

(8)は~시키다の用法と日本語との対応, (9)は~지다の用法と日本語との対応の問題である。하다動詞に関しては, 되다形だけでなく~시키다の形についても日本語と対応しない場合がある。また, 一般動詞には, ~지다の形の用法にはまだ未解明な点が多く, 日本語との対応関係もはっきりしない点が多い。いずれも印欧諸言語の概念である使役・受身という枠組みでは捉えきれない点が含まれており, 日本語, 韓国語のヴォイス体系をどう捉えるかという大きな問題ともつながっている。ヴォイス

に関する日韓対照研究は、かなり研究が行われてきているが、取り組むべき問題は数多く残っており、教育の面でも言語研究の面でもさらに研究を進めるべきである。これを第1の提言としたい。

3. 無言行為への評価 —日韓対照研究と社会言語学—

日韓に限らず、当初の対照研究は統語的な現象を取り上げて論じることが多かった。1990年代頃から、社会言語学の研究が盛んになり、それとともに対照研究でも社会言語学的な観点からの研究が行われるようになった。日韓対照研究では、待遇表現を取り上げた荻野他(1990,1991)が本格的な研究の始まりと言ってよいだろう。国立国語研究所でも言語行動に関する日韓対照研究のプロジェクトが行われ、発表者も参加した。このプロジェクトは、日韓両国の各世代に対して言語行動に関するアンケート調査を実施するもので、調査は2002年から2003年にかけて行われた。その成果は尾崎(2008)としてまとめられている。その中で発表者は相手への無言行為について分析を行った。³

協力者に対して行った質問は以下の通りである（ここでは日本語版のみを示す）。

1. 次の(1)～(3)の人物が a～d のようなことをしたとします。どんな感じがしますか？

(1) あなたの家族

a. テーブルに置いてあるあなたの**ボールペン**を、何も言わずに使った。

1. 不愉快 2. 少し戸惑うが不愉快ではない 3. 何とも思わない

b. テーブルに置いてあるあなたの**携帯電話**を、何も言わずに使った。

1. 不愉快 2. 少し戸惑うが不愉快ではない 3. 何とも思わない

c. テーブルの上にあるあなたが買った**チョコレート**を、何も言わずに食べた。

1. 不愉快 2. 少し戸惑うが不愉快ではない 3. 何とも思わない

³ アンケート調査は、領域意識が関係すると思われる対人行動に焦点を当て、東京在住の20歳代(423名)、40歳代(104名)、60歳代(104名)とソウル在住の20歳代(606名)、40歳代(101名)、60歳代(100名)を対象に行われ、さらに大阪在住の20歳代(331名)と釜山在住(406名)の20歳代にも同じ調査が行われた。本発表では、東京とソウルの20歳代の結果を取り上げている。

d. 冷蔵庫の中にあるあなたが買った**チョコレート**を、何も言わずに食べた。

1. 不愉快 2. 少し戸惑うが不愉快ではない 3. 何とも思わない

(2) 以前からよく知っている、年齢が近い人（以下ではこれを「**友達**」と呼びます）
（場面と選択肢は(1)と同様）

(3) 知り合いになったばかりの同年輩の人 （場面と選択肢は(1)と同様）

上の質問のうち、東京とソウルの20歳代の人で「不愉快」と回答した人の割合を示す。表1が東京で表2がソウル、「若下」は20歳代前半、「若上」は20歳代後半の人を指す。

表2 「不愉快」の回答比率（%） <東京>

	ボールペン		チョコ・机上		チョコ・冷蔵庫		携帯電話	
	若上	若下	若上	若下	若上	若下	若上	若下
家族	1.1	2.4	21.1	37.9	30.8	45.9	57.7	72.9
友達	2.8	4.4	40.0	37.1	58.2	58.8	82.2	83.0
近知・年近	28.5	26.2	70.2	67.7	84.0	79.4	94.8	94.7



表3 「不愉快」の回答比率（%） <ソウル>

	ボールペン		チョコ・机上		チョコ・冷蔵庫		携帯電話	
	若上	若下	若上	若下	若上	若下	若上	若下
家族	0.3	1.3	8.3	11.7	9.3	14.3	13.3	12.7
友達	1.6	2.2	9.0	15.0	15.0	20.2	21.3	22.8
近知・年近	15.6	10.4	38.3	36.9	49.0	51.6	62.6	63.0



表1と表2から、以下のことが分かる。

- 1) ソウルより東京の方が無言行為に対して厳しい評価をしている。
- 2) 東京・ソウルとも相手によって評価が異なり、家族<友達<最近知り合った人（近知・年近）の順により厳しい評価になる、

3) 東京は行為の種類によって評価に違いがあるが、ソウルでは家族、友達の場合
は行為の種類と評価には関係がない

上の結果から、東京の若年層は相手が親しい間柄でも了解なしに自分の領域を侵害することに否定的であるのに対し、ソウルの若年層は親しい間柄なら了解なしでも許容する、という違いが明らかになった。他の世代、さらに大阪、プサンでの調査でも同様の傾向が確認されており、この違いは日本人と韓国人の違いと言ってよいと思われる。

しかし、社会の変化によって言語行動にも変化が生じる可能性がある。発表者はその後も同じ質問票を使って日本のいくつかの大学でアンケート調査を試みた。調査も小規模で大学も違うので、データとしては不十分だが、以下のような結果であった。

表4「不愉快」の回答比率(%) <2017年A大学(45名(男14名,女31名))>

	ボールペン	チョコ・机上	チョコ・冷蔵庫	携帯電話
家族	0	47	62	82
友達	4	36	53	78
近知・年近	22	67	80	96

表5「不愉快」の回答比率(%) <2022年B大学(69名(男31名,女38名))>

	ボールペン	チョコ・机上	チョコ・冷蔵庫	携帯電話
家族	0	22	35	61
友達	3	28	39	57
近知・年近	23	70	77	88

2002-3年に行った東京「若下」の調査結果と比べて、表4の2017年の調査は大きな違いがないのに対し、表5の2022年の調査では家族と友達に対する評価がかなり変化している。2022年では最近知り合った人への評価は変化がなく、家族と友達に対してはどの行為でも「不愉快」という回答が減っている。つまり、家族と友達の無言行為には以前より寛容になっているようである。2022年に調査した学生に対し、こういう結果が出た背景を尋ねたところ、コロナ禍の影響を挙げる者が多かった。コロナ禍によって、コミュニケーションを取る人が限定され、親しい人とはより頻繁に接触し、親しくない人とは全く接触しなくなったという。このことから、日本では接触が増えた家族や友達との関係が密接になり、それとともに自分と相手との領域意

識も薄れ、無言行為への抵抗感も減ったのではないかと予想している。同じ時期に、盧姪鉉(2022)はもう少し本格的な調査を行っている。盧姪鉉(2022)は、生越(2008)と同じ調査票を使って2020年に韓国と日本で調査を行い、その結果を生越(2008)の結果と比較している。盧姪鉉(2022)は調査結果から、相手が家族、友達の場合、「不愉快」の回答比率が日本では2008年に比べて低くなり、逆に韓国では2008年に比べて高くなっていること、その結果2008年に比べて日韓の差が小さくなっていることを明らかにした。日本の結果は発表者の調査と同じであり、日本では無言行為への意識に変化が生じている可能性が高い。また、韓国でも変化が生じているようであるが、変化の方向は逆であり、日韓の差が小さくなっているとの指摘は大変興味深い。ただし、発表者の調査では女性より男性の方が無言行為に対して寛容であったのに対し、盧姪鉉(2022)では女性の方がより寛容だとの結果が出ている。無言行為に関してはさらに詳細な調査が必要である。

言語行動に関する日韓対照研究は、2000年代まで盛んに行われていたが、近年はその数が減っている。比較的取り組みやすいテーマの調査分析が一通り行われたため、新たな取り組みが難しくなっているのかもしれない。しかし、ここで取り上げたように、社会の変化によって言語行動も変化しており、古い調査結果が今でも適用可能かはわからない。特に、コロナ禍は社会行動に様々な影響を与えている。言語行動とコロナ禍の関係を探ることは、日韓両語の問題だけでなく言語普遍的な問題と取り組むことにもなる。今こそ言語行動を含む社会言語学的な対照研究に取り組むべきである、これが第2の提言である。

4. 名詞止め文 一日韓対照研究と談話論一

日本語教育が盛んになった1970年代以降、日本語学の研究は統語論的テーマ、社会言語学的テーマと注目されるテーマが変化してきた。近年は、談話論と関連するテーマが増えてきている印象がある。日韓対照研究も日本語学の流れと連動するように、最初は統語論的研究が行われ、次に社会言語学的研究が盛んになった。今後は日韓対照研究でも談話論的な研究が期待されている。

発表者も会話で使われる「名詞止め文」を対象にして日韓両語の使用状況について分析したことがある。ここで言う「名詞止め文」とは、「これ、プレゼント。」「그건 비밀. (それは秘密。)」のように、文末に用言がなく名詞(句)で終わる文のことを指す。

日本語学では新屋(2014)がこの種の文を「名詞句独立文」と呼び、詳しい分析を行っている。日韓対照研究でも、金恩愛(2003)や金珍娥(2013)が名詞止め文について触れ、日韓で使い方に違いがあることを指摘している。生越(2019)でも日本語に比べて韓国語では名詞止め文が使われにくいことを指摘した。名詞止め文は、様々な文構造を持っており、大まかに分類すると、以下の4つのタイプがある。

- A. 名詞(句)(ハ/는) 名詞(句) 「これ、プレゼント.」「그건 비밀! (それは 秘密)」
- B. 連体修飾語+名詞 「きれいな花!」「한심한 놈 (あきれた奴)」
- C. 連用修飾語+名詞 「そろそろ帰国?」「今どこ?」「~씨를 위하여 건배 (～さんのために乾杯)」
- D. 名詞(疑問詞/数詞)一語 「地震!」「모기! (蚊)」 (生越 2020:3)

これまで発表者が取り上げたテンス・アスペクトや属格助詞の場合、日本語と韓国語の違いが生じやすいのは、眼前描写の場面、つまり今知覚していることをどう表現するかにおいてであった。生越(2020)では、上の名詞止め文のタイプのうち、眼前描写の場面でよく使われる B タイプと D タイプを取り上げ、両言語の使われ方を分析した。その結果、日本語ではかなり自由に名詞止め文が使われるのに対し、韓国語での使用は限定的で、B タイプでは修飾語と文末名詞の修飾構造が「外の関係」である場合、D タイプでは事物指定ではなく出来事描写の場合に限られることを明らかにした。生越(2020)では、さらに韓国語の名詞止め文が使われる条件について分析し、1)文の独立性が弱い場合、2)強い働きかけや感情を伴う場合に使われることを明らかにした。これらの分析から、韓国語の名詞止め文は文ではなく文の一部、いわば文の切れ端として機能しているのに対し、日本語の名詞止め文は文として機能しており、その機能の差が両言語の名詞止め文の使い方の差となっているとした。

ただし、生越(2020)はシナリオや漫画の会話をデータとしており、実際の談話資料ではない。また、対訳も一部で含んでいるが、多くは対訳がない作品で、同じ状況で名詞止め文が使われるか否か、使われない場合はどういう表現が使われるかについては、十分な分析ができなかった。そこで、実際の談話でなおかつ状況設定も共通しているデータを使って、名詞止め文の使用状況を確認してみた。使用したデータは、岡村(2022)で使われたデータで、同じ国の人同士 2 名が行ったロールプレイの談話である。岡村(2022)は日韓両語の談話におけるあいさつ表現の使用を分析した研究で

あり、4つの場面を設定して日本人同士あるいは韓国人同士でロールプレイを行い、その談話の開始部（最初のあいさつとその後2ターン程度の対話）と終結部（最後のあいさつとその前2ターン程度の対話）を文字化し、分析データとして使っている。⁴

このデータはロールプレイ談話で自然談話ではないが、同じ場面設定での両言語の発話が収集されており、状況と名詞止め文使用の関係を探るのに適当なデータと考えた。使用したデータは日本人36名による144談話、韓国人38名による136談話、計280談話の開始部・終結部で、それらのデータで使われている名詞止め文は、日本語が71例（開始部38例、終結部33例）、韓国語が40例（開始部27例、終結部13例）であった。⁵ 全体的に見れば、日本語の方が名詞止め文を多く使っていることが分かる。

名詞止め文の使われる状況を詳しく見てみると、同じ学校/職場の2人が朝出会う状況（場面1）において、日韓の差がもっとも大きく、日本語18例に対して、韓国語は7例であった。日本語では相手への質問（7例）、それに対する答え（6例）に名詞止め文が使われている。例えば、次のような例である。

- (10) a. 今日、何限? b. え、今日1限?
 c. 今日一人? d. え、何の授業?
 e. 今朝何時からシフト?
 f. 「きのう、なにしてた?」「きのう、バイト。」
 g. 「どうしたの?」「あ、これから授業。」
 h. 「え、今日1限?」「いや、図書館。」
 i. 「え、何の授業?」「え、今日、今日、あの、サークル。」

⁴ 岡村(2022)のデータでは、4つの場面（場面1—朝学校/職場で知り合いに会う、場面2—久しぶりに学校/職場で知り合いに会う、場面3—しばらく会っていない知り合いに学校/職場以外の場所で偶然会う、場面4—学校/職場でよく会う知り合いに別な場所で偶然会う）と親疎関係（親しい間柄と余り親しくない間柄）を設定し、それぞれ2名で出会ったときの会話を行っている。収録時に2名（親しい間柄）ずつ2組の協力者を集め、親しい人同士で親しい間柄を想定した場面、その場で初めて会った人同士で親しくない間柄を想定した場面のロールプレイを行った。

⁵ 終結部で日韓の差が大きいのは日本語で「じゃあ、また夜。」「じゃあ、また学校のとき。」のようなあいさつとの区別が難しい表現が多く使われていたため、それらを除けば、終結部の日韓差は開始部と同程度になる。

一方、韓国語では、同じ状況で使われた名詞止め文は、質問 2 例、答え 2 例のみである。例を挙げる。

- (11) a. 왜 이렇게 일찍 왔어? 오늘 1교시? b. 아, 커피?
c. 「야, 어디 가냐?」「나 화장실..」
d. 「야, 너 어디 가?」「어, 나 여기....」

日本語の場合、相手への質問の多くは、あいさつを交わした後の最初の発話であり、答えの文もあいさつ後の最初の問答で使われている。韓国語の例も同様の傾向があるが、数は少ない。そこで、あいさつした後の最初の発話でどのような述語が使われているかを 4 つの場面ごとに調べてみた。場面 1 の場合、日本語では 36 談話の中で、名詞+だ、あるいは名詞止めで終わる文が 12 例、「する」「行く」など行為を表す動詞で終わる文が 12 例であるのに対し、韓国語では 34 談話のうち、行為を表す動詞で終わる文が 25 例で、名詞+이다あるいは名詞止めの文は 5 例だけだった。日本語では、「今日、何限?」「今から全カリっしょ?」のように、相手の状況を尋ねる文が多い。動詞の「する」を使った文 8 例のうち 6 例は「どうした」「何してる」という表現で、相手の行為について尋ねるのではなく、相手がどういう状況にあるかを尋ねている。そのほか、「早いな」「眠そう」など、相手の状態に注目した表現も現れる。このように、日本語では多くが相手の状況に関する発話をしている。一方、韓国語では「수업 잘 들었어?」「수업 들어가?」「어디 가?」「왔어?」のように、ほとんどが相手の行動に関する発話である。つまり、日本語が相手の状態に注目するのに対し、韓国語では相手の動きに注目するのである。これは、生越(2020)で指摘した日本語と韓国語の事態把握の傾向と一致する。生越(2020)では、井上(2014)などの考え方をもとに両言語の事態把握の違いを以下のように述べた。

- (12) 日本語では目の前の状況を「瞬間」で把握していくので、状況は瞬時に転換していく。その結果、前提となる情報がなければ、目の前の状況を見たまま状態として描写することになる。状態として描写する場合、動きより事物の存在に重点が置かれ、名詞中心の表現となり、用言部分は背景化されて表現されなくなる。名詞中心の表現の典型的なのが名詞止め文である。一方、韓国語では、目の前の状況を「場面」として把握していくので、状況はある程度の時間的幅を持って転換していく。その結果、場面で見られる

事柄を出来事として描写していくことになる。出来事として描写する場合、動きや出現状況に注目するので、動詞・形容詞中心の表現となり用言の省略は起こりにくい。そのため、韓国語では眼前描写において名詞止め文が現れにくいのであろう。

(生越2022:(11))

場面 1 は朝突然知り合いに会って話す状況であり、眼前描写に近い状況だと言えよう。日本語より韓国語で名詞止め文の使用が少ないのは、名詞文が使われにくい状況であるためではなかろうか。ただし、予想しなかった場所で突然知り合いに会うという設定の場面 3 の場合、日韓ともに状態を表す表現が多い。日本語では「何でいるの?」「何してんの?」、韓国語では「뭐야」「웬일이야」「왜 여겼어?」という表現が多く見られる。どちらも動きではなく相手の状態を把握しようとする表現である。場面 1 は急に知り合いに会ったと言っても、会った場所がいつも会う学校や職場で、相手の行動パターンがある程度わかっており、相手の状況を動きとして捉えることが可能である。一方、場面 3 では予想外のことで相手の状況を動きとして捉えることが難しい。そういう場合には、韓国語でも動詞ではなく名詞文や存在を表す있다を使うことになるのであろう。この違いは、生越(1997)で扱った眼前描写における過去形-있-と結果状態形-어 있다の使い分けと共通しており、大変興味深い。生越(1997)では以下のように述べている。

- (13) 朝鮮語では、目の前の状況について、その状況が生じる際の経緯が把握でき、その状況を変化後の状態と位置づけられたとき、つまり、その状況のある出来事の結果部分として把握したときには過去形が使える。その経緯が把握できず、目の前の状況の位置づけがうまくできないとき、つまり、その状況をもとにして一つのまとまった出来事を再構築できないときには結果状態形を使う。(生越1997:146)

今回のデータでも、事態の経緯が把握できるとき(場面 1)には動きの表現、経緯が把握できないとき(場面 3)には状態の表現を使うという傾向が示されている。いづれにせよ、このデータの分析から、日韓の名詞止め文の使用状況の差について、構文的な要因の他に状況と表現方法という談話論的な要因も関わっている可能性を指摘できる。名詞止め文に限らず、日韓の表現に使い方の違いがあったとしても、その差が現れやすい状況と現れにくい状況があることに留意すべきであろう。

ここで扱ったデータは小規模なので、これでもって結論を出すのは早急であるが、談話論的な観点を加えることによって、日韓の違いをより立体的に浮かび上がらせることができることを示してみた。特に、名詞止め文のような会話で多用される表現では、談話論的な分析が重要だと考える。

日本語研究は従来の書き言葉中心の研究から、話し言葉も対象とした研究に移りつつある。その流れの中でも日韓対照研究は重要な役割を果たすことができるであろう。話し言葉、そして談話論的な観点での分析を進めるべきだというのが第 3 の提言である。

5. おわりに

本発表は日韓対照研究の今後について、発表者が行った研究を参考に 3 つの提言という形で述べてみた。もちろん本発表で述べた以外のテーマ、アプローチでの対照研究もあり得る。すでに述べたが、近年日本では韓国語学習者が急増しており、韓国語教育の観点から新たなテーマ、アプローチが生まれるかもしれない。また、沖・姜・趙(2022)のように日韓だけでなく日韓中の 3 言語の対象もあり得る。特に、談話論的観点から 3 言語を対照することは、日韓中の人的交流とそのコミュニケーションの重要性から考えて、今後さらにその必要性が増すであろう。日韓対照研究のさらなる進展を期待したい。

参考文献

- 井上優 (2014) 「第 4 章 対照研究と通言語的研究」『日本語学と通言語的研究との対話』、くろしお出版、pp.165-205
- 岡村佳奈(2019)「対面会話開始部の日韓対照研究 ——日常的・久しぶりに出会った場面において——」『朝鮮語研究 8』朝鮮語研究会、ひつじ書房、125-151
- 岡村佳奈(2022)『談話における「あいさつ」の日韓対照研究 ——対面会話開始部と終結部の様相から——』東京大学総合文化研究科博士学位論文
- 荻野綱男、金東俊、梅田博之、羅聖淑、盧顕松(1990)「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」『朝鮮学報』136、朝鮮学会、pp.(1)-(51)
- 荻野綱男、金東俊、梅田博之、羅聖淑、盧顕松(1991)「日本語と韓国語の第三者に対する敬語

- 用法の比較対照』『朝鮮学報』141, 朝鮮学会, pp.(1)-(42)
- 生越直樹(1982)「日本語漢語動詞における能動と受動 —朝鮮語 hata 動詞との対照」『日本語教育』48, 日本語教育学会, pp.53-65
- 生越直樹(1992)「韓国人日本語学習者のボイスに関する誤用—漢語動詞の誤用を中心に」, 『横浜国立大学教育学部教育実践研究指導センター紀要』8, 横浜国立大学教育学部教育実践研究指導センター, pp.159-166
- 生越直樹(1997)「朝鮮語と日本語の過去形の使い方 —結果状態形との関連を中心に」『日本語と朝鮮語(下)』, くろしお出版, pp139-152
- 生越直樹(2001a)「現代朝鮮語の하다動詞における하다形と되다形」, 『朝鮮文化研究』8, 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部朝鮮文化研究室, pp.75-94
- 生越直樹(2001b)26.「하다動詞の하다形と되다形の使い方について —インフォーマント調査の結果から—」, 『梅田博之教授古稀記念 韓日語文学論叢』, 太學社(ソウル), pp.533-554
- 오고시나오키(2006)「상대방 소유물 사용시의 무언행위에 대해서 —피행위자측의 의식, 한일 청년 조사 결과로부터—」『한국어교육』17-2, 국제한국어교육학회, pp. 183-198
- 生越直樹(2008a)「相手所有物を使う際の言葉の有無に関する日韓比較」, 『対人行動の日韓対照研究 —言語行動の基底にあるもの—』(尾崎喜光編), ひつじ書房, pp. 31-59
- 生越直樹(2008b)「現代朝鮮語における様々な自動・受動表現」『ヴォイスの対照研究 —東アジア諸語からの視点—』(生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一編), くろしお出版, pp. 155-185
- 生越直樹(2019)「日韓の名詞止め文の現れ方」『日韓両語の「省略」は何を語るか —言語の個別性と普遍性に向けて— 予稿集』(科研費成果報告公開シンポジウム), pp.31-38
- 生越直樹(2020)「名詞止め文をめぐって —韓国語と日本語の対照—」, 朝鮮学報 255, 朝鮮学会, p.(1)-(21)
- 尾崎喜光編(2008)『対人行動の日韓対照研究 —言語行動の基底にあるもの—』, ひつじ書房
- 新屋映子(2014)『日本語の名詞指向性の研究』, ひつじ書房
- 金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verbally-oriented structure)」『朝鮮学報』188, 朝鮮学会, pp.(1)-(83)
- 金珍娥(2013)『談話論と文法論 —日本語と韓国語を照らす—』, くろしお出版
- 盧姪鉉(2022)「相手の所有物を使う際の言葉の有無についての日韓比較 —生越(2008)の調査結果との比較を中心に—」『日本語学研究』73, 韓国日本語學會, pp. 129-143
- 鄭宇鎭(2022)「韓国語-eci-構文の非意図用法における非意図性とは何か —意図に反する結果の発生と期待に反する行為の実行—」『朝鮮学報』260, 朝鮮学会, pp. 27-6

韓國日本語學會
第48回 國際學術發表大會

學術シンポジウム
(學術심포지엄)

企劃發表

日韓両語の「不完全な文」をめぐって

生越直樹（企画者）・尹盛熙・金智賢・新井保裕・河崎啓剛

本企画発表は、日本語と韓国語の「不完全な文」を分析することによって、両言語における情報と言語化の仕組みを解明することを目的とした、JSPS 科研費 21H00522（基盤研究(B)）の成果の一部である。通常必要とする要素が欠けた「不完全な文」はどの言語にも存在し、その出現パターンも共通する点が多いが、日本語と韓国語の「不完全な文」には類似した構造からは見えにくい異なる特徴が存在する。本企画発表では、各メンバーが、談話、構文、SNS、通時的観点から日韓両言語の「不完全な文」に関わる現象を取り上げ、その異同を明らかにしながら、各言語の特徴の解明に向けて分析を行った結果を報告する。

「日韓の不完全な文と『文脈に任せる情報』について」（尹盛熙）

日本語と韓国語で見られる不完全な文の様々な例を概観し、本企画の射程と問題意識を紹介する。特に多様なジャンルで広く観察される日韓語の「不完全さ」の傾向がそれぞれのコミュニケーション・スタイルにはどのように影響しうのか、などの問題について考える。

「直接引用と名詞修飾に関する日韓対照分析」（金智賢）

日本語に顕著な、「何じゃこりゃ状態」のように、名詞の前に発話文が直接引用されて全体が複合名詞のように働く現象を取り上げる。直接引用と名詞修飾という二つの側面から韓国語と対照的に分析し、この類の表現が両言語の名詞性の度合いを表す象徴的現象の一つであることを示す。

「日本語LINEにおける「不完全な文」の一考察」（新井保裕）

文体がメディアによって異なるように、「不完全な文」もメディアによって異なる。本発表では、日本で多く用いられるコミュニケーションアプリ LINE の日本語を取り上げ、その日本語「会話」データに現れる「不完全な文」を、メディア及び言語構造に注目して分析考察する。そして「表記意識」の存在を示唆し、少考を加える。

「日本語「です」の終助詞化と韓国語「해요」体形成の対照研究」（河崎啓剛）

韓国語の해요体を形成する-(이)요は、指定詞이다の하오体「이오(です)」に由来するとする説が有力であるが、これは日本語の「いい＋です」「しなかった＋

です」等に見られる所謂「です」の終助詞化と並行する現象と見なすことができる。言い切った文章全体に改めて「です」を加える事で略式の丁寧語を形成するという興味深い共通のプロセスに注目する。

日韓の不完全な文と「文脈に任せる情報」について

尹盛熙（関西学院大学）

1. はじめに

本発表では、日本語と韓国語で見られる「不完全な文」の様々な例を概観し、本企画の射程と問題意識、そして今後の課題を紹介する。文における「不完全さ」とは何か、またそれを考察し、さらには異なる言語同士で比較することにはどのような意義があるかを述べる。特に日韓の多様なジャンルで広く観察される、述語における不完全さに焦点を当て、その観察が従来の対照研究で指摘されてきた両言語の違いとも関連していることを述べる。それに基づき、言語化されずに「文脈に任せる情報」とは何か、それはいわゆるコミュニケーション・スタイルの違いにはどのように関連するのか、などの問題についても考える。

2. 言語化する情報、しない情報

言語によるコミュニケーションの大前提は、言わんとすることの一部だけを言語化する、というものである。伝えたいメッセージは、取り上げる対象である人や事物、概念、その間の関係など、様々な種類の情報で構成されるが、どの部分を言葉で明示し、どれを明示しないかの選択は、常に直面する問題である。基本的には一部を言葉で明示し、言語化しない情報は文脈などを基に相手が「推論 (inference)」するよう任せることになる。言語化に比べて推論は時間と労力の消耗が少ない (Levinson 2000) ことから取られる折衷策、というわけである。

従って実際の場面では、文法規範的に整った「完全な文」よりは、何らかの要素が「欠けた」と感じるような発話が多い。このような感覚は、母語話者が自身の文法知識に照らして相対的に抱く概念的なものである。言い換えれば、完全な文とは実際には存在しないものの、それを基準とした文章らしさを程度の問題として捉えることができる。実際、日常会話などで見られる様々な例はより文らしきものから一言の言い回しまで多岐に渡る。

- (1) a. その商品はすでにこちらの方が... 그 제품은 벌써 이쪽 분이...
 b. それ, 私じゃないんだけど。 그거 내가 안 그랬는데.
 c. お疲れ様です。 수고하세요.
 d. すっげー! 대박!

例えば(1a)なら、「その商品はすでにこちらの方がご購入を決められたのでお客様にはお買い求めいただけません」と明言する代わりに、困った表情で言い濁すといった場面は、想像に難くないだろう。談話の性格上、話し手または聞き手に心的負担になりやすいことは、できるだけ明言を避けてその解釈を相手任せにすることで良好な関係を維持するのが効果的な戦略として指摘されてきた (Brown & Levinson 1987)。

このように、「何を言語化するか」においては言語普遍的な動機がある一方で、個別言語で異なる部分も存在する。例えば文の一部を省く「省略」の現象においては、同系統の言語同士でも繰り返し部分を省略できるか否かが異なることや (Craenenbroeck et al. 2019), 言語構造が類似している日韓の場合も省略の在り方には違いが見られることが指摘されている (生越他 2019)。特に目立つのは述語動詞における言語化の度合いが異なる点である。

- (2) a. 後は我々が！お母さんはお仕事へ！
 b. ?? 나머지는 저희가! 어머님은 일에!

(2a)の日本語文はインターネット上のミーム¹であるが、韓国語でその構造を再現した(2b)は、少なからずごちないものとなっている。韓国語としてより自然な表現は「나머지는 저희가 맡겠습니다」, 「어머님은 출근하세요」などのように適切な動詞述語を足したものになるだろう。日本語例の場合、動詞述語文のような構造をしていながらも動詞は欠けており、さらに動詞の不在という形式的な欠落から、付随する文法形式も併せて使えなくなるという統語形態的な制約が伴う点で、(2a)は「不完全」と言える。

¹ これは「ジブリで学ぶ主婦業」というもので、スタジオジブリ製作のアニメーション作品のシーンを主婦の日常で共感できる場面に見立ててそれらしいセリフを付けて楽しむという SNS 発の遊びである。

上記の例は、文における不完全さをどこまで自然なものとして許容するかが日韓で異なることを示すもので、ここから、両言語で見られる様々な度合いの不完全な文とその詳細を観察するといった対照分析の重要性が伺える。さらに、不完全さをもたらす代表的な現象と言える省略の場合、様々な言語変化のきっかけとなることが指摘されてきた。何かが省略された規範的ではない言い回しが登場し、それが慣習化を経て当該の言語内に定着することはよくあるが、そのような現象は共時的な観察に加えて通時的な分析も必要とするものである(尹 2021)。これらのアプローチは、同一の事柄に対する個別言語の言語化戦略がどう異なるかという、類型論的に有意義な疑問の解明につながるものと考えられる。

3. 日韓の述語における不完全さ

日韓はどちらも、SOVの語順を持ち、事柄関連の情報は用言を用いた述語として実現するのが典型的で、用言語幹に様々な文法形式をつけることで複雑な事柄を表すという仕組みを持つ。しかし述語部分を観察すると、以下の(3)のように述語から機能語の「だ」「する」、モダリティ形式の一部が欠けたり、または(4)のように内容語の動詞及び付随する文法形式が言語化しない例は頻繁に見られ、特に日本語の場合、音声・文字媒体を問わず様々なジャンルで幅広く観察される。

- (3) a. 悲しいけど事実 (だ) (翻訳字幕)
- b. たった今747がモハーヴェ砂漠の上空で爆発 (しました) (翻訳吹替)
- c. コクを出す為にはこうするしか (なかった) (漫画)
- (4) a. キツネが嫌いに (なったんですか) ? (TV広告)
- b. ムギ、本物のケーキを (持ってきて) (アニメ)
- c. 話がある ドーソン教授を (覚えているか) ? (翻訳字幕)

それに比べて韓国語の場合は、(3)(4)のような例がまったくないというわけではないが、述語動詞や付随する文法形式を用いる傾向が日本語に比べて強いといえる。特に日常会話では上記のように述語に不完全さのある形式は違和感があることが多く、例えば米国ドラマの台詞を訳した(3ab)(4c)は、韓国語版ではいずれも述語がより整

ったものとなっている²。

さらにこのような傾向は、動詞述語文ではない名詞述語文でも見られる上に、述語文ではない名詞句の構成においても観察される。

- (5) a. 気象情報は田中さんです。(TVニュース)
- b. せっかくの箱根だから、のんびりしていこう。
- c. 千年に一人の美少女

(5a)はいわゆる「ウナギ文」の構造をしている名詞述語文であるが、「気象情報」と「田中さん」の関係は明確ではない。同様に(5b)の下線部分や(5c)を含め、日常的な名詞句においても、構成成分同士の関係を明示する用言を用いないという構造は珍しいものではない。このような構造を韓国語で再現するとたいていの場合は不自然なものとなってしまう、翻訳の際はいずれも動詞述語などを足した方が韓国語文としてはすわりがよくなる。

一方で、韓国語の述語に見られる不完全さの様相は日本語とはやや異なり、述語における欠落はありながらも、主に機能語やモダリティ部分に偏っている。即ち不完全さは見られるものの、命題の核心となる事柄の情報は動詞などで顕現する傾向が相対的に強い、というわけである。以下の例は比較的、近年の変化とされるもので、従来の韓国語文法の枠からすれば規範的な文ではないが、ここに見られる述語の在り方は(3)~(5)で確認した日韓の違いとも軌を同じくするものである。

- (6) a. 핀으로 중2인 게 함정 (이다) (インターネットの書き込み)
- b. 만사가 귀찮(다) (TVテロップ)
- c. 오늘 영화 보실(래요)? (漫画)
- d. 나 진짜 북한 갈 뻔 (했다) (ドラマ台詞)
- e. 잘 만들었어! 운동회인 줄 (알았다)? (バラエティ番組台詞)

以上のことから分かるのは、日本語において述語に見られる不完全さは、情報内容

² 韓国語版の字幕はそれぞれ「슬프지만 사실이죠」 「747 항공기가 모하비 사막에서 폭발했어요」 「도슨 교수님 기억나?」。

の側面から見て、事柄情報の言語化を抑える方向で現れているということである。その点、韓国語では、事柄及び関連情報の言語化は日本語より明確な傾向にあり、言語構造的に述語が位置する文末の重要度が高い点は日韓で共通しながらも、述語の不完全さの傾向は異なることになる。なおこれは、日韓の間に「名詞志向」「動詞志向」の構造的違いが見られることや(金 2003)、事柄の典型的な言語化形式である述語位置においても、日本語は動詞志向ではなく名詞志向が目立つという指摘(堀江 2009)とも合致するものである。

4. 日韓の「コミュニケーション・スタイル」と言われるもの

何を言語化するかの選択は、その場の個人によって決まる部分もあれば、言語集団全体における傾向として現れる部分もある。そのような傾向の差は、いわゆる「コミュニケーション・スタイル」の違いにも影響するものと考えられる。

やり取りの場面での振る舞い、その際の言動には具体的にどのような違いがあるかには多くの注目が集められ、分析の際に社会文化的な背景との関連を模索するなど、様々な試みがなされてきた。特に隣接した文化圏で、言語構造的な特徴を多数共有する日韓の間でも、似ているようでズレる部分に関して従来から研究者の関心が寄せられてきた。例えば敬語の使い方にしても、年齢の違いなどといった個人間の関係で使用如何の基準が定まるのが韓国の敬語システムだとすれば、日本の敬語では、集団を前提としないと成り立たない「うち」と「そと」の区分をより重視するようになっている、などである³。

特に本発表の内容と関連して取り上げたい点は、一般に知られている「日本人ははっきりものを言わない」が「韓国人はストレートな言い方をする」などといった認識である。言い換えれば、類似した場面、類似した事柄に対しても、韓国人の言い方はより直接的であるのに比べて、日本人の言い方はより迂回的な印象を持たれるというわけである。

確かに日本の場合、あえて多くを語らず相手に解釈をゆだねる、さらには言葉にせずとも相手と通じ合うことを美德とする「察しの文化」が特徴とされるが、具体的に

³ これと関連しては、허미균 (2015) の指摘が示唆的である。日韓は同じ集団主義と言われながらも、集団を構成する個人間の関係をより重視する「関係志向」を示すのが韓国で、日本は集団の中での役割を重視する「組織志向」を示すという。詳しくは尹 (2021) を参照。

「察し」を求められるのは、どのような部分なのだろうか。前節の観察から日本語は、「〇〇を△△する」から「△△する」の部分と言語化しないで推論に任せやすいということが確認されたが、同じ場面であってもそこをより明確に言葉にする韓国語の言い回しを日本語母語話者が「直接的」だと感じることは、十分に考えられる。逆に言えば、「何をどうするのか」を「察し」に任せることに慣れていなければ、それこそ「はっきりしない言い方」という印象をもつとしても不思議ではないだろう。

5. 今後の課題

本発表では、「不完全な文」の観察を通して日韓の言語化戦略の違いを示し、それをコミュニケーション・スタイルの違いにも関連付けることを試みた。

メッセージの内容は、そのすべてを言語化することはできず、どれを明示するか、あるいはしないかの優先順位は個別言語で必ずしも一致しない。実際、日本語と韓国語を比べることで両言語が「どうするか」「どうなるか」のような情報を言語化する際に異なる傾向を示すことが明らかになった。たとえ話の長さが同じであっても、明確に言語化するポイントがずれていれば、相手の話は「分かりにくい」と感じるものになるかもしれない。

これと関連するのは、「ハイ（ロー）・コンテクスト文化」という概念である。「ハイ・コンテクスト文化」とは、コミュニケーションで多くを言語以外の手段（文脈など）に頼る傾向が強い文化で、西洋に比べてアジア圏で多く見られるという（Hall 1976）。ただし、広く知られている概念でありながら誤解されている部分も多く、学術的な検証で当該の傾向が確認できないこともまた指摘されている（Cardon 2008, 寺沢 2012）。

しかしそれ以上に重要な点は、具体的に「何が文脈任せになるのか」に関する分析がさほど行われてこなかったことである。検証に用いられる方法論は、どちらかというコミュニケーションの場において参加者の「印象」を問うアンケート調査であることが多いように見える。その点で、従来の分析に加え、どのような情報が言語化されていないのかに焦点を合わせて実際の言語形式やメッセージ内容に対する綿密な観察を行うことが求められる。日韓の不完全さの異動を対照分析するという本研究のアプローチは、関連の議論をより深めることに役立つものと考えられる。

※本研究は科研費（基盤研究 B：21H00522，研究代表者：生越直樹）の支援を受けたものである。

引用文献

- Cardon, Peter W. (2008) A critique of Hall's contexting model: A meta-analysis of literature on intercultural business and technical communication. *Journal of Business and Technical Communication* 22(4): 399-428.
- Craenenbroeck et al. (2019) *The Oxford Handbook of Ellipsis*. Oxford: Oxford University Press.
- 허태균 (2015) 『대한민국 사춘기 심리학: 어쩌다 한국인』 서울:중앙북스.
- 堀江薫 (2009) 「第 2 章 認知類型論の観点から見た構文の連続性」山梨正明（編）『認知言語学のフロンティア 5 言語のタイポロジー—認知類型論のアプローチ—』27-135. 東京:研究社.
- 金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verbally-oriented structure)」『朝鮮学報』188, 1-83.
- Levinson, Stephen C. (2000) *Presumptive meanings: the theory of generalized conversational implicature*. Cambridge, MA: MIT Press.
- 生越直樹・尹盛熙・金智賢・新井保裕 (2019) 『日韓両語の『省略』は何を語るか—言語の個別性と普遍性に向けて』科研費成果報告公開シンポジウム資料集.
- 寺沢拓敬 (2012) 『日本人はハイ・コンテクスト文化、○○人はローコンテクスト文化』論にまつわる誤解」 [<https://news.yahoo.co.jp/byline/terasawatakunori/20210118-00218100/>]
- 尹盛熙(2021) 『ことばの「省略」とは何か』東京:大修館書店.

直接引用と名詞修飾に関する日韓対照分析

「何じゃこりゃ状態」類の表現を中心に

金智賢（宮崎大学）

1. はじめに

本発表では、下記（1）や（2）のように、名詞の前に発話文が直接引用され、全体が複合名詞のように働く現象を取り上げる¹。

- (1) a. ヒラメが・・・何じゃこりゃ～！状態に↓
b. 違和感というか、何じゃこりゃ感はありますね。
- (2) a. これはちょっと、燃費悪すぎだろ問題はありますね。
b. Sパッケージが買い得なんじゃないか説から行きましょうか。

以降は、このような表現を「発話文+N」と呼ぶことにする。日本語に顕著なこの表現は、カテゴリー的にかかわっていると見られる引用や複合名詞化の一般的な傾向とは大きく異なる興味深い構造を有しているが、比較的新しい用法というのもあり、まだ議論が十分に進んでいない印象を受ける。ここでは、直接引用と名詞修飾という二つの側面から韓国語と対照分析し、この類の表現が両言語の名詞性の度合いを表す象徴的現象の一つであることを示す。

2. 先行研究

2.1 新屋（2014）の「(直接引用形式) 状態」に対する分析

日本語の「発話文+N」について詳しい分析を行っている研究に、新屋（2014）がある。新屋は、「やっと間に合った状態」など、発話文が直接引用され、名詞「状態」

¹ 本発表に用いられている用例は発表者がネットや生活の中で収集した実例で、別途記載がない限り下線などは発表者による。

につながる表現を「(直接引用形式) 状態」と呼び、破格の複合名詞として分析している。特に、主名詞を「状態」に限り、この名詞が単純語としての用法から複合語の後項要素としての用法へと通時的に変化したことを当該現象の重要な背景として挙げている点が特徴的である。

「(直接引用形式) 状態」の意味については「当該事態に直面したときの認識や知覚を言語で表現すれば「(直接引用形式)」となる、そのような言語表現に結びつく状態」(新屋 2014 : 339) であるとし、若者ことばとしてのコミュニケーション機能を有するとしながら、「情景を主体の印象そのままに感じ取ることができるという表現効果を持つ」(新屋 2014 : 341) と性格付けている。

新屋 (2014) の考察は、形態的、意味的、表現機能的な観点から非常に丁寧に行われており、本発表の観察に対して大きな示唆を与えてくれる。ところが、主名詞を「状態」に限定し、当該表現の成立要因を「状態」の語彙的性質に帰している点は、類似現象を統一的に捉えようとする立場からすると再論の余地がある。「発話文+N」の名詞は確実に多様化しており、名詞が異なる場合でも互いに共通する特徴が見出せるように思われるからである。

2.2 山口 (2016) の引用名詞類に関する研究

「発話文+N」に直接言及せずとも、関連現象に関する先行研究は多々存在するが、ここでは英語における類似現象を日本語と対照分析した山口 (2016) を取り上げる。山口 (2016) は、直接引用しか許さない引用形式として Jespersen (1913) が提案した「引用実詞」(=「引用名詞類」) の概念を紹介しながら、英語と日本語の例を観察している²。この研究では、まず引用名詞類と、直接引用や間接引用などに関わる「話法」を区別し、引用名詞類の特徴を次のようにまとめる。

- (3) a. 引用したことばを原則として名詞として取り込む
- b. ことばを名づけるために引用を行う
- c. トークンとしての具体的な発話ではなく、原則として当該言語に存在するタイプとしてのことばを引用する

² 山口は、「実詞 (substantive)」という用語はもはや使われないとし、「引用実詞 (quotation substantive)」の代わりに「引用名詞類 (quotation nominal)」を使っているが、本発表でも以降この用語を用いることにする。

d. 直接引用のみが生起する

(山口2016 : 87, 101)

下記 (4) と (5) はそれぞれ、英語の引用名詞類の名詞としての用法と付加詞としての用法を示しているが、引用された発話文全体を一つの名詞のように用いており ((3a))、引用部分は何かを表すことばとしてではなく、表現そのものの名前として機能している ((3b))。さらに、これらの引用部分は、特定の会話の場で誰かによって発せられた具体的な発話としてではなく、当該言語話者が用いるだろう一般的な表現として扱われており ((3c))、直接引用されるので人称が文脈によって変わったりすることもない ((3d)) のだという。((4) の日本語訳は山口 2016 に基づいて発表者が行ったもので、下線も発表者による)。

(4) One *“I’m sorry for you!”* weighs more than ten *“I told you so’s!”*

(10回の「だから、言ったでしょ」より1回の「大変だったね」がよい)

(Jespersen1913: 31)

(5) a. Hermione gave him a ‘What-did-I-tell-you?’ look over her shoulder.

b. *ハーマイオニーは肩越しに「だから言ったでしょ」表情を見せた。

(山口2016 : 96-96)

ところで、(5) の引用名詞類の付加詞としての用法は、本発表で観察している「発話文+N」の構造と類似していることが分かる。もっとも、山口 (2016 : 96-97) は (5) のような用法は日本語では一般的ではなく、引用される発話文と名詞の間に「という」「みたいな」「的な」「くらいの」などの介在語が必要であるとした上で、その理由として、①日本語には英語と違って、音節数が少なくコストの低い引用標識が存在すること、②「名詞+名詞」の構造を形作る際の制約に日英間で違いがあること挙げている。例えば、英語は「flea market」「bedroom eyes」のようにレベルの異なる名詞同士の結合が自由なのに対し、日本語はそうでないのが引用名詞類の成立における差を生み出しているのだという。

ところが、引用名詞類と類似した構造が、若者ことば中心であれ、日本語に存在している以上、よりそちらに焦点をおいた分析が必要であると考えられる。

3. 「発話文+N」の分析

3.1 直接引用の側面から

「発話文+N」の「発話文」の部分は、誰かの発話を、モダリティ形式を含むそのままの形で導入している点では直接引用と言える。ところが、それが誰によっていつどこで発せられたかは問われない。そのような意味では、山口（2016）のいう引用名詞類の付加詞的用法に限りなく近い³。

ところで、上記（1）と（2）では、直接引用の発話文と名詞の結びつき方が異なっている。新屋（2014）が提示した「(直接引用形式) 状態」の意味を「(直接引用形式) という発言に結びつく状態」と簡略化して（1）と（2）の下線部をそれぞれパラフレーズすると下記のようになるが、（1'）は発話文の部分が「状態」や「感」の具体的な中身には言及せずに関連する（誰かの）発言になっているのに対し、（2'）は発話文そのものが「問題」や「説」の中身の説明になっているため、このようにパラフレーズするととの表現とのズレが目立ってしまう（「#」は文法性とは関係ない不適格さを表す）。

- （1'） a. 「何じゃこりゃ」という発言に結びつく状態
- b. 「何じゃこりゃ」という発言に結びつく感
- （2'） a. # 「燃費悪すぎだろう」という発言に結びつく問題
- b. # 「Sパッケージが買い得なんじゃないか」という発言に結びつく説

このことは、一言で「発話文+N」といっても、その中身は一様ではなく、発話文と名詞との結びつき方によっては複数の種類に分けられ得ることを示唆する。（1）は、どちらかというところ、英語の引用名詞類に近い。（2）のような例は、近年主名詞の多様化とともに使用が拡大しているが、先行研究でも特に（1）と区別している印象はない⁴。本発表では、このタイプの例に対して以下のように捉える。（2）は、「問題」

³ しかし、日本語は、（5）で見られるように、直接引用される発話文や名詞のバリエーションは英語ほど自由なわけではなさそうである。その制約などについての分析は別稿に譲るとして、本発表では引用名詞類が日本語にも存在するという事実注目したい。なお、以降は引用名詞類という用語を主にその付加詞的用法を指すものとして用いる。

⁴ 新屋（2014）では、「(直接引用形式) 状態」と同様の破格の連体構造として（2）と類似した例を挙げている。もっとも、「直接引用と伴った破格の連体構造」という意味では（1）と（2）

や「説」の中身の説明部分をそれぞれ「燃費悪すぎだろう」「Sパッケージが買い得なんじゃないか」という発話文の直接引用形式にすることで、ドラマ性や臨場感などのレトリック効果（メイナード 2004）を持たせた表現である。その意味では、(1)と共通性があると見ることができる。

実は、(2)のようなタイプの直接引用は「発話文+N」表現以外にも広範囲に亘って使用されている。名詞句に限ってみても、例えば、以下ではそれぞれ「レクサスが買える価格帯」「走り志向の装備をつけた存在」「抑えているの」とシンプルに表現できるにもかかわらず、直接引用を導入している。

- (6) a. そうなると、レクサス買えちゃうよっていうくらいの価格帯になってくるので、まあ、安くはない。
- b. スポーツ志向の、走り志向の装備は逆につけましたよという存在です。
- c. 結構やっぱり抑えてますよという、のが分かりますね。

このように、日本語では、主名詞が「こと」「感じ」などのことばや思考を表すものではないにもかかわらず直接引用を用いるという現象は珍しくなく、「発話文+N」もそのような流れの中で自然に生まれた可能性がある。

一方、韓国語では、これまで見てきた「発話文+N」構造をしているのは、(7)で見ると、「タイトルやキャッチフレーズの範囲を超えていない」（新屋 2014）ものがほとんどである。

- (7) a. 고마워요 키트 / 예뻐네일 / 조아조아클럽 / 모이자TV
- b. 칭찬합시다 캠페인 / 놀러와 체험단 / 묻지마 범죄 / 야타족
- c. 슈퍼카 타봤솨 / 보험이 왔썸머! / 겨울 옷 세탁할 때가 됐나 봄

このことは、「라는」「하는」「이런」などの引用標識類が入った場合を考慮に入れても同様であるが、「状態」「問題」など発言や思考と直接関係のない名詞が直接引用の主名詞になることはなく、発話文が名詞に直接つくという現象も(7)のような特

は共通しており、本発表でも「発話文+N」の意味論的な違いを意識しながらも、最終的にはその共通性に焦点を当てる。

殊なケースを除いてはめったにない。もっとも、韓国語でも「ことば」や「考え」などを主名詞とする一般的な直接引用による名詞修飾句を含め、直接引用そのものは多く用いられるので、直接引用による臨場感などの効果を狙う技法は、特に日韓で差があるわけではなさそうである。

3.2 名詞修飾の側面から

「発話文+N」を名詞句の構造という側面から見ると、発話文と名詞の間に引用標識がない点で従来と大きく異なる。新屋（2014）や山口（2016）も指摘している通り、本来なら「という」「といった」などの引用標識が必要なはずであるが、「発話文+N」にはこれらの標識はもちろん、類似引用（メイナード 2004）の「みたいな」なども用いられていない。実際、(1) と (2) の下線部に「という」などを挿入しても違和感がなく、そのような形で用いられる例も多々ある。

- (1") a. ヒラメが・・・何じゃこりゃ～！という状態に↓
b. 違和感というか、何じゃこりゃという感はありますね。
- (2") a. これはちょっと、燃費悪すぎだろうという問題はありますね。
b. Sパッケージが買い得なんじゃないかという説から行きましょうか。

上記の構造は、名詞修飾構造の中でも寺村（1982）の言う「外の関係」、または、メイナード（2004）の「説明修飾」を成しているもので、特に (2) は、「燃費が悪すぎるとい問題」「S パッケージが買い得の可能性があると説」という典型的な名詞修飾構造の修飾部を発話文の形にし、引用標識を削除するという大胆な構造となっている。これは、上述の英語の例とも異なるユニークな構造である。このような意味では、日本語の「発話文+N」は、英語のそれとは一線を画すものと言えよう。もっとも、(1) も (2) も、(3) の特徴をすべて有しているという点では、引用名詞類の一種と見ることができる。

日本語にも、英語とは異なるタイプではあるものの、引用名詞類が存在するということから、2.2 で紹介した山口（2016）の説明は修正が必要そうである。まず、日本語に音節数が少なくコストの低い引用標識が存在することが、引用名詞類の生起を妨げているとの説明は、日本語にも (3) の条件を満たす引用名詞類が多く存在することから却下される。逆に、日本語と同様に音節数の少ない引用形式を有する韓国語

では、日本語と全く異なる様相を見せるので、引用形式の有無自体は引用名詞類の生起と直接的な関係はないようである。

「名詞＋名詞」の構造を形作る際の制約に日英間で違いがあるという説明は、「flea market」が日本語では「*蚤市」とならず「蚤の市」となるというレベルでは正しいが、「flea market」が英語と同じく「벼룩시장」となる韓国語では日本語よりも引用名詞類が成立しにくいという事実から、やはり妥当ではないと思われる。このような語構成は、その言語の語彙意味論や形態論的な特徴に大きく左右されるもので、引用名詞類の成立とは区別されるべきであろう。

引用名詞類の生起がほぼゼロに近い韓国語からすると、英語と日本語は「発話文＋N」の成立要因における類似性を持っているようにも見えるが、それは文の名詞性である。言い換えれば、「発話文＋N」の前項は、山口（2016）も指摘しているように、まず名詞になってから後続の名詞につながっているものであり、その意味では、日本語の、用言の終止形がそのまま名詞的に用いられやすいという性質が影響しているのかもしれない。他方、韓国語では発話文が名詞につながる際は、文末の用言を引用連体形にし、名詞修飾表現にしなければならない。用言の終止形は終止形でしかなく、用言の名詞形は別に存在するため、発話文を終止形のまま名詞扱いすることは話者にとって大きな負担となる。このような言語構造的な違いが「発話文＋N」の成立可能性に差を生み出すのだが、ここではその構造的な違いを名詞性の違いと捉えておきたいと思う。

4. おわりに

「という」は、名詞にもモダリティを含む発話文にも簡単につけられ、簡単に取れるが、韓国語は名詞には引用助詞が、文には語尾と助詞などが結合した引用標識が厳しく使い分けられるため、簡単につけられないし簡単に取れない。韓国語からすると、まさに日本語は不完全な形で完全な表現を成しているわけである。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費 21H00522、20K00549 の助成を受けたものである。

引用文献

新屋映子 (2014) 『日本語の名詞指向性の研究』 ひつじ書房

寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味 I』 くろしお出版

メイナード、泉子・K (2004) 『談話言語学 日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』 くろしお出版

山口治彦 (2016) 「直接引用しか許さない引用形式—引用名詞類の日英対照研究—」『名詞類の文法』 くろしお出版、81-104

Jespersen, Otto. (1913). *A modern English grammar on historical principles, Part II·Syntax*. London: Allen & Unwin.

日本語 LINE における「不完全な文」の一考察

ーメディアと言語構造、「表記意識」に注目してー

新井保裕（文京学院大学）

1. はじめに

我々は言語を用いてコミュニケーションを行う際、形態／統語的に完全な文だけを用いるのではなく、「不完全な文」¹も多く用いる。近年、言語コミュニケーションを行うのにさまざまなメディアが用いられるようになってきているが、話しことば、書きことばの枠を超えて文体がメディアによって異なるように（参考：石黒・橋本編 2014）、「不完全な文」の出現様相もメディアによって異なる。新聞記事の文末表現に着目した丸山(1987) や新幹線内の電光表示「新幹線要約」を扱った山本(2005) などの研究があるほか、近年は「打ちことば」の研究も盛んである²。そこで本研究では、日本で多く用いられるコミュニケーションアプリ LINE³の日本語を取り上げ、その日本語「会話」⁴データに現れる「不完全な文」を、メディア及び言語構造に注目して分析考察を行う。そして「表記意識」の存在を示唆し、少考を加える。

2. 先行研究

本節では LINE のことばに注目した研究をいくつか取り上げ、概観する。

三宅(2016) は身近なやりとりからことばを見つめ直す事例の1つとして、メディ

¹ 本稿では、不完全な文を、母語話者がもつ言語知識から想定できる完全な文構造を基準にして、「必要な構成要素」とされる何かを欠いているため、形態／統五滴に不完全さがありながら、文として許容される形式、と捉えて論を進める。

² 「打ちことば」に関する基盤的かつ包括的な研究として落合(2021) がある。ただ言語表現とメディアの関係について中心的に扱われる一方で、本研究が扱う表記についての言及は少ない。

³ LINE の詳細は公式 HP (<https://line.me/ja/>: 2023 年 7 月 10 日閲覧) を参照のこと。2023 年 3 月末時点で 9500 万人の利用者がいるという。

⁴ 文字言語コミュニケーションである LINE でのやりとりを「会話」と称してよいかは検討の必要があるため、本稿の初出では括弧付で表記したが、以降は括弧無で表記する。

アによる使い分けを紹介しており、そこでLINEについて記述している。岡本(2016)はLINEのマルチモードの表現要素の特徴と、それらを駆使した相互行為を通して「楽しさ」や「のり」の遊びのコミュニケーション空間が創出される過程を報告している。これらに続く研究も行われているが、やりとり(場、関係性、配慮など)や相互行為に注目されており、「不完全な文」への言及は少ない。

それに対して、西川ほか(2015)はLINEコミュニケーションの質的分析を通じて、主に以下5つの特徴をアプリの機能との関連で示している。

- ① やりとり速度が極端に早い例がある一方、一旦途切れた会話が翌日再開されるような場合でもスムーズに会話が継続される
- ② 複数の話題が同時並行でやりとりされる話題の幅輻が問題なく遂行されている
- ③ スタンプ機能以外にも、従来のメールで用いられてきたテキストでの顔文字表現も行われ、テキスト以外の表現の工夫や使い分けが生じている
- ④ 同じスタンプの画像を別なニュアンスで多用し、しかも誤解なく了解されている
- ⑤ **極端に短文化され、省略化されたメッセージの理解のためテキスト内外の文脈への依存度の高いコミュニケーションである**

(西川ほか2015:47論文要旨より、太字は筆者)

やりとりの質的分析を通じて、短文化、省略化という「不完全な文」と関わる指摘(⑤)が成されているが、現象の記述に留まっている部分も少なくない。メディアだけでなく言語構造に注目した研究の枠組みを設定し分析することで、LINEにおける「不完全な文」の諸相がより明らかになるのではないかと考えられる。

本研究では日本語LINEの「不完全な文」に焦点を当て、メディアと言語構造に注目して質的・量的分析を行い、LINEデータを考察する。そしてその分析考察過程において「表記意識」の存在を明らかにする。

3. 調査方法

本研究では以下要領で、実際に用いられたLINE会話データを収集した。

調査は2022年11月から12月に東京都内の大学で実施した。調査対象は当該大学に通う、日本語が母語の学生であり、以下表のように2~3名のグループ5組に分か

れて調査を行った。

表 1 本調査参加者概要

	参加者(性別)	学年	関係	時間数
グループ 1	女性 2 名	2 年生	同学年友人	30 分
グループ 2	女性 3 名	2 年生	同学年友人	31 分
グループ 3	女性 2 名	2 年生、4 年生	先輩後輩	28 分
グループ 4	男性 2 名	2 年生	同学年友人	28 分
グループ 5	女性 2 名	4 年生	同学年友人	31 分

各グループで、調査者を含めて LINE のグループチャットを作成し、30 分程度自由「会話」をしてもらった。その際、調査者はただ観察するのみで、コミュニケーションには参与しない。そして調査終了後、LINE 会話のテキストデータ、及びスクリーンショットによる画像データを保存した。

こうして得られたテキストデータを表計算ソフトで管理し、適宜画像データを参照しながら分析を行った。次節ではその分析結果を見ていく。

4. 調査結果

本節では LINE 会話を、①メッセージ数、文字数、②記号類使用数に注目して、それぞれに対して計量分析と実例分析を行い、その結果を概観する。

4.1. メッセージ数、文字数

まずはメッセージ数、文字数の計量結果を見る。LINE 会話の 1 吹き出しを 1 メッセージとして数え、各メッセージごとに表計算ソフトの文字数カウント機能を用いて計量化した。なお LINE 会話には写真、スタンプなどの非文字メッセージや、WebURL の引用もあるが、ほかの文字メッセージとは異なるものであるため、それらはメッセージ数には含むものの、文字数の 1 メッセージあたりの平均値算出からは除外した。また絵文字は 1 つを 1 文字としてカウントし、手作業で数値を修正した。こうした計量化の結果は以下の通りである。

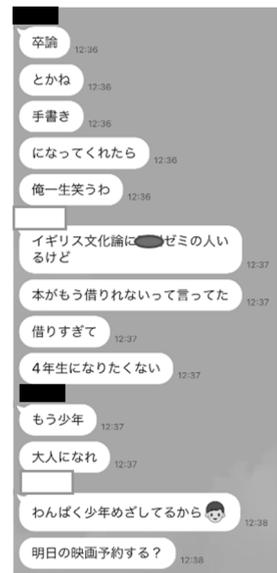
表 2 本調査データのメッセージ数、文字数

	参加者(性別)	メッセージ数	平均文字数
グループ 1	女性 2 名	156	13.41
グループ 2	女性 3 名	274	9.19
グループ 3	女性 2 名	86	11.83
グループ 4	男性 2 名	241	5.80
グループ 5	女性 2 名	73	13.56

5 グループのみで、かつ男性グループは 1 グループだけという非常に限られたデータであるが、男性グループの平均文字数が少ないことがわかり、LINE 会話の文字数に性差があることが示唆される。1 メッセージあたりの文字数が少ない男性は女性よりも「不完全な文」を用いることが多いのではないかと考えられるが、実例から検討を行う。

当該男性グループの実際の会話データは以下の通りである。実例からもわかるように、1 つのメッセージが文だけでなく、「不完全な文」の言語単位となり得るような節や語になっている。特に男性 A (下記図内黒伏字) は 1 メッセージの短さが顕著であり、154 メッセージで平均文字数が 4.73 である。一方で、男性 B (白伏字) も 87 メッセージで平均文字数が 7.69 であり、ほかの女性グループの平均文字数より少ない。

一方で、実例を確認すると、1 つのメッセージで、発信者の伝えたい内容が完結するのではなく、連続した複数のメッセージを組み合わせることで「完全な文」となることがわかる。つまり 1 メッセージあたりの平均文字数や 1 メッセージの内容を見るだけで、日本語 LINE における「不完全な文」の使用に性差があるとは言えない。むしろ男性が「完全な文」を LINE において複数のメッセージに分けて表記するという「表記意識」の存在が示唆され、そこに性差があると考えられる。



4.2. 記号類使用メッセージ数

次に LINE をはじめとする SNS (Social Networking System) で多く用いられる記号類の使用に注目して、分析を行う。本研究では次のものを記号類に含み、こうした

記号類が用いられたメッセージの数を各グループごとに算出し、数の大小で並べ替えると以下表のようになる。

- ① スタンプや絵文字、写真、記号などの非文字
- ② 形態上は文字であるが、文末に置いて感情を表す「()」や「笑」のような括弧、表語文字

表3 本調査データの記号類使用メッセージ数

	参加者(性別)	記号類使用数	平均文字数
グループ2	女性3名	231	9.19
グループ1	女性3名	78	13.41
グループ3	女性2名	72	11.83
グループ5	女性2名	60	13.56
グループ4	男性2名	27	5.80

本調査の限られたデータであり、かつ多少の前後はあるものの、女性の場合、1グループあたりの平均文字数が少ないグループほど記号類を使用したメッセージの数が多い傾向にあることがわかる。男性のグループと異なり、女性のグループでは、「完全な文」にせよ「不完全な文」にせよ1メッセージで文が送受信されることが多いが、情報を言語ではなく記号によって表す場合は、言語で表出される部分が少なく、1メッセージあたりの文字数も小さい、さらに言語上だけでは「不完全な文」の生成と関連があると推察される。

ここでも4.1節に続き実例を見ながら分析を行っていく。記号類使用が多い女性グループ(グループ2)の実例を見ると、言語単位の省略(非言語化)が見られる「不完全な文」がやはり多いことが確認される。「不完全な文」を使用し、言語化しない情報を補償するために記号類使用を行うか、「記号類使用を行うために「不完全な文」を用いる」かはわからないが、記号類使用と情報の言語化に相関関係があることが示



唆される⁵。こうした記号類使用は、LINEをはじめとする SNS に特徴的なものであり、SNS という文字メディアの特徴を活かした表記が行われていると言え、「表記意識」の存在とメディアによる表出を考えることができる。

5. 考察

前節までの結果分析を通じて、LINE メッセージの諸相に、メディアや言語構造、そして「表記意識」が関わることが示唆された。本節では、メディア、言語構造に注目して考察を行い、「表記意識」についても今後の展望を行う。

5.1. 他メディアとの比較分析：SDGs 標語との比較から

日本語 LINE における「不完全な文」を考察するにあたり、他メディアにおけるそれと比較する。ここでは SDGs⁶標語の日本語訳に見られる「不完全な文」を手がかりに考えていく。

新井(2022)では SDGs 標語(下記表参照)に注目し、英語オリジナルではいずれも名詞句で表現されているものが、日本語訳では「不完全な文」も用いてさまざまな形で表現されていることを指摘している。

表 3 SDGs 標語の日本語訳(括弧内英語)

1	貧困をなくそう (No Poverty)
2	飢餓をゼロに (Zero Hunger)
3	すべての人に健康と福祉を (Good Health and Well-Being)
4	質の高い教育をみんなに (Quality Education)
5	ジェンダー平等を実現しよう (Gender Equality)
6	安全な水とトイレを世界中に (Clean Water and Sanitation)
7	エネルギーをみんなに、そしてクリーンに (Affordable and Clean Energy)
8	働きがいも経済成長も (Decent Work and Economic Growth)
9	産業と技術革新の基盤をつくろう (Industry, Innovation and Infrastructure)

⁵ ことばの産出過程を考えると、前者が有力ではないかと考えられる。

⁶ SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年の国連総会で全加盟国が合意した、持続可能な開発目標のことである。17の「目標」と169の「ターゲット」から成る。

10	ひとや国の不平等をなくそう (Reduced Inequalities)
11	住み続けられるまちづくりを (Sustainable Cities and Communities)
12	つくる責任 つかう責任 (Responsible Consumption and Production)
13	気候変動に具体的な対策を (Climate Action)
14	海の豊かさを守ろう (Life Below Water)
15	陸の豊かさも守ろう (Life on Land)
16	平和と公正をすべての人に (Peace, Justice and Strong Institutions)
17	パートナーシップで目標を達成しよう (Partnerships for the Goals)

日本語訳に携わった蟹江(2020)では、SDGsを自分の問題として捉えられるようにするために、行動を促すことばにするという翻訳意図があったことを述べている。ただ次のように、勧誘表現以外の言語形式を用いて、不特定多数への呼びかけが行われているのは注目に値する。そしてそれらは助詞止め、名詞止めという「不完全な文」である。

- ① 勧誘表現：7例
- ② 助詞止め（～に、～を）：9例（1例の副詞止めも含む）
- ③ 名詞止め：1例

呼びかけを目的とする標語というメディア（ジャンル）でも「不完全な文」が用いられるが、前述のLINEとは異なる言語形式であり、「不完全な文」とメディアの関係が示唆される⁷。LINEでは記号類の使用を行えるため、記号類の使用が多いほど、文字数の短い「不完全な文」が多い傾向があることを述べたが、標語とは異なり特定少数へのコミュニケーションであるため、助詞止め、名詞止めが少ないと考えられる。

5.2. 言語構造分析：「「磁石」な日本語」から

次に言語構造の面から日本語LINEの「不完全な文」を考える。

生越ほか(2018)、Arai (2021)では日韓両語の省略現象を分析する過程で、言語単位の独立性・従属性・結合性・融合性に注目し、言語構造を「「磁石」な日本語と「チェーン」な韓国語」と類型化している。図示化すると以下の通りである。

⁷ 尹盛熙(2021)でも媒体の違いと省略に注目し、同様の示唆が成されている。

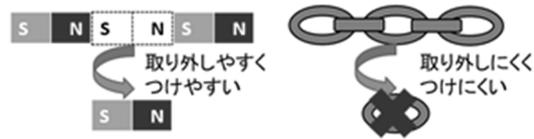


図1 「磁石」な日本語と「チェーン」な韓国語

【日本語】言語単位の独立性が高く全体から外して結合できる

【韓国語】言語単位の従属性が高く互いに融合

本研究では、韓国語データは収集できておらず日本語データのみ分析に留まっているが、「磁石」な言語構造を活かした「不完全な文」が多く現れている。Arai (2023)でもSNSの特徴的表現を取り上げ、日本語SNSに「磁石」な言語構造が反映されていることを明らかにしている⁸。本研究でも男性グループが非常に短いメッセージを送受信し、そこには節や語という「不完全な文」を用いているように見えた。しかしデータを観察すると、「完全な文」を分けて表記を行っている場合があることがわかった。また女性グループでは文字数が少なく表記される場合に記号類の使用が多い傾向にあることも明らかになった。上記の言語構造をもとに考えると、言語構造から説明できる部分とそうでない部分があることがわかり、「表記意識」にも注目する必要があることが示唆される。

5.3. 「表記意識」：今後の展望

最後に「表記意識」に注目して本研究の分析結果をまとめる。分析結果のうち、言語構造だけでは説明できない、「表記意識」と言えるものは以下の通りである。

- ① 女性に比べると男性はより小さい言語単位で表記する傾向がある
- ② 女性は短い単位で言語表記する場合に記号類を多く使用する傾向がある

今後、こうした「表記意識」が日本語LINEのみに当てはまるものか、日本語の表

⁸ なおArai (2023)ではSNSの場合、韓国語でも、「チェーン」ではなく「磁石」な言語構造が現れることも示しており、メディアと言語の関係を示唆している。

記全般にも当てはまるものであるかを考える必要がある。新井(2015) は日中韓形態メール言語の脱規範的表記から、使用者の主体的かつ選択的な「文字の使い方」を文字活用として注目すべきであることを述べている。岩崎(2023) も日本語句読点の使い方がジャンル別に異なることを定量的に示している。これらも「表記意識」に含まれるものであり、「表記意識」の研究、及び「表記意識」も視野に入れた「不完全な文」の研究が望まれる。

6. おわりに

本研究では日本語 LINE の「不完全な文」を対象に分析し、その過程でメディア、言語構造、「表記意識」について考察した。「不完全な文」の生成には、記号類を使用できるメディア的特徴が反映されているほか、「磁石」な日本語」という言語構造に加えて、メッセージの長さや記号類使用という「表記意識」(及びその性差)が見られる。日本語 LINE の「不完全な文」の諸相、背後にあるメディアと言語、表記の関係が示唆された。

一方で、本研究は課題も少なくない。データサンプル数も少なく示唆に留まるほか、他メディアとの対照も限られている。日韓対照研究を視野に入れ、韓国語データとの対照も考えなければならない。

こうした課題を克服することで、「不完全な文」研究の及び言語とメディアの対照研究の進展が期待されるほか、言語表現と表記の関係も明らかにできるのではないかと考えられる。

参考文献

- 新井保裕(2015)「携帯メール言語の分析を通じた「文字活用論」試論—東アジア言語の視点—」
『朝鮮語研究』6
- 新井保裕(2022)「ことばの研究・教育から見る SDGs」文京学院大学生涯学習センター2022年度外国語学研究所連携講座『SDGs を映像・データから読み解く』講座資料
- 石黒圭・橋本行洋編 (2014)『話し言葉と書き言葉の接点』ひつじ書房
- 岩崎拓也(2023)『現代日本語における句読点の研究：研究概観と使用傾向の定量的分析』ココ出版

- 岡本能里子(2016)「雑談のビジュアルコミュニケーション：LINE チャットの分析を通して」
村田和代・井出里咲子編『雑談の美学：言語研究からの再考』ひつじ書房
- 生越直樹・尹盛熙・金智賢・新井保裕(2018)「省略から見えてくること―「磁石」な日本語と
「チェーン」な韓国語―」『社会言語科学会第42回研究大会発表論文集』社会言語科学会
- 落合哉人(2021)「「打ちことば」の基盤的研究」筑波大学博士(言語学)学位論文
- 蟹江憲史(2020)「SDGs(持続可能な開発目標)」中央公論新社
- 西川勇佑・中村雅子(2015)「LINE コミュニケーションの特性の分析」『東京都市大学横浜キ
ャンパス情報メディアジャーナル』16
- 丸山直子(1987)「現代日本語の文末表現―新聞記事を対象にした調査をもとに―」『日本文学』
67
- 三宅和子(2016)「身近なやりとりからことばを見つめ直す」『日本語学』35(2)
- 山本和英・池田諭史・大橋一樹(2005)「「新幹線要約」のための文末の整形」『自然言語処理』
12(6)
- 尹盛熙(2021)『ことばの「省略」とは何か』大修館書店
- Arai Yasuhiro (2021) ‘Magnet’-type Japanese and ‘Chain’-type Korean(1): A New
Perspective of a Contrastive Study between Japanese and Korean’ 『文京学院大学外国語
学部紀要』20
- Arai Yasuhiro (2023) ‘Magnet’-type Japanese and ‘Chain’-type Korean(3): Dynamics
between Languages and Media’ 『文京学院大学外国語学部紀要』22

日本語「です」の終助詞化と韓国語「해요」体形成の対照

研究

河崎啓剛（東京大学）

1. はじめに

本発表で言う日本語「です」の終助詞化とは、現代日本語の「よいです」「よかったです」や「しないで」「しなかったです」等における「です」の用法を指す。¹「よいです」「よかったです」は、本来規範的とされた「ようございます」「ようございました」を既に駆逐しつつあり、また「しないで」「しなかったです」は、規範的とされる「しません」「しませんでした」の代替として、口語において広く定着している。これらは現代日本語が、「口語的」な「非格式体」として、丁寧語の新たな活用体系を形成しつつあるものと見る事ができる。

以上は形容詞や動詞否定形（「ない」は形容詞活用である）の例であるが、この現象は決して「形容詞活用」のみに限定して捉えるべきものではない。既に一部の地域方言や社会方言において観察される「スルデス」「シタデス」の形や、推量形としての「しよう」「しましよう」を駆逐しつつある「するだろう」「するでしょう」の形などとも合わせて、体系的に捉えるべき現象である。

一方、19世紀に韓国語の「해요」体を形成した「丁寧化の助詞」「-(으)요」の起源については、歴史的資料と方言資料を幅広く視野に入れた고광모(2000, 2004)等による、指定詞「이다」の丁寧形(하오体)である「이오」(≒「です」)に由来すると見なす説が最も有力視されている。

本発表では、以上の日韓両言語の「終助詞化」のプロセスが多くの面で並行している事を指摘する。それにより、「不完全な文」をくくる特殊な用法の指定詞丁寧形が

¹ 日本語のこうした用法は、一般的に終助詞「ね」「よ」「か」等を伴う方がより自然で許容度が高まる傾向にある。本発表で「よいです」等と語形を示す場合、「よいですね」「いいですよ」といった形までを全て代表するものとする。

「丁寧助詞化」するという両言語に共通する通時的変化の存在を浮き彫りにしたい。

고광모(2000, 2004)が『小文(소문장, minor sentence)』についての指定詞」と説明するように、これらの統語論的な起源は「不完全な文」や「発話分全体」をある種の「直接引用文」として名詞化し、指定詞でくくった現象であったと考えられる。つまり、例えば現在でも盛んに用いられる『善は急げ』ですよ」「～に感謝です」「～を徹底調査です」といった類の「です」の用法から出発したものと考えられる訳である。

2. 日本語「です」の終助詞化について

2.1 現代日本語の基本活用表

現代標準日本語の「基本活用表」を作成してみると、以下ようになる。²この表は、「体言型」(指定詞及び形容動詞)、「形容詞」、「動詞」のそれぞれについて、「肯定と否定」、「非過去と過去」、「常態と敬体」、そして「断定と推量」という四つの対立軸による活用変化を網羅的に示した表である。表中の【 】は「です添加型」(又は「だろう・でしょう添加型」)であることを示し、また【【 】はそれが唯一の形であったり、或いは「本来の形」よりも口語として明らかに優勢と判断される事を示す。

² 表の直観的な見やすさ(長さ、使用頻度等)を考慮し、動詞は「する」、形容詞は「よい」、体言型は「そうだ」をそれぞれ代表として選んだ。なお、表中では「では」や「よい」をより口語的な「じゃ」や「いい」等に置き換え可能な事、「体言型」において「ダ」体を以下の様に「デアル」体に、「デス」体を「デアリマス」「デゴザイマス」体等に置き換え可能な事に関しては、簡潔のためわざわざ示さない。

そうだ	→ そうである	そうです	→ そうであります/そうでございます
そうだった	→ そうであった	そうでした	→ そうでありました/そうございました
そうだろう	→ そうであろう	そうでしょう	→ そうでありましょう/そうございましょう

＜表 1＞ 現代日本語の基本活用表

		常体		敬体		
		肯定	否定	肯定	否定	
断定	体言型	非過去	そうだ	そうではない	そうです そうではありません 【そうではないです】	
		過去	そうだった	そうではなかった	そうでした そうではありませんでした 【そうではなかったです】	
	形容詞	非過去	よい	よくない	(ようございます) 【【よいです】】	よくありません 【よくないです】
		過去	よかった	よくなかった	(ようございました) 【【よかったです】】	よくありませんでした 【よくなかったです】
動詞	非過去	する	しない	します	しません 【しないです】	
	過去	した	しなかった	しました	しませんでした 【しなかったです】	
		常体		敬体		
		肯定	否定	肯定	否定	
推量 = 推量이다 = 推量하다	体言型	非過去	そうだろう 【【そうではないだろう】】	そうでしょう 【【そうではないでしょう】】		
		過去	そうだったろう 【【そうだっただろう】】	そうでしたらう 【【そうではなかったらう】】		
	形容詞	非過去	よからう 【【よいだろう】】	よくなからう 【【よくないだろう】】	(ようございましょう) 【【よいでしょう】】	(ようございませう) 【【よくないでしょう】】
		過去	よかったらう 【【よかったらう】】	よくなかったらう 【【よくなかったらう】】	【【よかったですらう】】	【【よくなかったですらう】】
動詞	非過去	しやう 【【するだらう】】	するまい 【【しないだらう】】	しましやう 【【するでしょう】】	しますまい 【【しないでしょう】】	
	過去	したらう 【【したたらう】】	しなかったらう 【【しなかったたらう】】	【【したでしょう】】	【【しなかったでしょう】】	

表を見ると、「です添加型」の丁寧語は「よい+です」「しない+です」「しなかった+です」の如く常体の終止形(表左上の「常体・断定」のブロック)に単純に「です」を加えることのみによって形成される、形の上で非常に単純な丁寧語であることが確認できる。また規範的には「形容詞」及び「否定」の場合にのみこの形が許されており、活用が不完全であることも確認できる。

また次に下段の「推量」のブロックを見ると、「です添加型」丁寧語に先立って「だらう添加型」「でしょう添加型」の常体/敬体推量形が、一足先に勢力を拡大し定着したことが確認できる。³

今、表左上の「常体・断定」のブロックを仮に「基本ブロック」と呼ぶことにすれば、以下の様な非常に単純な体系に変化した、或いは変化しつつあると見ることができるわけである。

³ 特に、元来「意志」と「推量」の両方を表していた「しやう」「しましやう」が、口語においては「推量」の意味を新形「するだらう」「するでしょう」に譲り、旧形は主に「意志」の意味に特化するという合理的な発達を遂げた点が注目される。

左下の「常体・推量」ブロックは、「基本ブロック」＋「だろう」
右下の「敬体・推量」ブロックは、「基本ブロック」＋「でしょう」
右上の「敬体・断定」ブロックは、「基本ブロック」＋「です」

前述の通りこのうち「です添加型」に関してはまだ活用が完全ではないが、「そうでした」に対する「ソウダッタデス」、「しました」に対する「シタデス」、「します」に対する「スルデス」という三つの形が完全に一般化し定着することによって、この体系は完成する。⁴

2.2 「です」は終助詞か

注目すべきは、元来指定詞「だ」の活用形である「です」、「だろう」、「でしょう」はこの一連の文法化の過程において形が固定され、もはや活用もせず、文末にただ添加されるだけの「助詞」(particle, 不変化詞)、或いはほとんど「終助詞」(final particle)化しているのだと分析され得る点である。⁵

「です添加型」、「だろう添加型」、「でしょう添加型」の形において、「です」は「丁寧化」の助詞、「だろう」は「推量」の助詞、「でしょう」は「推量及び丁寧化」の助詞と呼ぶに相応しい要素として、文法化していると考えられるのである。これらは、「断定と推量」「常体と敬体」の二つの対立を融合的に表現する「かばん形態素」

⁴ これらの形は未だ市民権を得ているとは言い難いが、一部の地域方言や社会方言においては既に広く観察されるものであることは周知の通りである。昨今、「すごいキレイかったです」「ちょっと強引だったですかね」「確かにそう言ったですよね」などといった言葉に接することは、それほど珍しい事ではない。

⁵ つまり、韓国語の丁寧化の助詞「-(으)요」のようなものである。浅川(1999: 34-35)では「デス・マス体が整理されることによって『寒いです』の常体が『寒いだ』とはならなくなることから、現代東京語においては『です』と『だ』とは接続面において用法が異なることとなり、品詞認定上で『です』は、断定の助動向『だ』(及び、形容動詞活用語尾)の丁寧体であるとは必ずしも言えないことになる」としつつ、「現代東京語では『です』の終助詞化が相当に進行しているとみられる」(下線は引用者)としている。

この「です」は確かに「終助詞」に近いが、「-から」「-けど」などの「接続助詞」類の承接を許すという点ではやはり典型的な終助詞とは異なる。しかし、そのような特徴を持つやや特殊な終助詞であると規定する事も不可能ではないだろう。発表者は、無理に白黒を断ずるのではなく、終助詞らしい／らしくない特徴をありのままに把握し、「グレー」の度合いを正確に把握する事が必要と考える。

(portmanteau morpheme)として以下の様な体系を成している。⁶

	常体	敬体
断定	∅	です
推量	だろう	でしょう

参考までに韓国語の場合、日本語のような「活用表」を作るまでも無く、典型的な「膠着語」として極めて効率的・経済的な形をしている。つまり、既に示した日本語の「基本活用表」に相当する情報を、韓国語で整理するならば、以下の記述でほぼ「充分」である。

- (a) 肯定と否定、 (b) 非過去と過去、 (c) 断定と推量、 (d) 常体と敬体
 -∅:-지 않- -∅:-았- -∅:-ㄴ 것- -다 :-습/니다⁷

即ち韓国語にはそもそも「指定詞」「形容詞」「動詞」の範疇すらはっきりとした活用上の区別は無く、一つの連続体をなしており、これらの「-지 않-」、「-았-」、「-ㄴ 것-」といった各要素を順序どおりに「膠着」させることにより、規則的に目的の形が作られるのである。

結局、以上の様な活用のあり方は、現代韓国語に比べて現代日本語がかなり複雑(非効率的・非経済的)な部分であると言って差し支えない。「です・だろう・でしょう添加型」の出現は、そんな中でせめてもの「効率化」を成し遂げんとする変化の一環と位置づけられる。韓国語の簡潔性には到底及ばないが、これだけでもかなりの複雑性を解消する、劇的な効率化であると言って良いだろう。

3. 韓国語の丁寧化マーカー「-(으)요」の起源

一方、19世紀に韓国語の「해요」体を形成した「丁寧化のマ-カ-」「-(으)요」の起

⁶ これを以て指定詞「だ」の「活用」と見るのは難しい。結局は「だ」も無くこの3つしか存在しないのであり、統語的には名詞相当の語に承接するという指定詞本来の用法を逸脱しており、意味的にも指定詞の意味というよりは単に「丁寧化」や「推量」を複合的に表現するマーカーとなっているためである。指定詞の活用形に由来する三つの「助詞」がこのように体系的に存在している、と見るのが妥当であろう。韓国語の「이(요)」の存在もまた、このような分析の妥当性を支持してくれる。

⁷ (d)には「-는/ㄴ다 :-습/니다」や「-어 :-어요」もある。

源については、고광모(2000, 2004)等による、指定詞「이다」の丁寧形「이오」(≒です)に由来すると見る説が最も有力である。

고광모(2000, 2004)のこの主張は、「이오」のような「指定詞の丁寧形」が「-(이)요」のような「丁寧化の助詞」に発達するという平行的なパターンが韓国語内部に数多く存在することを指摘することによってなされた。その結論の概略を示すと、以下のようになる。⁸

	指定詞の活用形		丁寧化の助詞
α	20世紀初めの「新小説」や「近代小説」に多く現れる「-(이)요」「-(이)비시오」		
	이-요	→ 이오	> -(이)요 (> -요)
	이-읍시-요	→ 입시오	> -(이)비쇼
β	全羅道方言の「-(이)라우」、特に珍島方言と莞島方言における等級別の発達		
	이라(고) 하오 _[하-오]	> 이라우	> -(이)라우 (> -(이)라)
	이라(고) 합닌짜 _[하-(으/스)비닌짜]	> 이랍닌짜	> -(이)랍닌짜
	이라(고) 합니야 _[하-(으/스)비니야]	> 이랍니야	> -(이)랍니야
	이라(고) 한가 _[하-(으)나가]	> 이랑가	> -(이)랑가
γ	全羅南道と慶尚南道の一部地域で使用される -이다		
	中世語 이 다 _[이- 다]	> 이이다	> -이다 (> -다)
			> -이더 (> -더)

고광모(2000)ではまず「-(이)비쇼」(上記 α)の存在を指摘し、「이오 : 입시오 = -(이)요 : -(이)비쇼」という「比例式」を示すことで、これを「指定詞起源説」の決定的な根拠とした。更に고광모(2004)では方言においても同様の平行的パターン(上記 β、γ)が複数存在する事実を示す事により、この説をより一層強固なものとした。それぞれ個別には異説もある中、これら全てを関連付けて統一的に解釈し、このような形成過程を想定する事が最も妥当であり、また資料上最も確かであるということが、歴

⁸ α、β、γの記号は発表者の整理による。また本発表では便宜上指定詞「이다」の前には「-」をつけず、助詞との表記上の区別を明確にする。

史資料だけでなく方言の地域的変異様相から想定される通時的変化なども幅広く視野に入れつつ検証されている。

この表で「丁寧化の助詞」として示したものは、全て「-(い)요」と本質的に同等と認められる「丁寧化のマ・カ・」である。方言のβとγについては標準語の「-(い)요」に比べて多少の用法上の制約が見られるものの、それは文法化の程度の問題として説明されるものであり、本質的な同質性を揺るがすものではない。つまり、「-(い)요」はこの中で最も「文法化」が進み、統語的にも地理的にも、最も幅広い分布を見せるようになったものという訳である。

4. おわりに

日本語「です」の終助詞化と韓国語「해요」体形成の類似性を指摘する事の意義は大きい。まず何よりの意義は、対照研究が可能になる事である。両言語それぞればらばらに研究されていたものが、その異同を精査する事で双方更なる洞察を得られるようになる。また互いに「別言語の類例」という強力な支持を与え合う事となり、互いの理論を強固に補強し合う事ができるようになる。

教育・学習面にも活かせるであろう。例えば日本語を母語とする韓国語学習者に 합니다体と해요体の違いを教えるにあたり、「しません」と「しないです」という日本語の例を示しつつ直観的な理解を促す事ができる。です形と해요体は、意味的にも「口語的な非格式体」という共通点が見出せる。また韓国語を母語とする日本語学習者には、例えば「食べないです」は良いのに「*食べないでした」がだめな理由を、「です」が「이오>이요」と同じように「助詞化」しているからだと説明する事ができる。それは「먹었어+요」を「먹어+였소」には出来ないのと同じ事である。

引用文献

浅川哲也(1999)「形容詞承接の「です」について——形容詞述語文丁寧体の変遷」『国学院雑誌』100(5)

고광모(2000), 상대 높임의 조사 ‘-요’ 와 ‘-(이)보쇼’ 의 기원과 형성 과정, 『국어학』 36, 국어학회

고광모(2004), 전남 방언의 상대높임법 조사 ‘-(이)라우 - (이)람니짜 - (이)람니야 - (이)랑가’ 와 ‘-이다’의 기원과 형성 과정, 『언어학』 38, 한국언어학회

日本語のジェンダー研究小史

遠藤織枝（元文教大学）

1. はじめに

日本語の性差についての研究は、菊澤（1929）真下（1942）など戦前 1920 年代後半から行われてきているが、社会的文化的に作られたジェンダーとしての日本語の研究は、1970 年代から始まっている。その嚆矢を切ったのが寿岳章子『日本語と女』であり、それに続いたのが現代日本語研究会であった。

2. 戦前の女性のことばの研究

菊澤（1929）の「婦人の言葉の特徴に就て」や、真下（1942）は室町時代の女房詞を女性のことばの手本とするもので、女性のことばを、「商人語」「武士言葉」のような位相の一つとみていた。その特徴を「丁寧な言葉遣い」「婉曲な表現」「漢語を避ける」などとしていた。

3. 戦後のことばのジェンダーの気づき

文学者であり日本共産党中央委員であったタカクラテル（1947）は、貴族階級の女房詞を否定的にみ、「こんどのあたらしい憲法でも、…いつさいの点で、女は男とまったく同じ地位を占め、まったく同じ権利をもてることになっている。それに、どうして、ことばだけ、男とちがうものを使わなければならないのだろう。」p3 と、社会的政治的な差が言葉の差でもあったというまさにジェンダーの視点で女性のことばを見ていた。こうした視点は、当時の日本語の研究者の中にはなかった。当時の女性運動家や教育者の中に日本語のジェンダーを意識した人はいなかった。

4. 壽岳章子の登場

壽岳章子は、戦前女子を入学させていたただ 2 校の帝国大学の東北帝国大学を卒業し、50 年代に京都府立大学で研究生活を始めていた。日本語研究者としては、抄物研究を進めながら、その一方で名前の研究・流行歌の調査など女性の日常の言葉の研究も始めていた。同時に女性の地位向上の運動にも参加して、京都郊外の農村の女性の生活改善運動を推進した。そこでの女性たちとの交流を経て獲得した知見を基にまとめたのが『日本語と女』（岩波書店 1979）であった。

5. 性差の解消に向けて

この時期、遠藤織枝らは現代日本語研究会を立ち上げ、遠藤(1980)では国語辞典に見る女性の記述の偏向を調査し報告していた。その線上で共同研究を行い、『国語辞典にみる女性差別』（三一書房 1985）として発表した。さらに、日本語の話しことばの性差の実態を究明するための共同研究も行い、『女性のことば 職場編』(1997)、『男性のことば職場編』(2002)、『談話資料 日常生活のことば』(2016)として刊行した。次いで田中和子が精力的に研究し、田中(1984)では新聞の用語を詳細に調査しながら、「女性教師」「女子職員」のような「女性であること」を示し強調することばを「女性冠詞」と命名し、その差別性を主張した。マスコミでは用語の見直しも行われるようになり、この種の語は使われなくなった。

6. 日本語ジェンダー学会の発足

2002 年、「社会の中で時に埋もれたままになっているジェンダーの問題を「日本語」との関係で、あるいは「日本語」を媒介として浮かび上がらせること」を目的として、「日本語ジェンダー学会」が設立され、活動を開始した。

参考文献

遠藤織枝(1980)「女性を表すことば」『ことば』1号 現代日本語研究会 pp19-54

遠藤織枝他編(2016)『談話資料 日常生活のことば』ひつじ書房

菊澤季生(1929)「婦人の言葉の特徴に就て」『国語教育』3月号国語研究会 目黒書店 pp66-75)

現代日本語研究会(1997)『女性のことば 職場編』ひつじ書房

現代日本語研究会(2002)『男性のことば 職場編』ひつじ書房

壽岳章子(1979)『日本語と女』岩波書店

タカクラテル (1947)「女のことば」(『女性改造』改造社 1947年1月号 pp2-7)

田中和子(1984)新聞にみる構造化された性差別表現『マスコミと差別語問題』磯村栄一・福岡安則編 明石書店

真下三郎(1942)「婦人語の生命」『現代日本語の研究』国語学振興会編 白水社 pp169-196

日本語教材と国語（韓国語）教科書のジェンダー

鄭 相哲（極東大学校）

1. はじめに

人間の始まりをたどろうとすると諸説がある。その中には太始に造物主が世を作る際、雄と雌の二つを誕生させた。この二性は個々では続けられない。互いに仲良く協力しあわないと今日の人類は存在しない。近代社会に入りやっとな女性も平等を求める。女性参政権が認められ、そして今までの酷過ぎた社会システムに目覚めフェミニズムは誕生した。しかし、女性に置かれた様々な境遇は女性の問題でありながら女性だけが片付けられるものではない。その相手たる男性が存在するから生じる問題であり、男性の理解なしではどうすることもできない。ここには互いの認識の問題が大きく浮上する。その意味でジェンダーへの発展は大きな進歩でもある。

社会のあらゆるところにジェンダー視点の理解が必須になってくる。幼い時から潜在的に埋め込まれてきたジェンダーに対する無意識こそジェンダーの必要性であり、その範囲は広い。

そこで、長年日本語教育に携わってきた私たちはこの度日本語教材にはこの例となる落ちはないか気になる。これこそ私たちだけができることで意味のある研究であると思う。

私は韓国で出版された日本語教材 40 余りの中で会話中心の事例分析してみた。そして幅を広め初等学校全 6 年間の国定国語教科書総 16 冊も視野に入れてみた。

2. 韓国で出版された日本語教材で観るジェンダー

世界有数の日本語学習者を持っている韓国には、さすが日本語教材は数が多い事には驚くばかり。今回はこの 20 年にわたる韓国で出版された 40 余りの教材を検討してみた。

基礎から中級レベルの教材であるシラバス上の使われる言葉の制限がある中での会話であり、このような状況の中で成り立つ会話であるがゆえにこれだといったジ

エンダーに触れる素材は少なかった。

ところが、一部では若い層の学習者への配慮からか男女の会話で微妙であり、また確実なジェンダー認識の乏しさが現れていた。

<例1> 2012年出版 ○○教材

A(女性:後輩) 顔とか スタイルも 大事ですか。

B(男性:先輩) ハハハ、もちろん。

男は みんな スリムで きれいな 人が 好きだよ。

<例2> 同教材

A(女性) イさんは かわいい 人と きれいな 人と どちらが好きですか。

B(男性) 僕は かわいくて きれいな 人が 好きです。

<例3> 同教材

B(男性) ○○は どんな 人に なりたい?

A(女性) 私は その 立派な 社会人の 奥さんに なりたいです。

〈例1〉〈例2〉は、近年ではルッキズムとして、人の容貌や体形でその人を表現することは差別とされるようになってきている動きに逆行している。また、〈例2〉は「かわいい女性が好き」と、女性を愛玩物のようにとらえている〈例3〉は、女性は立派な男性の配偶者になるのが幸せだという女性蔑視の思想から会話が作られている。

さらに、人物の設定として〈例1〉は男性の先輩と女性の後輩という初めから男性優位の人物配置になり、言葉遣いも男性は常体、女性は敬体という差のあるスタイルがとられている。〈例4〉も男性は常体、女性は敬体、と対等でないスタイルが選ばれている。

3. 初等学校国定国語教科書で観るジェンダー

参照のために1-6年までの16冊の国語教科書を検討してみたが、ジェンダーに差し障るものは見当たらなかった。特に多文化、障害者に対する理解と認識を高めようとする事項が絵(6年)で、「エリック(에릭)、リル리(릴리)」などの名前でも現れた。

また、文章では女子生徒がボールを蹴ってゴールに入ると男子生徒が「かっこいい！」と叫ぶ内容(5年)もある。また、男子生徒が卵焼きを作る内容の課もあり、国語教科書の方ではジェンダー差別をなくすための配慮がなされていた。

4. おわりに

何より韓国で出版された日本語教育教材は教育方法においては多少問題を抱えている。学習者が偏りなく必要としている項目が基礎課程から中級へのステップアップにスムーズに行くには問題はあるものの、ジェンダーの視点で見ると数としては非常に少ないことが分かった。が、ジェンダー認識の問題は残る。

中国で使用されている日本語教科書に見られるジェンダー

加藤恵梨（愛知教育大学）

1. はじめに

本研究では中国で使用されている日本語教科書6冊に注目し、それらにひそむジェンダー表現をとりあげる。そのことにより、それらの教科書を使って日本語教師が授業をするときに注意すべき点を指摘する。

2. 中国で使用されている日本語教科書におけるジェンダー表現

2.1 パートナーに対する呼称

自身あるいは他者のパートナーを呼ぶ際、次のような表現が用いられている。

- (1) 私はアルコールに目がなくて、しょっちゅう家内に叱られるんです。
(『新編日語』第4冊、p.59)
- (2) 女房にやってもらうしかない。(『新編日語』第4冊、p.242)
- (3) 吉田課長は東京の郊外に住んでいます。(中略) 奥さんは明るくて楽しい人です。そして料理が上手です。
(『新版 中日交流標準日本語 初級 上(第二版)』、p.200)
- (4) 「もうお嫁さんを迎えているでしょう。」
(『新編日語』第3冊、p.57)
- (5) 李：ところで、こちらへ来てから、ご主人とどこかへ旅行に行きましたか。
夫人：いいえ。主人は働いてばかりで、どこへも行かないんですよ。
(『新版中日交流標準日本語初級 下(第二版)』、p.131)

2.2 女性あるいは男性に対する表現

女性あるいは男性について述べている表現に、ジェンダーバイアスがうかがえるものが見られる。

(6) 人と人との関わり合いは常に難しいものですが、その中でも特に、女性どうし
の人間関係の難しさ、トラブルの複雑さについて、耳にすることが多いです。

(『新編日語』第4冊、p.23)

(7) 女のくせに、文句があるなら出て行け。(『新編日語』第4冊、p.242)

(8) 総じて言えば、女の人をよく泣くものだ。

(『新編日語』第4冊、p.256)

(9) ぼくは男らしい男になりたいです。

(『新版 中日交流標準日本語 初級 上 (第二版)』、p.149)

(10) このごろ、日本の女性はあまり女らしくないと言われています。

(『新版 中日交流標準日本語 初級 上 (第二版)』、p.152)

3. おわりに

本研究では、2節で挙げた表現以外に、女性語、男性語の使用についてもふれながら、日本語教科書におけるジェンダー表現について、日本語教師が気づき、学生に注意を喚起することが重要であることを述べる。

引用文献

周平ほか (2015) 『新編日語』第1冊、上海外語教育出版社

周平ほか (2015) 『新編日語』第2冊、上海外語教育出版社

周平ほか (2015) 『新編日語』第3冊、上海外語教育出版社

周平ほか (2015) 『新編日語』第4冊、上海外語教育出版社

唐磊ほか (2016) 『新版中日交流標準日本語初級 上 (第二版)』人民教育出版社

唐磊ほか (2016) 『新版中日交流標準日本語初級 下 (第二版)』人民教育出版社

年少者日本語教育をとりまくジェンダー

三枝 優子（文教大学）

1. はじめに

近年、日本語指導の必要な児童生徒数は年々増加しており、そのうちの約 9 割は「特別の教育課程」などにより日本語指導を受けている¹。文部科学省は帰国・外国人児童生徒教育のための情報検索サイトを運営し、日本語指導などのための教材や資料を提供している。本発表では、年少者日本語教育をとりまくジェンダーについて教材の分析及び公立学校における日本語指導の制度や事例から考察を行う。

2. 年少者向け教材に見られるジェンダー

2.1 「ことば」にみるジェンダー

『中学生のにはんご学校生活編』（庵監修 2019、以下『中学生のにはんご』とする）及び文部科学省ウェブサイト「かすたねっ」とにある教材を分析したところ、いくつかの特徴がみられた。ジェンダーにかかわる点では、自称詞について男女とも「わたし」で統一している教材と女兒は「わたし」、男児は「ぼく」としている教材とに分かれた。同様に、呼称として男女とも「～さん」としている教材と男女で「～さん」と「～君」を使い分けている教材があった。

また『中学生のにはんご』には、母親の発話の設定として「困ったわね」「話したほうがいいわよ」（下線は筆者）などの助詞の使用が見られた。

¹ 『日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等に関する調査(令和3年度)』（文部科学省）による。令和3年度は58,307人である。

2.2 「設定」にみるジェンダー

年少者向けの教材では、学校生活が中心の話題であり、児童生徒に関する内容では特に男女の固定化した役割の設定は見られなかったが、料理やお弁当を作る人、家で子どもを迎える人として母親が、仕事が忙しい人として父親が設定されているなどの事例が見られた。

3. 日本語指導担当教師の現状

年少者の日本語教育にかかわる日本語指導担当教師は、教育委員会などが採用、派遣するのが一般的だが、必要資格や経験は夫々で、専任ではなく取り出し授業など一部の授業時間しか児童生徒と接することができない場合が多い。個々の児童生徒の状況を見極めながら対応していく中で社会や個人の規範意識とかかわるジェンダーをどのように扱うのかも日本語指導担当教師に委ねられている。

4. おわりに

児童生徒が持つ母文化や規範意識などを踏まえながら児童生徒がどうしたら自分らしい日本語を習得することができるのか考察を重ねたい。

分析教材・参考文献

庵功雄監修 志村ゆかり編著 志賀玲子他 (2019)『中学生のにはんご 学校生活編』スリーエーネットワーク

文部科学省 WEB ページ <http://www.casta-net.jp/> (かすたねっと 2023年8月1日閲覧)

齋藤ひろみ (2022)「日本語教育の現場で求められる対応力 子どもを対象とする日本語教育・支援現場で」『日本語教育』181号 日本語教育学会 pp35-50

教師と学生の意識変化に見る OPI の教育的意義

川口 慶子（崇実大学校）

1. ACTFL-OPI の概要

ACTFL-OPI とは、ACTFL（米国外語協会）で開発された外国語口頭能力を測る会話試験であり、日本語以外にも多くの言語で実施されている。この会話試験は一般的に OPI(Oral Proficiency Interview)と呼ばれ、1対1のインタビュー形式(最大30分)で進められる。OPI は、約30分間に「導入→反復過程（レベルチェック・突き上げ）→ロールプレイ→終結部」という標準化された構成で行われ、被験者の上限および下限を見極めながら、被験者のレベルを判定する。OPI の判定尺度は、初級・中級・上級・超級の4つの主要レベルに加え、下・中・上という下位レベルが存在し、全10段階のレベルで判定される。また、OPI レベルの判定は評価基準に照らし合わせて行われ、「機能・総合タスク」「場面・内容」「正確さ・理解難易度」「テキストタイプ」の4項目で成り立っている。

ACTFL-OPI の判定基準を記した公的な『ガイドライン 1986年版』は、“実際に何ができるか”という「プロフィシエンシー」に基づく新しい言語教育の具体的な指針を示し、世界中の多くの教育者や研究者に活用されることになった。1982年にアメリカで誕生したこの新しい言語教育を日本に紹介したのは牧野(1987)である。その後、1995年の鎌田による「日本語巡回セミナー」をきっかけに韓国でも発展し、1999年3月に韓国 OPI 研究会が発足した。韓国 OPI 研究会では2023年現在まで15回の OPI ワークショップを開催し、100名以上の日本語 OPI テスターを誕生させている。また、OPI の国際大会も韓国に2回誘致した実績がある(2003年、2009年)。

ACTFL-OPI の効果についてはこれまで先行研究で言及されているが、本稿ではそれらの効果を調査したうえで、改めて OPI の教育的意義を教師および学生の意識変化を通して検証する。

2. 先行研究

OPI は研究や教育に活かすことができると多くの先行研究で既に指摘されている（嶋田 2008、奥野 2020、李 2020 など）が、本稿では主に OPI が教育にどのように活用されているか、先行研究を確認する。

『OPI テスター養成マニュアル』（1999）の第 8 章「OPI の意義および教室における応用」では、「試験官としての認定を受けるか受けないかにかかわらず、発話サンプルの抽出方法やコミュニケーション能力の評価方法を身に付ける OPI トレーニングでは、OPI の意義や応用を考えながら、授業を行ったりカリキュラムをデザインしたりすることができるようになるという大きな利点を得られる」（p.121）と書かれている。授業やカリキュラムへの活用について具体的には、授業の目標設定、タスク・機能中心の教材あるいは教室活動を導入（教材開発を含む）、独自の会話試験開発（レベル分け、プレースメントテスト、継続的实施による口頭能力の伸び測定）、評価法（評価基準の設定）、教室での教師としての役割（学習者主体で授業を進める）などが挙げられる。これら教育現場における OPI の理念の活用に加え、嶋田（2008、2020）は、OPI が教師自身の成長や育成につながると述べている。OPI を学び、実践することで得られる教師力として、学習者に対しては、質問する力、学習者の力をタテ軸で見る力、臨機応変に対応する力、突き上げる力（少し難しめのタスクを与えるなど）、学習者の力を総合的に判断する力、学習者の発話を待つ力、フィードバックする力が挙げられる。さらに、対話力（相手の話に耳を傾け、共感する力）、自分の発話を客観的に見る力（教室の発話を最小限に抑える）、自分自身を振り返り常に学ぼうとする姿勢も養えると述べられている。また、牧野（1991）や米田（2000）では、OPI のワークショップを受講することによる効果についても言及されている。

教育現場や教師力養成に OPI が活用されているという記述は多い一方で、学習者に対する効果や OPI の援用についてはあまり論じられていない。権藤ほか(2013)では、OPI が学習者の学びをどう支援しているかについて考察するため、OPI 実施後に学習者へアンケート調査を行った。その結果、個々の学習者に与えるフィードバックと OPI の実施は動機付けの一つとして学習を促す可能性があることが指摘されている。しかし、その判定結果を学習者自身がどう活かすか、今後の学習に寄与しているのか、については明らかではない。OPI を個々の学習者の成長に活かす試みを行った Kawaguchi（2014）では、学習者で行った 1 対 1 の OPI インタビュー

を録音し、学習者自身に自己分析をさせ、教師からのフィードバックおよび判定結果を知らせた後、自身で設定した目標にむかって一学期終了後に振り返りのアンケートやインタビューを行った。その結果、OPI を利用した自己評価活動により、学習者の自律性と学習意欲が高まり、日本語での会話にも自信を与えるという効果が確認された。以上のように、OPI を利用して学習者の学びにつなげる実践研究はほとんど見られない。

韓国において OPI がどのように教育活動に活用されているかについては、韓国における日本語 OPI に関する研究の動向と展望論文（川口ほか 2020）で述べられている。抽出された合計 107 編の日本語 OPI に関する論文について詳細な分析を行った結果、学習者に合わせた口頭能力評価の開発、OPI の評価基準を生かして作成された現場に合う評価基準や自己評価の作成など学習者自身の学びをサポートする役割を OPI が果たしているという点が挙げられている。さらに、内省活動、気づき、自律学習などにも OPI が援用されている報告もあった。しかし、論考の一部で OPI の援用が論じられているのみで、詳細は明らかではない。

以上のように、OPI の教育における活用や効果については多く触れられることはあっても、それらが実際にどう活用されていてどのような効果がどれほど認められるのかを検証したものはほとんどない。また、学生は OPI インタビューを通して、何を学び、体験しているのだろうか。インタビュー後、自身の会話能力あるいは学習姿勢に影響は見られるのか、その効果を最大限高めるために教師側ができることは何であろうか。これらが明らかになると、OPI が教師・学生の両者にとってより有意義なものになると考える。

以上より本研究では、教師・学生両者の意識変化の分析を通して OPI の教育的意義を検討することを目的とする。まず調査 1 で、OPI ワークショップを受講した教師を対象に、OPI の教育的効果についてどのように考えているか、教育観や教授法に変化が見られたか調査する。調査 2 では、OPI インタビューを受けた学生を対象に、OPI の印象、学習態度や会話能力に対する認識の変化などを調査する。

3. 調査 1

3.1 調査の目的と対象者

韓国で OPI トレーニングを受講した教師に、OPI の教育的効果についてどのよ

うに考えているか、教育観や教授法に変化が見られたかアンケート調査を行う。具体的には、先行研究を参考に、OPIの教育的効果や教育観、教授法について次の項目について、どれほど身につけることができたか、そして具体的な活用法などを調査することとする。①評価する力(学習者の力を縦軸で評価できる)②質問力(学習者の発話を引き出せる、スパイラルを意識して展開する力)③突き上げ力(少し難しめのタスクを与えるなど)④対話力(相手の話の話を傾け、共感する力)⑤自分の発話を最小限に抑える⑥自己教育力(客観的に自分の発話を聞き、振り返りの機会、内省、自分自身を振り返る、常に学ぼうとする)⑦学習目標を設定する力⑧学習目標に合ったシラバス・カリキュラムを作成し実践する力⑨教材を作成する力⑩学習目的や学習者に合った試験を作成する力⑪互いに学び合う力⑫学習者の発話を待つ力⑬学習者主体で授業を進める力⑭フィードバックする力

4. 調査2

4.1 調査の目的と対象者

韓国でOPIインタビューを受けた学生を対象に、OPIの印象、OPIインタビュー後の自身の会話能力や学習態度への認識の変化が見られたか、などについて調査する。アンケートの項目は次の通りである。①OPIが気に入ったか?満足感や達成感をどれほど感じたか②嫌なところはあったか?③難しいと思った部分はどんなところか?④OPIは役に立ったか?⑤フィードバックを受けたか?フィードバックの内容、気になったところなど⑥OPIを受けてから、日本語学習に変化があったか?(目標ができた、勉強方法の変化、学習態度の変化など)⑦OPIをまた受けたと思うか?⑧OPIを知っていたか?OPIc(英語も含めて)を受けたことがあるか?⑨OPIが、その後の目標設定や勉強方法に結びついているか

参考文献

ACTFL (2015) 『ACTFL-OPI テスター養成用マニュアル (2012 改訂版)』

Kawaguchi Keiko (2014) 「Incorporating self-assessment practices into a college Japanese language course: investigating the effectiveness on students' learning」

荻原稚佳子(2001)「日本の大学での活用法」 牧野成一・鎌田修・山内博之・齊藤眞理子・荻原

- 稚佳子・伊藤とく美・池崎美代子・中島和子『ACTFL-OPI 入門』第3章, アルク, pp.100-109
- 権藤早千葉・花田敦子・池田富見子・平川彩子(2013)「ACTFL-OPI は学習者の学びをどう支援しているか—日本語予備教育コースにおけるインタビュー調査から—」『CAJLE Annual Conference 2013 in Toronto』 pp.62-70
- 嶋田和子(2008)『目指せ、日本語教師力アップ!—OPI でいきいき授業』ひつじ書房
- 嶋田和子(2020)「教育現場に生かす OPI」鎌田修・嶋田和子・三浦謙一(編著) 牧野成一・奥野由紀子・李在鎬(著)『OPI による会話能力の評価—テスト、教育、研究に行かす』第1部, 凡人社, pp.88-151
- 嶋田和子・迫田久美子(編著)『～真の日本語能力を目指して～プロフィシエンシーを育てる』第1部, 凡人社, pp.18-39
- 牧野成一(1987)「ACTFL の外国語能力基準とアメリカにおける日本語教育」『日本語教育』61, 日本語教育学会, pp.49-62
- 牧野成一(2001)「OPI の理論と日本語教育」牧野成一・鎌田修・山内博之・齊藤眞理子・荻原稚佳子・伊藤とく美・池崎美代子・中島和子『ACTFL-OPI 入門』第1章, アルク, pp.8-51
- 牧野成一(2008)「OPI、米国スタンダード、CEFR とプロフィシエンシー」鎌田修・山内博之(2005)『OPI の考え方に基づいた日本語教授法—話す能力を高めるために—』ひつじ書房

韓国人学習者を対象にした外来語の使用実態と課題

- OPI を用いた質的考察 -

安田佳奈枝(ハンバット大学)

1. はじめに

近年、国際化や情報化により外来語が増加している。大塚(2023)は、『新選国語辞典』における外来語の収録語数を年代別に比較し、2011年に出版された第九版に比べ2022年に出版された第十版では1,669語もの語彙が増加したことを明らかにしている。こうした外来語の増加は日本語学習者の発話にも大きく影響している。発表者と韓国 OPI 研究会¹の2者が韓国在住の韓国人日本語学習者(以下、韓国人学習者)に対してインタビューを実施したところ、外来語の多用が目立った。時代とともに外来語が増えるのであれば、当然学習者の発話における外来語も増えるのが当然であるだろう。しかし発話の中には新語としての外来語ではなく「バスストップ」や「キュート」など一般語彙として定着していない外来語も使用しており、グローバル化だけでは説明できない要因があるように感じた。そこで本研究では、以下の2つを目的とする。

- (1) 学習者の外来語使用が過去に比べ増加しているのであれば、それは単なる国際化・情報化だけの要因であるのか使用実態を明らかにする。
- (2) 外来語の使用がコミュニケーションにどのような問題を引き起こしているのか考察を行う。

2. 先行研究

まず、韓国人学習者が日本語外来語をどれほど認知しているのか知る必要がある。

¹ 1996年 ACTFL(在外外国語教育協会)による「ACTFL-OPI 試験官資格取得ワークショップ」が初めて韓国で開催され、1999年から正式な研究会として活動を行っている。

上野山(2010)は日本語教科書で扱われている上位 60 語の外来語を学習者がどのくらい認知しているのかアンケート調査を行い、認知度と語彙の習得との関連性について分析を行っている。その結果、上位の語のほとんどは韓国語でも外来語として使用されているものであったが、下位の語は和製外来語や混種語などの韓国語の外来語にないものや韓国語とは発音が大きく異なるものが習得されにくいという結果を報告している。

次に韓国人学習者が外来語を使用する上でしばし問題となる発音についてみていく。민광준(2016)は、OPI のデータをもとに日本語能力と外来語の発音習得との相関関係について分析し、初期段階で身につけた癖は日本語能力が上がったあともなかなか直らないことを明らかにしている。また、最も多い発音の誤用は、長音の脱落、母音、子音、語頭無声子音、直音の拗音化の 5 種類が全体の 82.5%の占めていると指摘している。このように先行研究から外来語を使用する際に韓国語の影響を強く受けていることがわかる。

学習レベル別の外来語使用数に関しては、戸田(1999)が英語・中国語・韓国語を母語する 3 学習者群の音声資料を分析した結果、中級レベルが外来語を最も多く使っており、逆に上級や超級レベルは外来語を使用せず和語を使おうとする傾向にあることを明らかにしている。そこで、本研究では中級レベルを対象に分析を行う。

3. 調査方法

韓国在住の大学生を対象とした 10 年前にあたる 2013 年以前の音声データと 2023 年の音声データの比較し、外来語の使用数の増加傾向をみていく。本研究では、対象者を韓国在住の大学生に限定するため KY コーパスの使用は避け、ソウル ACTFL-OPI ワークショップへの参加経験がある日本語教師 15 名に協力依頼し得られた 2007 年から 2011 年の音声データ 6 本(IH²1 本、IM4 本、IL1 本)と 2023 年の 3 月から 5 月にかけて行ったインタビューの音声データ 15 本(IH7 本、IM3 本、IL5 本)の計 21 本を分析対象とした。得られた音声データは文字化し、外来語の抽出を行った。外来語を抽出するにあたり、正答の判断ができない映画、アニメ、ゲーム等のタ

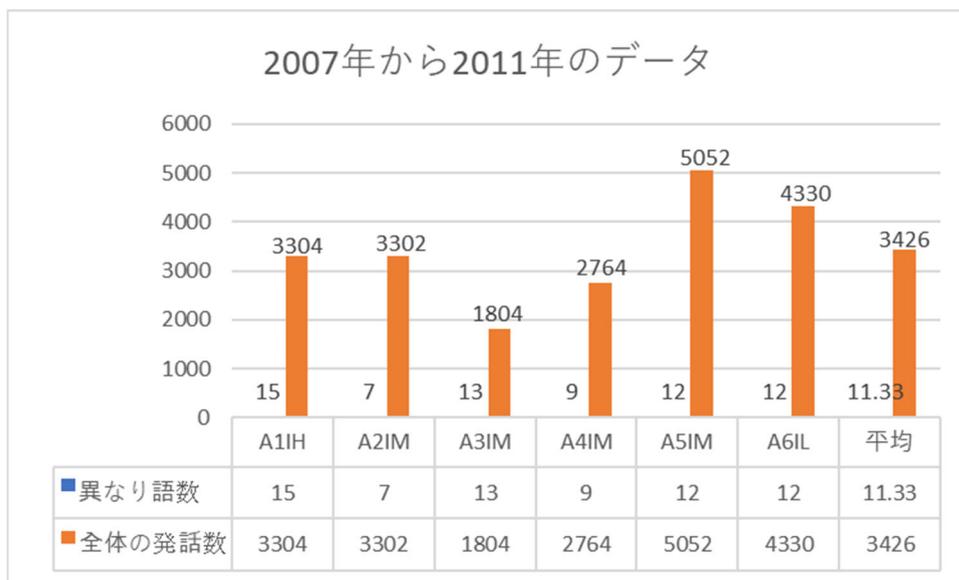
² レベルの I は中級レベルを意味し、2 つ目のローマ字はサブレベルを指す。下レベルが L、中レベルが M、上レベルが H となっている。

イトルに外来語が含まれているものとテストの質問の中に含まれている外来語を学習者が繰り返した場合は対象外とした。なお、2007年から2011年のデータをA群、2023年のデータをB群とする。

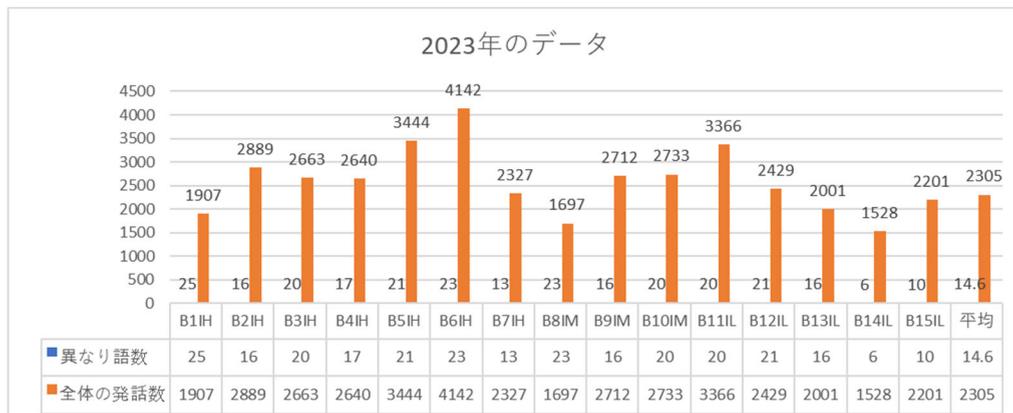
4. 結果

以下、30分間のインタビューの中で出現した外来語数である。外来語数だけは増加しているのか判断ができないため、全体の発話数も記載している。個人差があるものの全体の発話数と外来語の異なり語数を対比してみると、A群では発話量の平均が3426語であるのに対して外来語の異なり語数の平均は11.33語、次いでB群では発話量の平均が2305語であるのに対して外来語の異なり語数は平均14.6語と予想通り2023年のデータの方が外来語の出現数が多いことがわかった。

<表1 A群の学習者1人あたりの外来語使用数>



<表 2 B群の学習者 1人あたりの外来語の使用数>



5. 考察

5.1. 積極的使用

戸田(1999)が指摘しているように本研究においても語彙や表現に自信がない際に会話継続手段として外来語を使っていることがわかった。(太字と波線部分参照)

[例1] B10 (ゲームの説明)

I: いち、おー、自分が一つのチームの22人、21人をそうじゃくして…そう…コン
トウロールをしていちだいいちのいちでします。1人1人が1ティームを**コン**トウ
ロールします。

T: あ〜なるほど、なるほど。

[例1]では、一度「操縦」と言うとしたものの、正確な語彙が思い浮かばず最終的に「コントロール」という外来語に頼った例である。堀切(2010)はこのような外来語の使用を「積極的使用」とし「言葉が思いつかない時に外来語を作ることがある」などのような、英語を日本語として発音することで意味交渉を成立させようとするコミュニケーションストラテジーだと結論づけている。また、興味深いことにこのストラテジーをテスター側も使用している点である。

[例2] B13 (アルバイトの説明)

T: 上手に教えるためのコツ。秘訣。

I: 秘訣?

T: 上手に教えるための**TIP**?

【例2】ではテスターが「コツ」または「秘訣」について質問したものの学習者が理解できず、「TIP」という語彙を用いて理解を促している例である。このように学習者だけではなく、テスター側も外来語の積極的使用をしていることがわかった。従って和語や漢語の代替としての外来語使用は、コミュニケーションの阻害要因にはならず、むしろ会話を継続するために重要な働きを持っていると言えるだろう。

5. 2. 外来語のイメージ

梁(2009)は、日韓の大学生を対象に外来語のイメージに関するアンケート調査を行った結果、韓国に比べ日本の方が外来語に対して「かっこいい」といったプラスイメージを持っていることを明らかにしている。一方、韓国では「実用的」なものという認識が強く、両国間における外来語のイメージの違いについて考察している。しかし、本研究では「積極的使用」とは異なり意図を持って外来語を使用したであろうと思われる例がみられた。【例3】では学習者が好きなアイドルの話をしているときに一般語彙として定着している「かわいい」ではなく「キュート」という言葉を使用している。

【例3】 B3 (好きなアイドルについて)

I: はい。なんか、**キュート**の方。

T: ん?

I: キュ、かわいいって感じ。

しかし韓国語式の外来語音が強かったためテスターに理解されず、すぐに「かわいい」に言い直している。このことから、この学習者は「かわいい」という語彙を知らなかったため「積極的使用」をしたのではなく、あえて外来語の「キュート」を選んだものと考えられる。よって外来語に対して「かっこいい」や「知的である」のような何かしらの特別なイメージを持っていると推測される。

6. 外来語の使用が与える問題

6.1. 発音

コミュニケーションの大きな妨げとなっているのが外来語の発音である。本研究においても学習者の発音が聞き取れず、テスターが聞き返す場面が 2013 年以前のデータでは 1 回、2023 年のデータでは 3 回みられた。

[例4]B2 (アルバイト先の建物について)

T:あ、じゃお寿司屋さんだけの建物ですか？

I:あ、いいえ、**ビール**の。

T:ビールの？

I:**ビール**の、**ビル**の1階。

[例 4]では、建物を表す「ビル」と言いたかったものの長音が挿入し、酒の「ビール」に捉えられた例である。[例 4]の場合、テスターに聞き返されたことで誤用に気づき、正しい発音に直すことができたが、井下田・荒井(2011)でも指摘しているように前後の文脈との関連性がそれほど高くない場合、推測も困難となりコミュニケーションにおいて支障が起きる。また、このような場合に正しく言い直すことができないければ、言語的挫折と見なされ判定結果にも影響する恐れがある。

6.2. 日本語との意味の相違

韓国語独自の外来語により、2023 年のデータの中でテスターが理解できずに聞き返す場面が 5 回も見受けられた。その要因を以下のようにまとめる。

①意味の理解が難しい：日本語では外来語として定着していない床暖房を意味する「ボイラー(boiler)」や現金出納係いわゆるレジ係を意味する「キャッシャー(cashier)」など聞き手側の英語知識が豊富でなければ理解できない可能性が高い語彙を使用している例である。

②省略形の相違：キャリアケースを「キャリア」、シャープペンを「シャープ」のように日本語とは異なった省略形を使用しているため、理解されにくい例である。

③韓国製外来語：「PC バン」(英語の「PC」+韓国語の「방(部屋)」)、「ヘルス場」(英語の「Health」+韓国語の「장(場所)」)のよう原語と韓国語を混ぜた例である。

7. おわりに

本研究では、2013年以前のデータと2023年のデータを比較し、外来語の変遷についてみてきた。しかし音声データが21本と限られており、また外来語の使用は話題差や個人差によって大きく異なるため、結果を一般化することは難しい。

とはいえ、外来語の数が増加傾向にあるのは予想通りであり、外来語の使用方法に関しても①積極的使用②意図的な使用が確認された。従って、学習者が外来語を使用する要因として単なるグローバル化だけではないことが示唆される。また、外来語を使用する際に母語と日本語の発音や意味の相違を理解していなければ、コミュニケーションの障壁になることがわかった。そのため、聞き手が理解できなかった際に和語や漢語を用いて類義語で言い換えができる能力の育成が必要である。

今後は、日本語母語話者が学習者の発音を聞いて適切に語彙を認識できるのか、使い方として自然であるのかについて詳細な調査研究が必要である。

引用文献

- 井下田貴子・荒井隆行（2011）「韓国人日本語学習者の外来語発音における問題点と日本語母語話者の聴取及び語彙認識に関する一考察」『日本文化研究』37, pp.419-436
- 上野山愛弥（2010）「日本語学習者の外来語習得——地域別に見られる習得の傾向」『産業と経済』24・5, pp.1-9
- 大塚みさ（2023）「大学生に求められる外来語語彙のレベル別整理を目指して—スポーツ紙の芸能面を用いた一試み」『実践女子大学短期大学部紀要』44, pp.9-18
- 戸田貴子（1999）「日本語学習者による外来語使用の実態とアクセント習得に関する考察」—英語・中国語・韓国語話者の会話データに基づいて—『文藝言語研究』言語篇, pp.89-111
- 堀切友紀子（2010）「英語を母語とする日本語学習者の外来語使用の実態とその背景要因」『言語文化と日本語教育』39, pp.104-111
- 梁敏鎬（2009）「外来語のイメージに関する社会言語学的研究—日韓大学生のアンケート調査を中心に—」『日本言語文化』14, pp.123-142
- 민광준（2016）「한국인 학습자의 일본어 외래어 발음 습득 횡단분석 —ACTFL-OPI 방식의 회화음성을 대상으로—」『日本語教育』77, pp.65-86

多言語の在韓日本語学習者における OPI データの比較

コードスイッチングの観点から

小島堅嗣 (培材大学)

1. はじめに

発表者は韓国在住である様々な国籍の日本語学習者に対して OPI(インタビュー形式の日本語会話試験)を実施する機会を得た。そのインタビューにおける学習者の発話の中には、日本語を話している途中で韓国語や母国語の単語に切り替わって複数の言語が混在して発話されるコードスイッチング(以下、CS)が多く見られた。このような CS のために、聞き手に理解されずコミュニケーションに問題が生じる場合がある。本研究では実際に収録した OPI データから、CS の出現箇所分析とその背景にあるものについて分析し、コミュニケーションに問題が生じない CS 運用方法について探ることとする。

2. 先行研究と本研究との関係

ジョン・ガンパーズ(2004)ではコードスイッチング(CS)の定義を「二つの異なる文法システムあるいはサブシステムに属する会話の一節を、ことばの一連のやり取りの中で並置すること」とし、その特徴について「多くの場合、その交替は文の切れ目で生じ、例えば、自分の発言を繰り返したり、相手の発言に答えたりする時に話者は二つ目の言語を使い、一つの文を一つのコードで発したあと、次の文は別のコードで発せられるということ」と規定している。

田崎(2006)はコードスイッチングの代表的な分類について 1)付加的 CS(えっと、あの等のフィラー)、2)文間 CS(節、文の境に現れる)、3)文中 CS(同一節、同一文内に現れる) の3つを挙げている。

本研究では、ジョン・ガンパーズ(2004)の定義からさらに拡大して「三つ(日本語、韓国語、母国語)の異なる文法システム」を扱うこととする。さらに田崎(2006)の3つの分類を基本とするが、特に1)のフィラーとしてのCSと、2)と3)に現れたフィ

ラー以外の語彙や表現の2つに大別して分析することとする。

3. 調査概要

3.1 調査協力者の概要

本研究では韓国在住の韓国語母語話者と日本語学習者のCSの特徴を比較するためにそれぞれ3名ずつのOPIデータを収集し、録音されたOPIデータを文字化したのち、その中からCSに関連した項目として(1)日本語のフィラー(「あー」「えーと」等)の部分、(2)韓国語のフィラー(「그」「저」)のCS部分、(3)韓国語の語彙のCS(単語単位や文単位でのCS)部分、(4)韓国語と日本語の語彙が混在したCS部分、(5)中国語のフィラー部分の5つを抽出し分析した。調査協力者の概要を〈表1〉に示す(アルファベット記号はK:韓国人日本語学習者、T:台湾人日本語学習者、C:中国人日本語学習者、S:OPIの超級、AL:上級-下、IH:中級-上を表す)。

〈表1〉 調査協力者の概要

記号	KS	KAL	KIH	TAL	TIH	CAL
国籍	韓国	韓国	韓国	台湾	台湾	中国
韓国滞在期間/ 所属	*/専業主婦	*/大学生	*/大学生	10年/専業主婦	12年/専業主婦	2年/専業主婦
韓国語使用環境	韓国語母語話者	韓国語母語話者	韓国語母語話者	韓国人の夫	韓国人の夫	韓国人の夫(ただし中国語で話す)
日本滞在期間	4年(会社員)	1年(留学)	なし	7年(大学、大学院)	5年(大学)	10年(会社員)
OPI レベル	超級	上級-下	中級-上	上級-下	中級-上	上級-下
日本語フィラー及び韓国語/中国語のCS	あー(8) んー(8) まー(4) えーと(1)	あー(27) あー(12) なんか(5) えー(3) えー、えーと(各2)	타워(2) 스카이트리 해리퍼터 부산에어 공익 맥주 (各1)	난망(2)	그(5),네(4),명(2),십팔(2),먼저,대만,신기해,조금,신고,모양하나(各1) neige(2)	일본어,네? (1) あー(94) えーと(23) えー(12) んー(6) そのー(5)

(1)から(5)の実例を、以下3.2から3.5で1つずつ挙げる。

3.2 日本語フィラーのみ(CS なし)の例(CAL)

43T :日系企業のとのお仕事はどういう内容だったんですか？

44CAL: あの日系企業はあの3つの会社に働いたことがありますけど、まずえーとまずアンテナ、という会社であの総務の仕事をあの5年間ぐらい働きました。→日本語フィラー

3.3 韓国語フィラーの CS の例(TIH)

77T :じゃあ例えば瓶とか缶とかも普通に燃えるゴミとして捨てるんですか？

78TIH:あ、いいえ、ㄱ缶とか瓶とかまとめて捨てます。ㄱ燃えるゴミも燃えないゴミもほんとに区別してない。→韓国語フィラー

3.4 韓国語語彙の CS の例(KIH)

25KIH:あ、小説ね(はいはい)あーわかりました。それからKIHさんのそのきょうだいがいるか聞いてもいいですか？

26I:あ、あにさん한명(한 명)あります。→韓国語語彙

3.5 日本語+韓国語語彙、中国語のフィラーの CS の例(TIH)

49T :あー、そうですか。じゃ日本人の友達は、大学に入ったあと、できましたか？

50TIH :はい、んー난미ョンできました。→日本語+韓国語

51T :なんミョン(네) →韓国語

52TIH :友達といえば友達

53T :あナンピョン

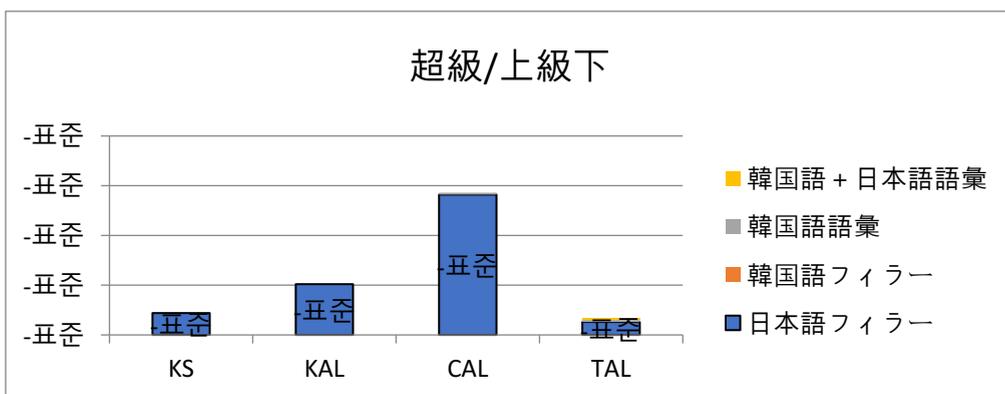
54TIH :あ、中国語 네이가neige、さんミョンくらい(はい)よく会って、話して、友達

たくさんではない →中国語、日本語+韓国語

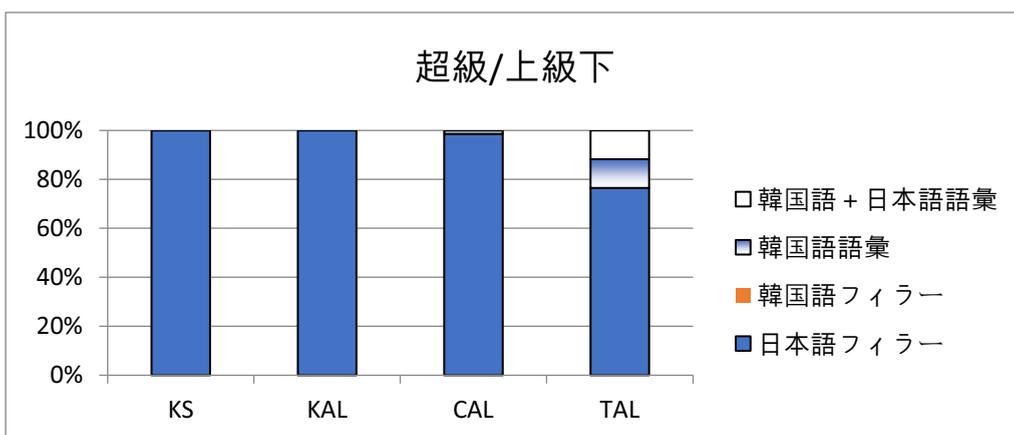
4. 調査結果と考察

4.1 超級/上級下の CS の特徴

まず OPI レベルの超級及び上級-下の 4 名の CS の特徴についての一覧を、実数ベース〈図 1〉と割合ベース〈図 2〉に示す。



〈図 1〉 超級/上級-下の種類別 CS の出現数



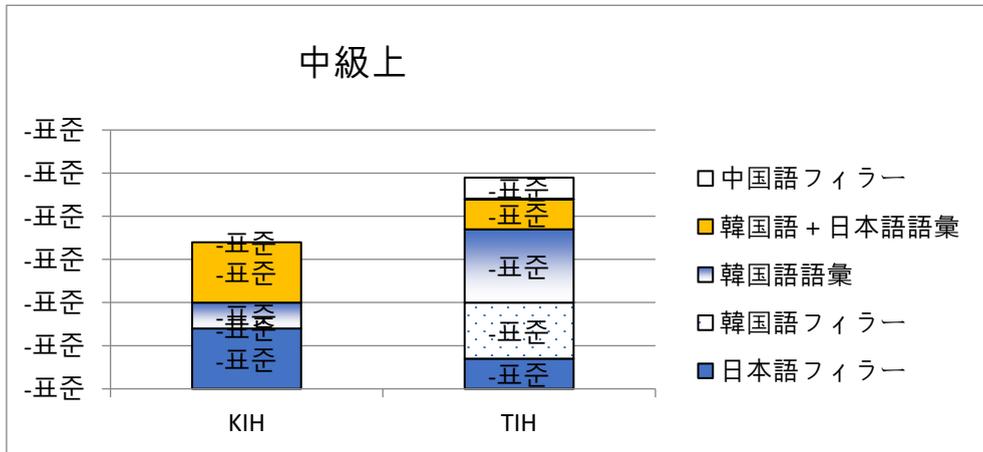
〈図 2〉 超級/上級-下の種類別 CS の割合

超級である KS(韓国人学習者)と上級-下の KAL(韓国人学習者)、CAL(中国人学習者)、TAL(台湾人学習者)のデータを並べて見てみると KS、KAL、CAL の 3 名は 100%日本語フィラーで占められていることがわかる(つまり CS 部分は 0 であった)。また TAL は約 80%が日本語フィラー、韓国語語彙による CS が約 10%、韓国語と日本語語彙がミックスした CS が約 10%であった。

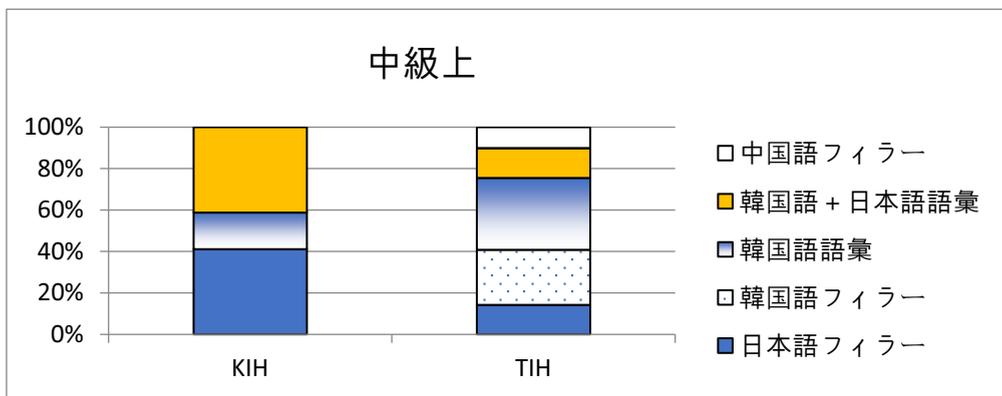
4 名のうち 3 名(KS、CAL、TAL)は日本企業で働き、日常的にビジネス日本語を使用する経験がある方であった。そして日本での留学経験のある KAL を含めた 4 名全員が OPI を受ける際に「日本語以外の語彙を使わないように注意していた」という意見を述べていた。

4.2 中級の CS の特徴

次に OPI レベル中級-上の 2 名の CS の特徴についての一覧を、実数ベース〈図 3〉と割合ベース〈図 4〉に示す。



〈図 3〉 中級-上の種類別 CS の出現数



〈図 4〉 中級-上の種類別 CS の割合

KIH(韓国人学習者/大学生)のデータを見てみると日本語フィラーと韓国語と日本語がミックスした CS がそれぞれ約 40%を占め、残りの約 20%を韓国語語彙の CS で占めている。一方 TIH(台湾人学習者)では韓国語語彙の CS が約 40%が韓国語フィラーが約 20%、日本語フィラー、韓国語と日本語語彙のミックスした CS、中国語

のフィラーがそれぞれ約 10%を占めるという構成になっていることが確認できた。KIH と TIH では日本企業での就業経験はない点、また OPI の中で日本語以外の語彙を使用することについて特に注意を払っている形跡は見られなかった部分も共通していた。

超級/上級・下と中級・上の分析の比較から確認できた特徴は次の 3 点である。

- 1)日本語学習者が日本語で発話するとき、質問の難易度が高いため、すべての発話を日本語で行うのが困難な場合に CS が起こる。
- 2)超級/上級学習者では CS はほとんど現れなかった。これは彼らにとって質問の難易度が日本語だけで十分に対応できることを示していると言える。また彼らの発話には日本語のフィラーが多く出現する傾向があった。
- 3)中級学習者では、韓国語、韓国語と日本語のミックス、中国語(母語)でのフィラーといった様々な形式で CS が現れていた。この現象は、話者の日本語能力の不足と CS についての認識不足の両方に原因があると考えられる。

現在の中級から上級を目指す日本語学習者、特に今後ビジネスで日本語を使用していく学習者にとって、CS の意義や使い方について認識し日本語会話学習に活かしていくことがとても重要であることが示唆された。

5. おわりに

本発表では韓国在住の多言語環境の日本語学習者におけるコードスイッチング (CS)の現れ方について分析した。今回の調査と分析結果から、わずかではあるが多言語環境における中級レベルの日本語学習者が上級レベルを目指すための指針を示すことができたと考えている。今後は CS の使用方法について、多言語環境での日本語学習者も含めた幅広い日本語学習者に対して具体的な訓練方法を考え、授業等で実践していくことを今後の課題としたい。

引用文献

- エルヴィラ・スウェンダー、ロバート・ヴィカース編(2012)『オーラル・プロフィシエンシー・インタビュー試験官養成マニュアル』(2012年版、日本語版),ACTFL
- ジョン・ガンパーズ著,井上逸平・出原健一・花崎美紀・荒木瑞夫・多々良直弘(2004)『認知と相互行為の社会言語学-ディスコース・ストラテジー-』松柏社

田崎敦子 (2006) 「コードスイッチング研究の概観・多言語社会のコミュニケーション分析に向けて」『言語文化と日本語教育』2006年11月増刊特集号

アンケート調査の結果からみた聞き手の理解度に影響を与

える日本語学習者の音声的特徴

—ACTFL-OPI の上級レベルと中級レベルを中心に—

後藤 歩(檀国大)

1. はじめに

ACTFL-OPI(Oral Proficiency Interview)は、ACTFL(米国外語教育協会：The American Council on the Teaching of Foreign Languages)によって開発された外国語の口頭能力を測るための会話試験である。この試験の評価基準は、「機能・総合タスク」「場面と内容」「正確さ・理解の難易度」「テキストタイプ」の4項目で設定されており、これらを総合的に判断し、レベルが判定されている。

テストマニュアル(2012)¹では、この中の「正確さ・理解の難易度」の「正確さ」には語彙、文法、発音、流暢さ、語用論的能力、社会言語学的能力の6つの要素が含まれており、各レベルにおける正確さの要件は、どの程度理解されるか、受け入れられるかであるとされている。また、中級レベルでは「非母語話者に慣れた話し相手に、時に繰り返したりすることはあるが、理解してもらえる」、上級レベルでは「非母語話者に不慣れた話し相手でも問題なく理解してもらえる」としている(テストマニュアル, 2012)。

本調査では、「正確さ」の6つの要素のうち「発音」に焦点を当て、日本語学習者の音声的特徴が聞き手の理解度にどのように影響を与えるのか検討していくこととする。

¹ エルヴィラ・スウェンダー、ロバート・ヴィガース編(2012)『ACTFL オーラル・プロフィシエンシー・インタビュー試験官養成マニュアル(2012年度版、日本語版)』ACTFL

2. 先行研究

日本語母語話者が韓国人日本語学習者の音声を聞いて評価し、それらを分析した研究は多く見られる。李惠蓮(2004)は、ソウル方言話者の日本語発音の不自然な音声的要因として“end focus”を最も直す必要があると評価されるとし、これは聞き手に対して感情的に不快な印象を与えるという意見が多かったことに言及している。高村(2009)では、聞きやすいとされるスピーチについて分析し、ポーズと発話速度について言及している。また、高村(2011)では、音声面でマイナス評価されたスピーチについてのポーズの特徴やマイナス評価を受けたポーズを母語話者の時間長に加工したデータは評価が上がるかを調査している。その結果、文末、接続助詞、トピックマーカの「は」、および連体修飾語の後のポーズを調整した場合、より高い評価を得られたことが報告されている。このほかにも、海野(2012)は、日本語と異なる韻律パターンが現れると日本語母語話者に不自然だと評価される可能性があることを示している。さらに、金瑜眞(2018)は、韓国人学習者の日本語句末イントネーションについて、日本語母語話者は、「自然下降調」と「昇降調」を自然だと評価し、「ゆすり調」と「上昇調」を不自然だと評価したとしている。また、発話場面を考慮しながら評価できることにも言及している。

ACTFL-OPI のインタビューデータを使用し、韓国人学習者の音声習得の過程を調査した研究としては、민광준(2015a,2015b,2016a,2016b)が挙げられる。日本語学習者会話データベース²を使用し、韓国人学習者の音声的特徴をレベル別に示している。

以上のように様々な研究がなされている。しかし、上級レベルの学習者と中級レベルの学習者の発話においてどのような要素が聞き手の理解を妨げているのか、つまり、非母語話者に慣れている聞き手と不慣れな聞き手では学習者の発話の理解度に明確な違いがあるのかについては明らかになっていない。また、学習者の音声に問題があった場合、どのような音声的特徴が影響を与えているのかについても探っていきたい。

² これは、国立国語研究所によって開発され、2010年から公開されている。
<https://mmsrv.ninjal.ac.jp/kaiwa/index.html> (2023年8月18日取得)

3. 調査の概要

3.1 OPI データの収集方法と被験者の概要

本調査では、ACTFL-OPI のテスター資格を所有している筆者が韓国語を母語とする日本語学習者に OPI を実施し、26 名分の OPI データを収集した。この OPI は、2023 年 5 月に Web 会議システムの Zoom を使用して実施したもので、被験者の許可を得て録画及び録音した。今回は、収集した OPI データのうち、上級 - 下 3 名(男性 1 名、女性 2 名)と中級 - 上 3 名(女性 3 名)の合計 6 名分のデータを使用した。この 6 名の被験者は、韓国国内の大学に通う大学生である。

3.2 アンケート調査の概要

3.2.1 アンケート調査票

アンケートの調査票は、Google 社の Google フォームを使用し作成した。この調査票は、アンケート回答者の基本的情報を収集するセクションと音声ファイルを聞いて設問に答えるセクションの大きく 2 つに分けられている。

基本情報を収集するセクションは、回答者の氏名、メールアドレス、年齢、出身地、日本語教授歴、韓国語学習歴、ACTFL-OPI のテスター資格所持の有無の 7 つを記入する形式である。

音声ファイルを聞いて設問に答えるセクションでは、36 個の音声ファイルを聞き、音声ごとに設問に答える形式になっている。ここで使用した音声ファイルは、収集した OPI データのうち、テスターの質問とそれに対する被験者の発話を抽出したものである。被験者の発話は、描写³とナレーション⁴を行っている部分に限定し、被験者が答えられなかった発話や、答えてはいるものの途中で挫折してしまった発話に関しては除外している。このセクションの設問は、「設問 1：質問に対しての回答は理解しやすかったかどうか」「設問 2：理解しにくいと思った原因は何か」「設問 3：設問 2 で発音を選んだ場合、理解しにくかった部分はどこか」の 3 つである。設問 1 は、4 段階評価で答えられるようにした。設問 2 は、「なし」「文法」「語彙」「発音」

³ テスターマニュアル(2012)によると、描写とは「人、場所、物、出来事、過程などを言語で表すことである。対象とするものを十分に詳細に特定するために、多くの前位修飾節、従属節等の修飾語句を使う能力が必要とされる。」としている。

⁴ テスターマニュアル(2012)では、ナレーションとは「一連の出来事や行動を論理的、時間に沿って整理し、内容を段落の長さの結束性のある発話で述べる能力。」とされている。

「流暢さ」「語用論的能力」「社会言語的能力」「その他(自由記述)」の8項目で複数回答可とした。設問3は、自由記述の形式で、具体的に記入してもらえるように依頼した。

3.2.2 アンケート回答者

日本語教授歴のある日本語母語話者5名(30代1名、40代3名、50代1名の合計5名、以下、A群)と日本語教授歴のない日本語母語話者2名(20代2名の合計2名、以下、B群)に上述のアンケート調査を行った。A群に属する日本語母語話者は6年から22年の日本語教授歴があり、いずれも韓国での教授歴がある。また、B群に属する日本語母語話者は、日本の大学または大学院に所属している。

4. 調査結果

4.1 学習者のレベル別に見る発話の理解のしやすさ

設問1の集計結果は、図1のとおりである。全体の結果を見ると、中級のほうがやや数値は低いものの、被験者の発話については理解しやすいと評価していることが分かった。A群は、中級のほうが数値が少し低く、B群は特に差異がないという結果になった。高い数値が得られた理由としては、前節でも述べたように被験者が答えられなかった発話については除外していることが関係しているのではないかと思われる。

韓國日本語學會
第48回 國際學術發表大會

學術シンポジウム
(學術심포지엄)

一般發表

生態心理学からみる属性叙述文の主観性

中国海洋大学 姜柳

1. はじめに

益岡（1987:20-21）は現実世界を対象としてあるひとまとまりの事柄を概念化することを叙述とし、そのあり方は性格を異にする 2 つの基本的な類型を認めることができると指摘した。その叙述類型の一つは現実世界に属する具体的・抽象的実在物を対象として取り上げ、それが有する何らかの属性を述べるというものである。もう一つは現実世界の或る時空間に実現・存在する事象（出来事や静的事態）を叙述するものである。

(1) a. 日本は島国だ。（属性叙述文）

b. 子供がにっこり笑った。（事象叙述文）

益岡（2008：4）

「属性叙述」という概念が持ち出されて以来、学界では大きな注目を集め、それに関する一連の意味的・統語的な研究が行われた（cf. 澤田（2003c） 影山（2006、2009、2012） 坪井（2012） 鈴木（2017） など）。しかし、属性叙述文の主観性について言及した研究は管見の限りまだないのである。本稿は属性叙述文の成立メカニズムに基づき、その主観性を揭示する。

2. 理論背景：生態心理学

生態心理学(Ecological-Psychological)は最初に Gibson(1979)によって提出され、その最も基本的な考え方としてはまず「知覚の能動性」「知覚と行為(perception and action)の循環」がある(Gibson 1979, 1986, 佐々木 1994, 三嶋 2000, 本多 2002, 2005)。以下本多(2005)の論述を借りながら、生態心理学の基本的な考え方を説明しておきたい。結城(1952)で物の形状の知覚における知覚者の能動的な運動の役割を明らかにした。知られている通り、物体の長さや形は触覚によって知覚すること

ができる。しかし、その際、知覚者は自力で手を動かし、手と対象の接触の仕方を自分でコントロールできる状態にしなければならない。他者が物体を動かし、それに静止した手を接触させた状態では、形状の知覚は成立しない。このようなことから、結城（1952）は知覚を成立させるのは感覚刺激の受容ではなく、対象に対する知覚者の側の能動的な行為であるという認識を提示している。このような知覚を成立させる知覚者の能動的な活動を「探索活動」と呼ぶ。知覚の成立には探索活動が必要であり、その意味で知覚と行為を切り離すことはできない。言語学者の中にも知覚における探索活動の役割に注目している研究者もある。例えば、Langacker(1995:52)はほとんどの形容詞の意味構造に、その形容詞の表す属性の持ち主となる事物が関わる行為ないし過程が存在していると指摘している。「hard surface」の「hard」の背後に対象に力を及ぼす人間の動作主が存在するとしている。また、坂本（2002）ではこのような形容詞の背後にある探索活動は、形容詞によっては次のような形で明示することができる。

(2) a. Its fur is soft to touch.

b. This music is beautiful to listen to.

坂本（2002: 166）

また、生態心理学では知覚と行為がアフォーダンスの意味でも関連づけられている。ある事物のアフォーダンスとは、その事物がある環境の中でそれぞれの知覚者に提供する行為の可能性である。環境の中で活動している動物は、その探索活動を通じて、環境の中のアフォーダンスを知覚している。

3. 属性叙述文の主観性

下記のような属性叙述文における述部、例えば、「喉が渇く」「肩が凝る」などは特定の人に限る話ではなく、不特定、つまり一般性がある動詞句である。

(3) a. このせんべいは喉が渇く。（堀川2012：165）

b. この仕事は肩が凝る。（堀川2012：166）

c. 化学肥料は土地がやせる。（堀川2012：166）

d. 階段は足腰が丈夫になる。（作例）

- e.キムチはビールが進む。(堀川2012: 166)
- f.このメロディーは故郷を思い出す。(堀川2012: 165)
- g.初めてのデートは心がワクワクする。(作例)
- h.朝の渋滞はイライラする。(小竹・酒井2011: 21)
- i.この喫茶店は落ち着く。(三原2000: 58)

これらの文はやや奇妙な表現であると言わざるを得ない。例えば例(3a)において、「喉が渴く」のは人間であり、主題の「このせんべい」ではない。また、文末に動詞のル形が使われ、将来のこともなく、今・この状態を表しているわけでもない。前件と後件に断裂があるように感じられる。姜柳(2022)ではこういう文は知覚者がアフォーダンスを知覚するために行う探索活動の産物であると主張した。要するに、知覚者はものがアフォードする行為を通じて、そのアフォーダンスを知覚するために探索活動を行う。その探索活動の体験或いは結果をものの属性として付与するというプロセスである。「キムチはビールが進む」を例にして説明してみよう。「キムチ」は人間にとってそのアフォードする行為は「食べる」ことである。「食べる」という行為を通じて、「キムチ」のアフォーダンス例えば「おいしい食べ物であるかどうか」を知覚できる。「食べる」という行為を通じて、探索活動を行なっているうちに、「ビールが進む」という体験或いは結果を知覚できる。それをそのまま述べ、ものの属性として付与する。

プロセス1、潜在的知覚者が物のアフォーダンスを認識するために、探索活動を行う。

この点を証明するにはこれらの文に探索活動を表す動詞を補い、条件節を入れられるという積極的な根拠がある。

- (4) a.このせんべいは食べると、喉が渴く。
- b.この仕事は長く続けると、肩が凝る。
- c.化学肥料は使いすぎると、土地がやせる。
- d.階段は上り下りすると、足腰が丈夫になる。
- e.キムチは食べると、ビールが進む。
- f.このメロディーは聞いていると、故郷を思い出す。

- g. 初めてのデートは行こうとすると、心がワクワクする。
- h. 朝の渋滞は遭うと、イライラする。
- i. この喫茶店は行ってみると、落ち着く。

堀川（2012：163）では、「前件は名詞であるが、主題は実はモノではなく、一種のことがらである」と言及しているが、その原因はまさにこの探索活動のためであると考えられる。

プロセス 2、潜在的知覚者が探索活動を通じて、体験したこと、探索活動の結果、およびそれによって起こした感情などの知覚内容を述べる。

堀川（2012）や小竹・酒井（2011）は「対象の属性を読み込むのは話者であって、行為者ではない」ことや「経験者が関与しない」ことを強調してきた。しかし、本当にそうであろうか。これらの文は経験者を補い、夕形で終わる一回的或いは多数的な事象叙述文になれることから、経験者が潜在的に存在していることがわかるだろう。

- (5) a. (私は) このせんべいを食べたら、喉が乾いた。
- b. (私は) この仕事を長く続けたら、肩が凝った。
- c. (私は) 化学肥料を使いすぎたら、土地がやせてしまった。
- d. (私は) 階段を上り下りしたら、足腰が丈夫になった。
- e. (私は) キムチを食べたら、ビールが進んだ。
- f. (私は) このメロディーを聴いたら、故郷を思い出した。
- g. (私は) 初めてのデートに行こうとしたら、心がワクワクした。
- h. (私は) 朝の渋滞に遭ったら、イライラした。
- i. (私は) この喫茶店に行ってみたら、落ち着いた。

もののアフォーダンスを知覚するための探索活動を通じて知覚した内容を報告するわけであるため、前件が後件の原因になっている。これは重要な意味的制約条件であり、プロセス 1 のところで文に「～と」条件節を入れられることから窺えるだろう。また、下記の通り、「～ことで～た」と共起できるように明らかに因果関係を明示することもできる。

- (6) a. このせんべいを食べることで、喉が乾いた。

- b.この仕事を長く続けることで、肩が凝った。
- c.化学肥料を使いすぎること、土地がやせてしまった。
- d.階段を上り下りすることで、足腰が丈夫になった。
- e.キムチを食べることで、ビールが進んだ。
- f.このメロディーを聴くことで、故郷を思い出した。
- g.初めてのデートに行くことで、心がワクワクした。
- h.朝の渋滞に遭うことで、イライラした。
- i.この喫茶店に行くことで、落ち着いた。

前件をすることで後件の結果をもたらしたという因果関係が求められるため、例えば例(7)のような前件と後件に因果関係がない文は属性叙述文として成り立たない。探索活動を行い、その時に体験したすべてのことを述べるわけではない。

- (7) (私は) このせんべいを食べたら、雨が降った。(作例)
- * (私は) このせんべいを食べたことで、雨が降った。
- * このせんべいは雨が降る。

これらの文を中国語および英語と比べてみると、例外なく“使”“令”“促进”“导致”“make”などのいわゆる使役的な表現を使わないと意味が通じない。この事実からも文の前件と後件の間の因果関係が窺えるだろう。

- (8) a.このせんべいは喉が渇く。(这个脆饼点心使人口渴/ This pancake makes people thirsty.)
- b. この仕事は肩が凝る。(这份工作导致肩膀酸痛/ This job makes shoulders sore.)
- c.化学肥料は土地がやせる。(化学肥料使土地贫瘠/ Chemical fertilizer makes soil infertile.)
- d.階段は足腰が丈夫になる。(爬楼梯使人腿脚健壮/Stairs makes people strong.)
- e.キムチはビールが進む。(辣白菜下酒/Korean Cabbage makes people drink more beer.)
- f.このメロディーは故郷を思い出す。(这首歌令人怀念家乡/ This melody makes

people homesick.)

g.初めてのデートは心がワクワクする。(第一次约会令人心动/First date makes people cheerful.)

h.朝の渋滞はイライラする。(早上堵车令人焦虑/ The morning traffic jam makes people upset.)

i.この喫茶店は落ち着く。(这个咖啡厅令人内心平静/ This coffeehouse makes people peaceful.)

プロセス 3、潜在的知覚者が知覚内容を物の属性として主題に照射する。統語表現としては探索活動を表す動詞を省き、物を主題化し、または動詞のル形を使う。

経験者の発話として主題の属性について共感を呼ぶ文型である「～って、～ね」に入れられるかどうかで潜在的知覚者の属性付与の過程が見られる。岩男(2008a:62)で属性を述べる表現で主題の解説を行おうとする場合、「って」提題文にも「は」提題文にも文法性において問題はない。ところが、事象を述べる表現で主題の解説を行おうとする場合、「って」提題文だけではその許容度が低くなる。ただ、「のだ」文を用いて「主題—解説」構造を持たせると、その許容度が高くなると指摘している。したがって、「って」が用いられ、「のだ」文が使われていないことは属性叙述文として発話していることが分かる。属性付与の過程は例(9)に示されている。下の例における下線部は既に対象に属性を付与した後の属性叙述文である。

(9) a. (私は) このせんべいを食べたら、喉が乾いた。このせんべいって、喉が乾くね。

b. (私は) この仕事を長く続けたら、肩が凝った。この仕事って、肩が凝るね。

c. (私は) 化学肥料を使いすぎたら、土地がやせてしまった。化学肥料って、土地が痩せるね。

d. (私は) 階段を上り下りしたら、足腰が丈夫になった。階段って、足腰が丈夫になるね。

e. (私は) キムチを食べたら、ビールが進んだ。キムチって、ビールが進むね。

f. (私は) このメロディーを聴いたら、故郷を思い出した。このメロディーって、故郷を思い出すね。

g. (私は) 初めてのデートに行こうとしたら、心がワクワクした。初めてのデ

ートって、心がワクワクするね。

- h. (私は) 朝の渋滞に遭ったら、イライラした。朝の渋滞って、イライラするね。
- i. (私は) この喫茶店に行ってみたら、落ち着いた。この喫茶店って、落ち着くね。

また、これらの文は探索活動から得た体験或いは結果であるため、異なる知覚者であれば、その体験、結果も違うことと考えられ、属性の内容も変わる。下記の例が示している通り、同じ「このメロディー」について探索活動を行い、知覚者それぞれが異なる体験をし、異なる結果を述べることにつれて、「このメロディー」の属性内容も違ってくる。

- (10) a. (私は) このメロディーを聴いたら、ハイテンションになった。このメロディーって、ハイテンションになるね。
- b. (私は) このメロディーを聴いたら、眠くなった。このメロディーって、眠くなるね。
- c. (私は) このメロディーを聴いたら、踊りたくなった。このメロディーって踊りたくなるね。

ただ、補充しなければならないのはこのプロセス 3 には一般性を獲得するプロセスがある。生態心理学では、環境の中を動き回り、探索する知覚者の位置を「観察点」と呼ぶ。一つの観察点はある特定の知覚者に一意的に対応しているわけではなく、任意の知覚者がその位置を占めることができる。そこで、ある観察点において生じる知覚経験は任意の知覚者に対して開かれていることになる。これを「観察点の公共性」と呼ぶ。知覚者は、自身の状態に関して他の知覚者と有意な差がないと信じることができる場合、別の知覚者の知覚経験を経験することができる。また自身の知覚経験は他者との共有が可能な公共的なものと信じることができるようになる。その結果、その知覚内容は知覚者とは独立に存在する知覚対象の内在的な属性と信じることができるようになる(本多 2002: 17)。上で述べた属性叙述文は観察点の公共性によって、つまるところ、知覚者の複数性から一般性をもらい、また、複数回の同じ探索活動から同じ知覚内容を得ることから「A をすると、必ず B という結果になる」とい

う恒常性をもらったことで、動詞が述語のところに立ちながらテンス・アスペクト的な意味を担わずにすむのであろう。知覚内容を主題の属性として付与した後、その文の知覚者を明示することができない。知覚者を明示すると、一般的な属性の解釈が読み取れにくくなるだけではなく、文も不自然になってしまう。

- (11) a.* (私は/花子にとって) このせんべいは喉が渴く。
b.* (私は/花子にとって) この仕事は肩が凝る。
c.* (私は/花子にとって) 化学肥料は土地がやせる。
d.* (私は/花子にとって) 階段は足腰が丈夫になる。
e.* (私は/花子にとって) キムチはビールが進む。
f.* (私は/花子にとって) このメロディーは故郷を思い出す。
g.* (私は/花子にとって) 初めてのデートは心がワクワクする。
h.* (私は/花子にとって) 朝の渋滞はイライラする。
i.* (私は/花子にとって) この喫茶店は落ち着く。

上で述べたプロセスから、この類の属性叙述文は探索活動に基づくものであり、主観性のある文であることが窺える。

4. 属性叙述文の階層構造

全ての属性叙述文には主観性がある。主観性の強弱によって階層構造をなしている。

「地球は丸い」のような文は一見して客観的であるが、「地球は四角い」「地球は丸い」「地球は不規則な球体だ」というように知覚者の認識に基づいている。観察点の公共性によって、百科知識のような属性文になったと推測できる。「春はいい季節だ」というのも、経験者にとっての良さである。「太郎は優しい」という文も「太郎」と接したことがない人はこの文を発言できない。「太郎は優しいそうだ」と伝聞の表現を使うか、「太郎は優しそうだ」と様態の表現などを使わなければならない。「太郎は優しい性格だ。」になると尚更太郎と接触する経験が求められる。「-太郎は優しいね。-そうね。この前~してくれた。」というように探索活動に基づいている。

「こんにゃくは太らない」「キムチはビールが進む」「子供は癒されます」などのような文は話題名詞の属性を述べているが、知覚者の探索活動に基づいている。属性叙

述文において一番主観性が強い一類である。

5. おわりに

属性叙述文は多種多様あるが、生態心理学からみると、いずれも探索活動に基づくものであり、主観性がある文である。属性叙述文はその主観性の強弱によって「地球は丸い」のようなものから、「キムチはビールが進む」のようなものまで、階層構造をなしている。その探索活動に基づきの性質は話し手の制限に見られる。「地球は丸い」「春はいい季節だ」のような属性叙述文は誰でも言えるものであるが、「キムチを食べ、ビールが進む」ということを経験しなかった人は「そうだ」などのような伝聞表現を付け加えない限り、一般的には「キムチはビールが進む」という文を発言できない。

参考文献

- 影山太郎 (2006) 「外項複合語と叙述のタイプ」. 益岡隆志ほか編『日本語文法研究の新地平 1: 形態・叙述内容編』. 東京: くろしお出版: 1-21.
- 影山太郎 (2008) 「属性叙述と語形成」. 益岡隆志 (編) 『叙述類型論』. くろしお出版: 21-43.
- 影山太郎 (2009) 「言語の構造制約と叙述機能」. 『言語研究』 136: 1-34.
- 影山太郎 (2012) 「属性叙述の文法的意義」. 影山太郎 (編) 『属性叙述の世界』. 東京: くろしお出版: 3-35.
- 影山太郎・沈力 (2012) 「付加詞主語構文の属性叙述機能」. 影山太郎・沈力 (編) 『日中理論言語学の新展望 2 意味と構文』. 東京: くろしお出版: 27-66.
- 小竹直子・酒井弘 (2011) 「心理動詞による属性文の意味的成立条件」. 『日本語文法』 11-1: 20-36.
- 坂本真樹 (2002) 「生態学的知覚論、心の理論、属性描写文の認知意味論」. 山梨正明編. 認知言語学論考 No.2. 東京: ひつじ書房.
- 澤田浩子 (2003) a 「所有物の属性認識」. 『言語』 32 号 11 巻. 大修館書店: 54-60.
- 澤田浩子 (2003) b 「属性叙述における名詞述語文」. 『日本語教育』 116. 東京: 日本語教育学会 (編): 39-48.
- 澤田浩子 (2003) c 『認知カテゴリーと属性叙述に関する日中対照研究—「属性の階層構造」

- に基づく構文類型』.神戸大学博士論文.
- 澤田浩子 (2012)「味覚・嗅覚・聴覚に関する事象と属性」. 影山太郎 (編)『属性叙述の世界』. 東京:くろしお出版:203-219.
- 鈴木彩香 (2012)「日本語オノマトペ述語の形式について—スル、シテイル、ダの選択基準を中心に—」.『日本語文法』 12-2: 162-178.
- 鈴木彩香 (2017)『属性叙述文の統語的・意味的分析』. 筑波大学博士論文.
- 佐々木正人 (1994)『アフォーダンス:新しい認知の理論』. 東京:岩波書店.
- 堀川智也 (2012)「モノとコトの関係認定による属性叙述文」.『日本語の「主題」』. 東京:ひつじ書房.
- 本多哲 (1997)「英語の主体移動表現、中間構文、知覚動詞について—生態心理学の観点から」.『駿河台大学論叢』 15: 95-116.
- 本多啓 (2002)「英語中間構文とその周辺—生態心理学の観点から—」. 西村義樹 (編)『認知言語学 I: 事象構造』. 東京:東京大学出版会.
- 本多啓 (2005)『アフォーダンスの認知意味論—生態心理学から見た文法現象』. 東京:東京大学出版会.
- 益岡隆志 (1982)「日本語受動文の意味分析」.『言語研究』 第 82 号.日本言語学会:48-64.
- 益岡隆志 (1987)『命題の文法—日本語文法序説—』. 東京:くろしお出版.
- 益岡隆志 (2000)『日本語文法の諸相』. 東京:くろしお出版.
- 益岡隆志 (2008)「叙述類型論に向けて」. 益岡隆志 (編)『叙述類型論』. 東京:くろしお出版:3-18
- 益岡隆志 (2013)『日本語構文意味論』.東京:くろしお出版.
- 三嶋博之 (2000)『エコロジカル・マインド:知性と環境をつなぐ心理学』. 東京:日本放送出版協会.
- 三原健一 (2000)「日本語心理動詞の適切な扱いに向けて」.『日本語科学』8.国書刊行会:54-75.
- Carlson, Gregory N. (1977) Reference to Kinds in English. Ph.D. dissertation, University of Massachusetts, Amherst.
- Carlson, Gregory N. (1980) Reference to Kinds in English. NY: Garland.

程度副詞の修機能について

— 「かなり」・「なかなか」 —

何思瑩 (名古屋大学)

1. はじめに

現代日本語では、程度副詞の「ずいぶん、だいぶ」に対し、「かなり」「なかなか」が(1)のように連体修飾語となり、(2)のように主に接頭辞である「美」の修飾する機能を果たす程度副詞となる。

- (1) a. かなりの美人です。
- b. なかなかの美人です。
- (2) a. かなり美人です。
- b. なかなか美人です。

しかし、(1)と(2)のように、連体修飾機能と程度修飾機能いつも置き換えることができるとは限らないのである。

(3)(4)に示すように、(3ab)の「かなりのN」「なかなかのN」は連体修飾機能としてはいずれも成立しているのに対し、(4ab)の「かなりN」「なかなかN」は程度修飾機能としては「かなり大物」しか成立していないのである。

- (3) a. かなりの大物です。
- b. なかなかの大物です。
- (4) a. かなり大物です。
- b. *なかなか大物です。

(3)(4)に示すように、(3ab)の「かなりのN」「なかなかのN」は連体修飾機能としては、いずれも成立しているのに対し、(4ab)の「かなりN」「なかなかN」は程度修飾機能としては、「かなり大物」しか成立していないのである。

- (5) a. かなりの長身です。
 b. *なかなかの長身です。
- (6) a. かなり長身です。
 b. *なかなか長身です。

(5) (6) に示すように、「長身」の名詞への修飾では、(5a) の「かなりのN」と(6a)の「かなり長身」は言えるのに対し、(5b)の「なかなかの長身」と(6b)の「なかなか長身」は言えないのである。つまり、「長身」の名詞への修飾では、「かなり」の場合は、連体修飾機能も程度修飾機能も果たすことができるが、「なかなか」の場合は、逆に連体修飾機能も程度修飾機能も果たすことができないということになる。

以上のことで、本稿は主に「かなり・なかなか」と中心に、程度副詞における連体修飾機能と程度修飾機能について考察したい。

2. 先行研究

2.1. 『大辞林 第四版』による記述

I かなり【可成り・可也】

(副) 普通に予想されるより数量・程度がはなはだしいさま。相当

例：「一うまくいった」「一の損害」

II なかなか【中中】

(副) 物事の状態・程度が予期した以上であるさま。

㊦思っていた以上に。かなり。ずいぶん。

例：「一立派だ」「一強い」

2.2. 森田（1989）の記述

I 「かなりの」

a. 複数の事物を表す名詞（数量・比率を問題とする）

例：「かなりの人たち」「かなりの時間」

b.単独の事物を表す名詞（程度・スケールを問題とする）

例：「かなりの財産家」

II 「なかなかの」

名詞の中に特色やカラーに当る要素が含まれている語と結び付くが、特色やカラー、癖などを含まぬ 無色の名詞を続けると不自然になる。

例：「なかなかの好天だ」 * 「なかなかの天気だ」

先行研究に基づき、程度副詞における連体修飾機能と程度修飾機能について考察する。

3. 検索の概要

表1 「かなりの」「なかなかのN」における接頭辞

かなりのN		なかなかのN	
接頭辞	例	接頭辞	例
美	美人 (9)、美形 (2)	美	美人 (28)、美形 (6)、美男子 (4)、美青年 (3) 等
好	好印象 (2)、好位置 (1)、好条件 (1)、好人物 (1)、好成绩 (1)	好	好青年 (2)、好演 (1)、好評 (1)、好印象 (1) 等
高	高音質 (1)、高学歴 (1)、高性能 (1)、高水準 (1)、高水準 (1)	高	高官 (1)、高給取り (1)、高性能 (1)、高水準 (1) 等
名	名士 (1)、名声 (1)、名門 (1) 等	名	名文 (1)、名文家 (1)、名著 (1)、名器 (1)、名句 (1) 等
大	大作 (1)、大雪 (1)、大型 (1)、大仕事 (1) 等	大	大物 (1)、大酒家 (1)、大金 (1) 等
上	上下 (2)、上昇 (3) 等	上	上物 (1)、上達 (1) 等
難	難易度 (1)、難問 (1)、難曲 (1)、難民 (1)、難関 (1) 等	難	難儀 (1)、難題 (1)、難所 (1)、難事 (1)、難関 (1) 等
低	低予算 (1)、低血圧 (1)、低学力 (1)、低価格 (1)、低身長 (1)		
不	不安 (3)、不足 (1)、不自信 (1)、不満 (1)、不利 (1)		

長	長文 (3)、長期 (3)、長時間 (3)	
下	下落 (1)、下町 (1)、下調べ (1)、下地 (1)	
無	無理 (4)、無駄 (1)、無秩序 (1)、無造作 (1) 等	

予備調査として、コーパスで「かなりのN」と「なかなかのN」を検索してみた。そのうち、表 1 の通り、接頭辞がついている名詞が多いということがわかった。本稿は主に接頭辞がついている名詞との共起で、程度副詞「かなり・なかなか」における連体修飾機能と程度修飾機能について考察する。

参考文献

- 浅野百合子 (1984) 「程度副詞の分析—ずいぶん・だいぶ・なかなか・相当・かなり」『日本語教育』52:47-54. 日本語教育学会
- 松村明編 (2019) 『大辞林 第四版』三省堂
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』角川書店
- 洪, 忠婷 (2019) 「副詞に関する研究 — 「なかなか」の意味・用法を中心に—」博士(言語教育学)拓殖大学

祝詞(のりと).宣命(せんみょう)의 助詞 「ニ(爾/仁)」

이지수 (한국외국어대학교 일본연구소)

1. 들어가며

「祝詞(のりと)」와 「宣命(せんみょう)」의 표기양식인 소위 「宣命書(せんみょうがき)」라는 형식은 上代の 漢字借字表記 중 가장 발달된 것으로 助詞, 助動詞 등의 虛辭가 小字의 형식으로 표기에 반영된 형태이다. 이러한 현상은 「상대인의 문법의식의 일보 진진」이라고 할 수 있겠다. 본고에서는 『延喜式』의 「祝詞(のりと)」 27編와 『続日本記』의 「宣命(せんみょう)」 62詔를 대상으로 助詞 「ニ(爾/仁)」에 대하여 고찰해 보도록 한다. 또한 『万葉集』 『古事記』 『日本書紀』 「推古朝遺文」 등의 일본상대문헌에서의 字音仮名 「爾(ニ)/仁(ニ)」의 用字를 살펴보고 이를 통해서 字音仮名 「爾(ニ)/仁(ニ)」가 助詞 「ニ」의 표기로 정착된 과정을 고찰해 보도록 한다.

2. 「祝詞(のりと).宣命(せんみょう)」의 助詞 「ニ(爾/仁)」

- ① 今年二月_ニ、御年初將_ニ賜登偽而、(今年二月_ニ、御年初めたまはむとして) <祝詞 新年祭>
- ② 豊乃明聞許之賣須日_ニ在。(豊の明聞しめす日_ニあり。) <宣命 46>
- ③ 四柱能皇神等能_ニ広前_ニ白久、(四柱の皇神等の_ニ広前に白く) <祝詞 春日祭>
- ④ 掛麻久毛畏岐新城乃大宮_ニ (掛けまくも畏き新城の大宮_ニ) <宣命 45>
- ⑤ 吾子美麻斯王_ニ授賜讓賜止(吾が子みまし王_ニに授け賜ひ讓り賜ふと) <宣命 5>
- ⑥ 天乃浮雲_ニ乘氏、天乃二上_ニ上坐氏(天の浮雲_ニに乗りて、天の二上_ニに上りまして) <祝詞 中臣寿詞>
- ⑦ 陸奥国荒備流蝦夷等乎討治_ニ任賜志(陸奥国の荒びる蝦夷等を討ち治め_ニに任せ賜ひし) <宣命 62>
- ⑧ 神漏美命乃前_ニ仁受給波里申_ニ (神ろみの命の前に受けたまはり申し_ニに) <祝詞 中臣寿詞>
- ⑨ 八束穗_ニ皇神能成幸賜者、(八束穗_ニに皇神の成し幸はへたまはば) <祝詞 広瀬大忌祭>
- ⑩ 赤丹乃保_ニ仁多末倍黒良伎(赤丹のほ_ニにたまへゑらぎ) <宣命 38>
- ⑪ 楯.戈.御馬_ニ御鞍具弓、(楯.戈.御馬_ニに御鞍具へて) <祝詞 竜田風神祭>
- ⑫ 人_ニ仁毛伊佐奈方禮須、人乎毛止毛奈方須之天(人_ニにもいざなはれず、人をもともなはずして) <宣命 33>
- ⑬ 由無之天人_ニ云聞之半留事不得猶。(よしなくし人_ニに云ひ聞かしむる事得ず猶ありき) <宣命 45>

⑭ 宮進_{米爾}進_米、宮勤_{爾勤}之_{米氏}(宮進_米に_進め、宮勤_米に_勤めしめて) <祝詞 大殿祭>

예문①②은 <祝詞 新年祭>와 <宣命 46>의 예문으로 ①의 「今年二月_爾(今年二月に)」과 예문②의 「豊乃明聞_{許之賣須}日_仁(豊の明聞しめす日に)」는 時間을 나타내는 助詞 「ニ」의 용법이다. 예문②는 「豊(とよ)+乃(ノ);助詞+明(あかり)+聞_{許之賣須}(聞しめす)+日(ひ)+仁(ニ);助詞」의 구조로 助詞 「ノ(乃)/仁(仁)」와 「聞しめす」의 語尾 부분 「コ(許)シ(之)メ(賣)ス(須)」가 音仮名로 小書표기되었다. 예문③의 「皇神等_能広前_仁(皇神等の広前に)」와 예문④의 「新城乃大宮_爾(新城の大宮に)」는 助詞 「ニ」의 場所의 용법이다. 예문③은 「四柱(よんばしら)+能(ノ);助詞+皇神等(すめがみたち)+能(ノ);助詞+広前(ひろまへ)+仁(ニ);助詞」의 구조로 「広前(ひろまへ)」는 「大前/太前(おほまへ)」의 次位の 의미이며 「柱(ハシラ)」는 「命(ミコト)」와 동일한 의미이다. 예문⑤의 「美麻斯王_爾(みまし王に)」와 예문⑥의 「浮雲_仁(浮雲に)/二上_仁(二上に)」는 目標(到達點)의 助詞 「ニ」의 용법으로 예문⑤는 「美麻斯(汝;みまし)+王(みこ)+爾(ニ);助詞」로 예문⑥은 「浮雲(うきくも)+仁(ニ);助詞」「二上(ふたかみ)+仁(ニ);助詞」로 분석되며 助詞 「ニ」는 仮名 「爾」와 仮名 「仁」로 音仮名 小書표기되었다. 예문⑦의 「蝦夷等_乎討治_爾(蝦夷等を討ち治めに)」와 예문⑧의 「受給_{波里}申_仁(受けたまはり申ししに)」은 目的을 의미하는 용법으로 「蝦夷(えみし)等(ら;複數接尾語)+乎(ヲ);助詞+討治(討ち治め)+爾(ニ);助詞」와 「受(受け)給_{波里}(たまはり)+申(申しし)+仁(ニ);助詞」의 구조이다. 助詞 「ニ」는 仮名 「爾」와 仮名 「仁」로 音仮名 小書표기되었고 「受給_{波里}申_仁(受けたまはり申ししに)」의 「給_{波里}(たまはり)」의 波(ハ)里(リ)가 音仮名 小書표기되었다. 예문⑨⑩와 은 助詞 「ニ」의 結果의 용법이다. 예문⑨⑩의 前구인 「八束穗_爾(八束穂に)」와 「赤丹乃保_仁(赤丹のほに)」의 상태에 이르도록 예문⑨⑩의 后구 「皇神_能成幸賜者(皇神の成し幸はへたまはば)」와 「多末倍黑良伎(たまへゑらぎ)」의 행위을 하자는 내용이다. 예문⑪의 「御馬_爾御鞍具_弓(御馬に御鞍具へて)」은 「御馬(みま)+爾(ニ);助詞+御鞍(みくら)+具(すなふ;動四)+弓(テ);助詞」의 구조로 添加의 용법이다. 「楯(たて). 戈(ほこ). 御馬(みま)」이 외에 「御鞍(みくら)」도 添加한다는 의미이다. 예문⑫의 「人_仁毛伊佐奈_方禮_須(いざなはれず)」와 「止毛奈_方須_之天(ともなはずして)」는 「人+仁毛(ニモ);助詞+伊佐奈_方いざなは[率]いざなふ(動四)+禮(レ);受身(受身)助動詞+須(ズ);打消(否定)助動詞」와 「止毛奈_方須_之天(ともなは)伴ともなふ(動四);+ず+して)」로 분석되어 助詞 「ニ」의 修身의 용법이다. 예문⑬ 「人_爾云聞_之牟留事(人に云ひ聞かひむる事)」은 「人(ひと)

十爾(ニ);助詞+云聞(いひきか);未然形+之牟留(シムル);使役助動詞「シム」의連體形+事(こと)」의 구조로 助詞「ニ」의 使役의 用法이다. 예문⑭는 助詞「ニ」의 動作反復의 用法이다. 전구인「宮進_米爾進_米(宮進めに進め)」의「宮進_米+爾(ニ);助詞+進_米」와 후구인「宮勤_爾勤_{之米氏}(宮勤めに勤めしめて)」의「宮勤+爾(ニ);助詞+勤_{之米氏};使役(宮勤めに勤めしめて)」는「ミヤ스スメ(朝廷に進み出ること)」와「ミヤツトメ(朝廷に勤めること)」는 동작을 반복하게 되는데 이는「神에게 祝願하는 祝詞(のりと)」의 典型的인 문장이라고 할 수 있다. 上代의 祭祀長 언어인 祝詞(のりと)와 天皇의 詔勅을 전달하는 宣命(せんみょう)는「宣命書(せんみょうがき)」라는 독특한 표기체로 기록되었다는 공통점이 있지만 문법적인 특징을 고찰해 보면 祝詞(のりと)는 返り點의 사용, 漢語的 用法, 動詞活用語尾의 大書表記, 助詞.助動詞의 未表記, 助詞 大書表記, 複合動詞내에서의 正訓과 音假名의 併用表記 등 所謂「宣命大書體」에서「宣命小書體」로 이행하는 과도기적 요소들이 잔존하고 宣命(せんみょう)에서는 이러한 요소들이 흡수. 정돈되어서 動詞活用形語尾와 助詞.助動詞 등의 정연한 音假名 小書表記가 안착하게 된다.

3. 上代文献의 仮名「ニ(爾/仁)」

3.1 『万葉集』『古事記』『日本書紀』의 仮名「ニ(爾/仁)」

- ① 紅爾 染而之衣 雨零而 爾保比波雖為 移波米也毛 <万十六 3877>
- ② 宮人乃 蘇泥都氣其呂母 安伎波疑爾 仁保比與呂之伎 多加麻刀能美夜 <万二十 4315>
- ③ 橘乃 爾保整流香可聞 保登等藝須 奈久欲乃雨爾 宇都路比奴良牟 <万十七 3916>
- ④ 桃花 紅色爾 爾保比多流 面輪乃字知爾... <万十九 4192>
- ⑤ 波流能波奈 伊麻波左加里爾 仁保布良牟 乎里氏加射佐武 多治可良毛我母 <万十七 3965>
- ⑥ 單媛 美麗之*(トチレル)、爾保不(ニホフ)、又、宇留和志(ウルワシ) <新撰字鏡>
- ⑦ 青丹吉 寧樂乃京師者 咲花乃 薰如 今盛有 <万三 328>
- ⑧ ...爾比那問夜爾 淤斐陀弓流 毛毛陀流 都紀賀延波... <古事記 歌謠 100 雄略>
- ⑨ 於毛思路伎 野乎婆奈夜吉曾 布流久佐爾 仁比久佐麻自利 於非波於布流我爾 <万十四 3452>
- ⑩ 若草乃 新手枕乎 卷始而 夜哉將 間 二八十一不 在國 <万十一 2542>
- ⑪ 夜久毛多都 伊豆毛夜幣賀岐 都麻基微爾 夜幣賀岐都久流 曾能夜幣賀岐袁 <古事記 歌謠 1>
- ⑫ 夜句茂多苑 伊弩毛夜霸餓岐 菟磨語昧爾 夜霸餓枳都俱廬 贈迺夜霸餓岐廻 <日本書紀 歌謠 1>
- ⑬ 戀死六 其毛同曾 奈何爲 二 人目他言辭 痛吾將 爲 <万四 748>

예문①②는 仮名「爾」와 仮名「仁」가 名詞의 표기에 用字된 예이다. 예문①의 4구 「爾保比波雖爲(色濃くなることはあつても)」는 「爾保比(ニホヒ)+波(ハ);助詞+雖爲(ストモ)」의 구조로 「爾保比(ニホヒ)」는 「艶(にほひ)」의 音仮名表記이다. 예문②의 4구 「仁保比與呂之伎(色がよく合う)」는 「仁保比(ニホヒ)+與呂之伎(ヨロシキ);[宜]よろし(形シク)連體形(甲類)」로 「仁保比(ニホヒ)」는 「艶(にほひ)」의 音仮名表記이다. 예문③~⑦는 仮名「爾」와 仮名「仁」가 動詞「ニホフ(動四)[染.薰]」에 用字된 예문이다. 예문③의 2구 「爾保幣流香可聞(花の香りは)」는 「爾保幣(ニホヘ);命令形(へ;甲類)¹+流(ル);完了助動詞「リ」連體形」+香(カ);名詞+可聞(カモ);助詞」로 분석되며 예문④의 2구 「爾保比多流(輝っている)」는 「爾保比(ニホヒ);連用形(ヒ;甲類)²+多流(タル);完了助動詞タリ連體形(連用形接續)」의 구조이다. 예문⑤의 3구 「仁保布良傘(咲きにおっているであろう)」는 「仁保布(ニホフ);終止形+良傘(ラム);推量助動詞「ラム」」로 분석된다. 예문⑥는 『新撰字鏡』의 예문으로 「爾保不(ニホフ);終止形」가 小字로 「宇留和志(ウルワシ)」와 함께 音仮名 표기되었다. 예문⑦의 3구 「薰如(爛漫たるように)」는 「薰(ニホフ)+如(ガゴトク);漢語的用法」으로 動詞「ニホフ(動四)[染.薰]」의 正訓표기이다. 예문⑦은 『万葉集』 卷3의 노래로 3卷은 예문①⑩⑬⑭과 함께 訓仮名中心表記卷³으로 返し字(返り点), 漢語的用法, 字余(じあま)り 등 비교적 이른시기에 성립된 특징을 나타낸다. 예문⑧~⑩은 形狀言「ニヒ(新);新しいさま」에 用字된 예문이다. 예문⑧은 『脩事記』 雄略天皇條의 歌謠로 「爾比那閑夜爾(新嘗を召上がる)」는 「爾比那閑(ニヒナヘ)+夜(ヤ);名詞+爾(ニ);助詞」로 분석된다. 「爾比那閑(ニヒナヘ)」는 「新穀を捧げて神を祭り、自らも食べて、その年の收穫を感謝する農業祭」즉 「新嘗祭」를 의미한다. 예문⑨의 4구 「仁比久佐麻自利(新草が混じって)」는 「仁比久佐(ニヒクサ);名詞+麻自利(マジリ);動詞」로 예문⑧의 「爾比那閑(ニヒナヘ)」와 동일한 구성이나 形狀言「ニヒ(新)」를 「爾比(ニヒ)」와 「仁比(ニヒ)」로 각기 音仮名 표기하였다. 예문⑩의 제2구 「新手枕

1 万葉仮名「へ(甲類)」; 俾(제 1 기)/ 敝弊幣平弁返遍邊霸 (제 2 기)/ 幣弊蔽霸(제 3 기)

万葉仮名「へ(乙類)」; 없음(제 1 기)/ 倍陪*閉(제 2 기)/ 倍陪俳杯背*(제 3 기)

2 万葉仮名「ヒ(甲類)」; 比(제 1 기)/ 比必卑賓嬪臂(제 2 기)/ 比毗必卑避臂(제 3 기)

万葉仮名「ヒ(乙類)」; 非(제 1 기)/ 非悲斐肥飛(제 2 기)/ 悲彼被秘妃(제 3 기)

3 『万葉集』는 表記樣式에 따라서 訓語中心表記卷((1 권/2 권/3 권/4 권/6 권/7 권/8 권/9 권/10 권/11 권/12 권/13 권/16 권)과 音假名中心表記卷(5 권/14 권/15 권/17 권/18 권/19 권/20 권)으로 분류된다.

乎(新妻の手枕を)는 「新(ニヒ)+手枕(タマクラ)+乎(ヲ);助詞」로 形狀言「ニヒ(新)」의 正訓표기이다. 제5구「二八十一不^レ在國(憎くはないのに)」의「二八十一(ニクク)」는「二(ニ)+八十一(クク)」는「九九、八十一」의 의미로 漢字借字表記體系 중 正用の 용법인「戲書(たわむれがき)」이다.⁴ 예문⑪⑫⑭는 仮名「爾」와 仮名「仁」가 助詞로 표기된 예이다. 예문⑪⑫은 所謂「記紀歌謠」로 一字一音式表記가 이루어졌다. 예문⑪의 제3구「都麻碁微爾(ツマゴミニ)」와 예문⑫의 제3구「菟磨語味爾(ツマゴメニ)」은 助詞「ニ」는 仮名「爾」로 표기되었다. 두 歌謠는 동일한 내용이지만 표기에 있어서 相異한 仮名로 표기되었음을 알 수 있는데『日本書紀』仮名の 특수성에서 기인된 표기이다. 예문⑬의 제3구「奈何爲二(どうして)」는「奈何(ナニ)爲(セム)+二(ニ);助詞」로 助詞「ニ」는 仮名「二」로 用字되었다. 예문⑭의 제5구「雨零久仁(雨が降るのに)」는「雨(アメ)零久(フラク)+仁(ニ);助詞」로 助詞「ニ」는 仮名「仁」로 用字되었다.『万葉集』등의 上代文獻에서 助詞「ニ」의 音仮名表記에는 仮名「爾/二/仁」이외에도 仮名「尼/人/日/邇/耳」등이 用字되었다.⁵

3.2 「推古朝遺文」의 仮名「ニ(爾)」

- ①「阿米久爾意斯波留支比里爾波乃彌己等(アメクニオシハルキヒロニハノミコト)」 <元興寺露盤銘>
- ②「余奴臣祖名阿那爾比彌(ヨヌノオミノオヤナハアナニヒミ)」 <上宮記逸文>
- ③「阿米久爾意斯波留支比里爾波乃彌己等(アメクニオシハルキヒロニハノミコト)」 <千寿菊曼荼羅繡帳銘>

「推古朝遺文」은 推古朝의 金石文으로 仮名「ニ(爾)」는 주로 人名, 地名, 官職名 등의 固有名詞의 音仮名로 表記되었다. 漢字借字表記의 가장 원시적인 형태로 漢文體의 문장 속에 주로 王族의 人名을 표기한 예이다. 上代의 人名表記에는 出身地域(地名)이나 地位(官職名)를 나타내는「氏(うじ)」「姓(かばね)」등이 포함되는 경우가 많다.⁶ 예문①③의「阿米久爾意斯波留支比里爾波乃彌己等(アメクニオシハルキヒロニ

4 漢字借用表記體系는 「正訓字, 正音字, 義訓字, 訓仮名, 音仮名, 戲書」의 6 체계가 존재한다. 이들 중「正用」은 正訓字, 正音字, 義訓字이고「假用」은 訓仮名, 音仮名, 戲書(たわむれがき)이다.

5 万葉仮名「ニ」; [제 1 기] 爾 / [제 2 기] 爾.邇.二.仁.人.日.尼.耳.而.柔(丹.荷.煮.以.煎) / [제 3 기] 爾.爾.邇.而.珥.尼.貳

6 5~6 세기 大和(やまと)정권은 당시 호족집단을 「氏(うじ)」라 칭하고 그「氏(うじ)」에게 정치적 서열인「姓(かばね)」를 주었다. 대표적인「氏(うじ)」는 大伴(おおとも), 物部(ものべ), 蘇我(そが)등이 있고「姓(かばね)」는 臣(おみ), 連(むらじ), 君(きみ), 別(わけ), 造(みやつこ), 直(あたえ), 首(おびと), 忌村(いみき) 등이 있다.

ハノミコト)의 경우 <元興寺露盤銘>와 <千寿菊曼荼羅繡帳銘>에 등장하는 欽命天皇의 이름이다. 총 17개의 音假名로 구성되어 있는데 이것은 天皇의 이름이지만 그것을 의미상으로 분석한다면 「[阿米久爾(アメクニ);天國]⁷+ [意斯波留支(オシハルキ);押す((動四)/はるく(動四))+ [比里爾波(ヒロニハ)⁸;ひろ(広)には(庭)]+乃(ノ)+ [彌己等(ミコト);命(みこと)/柱(はしら)尊稱接尾語]」로 분석된다. 즉 「[하늘나라/(밑어서)열다/넓은정원]+乃(ノ);助詞+[天皇]」의 의미가 된다.⁹ 예문②의 「余奴臣祖名阿那爾比彌(ヨヌノオミノオヤナハアナニヒミ)」는 「余(ヨ)奴(ヌ)+臣(オミ);姓(かばね)+祖(オヤ)+名(ナ)+阿(ア)那(ナ)爾(ニ)+比(ヒ)彌(ミ);姫¹⁰」로 분석된다.

4. 假名「爾」와 假名「仁」

중국의 문자인 漢字字音의 성격을 분석하기 위해서는 중국의 「韻書」와 「韻圖」 등을 참고로 할 수 있다. 대표적인 韻書인 『広韻』에 의하면 假名「爾」는 「上声/三等/紙韻」이며 反切은 「児氏切」이다. 假名「仁」는 「上平声/真韻」으로 反切은 「如鄰切」이다. 또한 대표적인 韻圖인 『韻鏡』에 의하면 假名「爾(ニ)」는 「止/内轉/第四/開/半齒/次濁/紙韻」로 그 성격을 규명하고 있고 假名「仁(ニ)」의 경우 그 대표음인 漢字字音「眞」가 「臻撰/外轉/第十七/開/唇音/全清/真韻」로 분류되어 있다.

5. 마치며

假名「爾(ニ)/仁(ニ)」는 推古朝의 固有名詞表記를 시작으로 『万葉集』 『古事記』 『日本書紀』 등에서 実辞(名詞/形容詞/動詞)와 虚辞(助動詞/助詞)의 다양한 표기에 用字되어진다. 이렇게 「ニ」의 표기로 정착된 假名「爾(ニ)」와 假名「仁(ニ)」는 「祝詞(のりと)」와 「宣命(せんみょう)」의 표기양식인 所謂 「宣命書(せんみょうがき)」에 이르러서 助詞「ニ」의 小字表記의 音假名로 안착하게 된다. 「宣命書(せんみょうがき)」는 漢字借字表記의 가장 발달된 형태로 일본 散文文章體의 완성으로 평가되고 있으며

⁷ 「天.天上(あめ)」의 音假名表記는 「阿米(アメ)/阿梅(アメ)」 등의 있고 「国.地.本郷(くに)」의 音假名表記는 「久爾(クニ)/久邇(クニ)/柁爾(クニ)/玖邇(クニ)」 등의 존재한다.

⁸ 「庭(には)」는 「爾波(ニハ)」 이외에도 「爾波/式波」 등의 音假名表記가 이루어졌다.

⁹ 실제로 『古事記』에는 欽明天皇의 尊號를 「天國押波流岐廣庭」로 『日本書紀』에는 「天國排開廣庭」로 기록하고 있다.

¹⁰ 「姫.媛(ひみ/ひめ)」의 音假名表記는 「比弥(ヒミ)/比売(ヒメ)/比女(ヒメ)/日売(ヒメ)」 등의 있다.

이 문체를 바탕으로 片仮名(ひらがな).平仮名(カタカナ)가 등장함에 따라서 「和漢混交体(漢字仮名交り文)」이 탄생되어서 오늘날 현대일본어의 형태를 이루게 된다.

参考文献

- 稻岡耕二(1976)『万葉表記論』搞書房刊 pp.217-238.
- 岩井良雄(1981)『祝詞宣命語法考』笠間書院刊 pp.157-228.
- 大失透編纂(1970)『仮名源流考及證本寫眞』勉誠社 pp.64-67.
- 倉野憲司編(2002)『續日本紀宣命』岩波文庫 30-038-1 岩波書店 pp.11-20.
- 徳光久也(1964)『上代日本文章史』南雲堂櫻風社 pp.443-559.
- 武田祐吉校注(1989)『古事記.祝詞』日本古典文學大系 1 岩波書店 pp.367-463.
- 이지수(2006.03)「万葉集에 나타난 漢字借用表記의 特殊한 運用」일본어학연구 한국일본어학회
- _____ (2008.11)「<天寿國曼茶羅繡帳銘>에 관한 一考」일어일문학연구 한국일어일문학회
- _____ (2012)「<上宮記逸文>에 관한 一考」『日語日文學研究』第 83 輯 1 卷, 韓國日語日文學會, pp.407-427.
- _____ (2012)「上代漢字借用表記의展開」『日本文化研究』第 44 輯, 동아시아일본학회, pp.545-562.
- _____ (2021.02)「宣命과 祝詞의 仮名」『일본어교육연구』第 54 輯, 한국일어교육학회, pp.251-264.
- _____ (2021.06)「祝詞(のりと).宣命(せんみょう)의助詞」『日本語學研究』第 68 輯, 韓國日本語學會, pp.159-176.
- _____ (2021.11)「祝詞.宣命의助詞「モ(毛/母)」」『日本文化學報』第 91 輯, 韓國日本文化學會, pp.305-32.

「～っぽい」の使用における「基準」について

楊 迪 (名古屋大学院生)

1. はじめに

形容詞性接尾語「～っぽい」は一般的に「性質・属性」を表し、さらに分類すれば「含有」「傾向」「特性」「類似」「ふさわしさ」という5つの意味用法に分けられる(楊2022)。記述の便宜上、主語と「～っぽい」の関係を「YはXっぽい」と表記し、主語Yに波下線、「～っぽい」の前接語Xに下線を施す。

- (1) この部屋の空気は埃っぽい。【含有】
- (2) 母は忘れっぽい。【傾向】
- (3) 千秋は幼稚っぽい。【特性】
- (4) ペプシの方が少し菓っぽい味がします。【類似】
- (5) このコートは夏樹っぽい。【ふさわしさ】 (楊2022 : 38)

楊(2022)では「含有」用法を「YにはXの含有量がある種の基準より多い」と定義されている。本発表では、「含有」用法だけではなく、ほかの意味用法にこうした「基準」がどのように現れるのかについて分析を行う。

2. 先行研究および研究方法

2.1 先行研究

「～っぽい」の「含有」という意味について、先行研究ではさまざまな定義を下している。

山下(1995 : 192)は「そのものが**必要以上**に多く含まれ、過剰と感じられる状態である」とし、尾谷(2000 : 169)は「**期待値**よりも多く物質Xを含んでいる」としている。ケキゼ(2003 : 31)では「Yは、好ましくないモノ[X]を**話者の暗黙の基準値**よりも多く含む」と述べられ、「含有」だけではなく、ほかの用法にも一致して

「話者の暗黙の基準値」と定義されている。小島（2003：32）は「それが多い、またはそれが目立つ様子であることを表す」と定義している。小出（2005：3）は「Y についての X の含有量が**通常**より多い」とし、「X は Y の副成分であり、Y と同質的で、Y の中に一体化している」と指摘している。竹島（2010：31）は「物理的な含有量が多い」としている。

このように、小島（2003）と竹島（2010）は基準を設定せず、この種の「～ぼい」は「含有量が多い」という意味を表すと指摘している。ほかの先行研究はすべてある種の基準を設けているが、「必要以上」、「期待値」、「話者の暗黙の基準値」、「通常値」など、定義は一致していない。楊（2022）では「その「基準」は1つではない」と述べられているが、前述のように「ある種の基準」という曖昧な言い方をし、詳しい分析は行われていない。

本発表では、コーパスで収集した例を観察し、「含有」用法だけではなく、形容詞性接尾語「～ぼい」の全ての意味用法が使われる際の「基準」について詳しく分析する。

2.2 研究方法

本研究は話し言葉コーパスである『日本語日常会話コーパス モニター公開版』（以下「CEJC」）、『名大会話コーパス』（以下「NUCC」）、『日本語話し言葉コーパス』（以下「CSJ」）、また、書き言葉コーパスである『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の「知恵袋」と「ブログ」²（以下「BCCWJ」）を使用して調査を行った。中納言を使用し、短単位検索で、検索条件「キー 語彙素＝ぼい、品詞の大分類＝接尾辞」によって用例を得た。

以上のデータのうち、誤解析と聞き取り不能のしるしである「*」によって判断できない用例を除いた合計 2,981 例を本研究の考察対象とした。

¹ ここの「それ」が指しているのは「～ぼい」に前接する語 X である。

² 現代語の「～ぼい」はくだけた日本語として日本人の日常生活で広く使用されている。『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の「知恵袋」と「ブログ」での「～ぼい」もこのような性質を持つため、本研究の調査対象にする。

3. 「～ばい」の使用における「基準」

本発表は、「YはXばい」が使われる際の基準として、「Yの一般的な状態」、「Yの本来の状態」、「話し手の期待値」、「比較対象の特徴」、「Xの一般的な状態」という5つの「基準」が設定できると考える。ここでは楊（2022）の意味分類を踏襲し、各「基準」と各意味用法との関係性について考察する。

① Yの一般的な・本来の状態や特徴を基準とする。

(6) 【特性】私は普段コンタクトですが、家に帰ってきてからは眼鏡です。（中略）私も実は眼鏡してる方がオシャレっぽくて好きだったりします（笑）。

(BCCWJ)

(7) 【含有】バカな質問ですみません。ホールコーンの缶ありますよね、これって、いつもサラダに入れているのですが、別にチャーハンなど作る時に、入れて炒められますよね??

OKですwザルで水気は切りましょうねwチャーハンが水っぽくなりますよw

(BCCWJ)

(8) 【傾向】最近やけに主人がひがみっぽくって、嫉妬深くて困っています。

(BCCWJ)

例（6）の場合、主語 Y である「私」の普段の状態（コンタクトをつけている）と比べ、メガネをしている方が「オシャレっぽい」ということを表す。例（7）では、主語 Y であるチャーハンには水がないのが一般的な状態であるため、ホールコーンの缶は水気を切らずにチャーハンに入れると「水っぽく」なる。例（8）も主語 Y である主人の普段に状態を基準とする例である。このように、「特性」「傾向」「含有」という3つの意味用法に主語 Y の一般的な状態を基準とする例が見られる。

(9) 【特性】次女は、えー、まだ四歳で年中で。で、本当に子供っぽい子供なんで。

(CSJ)

(10) 【類似】デジカメで紫色の物（パープルメタリック含む）を撮ろうとすると、青っぽく写ってしまいます。

(BCCWJ)

(11) 【含有】 水を入れますと、あの一、ただの水っぽい汁になってしまいます。

(CSJ)

例 (9) では、主語 Y は子供である四歳の次女であり、子供に本来あるべき特徴を基準にし、次女は「子供っぽい」と表現する。例 (10) の場合、撮ろうとするものは本来紫色であるが、デジカメで「青っぽく」写っている。例 (11) では水を入れない汁の本来の状態を基準にする例である。以上のように、これらの例は主語 Y の**本来あるべき**状態や特徴を基準としている。上と同様に、「特性」「傾向」「含有」という3つの意味用法に現れる。

前述した「一般的な状態・特徴」は一時的に変えられる (例 (6) : コンタクトメガネ) が、「本来の状態・特徴」は典型的に主語 Y の性質として容易に変化させることができない (例 (9) : 次女は子供だ) ものだと考えられる。

② 話し手の期待値を基準とする。

(12) 【含有】 山岡屋のラーメンを食べる時、麺の硬さや油の量などを調節して注文しますか？ 油多目とか食べたことある人はいますか？

私は油少なめが好きです！ 普通でも結構油っぽいでしょ？ とても油多めは頼めませんねえ。私はいつも「特製味噌、油少なめ、半熟 (味付玉子)」です。

(BCCWJ)

(13) 【傾向】 こんなこと言ったらお婆さんの人生ね、ぐちっぽく。

大丈夫、大丈夫。

(NUCC)

前述した主語 Y の一般的な状態や主語 Y の本来あるべき状態と異なり、これらの用例は話し手の期待値を基準している。例 (12) では話し手にとって「山岡屋のラーメン」は普通の油の量が多い。この場合の基準は、「山岡屋のラーメン」の普通の油の量ではなく、話し手が望んでいる油の量である。ここの「油っぽい」は話し手が好きな油の量より多いという意味で使用されている。例 (13) のような「傾向」用法も同様である。

話し手の期待値を基準とするのは典型的に「含有」用法と「傾向」用法である。この2つの用法はいずれもあまり望ましくないこと (主語 Y (モノ) にあまり望ましく

ない X の含有量や主語 Y (ヒト) にあまり望ましくない人間の行為の傾向) を表している。このような「望ましくない」という意味が現れることは話し手の期待値を基準とすることに関係していると考えられる。

③ 比較対象がある際に、比較対象の状態や特徴を基準とする。

(14) 【類似】コココーラの方が好きです。たまにペプシのみたくなるんですけどね。個人的な意見ですが。ペプシの方が少し菓っぽい味がします。

(BCCWJ)

(15) 【特性】そのYCMAのキャンプに一緒に行った友達が、あの、その子は手紙とか凄文章を書くのが好きな子で、字とかも凄大人っぽくて、あたしの同級生の中ではちょっと何か、何て言うか、憧れと言うか何か大人っぽい雰囲気の子だったので色々教えてもらってたんですけど。 (CSJ)

(16) 【類似】飼い主を親として捉えて子供っぽい従順さや服従を見せてくれます。ただ犬の姿も変化しています。 (CSJ)

例 (14) はコココーラと比較して、主語 Y であるペプシが「菓っぽい」と表す。例 (15) での比較対象は同級生である。主語 Y と前接語 X 以外の第三者 Z (波下線で示す) が比較対象となる。例 (16) のような「類似」用法は、典型的に主語 Y と前接語 X を比較して両者の間に類似点があることを表す。これも「類似」用法とほかの意味用法と区別するところである。

④ Xの一般的状態や特徴を基準とする。

(17) 【ふさわしさ】ジーパンじゃなくて、綿パンも先生っぽくて素敵だった～ピンク？ 赤系のVネックも似合ってた～ (BCCWJ)

「ふさわしさ」用法はほかと異なり、前接語 X (特定の人) の一般的な状態や特徴を基準にする。X の普段の状態や特徴を基準とすると、Y はその基準にふさわしく、Y には X を想起させる要素が多い。例 (17) の場合、先生が普段好んでいるズボンからすると、ジーパンより綿パンの方がより先生に似合うことを表す。

4. おわりに

本発表では、コーパスから収集した用例を観察し、形容詞性接尾語「～ぼい」が使用される際の「ある種の基準」について分析を行った。まとめると、以下のように分類できると考えられる。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ① Yの一般的な・本来の状態や特徴 | 「特性」 「含有」 「傾向」 「類似」 |
| ② 話し手の期待値 | 「含有」 「傾向」 |
| ③ 比較対象の状態や特徴 | 「類似」 「特性」 「傾向」 |
| ④ Xの一般的な状態や特徴 | 「ふさわしさ」 |

引用文献

- 尾谷昌則 (2000) 「接尾辞「ぼい」に潜むカテゴリー化のメカニズムー「女っぼい人」は女ですか?」『日本言語学会第120回大会予稿集』,168-173,日本言語学会
- ケキゼ・タチアナ (2003) 「「ぼい」の意味分析」『日本語教育』(118),27 - 36, 日本語教育学会
- 小出慶一 (2005) 「接辞「～ぼい」の用法の広がりー「雪が降るっぼい」という表現はどのように成立したか」『群馬県立女子大学紀要』(26),1-13, 群馬県立女子大学
- 小島聡子 (2003) 「接尾語「ぼい」の変化」『明海日本語』(8),31-38, 明海大学日本語学会
- 竹島奈歩 (2010) 「接尾辞「ぼい」と共起する名詞についてー新聞記事の見出しを例に」『同志社大学日本語・日本文化研究』(8), 20-37, 同志社大学日本語・日本文化教育センター
- 山下喜代 (1995) 「形容詞性接尾辞「ーぼい・ーらしい・ーくさい」について」『講座日本語教育』(30), 183-206, 早稲田大学日本語研究教育センター
- 楊迪 (2022) 「「～ぼい」の意味・用法と構造的特徴に関する記述的研究」『東アジア日本学研究』(8), 35-51, 東アジア日本学研究

上級日本語学習者を対象とした古語レディネス調査

—韓国語母語話者を例に

植松容子（昭和女子大学）

1. はじめに

日本国内の大学における日本語・日本文学を専門とする学科では、古典文学／古典文法が必修科目となっていることが多く、その授業内容は日本語母語話者が大学入学までに学校文法及び古典文法を学んできていることを前提に構成されている。このような学科に留学生が入学した場合、当然のことではあるが、日本語母語話者と同じ科目を履修する必要がある。だが、日本語母語話者は大学入学前までも古語を学習してきているのに対し、日本語学習者は古語学習経験がない。いわば、「古語ゼロ初級」¹であると言える。中・高生向けの古語学習教材は多数あるが、これらはN1取得済みの上級日本語学習者にとっても難易度が高い。また、近年は日本語学習者向けの古語学習教材も作られつつあるが、その大枠は日本語母語話者向けの教材に沿う形になっている。「古語ゼロ初級」の日本語学習者が無理なく古語の基礎を身につけるには、どのような教材が必要なのだろうか。

2. 先行研究

2.1 日本語学習者を対象とした古語教育研究

日本語学習者対象とした古語教育の研究は多くなく、古典語のコーパスデータに基づきよく使われるパターンを洗い出したもの（深澤 2013）、日本語学習者における文語文の困難点を調査したもの（佐藤ほか 2015）がある。深澤氏は先に挙げた 2013 年の論考を皮切りに継続的に研究成果を発信しており、学部留学生が負担少なく古語の大略を身につけることを目標として掲げている。佐藤氏は一連の研究の成果を

¹ 日本語教育の初級段階において、全く日本語が分からない状態からのスタートのことを「ゼロ初級」と呼ぶことがある。本研究では古語にその発想を取り入れ、「古語ゼロ初級」と呼ぶことにする。

Bungo-bun-Go!²というサイトに公開し、運用した結果の調査（佐藤ほか 2021）も行っていて実践的である。しかし、対象者は文語文研究者であるため、学習項目が体系的・網羅的であり、選定された古典の難易度も高い。

2.2 日本語学習者を対象とした古語学習教材

庵（2021）は日本語教育で使われる「ナ形容詞」などの用語を説明に活用し、日本語学習者の背景知識に寄り添う配慮が見られる。しかし、本書の目的はまえがきに「近代文語文（文語文）で書かれた文章を読めるようになること」と書かれており、内容も日本語学的な知見に基づいて文法体系が重視されている。日本語学的な知見を踏まえた体系的な文法知識を身につけることは、学習が進んだ段階では必要になるが、「古語ゼロ初級」の日本語学習者には難易度が高い。

2.3 問題意識

これまでの日本語学習者を対象とした古語教育に関する研究及び古語学習教材では、ある程度の古語の知識を持った者が対象とされている。しかし、本研究で対象とするのは、これまでに全く古語を学んだことがない「古語ゼロ初級」の日本語学習者である。そういった学習者を対象とした古語学習教材は、管見の限りでは見当たらない。

では、「古語ゼロ初級」の日本語学習者は、本当に古語の知識がないのだろうか。例えば、日本語能力試験（以下 JLPT と記す）の N2 や N1 の学習では、現代語に残る古語的表現（例「～ず」）を学ぶことがあるが³、それらの知識を活用して古語を教えることは有効なのだろうか。そこで本研究では、N1 を取得済みの上級日本語学習者が古語についてどの程度の知識を持っているかを探るべく、レディネス調査を実施した。

3. 調査の概要

本調査の対象は、東京都内の私立大学（以下 A 大学とする）の日本語日本文学科

² 「Bungo-bun-Go!」 <https://bungobungo.jp/>

³ 例えば友松他（2011：126）にある「古い言葉を使った言い方」を参照されたい。

に在籍する韓国語を母語とする正規留学生 8 名である。A 大学の当該学科には他の言語を母語とする日本語学習者も在籍するが、渡日前の古語学習状況及び漢字に対する習熟度等の条件を揃えるべく、今回は韓国語母語話者のみを対象とした。調査は 2023 年 7 月上旬に実施した。調査は以下の 3 種類で、所要時間は調査 1,2 に 20～25 分程度、調査 3 に 10～15 分程度、合計 30～40 分程度であった。

調査 1：フェイスシート

調査 2：古語レディネス調査⁴

調査 3：フォローアップインタビュー、音読

調査 1 から得られた調査対象者 8 名の情報を表 1 に示す。

<表 1> 調査対象者の古語学習経験及び学習モチベーション

	学年	JLPT	学習経験 (渡日前)	学習経験 (渡日後)	古語学習 モチベーション ⁵
K1	2 年	N1	なし	なし ⁶	5
K2	2 年	N1	少しあり	あり	4
K3	2 年	N1	なし	なし	5
K4	2 年	N1	なし	なし	2
K5	3 年	N1	少しあり	あり	2
K6	3 年	N1	なし	あり	3
K7	3 年	N1	少しあり	あり	2
K8	4 年	N1	少しあり	あり	3

3. 調査結果

本発表では、調査 2 の中から「現代語に残る古語を含む表現の理解」、「古語的表現を含む JLPT 学習項目の理解」、「現代語にもある語彙が使われた古語単文の理解」の 3 点を取り上げる。

⁴ 調査に使用する例文は、井上ほか (2008)、深澤 (2022) の中から選定した。

⁵ 5 (是非勉強したい) から 1 (勉強したくない) のスケールで判断してもらった。

⁶ 表 1 で「なし」と回答した調査対象者は、2023 年度後期に履修予定とのことである。

3.1 現代語における古語を含む表現の理解

調査 2 の問 2 では、現代語における古語を含む表現の理解を確認するべく、「はじめに言葉ありき」などの慣用表現の意味を選択肢の中から選ぶ方法で回答してもらった。調査に用いた例文および選択肢は以下のとおりである。

(1) はじめに言葉ありき (正答b)

a. 言葉がある b. 言葉があった c. 言葉があっただろう

(2) 眠れる森の美女 (正答a)

a. 眠っている b. 眠ることができる c. 眠ってしまった

(3) 継続は力なり (正答b)

a. 力になる b. 力である c. 力になった

結果を表 2 に示す。(1)の「はじめに言葉ありき」における「き」は、現代語にはない助動詞であり、K3 と K5 の 2 名が不正解であった。(2)の「眠れる」は形式面では現代語の「よく眠れる (=眠ることができる)」と同じであるが、全員正解であった。(3)の「継続は力なり」は、形式面では現代語の「なる」と同じであり、K1, K2, K7 の 3 名が不正解であった。

<表 2> 現代語における古語を含む表現の理解 ※不正解を網掛け

古語を含む表現	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8
(1) はじめに言葉ありき	b	b	a	b	c	b	b	b
(2) 眠れる森の美女	a	a	a	a	a	a	a	a
(3) 継続は力なり	a	a	b	b	b	b	a	b

(2)と(3)に共通しているのは、どちらも形式面では現代語にも同じものがあるが、意味用法の面で現代語とは異なるという点である。このような共通点があるにもかかわらず、(2)と(3)の結果に差が生じたのはなぜだろうか。それには文脈が関わっていると考えられる。(2)は選択肢 b「眠ることができる森の美女」と解釈するのは不自然であるが、(3)は選択肢 a「継続は力になる」と解釈しても不自然ではない。現代語と形式が同じで用法が異なる古語は注意が必要であるが、それだけでなく、文脈が意味理解に関与していると考えられる。

3.2 古語的表現を含む JLPT 学習項目の理解

調査 2 の問 3 では、古語的表現を含む JLPT 学習項目の理解について確認した。調査文は合計 7 文で、下線部の意味を記述させた。本発表では否定の助動詞「ず」に注目すべく、以下(4)、(5)に示した 2 文を取り上げる。(4)は「ざる」が否定の意味を表し「言わなければならない」が正答、(5)は「ず」が否定の意味を表し「四季に関係なく（関わらず）」が正答である。調査結果を表 3 に示す。

- (4) それは間違っていると言わざるを得ない
 (5) 四季を問わず、美しい景色が楽しめる

(4)の「～ざるを得ない」、(5)の「～ず」はともに N2 の文法項目である。(4)は網掛けで示した K1, K2, K3 が不正解であったが、それ以外の 5 名は想定された解答とは異なるものの、文章全体の意味は正しく理解できていると言える。また、(5)は全員が文章全体の意味を正しく理解できていると言える。

<表 3>現代語に残る「ず」（ざる）を含む表現の理解

	(4)言わざるを得ない	(5)四季を問わず
K1	言わずにはいられない	四季いつでも※
K2	言うまでもない	四季にかかわらず
K3	(解答なし)	四季全部美しい※
K4	言わなければならない	四季に関わらず
K5	言うしかない※	四季にかかわらず
K6	言える※	四季にかかわらず
K7	言わなければならない	四季をかかわらず
K8	言うしかない※	四季とは関係なく

表 3 の結果の中で注目したいのは、※で示した解答である。(4)の正答は「言わなければならない」であるが、「言うしかない」(K5,K8)、「言える」(K6)と理解しても間違っていない。また、(5)の正答は「四季に関係なく」であるが、「四季いつでも」(K1)、「四季全部」(K3)と理解しても間違っていない。調査 3 のフォローアップインタビューにおいて、これらの古語を含む表現をどのように学習したか質問したところ、全員が「かたまりとして覚えた」、「古い表現が含まれているとは知らなかった」と回答した。この結果から、日本語学習者は JLPT で学習済みの文型に含まれる古

語を古語として認識しておらず、形式と意味のマッピング（例「「ざる」は否定を表す」）が行われていないことが示唆される。

3.3 現代語にもある語彙が使われた古語単文の理解

上級日本語学習者が学習済みの古語を含む表現について、形式と意味のマッピングを行っていないことは、調査 2 の問 4 の結果からもうかがえる。問 4 では、現代語にもある語彙が使われた古語単文の理解を調査した。全 5 題の中から否定の「ず（ざる）」を含む「死なぬ薬を食はざれば、つひに死す」の現代語訳を書かせた結果を示す。この文の現代語訳は「死なない薬を飲まなければ、結局死ぬ」である。3.2 で見た「言わざるを得ない」の「ざる」を否定と理解していれば、「食はざれば」の「ざれ」も否定かもしれないという推測が働くことが考えられる。この設問において「ざる」の部分で否定と理解したのは(6)-(8)に示した 3 名であった。

- (6) 死なない薬を飲まなければ(K2)
- (7) 飲むと死なない薬を飲まないと(K3)
- (8) 死にそうでも薬を飲まなかったら(K8)

残りの 5 名は「ざる」を否定として理解していない。以下に 3 例示す。

- (9) 死なない薬を食べたければ(K4)
- (10) 死ぬる薬を飲まされ(K5)
- (11) 死なない薬を飲んだら(K6)

4. おわりに

本研究では、大学で古語を学ぶ必要がある日本語学習者（韓国語母語話者）を対象に古語レディネス調査を実施した。これまでの研究では、日本語学習者に古語のレディネス調査を実施したものは見当たらず、その点において新規性がある。調査の結果、上級日本語学習者は JLPT 学習過程で古語的表現を含む文型（例「～ず」）をかたまりとして理解しており、古語が使われていると認識していないことが示唆された。古語の意味と形式のマッピングを行っていないとすれば、JLPT で既習の古語的表現を含む学習項目を古語学習の導入に活用するのは難しいと考えられる。今回の調査は特定の大学に在籍する韓国語母語話者 8 名のみを対象としたものであり、あくま

でも日本語学習者の古語学習における一側面にすぎない。本研究の結果をもとに、今後も「古語ゼロ初級」の日本語学習者が無理なく学べる教材はどうあるべきなのか、追究していきたい。

引用文献

佐藤勢紀子 (2015) 「文語文を学ぶ日本語学習者が困難を感じる点：非漢字系日本学研究者に聞く」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』1号, pp.163-172

佐藤勢紀子, 虫明美喜, 角南北斗, 金山泰子 (2021) 「e-learning 教材 "BUNGO-bun GO!" の評価 - 留学生を対象とする文語文関連授業での試用を通じて -」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第7号, pp. 395-407

深澤愛 (2013) 「外国人留学生の文語文法・古語学習について考える(1)一文語助動詞の場合」『文学・芸術・文化—近畿大学文芸学部論集—』25-1, pp.75-89

深澤愛 (2022) 『現代日本語をちゃんと説明するための古典文法入門—日本語教師読本 10—』webjapanese ブックレット

<古典文法教材・日本語教育教材>

庵功雄 (2021) 『留学生のための近代文語文入門 現代の日本と日本語を知るために』スリーエーネットワーク

井上摩梨ほか (2008) 『ステップアップノート 30 古典文法基礎ドリル三訂版』河合出版

友松悦子他 (2011) 『新完全マスター文法 日本語能力試験 N2』スリーエーネットワーク

日本語学習者による会話での相槌「確かに」の 使用実態に関する考察

南 明世 (国際医療福祉大学)

1. はじめに

近年、大学生などの若年層でよく単独用法が使用されている (原田 2010)。本発表では (1) のような「確かに」の単独用法を相槌の一種¹とし、日本語学習者と日本人の使用実態を比較することで、会話における「確かに」の問題点を明らかにすることを目的とする。

- (1) a. これかわいくない？
b. 確かに。

2. 先行研究

2.1 原田 (2010)

原田 (2010) は大学生による日常会話をデータとして会話分析の視点から「確かに」について考察し、(2) のような単独用法が大学生などの若年層でよく使用され、「聞いていることの表示」や「発話継続の促し」を表すあいづち的「たしかに」があるとしている。

- (2) a. 知らなかった...方言かと思ったよ。
b. ね。なんか分かんないよね。
a. うん
b. その人の口癖なのか、方言なのか。

¹ 相槌とは話し手が発話権を行使している間に聞き手が送る短い表現 (メイナード 1993: 58)

a. たしかにね。

(原田2010の例7から抜粋)

2.2 望月 (2015)

望月 (2015) では「確かに」は **social action** として成り立つ独立した発話であり、相手の発話を受け入れる **token agreement** であると述べている。更に、会話コーパスから男性より女性の方が積極的に単独度の高い用法 を用いており、男性はインフォーマルな会話での使用が多いのに対し、女性はフォーマルな会話でもインフォーマルな会話でも使用していることを指摘した。その機能として「たしかに」の単独用法は相手の発話を一旦受け入れる機能を持っていると述べている。

以上の先行研究から、男女の差や場面の差はあれ、従来の修飾語としての陳述副詞の用法以外にも独立性の高い用法の使用が増えてきており、会話において相槌的に使用されているものがあることがわかる。その機能としては、相手の判断の受容や相手の発話を一旦受け入れる機能を持っており、「聞いていることの表示」や「発話継続の促し」など意味が希薄化したものも見られている。本発表ではこのような「確かに」の用法を元に、学習者と比較することでその特徴を明らかにする。

3. コーパス調査

3.1 多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)

本発表では国立国語研究所の多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS) に対して中納言を使用し用例を採取した。検索キーを語彙素読み「タシカ」として抽出されたものから、目視で「に」が後続するものを抽出した結果、249 件みられた。このうち日本語母語話者の発話が 77 件 (31%)、学習者の発話が 172 件 (69%) であった。主に日本語母語話者との 30 分間の対話の課題での出現が 218 件と多く、ロールプレイングの課題 (依頼・断り) で 39 件、ストーリーテリングの課題で 2 件出現している。本発表ではこのうち対話の課題で出現したものに注目する。

3.2 調査結果

I-JAS で抽出した「確かに」の例文を相槌用法と修飾用法に分け、さらに「確かに、しかし」のような逆説が後続するものの数を表 1 に示す。

<表 1> 母語話者・学習者別に見る「確かに」の形式

	日本語母語話者	日本語学習者
相槌用法のみ	19件 (24.7%)	56件 (32.6%)
相槌用法+逆説	0件 (0.0%)	2件 (1.2%)
修飾用法のみ	46件 (59.7%)	94件 (54.7%)
修飾用法+逆説	12件 (15.6%)	9件 (5.2%)
誤用	0件 (0.0%)	11件 (6.4%)
合計	77件 (100%)	172件 (100%)

日本語母語話者と日本語学習者で出現数は異なるものの、おおむね同じような傾向を表している。違いは日本語学習者に「相槌用法+逆説」の表現が少ないながらもみられたこと、また「修飾用法+逆説」の表現が日本語母語話者の方が比較的によく出現したこと、日本語学習者には誤用も一部出現したことである。

以下、それぞれの形式別にその特徴を考察する。

3.2.1 相槌用法

相槌用法での日本語母語話者 (NS) と日本語学習者 (NNS) の使用を見る。日本語母語話者の相槌の使用は (3) や (4) のように相手の話す文の合間に使用されている特徴がある。

- (3) NNS. 感染症だところ窓開けられないとかー
 NS. あーなるほどーそうだ、そうですね。確かに。
 NNS. 大変だなって思っていたんですけど
- (4) NNS. わかんない、時代劇に出てくるような
 NS. あ、ああ、確かに、なるほどなるほど
 NNS. 感じのイメージしかないんですけど

一方、日本語学習者は (5) のように応答としての使用がみられた。また、日本語学習者も「ね」や「確かに確かに」といった繰り返しなど、日本語母語話者に近い相槌的用法がみられた。また、日本語学習者には (6) のように「～ね。確かに。」のような形式がいくつかみられた。

(5) NS. きれいな所ありますか？、あー海のそばって言った…

NNS. あー確かにね。けっこう、んーきれいな町ですね。

(6) NS. みんなで公園に行つてのんびりすることもできるし。

NNS. うーん。

NS. ですよ。 確かに。でもーもしーお金がなければ…

3.2.1 修飾用法

次に修飾用法について見る。日本語母語話者は (7) のように自分の意見を表明する場合や (8) のように当該行為が確からしいことを表す場合などがみられた。日本語学習者も (9) のように同様の使用がみられた。

(7) NS. 蓄えてもそのそれを死後の世界に持っていくことはできないと。

NNS. うんうん。

NS. まあ、確かにその通りだなーって思いますね。

(8) NS. んー不便な点、そうですねー、まあ終電確かに遅いですし。

(9) NNS. こういうことだろうというふうに考えるとことですね、へーそれが確かにまー困るかな。

3.2.2 逆説の後続

修飾用法には日本人母語話者も日本語学習者も (10) や (11) のような逆説文が後続する用法がみられた。

(10) NS. なんか周りからは結構優しい先生だねって言われるんですけど、

NNS. はいはい。

NS. ま、確かに厳しいには厳しいんですけど、すごい面倒見がよくてー

(11) NS. シリン、シリン夜市。

NNS. あ、シリン夜市ね、はいはいはい。 確かに有名だけーあたしはそこはー、あまり、あまり好きではないと思います。

樋口 (2022) では「確かに、しかし」を「相手の意見に理解を示しつつ、自分の意見を語る方法」(p.18) と述べ、「相手の立場と自分の立場を示して、その一致点を見

つけ、妥協、あるいは統一を見つけ出すための表現」(p.25)であると述べており、かなり相手に配慮した言い方である。このような用法が日本語母語話者のみならず日本語学習者にもみられた。

3.2.3 誤用

最後に日本語学習者の誤用について見る。(12)のように「確か」との誤用の場合と、(13)のように「確実に」のようなニュアンスから「絶対に」との誤用だと思われるパターンがみられた。

(12) NS. じゃ、日本はどこに行きたいんですか？

NSS. こう、た、確かに高知、高知ですかね。

(13) NS. 私にとって一ん一、まあ私はいつか、ま確かに、せんせになりたいので、たぶんもう、もう選んだと思います。

4. おわりに

本発表では、多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS) を用い、「確かに」の使用について日本語学習者が会話の中で「確かに」をどのように使用しているかを日本語母語話者と比較することで、その違いについて見た。その結果、相槌用法や修飾用法、逆説が後続する用法など、日本語母語話者にかなり近い使用が多く見られた。特に逆説が後続する用法など相手に配慮しつつも自分の意見を述べる用法が日本語学習者にも見られた。しかし、相槌用法において、日本語母語話者は相手の会話の合間でも使用しているのに対し、日本語学習者は応答として使用していた。また、日本語学習者には「確か」や「確実に」などとの混同による誤用が一部見られた。

引用文献

- 泉子・K・メイナード (1997) 『日英語対照研究シリーズ 2 会話分析』くろしお出版
原田幸一(2010)「現代東京の話しことばにおける言語形式 「たしかに」-大学生による日常会話をデータとして-」『社会言語科学』第 13 巻第 1 号, pp.136-150,社会言語科学会
樋口裕一 (2022) 『「確かに、しかし」で生きかた上手一たつたふたことの賢い成功術』、さく

ら舎

李澤熊(2009)「「確かに」と「間違いなく」の意味分析」『国際シンポジウム「異文化としての日本」記念論文集』p. 83-92,名古屋大学大学院国際言語文化研究科

望月雪絵(2015)「現代日本語の「たしかに」—「なるほど」と「たぶん」との比較から—」『思言東京外国語大学記述言語学論集』第11号 pp.173-180,東京外国語大学地域文化研究科

中国語の“互相/相互”と日本語の「互い」との対照研究

—言語類型論の観点から

郭蓉菲（中国 中南大学）

1. 問題提起

中国語における“互相/相互”も日本語における「互い」も、相互用法 (reciprocal use) がある。

(1) 几个小青年在那儿凑到一起,放肆地笑,扯开嗓子喊,闹着闹着,有两个人动了手,先是你一拳我一脚,接着又摔跤,滚在一块儿;滚打累了,自动休战,互相拍打身上的土,用最难听的词儿骂着对方。¹

(2) 小野:お互いに見ているわよね。森さんも私の仕事を見ているし。

森:そうですね、お互いに見ていましたね。……²

例(1)における“互相”は「甲は乙の体についている土を叩き落とし、乙も甲の体についている土を叩き落す」と意味し、例(2)における「互い」も「小野は森の仕事を見ているし、森も小野の仕事を見ている」と意味する。

唐贤清 (2006) は言語類型論の角度から、日本語の「互い」は中国語の“互相/相互”と同様な文法機能を持っていると指摘する。

(3) 互相印证:お互いに確認する。

(唐贤清2006:12)

Chomsky (1981)は束縛理論 (Binding Theory) を提出し、照応形 (anaphor) には再帰形と相互形が含まれると指摘する。しかも、照応形は例(4)のとおり、それをC統御

¹ 例(1)は北京日本語学研究センターによって開発された「中日対訳コーパス」の中からピックアップ。

² 例(2)は日本国立国語研究所によって開発された「中納言 現代日本語書き言葉均衡コーパス」の中からピックアップ。

する先行詞「John and Mary」を含む TP 内に生起すると述べている。

(4) I know that John and Mary_i hate each other_i.

これまで“互相/相互”或いは「互い」を中心に行われる研究があまり多く見られない。顔明(2017)などが中国語の“互相/相互”の文法機能などに触れたが、詳細に検討したものとは言えない。刘探宙(2003)は“互相/相互”の相互用法を検討し、英語の「each other」に対応する相互形(reciprocals)であると主張する。一方、「互い」は日本語において「相互代用形」(reciprocals)と呼ばれている(井川寿子 2000:57)。三原健一、平岩健(2006)は「互い」の長距離束縛が可能な場合を検討した。本稿では、英語の「each other」を出発点として、対照言語学の角度から中国語の“互相/相互”と日本語の「互い」の意味上と統語上の特徴を突き止め、両者の実体に分け入る。さらに、言語類型論の角度から両者の特徴を位置づけてみる。

2. 中国語の“互相/相互”の属性

2.1. 中国語“互相/相互”の意味特徴

井川寿子(2000)は「相互性」を「強い相互性」(Strong Reciprocity)と「弱い相互性」(Weak Reciprocity)を分けている。例えば

(5) They like each other. → Every one of them likes every other one.

(6) The men are hitting each other.

(井川寿子2000:58)

例(5)における「They like each other」を「Every one of them likes every other one」といった意味を取る場合、それは「強い相互性」であり、すなわちすべての構成員が本人以外の他のメンバーすべてに好意を持っているという状況を要求する(井川寿子 2000:58)。例(7)について、Sを男の集合だとすれば、以下のように理解できる。

(7) Every member of S hit every other member of S.

(井川寿子 2000:59)

ここで、その集合のすべての構成員が、同じ集合の他のすべての構成員と、相互になぐりあう関係が成立しているということを保証する(井川壽子 2000:59)。それ以外、以下の例(9)のように理解することもできると井川が述べている。

- (8) S can be divided into subsets S_i such that every member of S_i hit every other member of S_i . [S:the set of men]

(井川壽子 2000:59)

これに基づき、例(5)は構成員の全員が、他の構成員全員に好意を持つことを要求するものではないと含意する場合もあり、それは「弱い相互性」であると井川は呼んでおり、英語の「each other」の文には、曖昧性を許し、集合の構成員の数が3以上になると、その相互性は弱められることになる。つまり、構成員の数が増すほど、その相互性の多義性の度合いも強まると氏は述べている。

さらに、氏は「弱い相互性」として以下の例(9)(10)のような「each other」に含まれる「線形順序型相互性」の場合もあると話している。

- (9) The boys fell on top of each other.

- (10) The trays are stacked on top of each other.

(井川壽子 2000:61)

例(9)は「一人の少年がまず倒れ、別の少年がその少年の上に倒れ、同じようにして、複数の少年が次々と倒れて全体で山型を成すというものである……最初に倒れた少年、すなわち、一番下の少年は、直接床に身体を接しているはずであるから、他の誰の身体の上にも乗っていない。同様に、最後に倒れた少年、結果的に一番上になる少年は、誰も自分の上に乗せることはない」を意味すると井川壽子は説明している。例(10)も同様である。そして、この線形順序に基づく関係が、一次元のみではなく、例(11)のように多次元にも広がりうる関係であるということである。この場合、無造作に靴が積み上げられるわけであるから、多次元的線形性を成す非対称的關係と見なければならぬ(井川壽子 2000:62)。

- (11) The shoes are piled up on the top of each other.

中国語の“互相/相互”にも「強い相互性」、「弱い相互性」の用法がある。

(12) 夫妻之间更多的是相互迁就、风雨同舟、患难与共。³

(13) 我在一个很隐蔽的小口袋里藏有一把折刀，可以相互传递，这样短时间内我们大家都可把捆绑我们的绳索割断。

しかも、「線形順序型相互性」である際、構成員が必ず3人以上であるに限らず、2人の場合もある(例14)。そして、多次元的線形性を成す場合もある(例15)。

(14) 关于人和动物之间耐药质粒的传递问题，一直存在争论，但已有实验证实了耐药基因可以在人和动物之间相互传递，即动物原的耐药菌株可以向人传播。

(15) 社区物业管理要好，要有电话热线，邻里间要相互帮助。

ほかに、中国語の“互相/相互”には非相互用法もある。

(16) 这同美朝相互坚持各自原则、事实上处于“决裂”状态的前两轮会谈相比,可谓是一大进步。

2.2 中国語“互相/相互”の統語特徴

中国語の“互相/相互”の相互用法も非相互用法も、例(12)と例(16)に示すとおり、それをC統御する先行詞を含むTP内に生起する。しかし、英語の「each other」と異なり、分離先行詞(Split Antecedent)の現象もある。

(17) 狗和老鹰_i只要人_j来喂养它们就会互相_{i+j}产生感情。如果你想用感情和感恩的纽带来束住人的话，你还得使他感到你的善意和仁慈。

(18) 繁盛的汉民族文化_i，自古就以其非凡的艺术魅力吸引和影响其他民族的文化，并给他们增添了色彩。同时也从其他民族文化_j中吸取养料，相互_{i+j}学习，相互_{i+j}发展。

³ 例(12)・(20)は北京言語大学によって開発された「BCC現代中国語コーパス」の中からピックアップ。

そして、「相互用法」にも「非相互用法」にも長距離束縛(Long Distance Binding)の用法が見られる。

- (19) 如果有两个孩子，他们_i看着 [年老的父母_j就会互相_i推诿]。那么，作父母亲的就在想：“我怎么还不死？我怎么要靠他们的施舍来给我生存的保证？”
- (20) 部门_i不同，相关利益也不同，甚至互相对立，这是很自然的现象，但如果一味采取自我本位，恣意坚持自己的主张，势必将无以顾全组织的目标。「管理者_j的原始角色即为解决对立，以使整体组织获得更大的利益，因此在互相_i坚持己见的对立之后」，应超越“部门”的立场，注视公司整体的利益，以提高公司业绩为总目的。

3. 日本語の「互い」の属性

3.1 日本語「互い」の意味特徴

日本語の「互い」にも「強い相互性」と「非相互用法」があり、いずれも二つの事象を表すと井川（2001）は主張する。

- (21) その二人の男たちはお互いを批判した。
- (22) 明と京子は、お互いが意地を張っているようだ。

(井川壽子2001:55-56)

「互い」には「弱い相互性」の用法もあり、多事象を表す場合もあるのに気づいた。

- (23) 子どもたちどうし_iがお互い_iにテストし合ったり教え合ったりして、教室にいい学習の雰囲気生まれます。⁴
- (24) 今の七十歳以上の人だけでなく、今後七十歳になる人たちも敬老パスを利用できるようにするには、市_i・交通事業者_j・利用者_mの三者がお互い_{i+j+m}に負担をし、制度を支えていく必要があります。

⁴ 例 (23)・(27) は日本の国立国語研究所によって開発された「中納言 現代日本語書き言葉均衡コーパス」の中からピックアップ。

3.2 日本語「互い」の統語特徴

「互い」は中国語の“互相/相互”と同様、「相互用法」も「非相互用法」もそれをC統御する先行詞を含むTP内に生起する。

(25) 市では、[男女_iがお互い_iを尊重し、共に参画できる社会づくり]を目指しています。

そして、分離先行詞、長距離束縛、従属節束縛などの現象がある。これらの用法はいずれも英語の「each other」には含まれていないのである。

(26) あの人_iがそばにいるなら、あたし_jは互い_{i+j}にとって必要なだけ、これを抱いている。

(27) 一心同体、自分の一部のようにってしまった人間_iと別れるときには、[野生の動物_jが噛み合っ
て別れていくように、お互い_{i+j}*を傷つけ合うことで]しか別れることができないのかもしれない。

(28) 二人_iの固執はお互い_iを害した。

4. 中国語“互相/相互”と日本語「互い」の属性対照

ここで、中国語“互相/相互”と日本語「互い」の意味特徴の異同を表1に示す。

表1 中国語“互相/相互”と日本語「互い」意味特徴の対照

	相互性				非相互性 (平行性)
	強い相互性		弱い相互性		
	一事象 (多主体が共同に 一つの行為を成し 遂げる)	非一事象 (多主体が交互 に同様な行為を 実施)	一事象 (二つの主体の 中の一方向他方 に対し、行為を 実施)	非一事象 (多主体が多事 象或いは多次元 事象を成し遂げ る)	
“互相/相 互”	+	+	+	+	+
「互い」	+	+	-	+	+

唐贤清 (2006) は通時的な視点から、中国語の“互相/相互”が古代の副詞“互”と“相”が結合して形成し、その意味特徴は“相”に依存すると述べている。

/彼此互为施受（交互性）
 相-省視、察看 -彼此单独施事（单向性）
 \彼此共同施事（共同性）

唐賢清（2006:6）

一方、『中納言 日本語歴史コーパス』を全般検索し、「互い」の関連用例 83 例を集められた。その具体的な意味特徴は以下の表 2 のとおりである。

表 2 『中納言 日本語歴史コーパス』における「互い」の意味特徴

相互性			非相互性 (平行性)	合計
強い相互性		弱い相互性		
一事象	非一事象	非一事象		
(多主体が共同に一つの行為を成し遂げる)	(多主体が交互に同様な行為を実施)	(多主体が多事象或いは多次元事象を成し遂げる)		
15 (18.07%)	29 (34.94%)	3 (3.61%)	36 (43.37%)	83 (100%)

“互相/相互”と「互い」の統語特徴の異同を以下の表 3 にまとめてみる。

表 3 中国語“互相/相互”と日本語「互い」統語特徴の対照

	相互性				非相互性			
	短距離束縛	分離先行詞	長距離束縛	従属節束縛	短距離束縛	分離先行詞	長距離束縛	従属節束縛
“互相/相互”	+	+	+	-	+	+	+	-
「互い」	+	+	+	+	+	+	+	-

5. 他言語との対照

陸丙甫、金立鑫（2015:70）は相互と再帰が意味上の関連性を持っているので、相互形と再帰形が緊密に繋がっている。それで、Akan 語のように再帰形の重複によって相互意味を表す言語があると述べている。

- (29) Wohuu wɔn ho wɔn ho
They.saw their body their body
'They saw each other.'

(陆丙甫、金立鑫2015:70)

そして、再帰形によって相互意味を表す言語もある。例えばドイツ語の「sich」である(陆丙甫、金立鑫 2015:70)。スペイン語にも同じ現象がある。

- (30) Lily se elogió a sí misma. (再帰)
Lily praised herself.
(31) Se gustan. (相互)
They like each other.

韓国語は中国語や日本語の場合と同様であり、再帰と相互は異なる言葉で表現する。

- (32) 릴리는 자기를 좋아한다. (再帰)
Lily likes herself.
(33) 그들은 서로 사랑한다. (相互)
They like each other.

しかも、韓国語の「상호」にも相互用法があり、正式な場合に使われると見られる。そして、「서로」「상호」には非相互用法もある。

- (34) 美国和韩国互相坚持各自原则。
미국과 한국은 서로 각자의 원칙을 고수한다.
미국과 한국은 상호 각자의 원칙을 고수한다.

参考文献

Chomsky, N. Lectures on Government and Binding, Dordrecht·Foris, Publications, 1981.

井川壽子. 「お互い」の相互性を考える-類型論の観点から. 鶴見大学紀要 37号, 2000 : 57-72.

井川壽子. 「お互い」の意味の諸相·非相互用法と事象量化. 鶴見大学紀要 38号, 2001, 53-65.

三原健一, 平岩健. 新日本語の統語構造. 東京 : 松柏社, 2006.

刘探宙. 汉语的相互代词及其指称特点. 语法研究和探索 (十二), 2003 : 118-140.

陆丙甫, 金立鑫. 语言类型学教程. 北京: 北京大学出版社, 2015.

唐贤清. 副词“互相”、“相互”的演变及其原因分析. 古汉语研究, 2006 (4) : 6-15.

徐丹. 关于约束理论. 国外语言学, 1989 (2) : 66-72.

颜明. “互”“相”与“互相”句法功能比较研究. 南京师范大学文学院学报, 2017 (2) : 172-177.

日本語の「V 出す/出る」と中国語の“V 出”の対照研究

羅非凡（名古屋大学院生）

1. はじめに

本発表は日本語の「V1 出す」と「V1 出る」と中国語の“V 出”の違いについて論じるものである。日本語の「V1 出す」と「V1 出る」は例 (1) と (2) のように、中国語と対応する場合と対応しない場合がある。一方、中国語の“V 出”は例 (3a) のように日本語の「V1 出す」だけと対応する場合があり、例 (3b) のように「V1 出る」だけと対応する場合がある。また、例 (4) のように「V1 出す」と「V1 出る」と両方対応しない場合もある。

- (1) 心臓が口から {飛び出す/飛び出る} そうだ。
(心脏要从嘴里跳出来似的。)
- (2) a. 新たな世界に飛び出す。 ({*进出/进入} 新的世界。)
b. 宇宙に飛び出しています。 ({*进出/进入} 太空。)
- (3) a. 把他赶出家门。 (彼を家から {追い出す/*追い出る} 。)
b. 发出明亮的光。 (明るい光が {*輝き出す/輝き出る} 。)
- (4) 他笑出声来。 (彼が {*笑い出す/*笑い出る} 。)

2. 先行研究

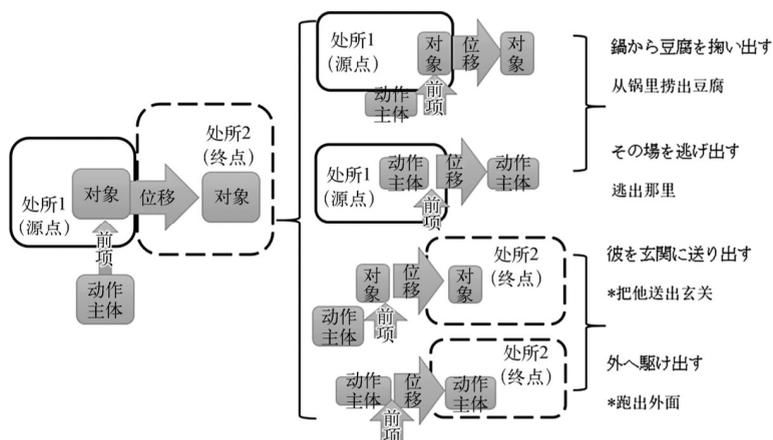
日本語の「V1 出す」と中国語の“V 出”を対照する研究は翟东娜・张丽虹 (2017) 楊晓敏 (2020) がある。翟东娜・张丽虹 (2017) は日本語の「V1 出す」と中国語の“V 出”の対応関係は表 1 のように示している。

<表 1> 「V 出す」的汉语对译

から	を	に/へ向かって/ に向けて	へ/へと	に	まで
从/由 V 出 (来)、V 出	V 出、 过去	V 向	V 向、V 到、 V 进	V 到、 V 进	V 到

日本語の「V 出す」は起点、経由点、方向、着点と共起するが、中国語の“V 出”は起点としか共起しないと指摘している。

楊曉敏（2020）は翟东娜・张丽虹（2017）を参考する上で中国人日本語学習者の誤用の観点から、日本語の「V1 出す」と中国語の“～出”の違いを考察している。その結果、以下の意味図式を示しているように、日本語の「V1 出す」は到着点の「ニ格」や「へ格」と共起する場合、「場所（处所 2）」は焦点化できるのに対し、中国語の“～出”は焦点化できないという違いがあると指摘している。



楊曉敏（2020：17）

図 15 「复合动词后项「-出す」和汉语趋向补语“～出”的对应」

しかし、例（5）のような到着点の「ニ格」と共起する場合、中国語の“V 出”と対応することが見られる。

(5) 成分が血液に溶け出す。(成分在血液里溶解出来。)

したがって、本発表は先行研究を踏まえ「V1 出す」はどのような場合に中国語の“V 出”と対応するかを改めて考察したいと考えている。また、「V1 出る」も加えて対照しながら考察を行う。

3. 本研究の分類とコーパス調査

羅非凡（2023）は「V1 出す」と「V1 出る」の前項動詞を「語彙的な意味」によって分類した。本発表はこの分類に基づいて、中国語の“V 出”と結合する前項動詞を分類し日本語との対照を行う。

中国語は「北京语言大学语料库」を用い、考察対象の“V 出”を抽出した。

<表 2> “V 出”と用例数（上位 148 語）

順番	V 出	用例数	順番	V 出	用例数	順番	V 出	用例数
1	作出	140,939	51	穿出	4,841	101	嫁出	2,514
2	做出	77,264	52	分离出	4,819	102	奔出	2,510
3	表现出	32,947	53	探出	4,779	103	挑出	2,501
4	说出	29,968	54	讲出	4,688	104	折射出	2,478
5	想出	22,011	55	哭出	4,660	105	杀出	2,450
6	写出	19,036	56	划出	4,659	106	评选出	2,449
7	掏出	17,854	57	拨出	4,552	107	调出	2,396
8	显示出	16,395	58	展现出	4,547	108	筛选出	2,382
9	冒出	16,380	59	总结出	4,514	109	蹦出	2,364
10	打出	15,676	60	喊出	4,490	110	呼出	2,353
11	呈现出	14,843	61	献出	4,450	111	办出	2,308
12	吐出	13,720	62	跨出	4,412	112	营造出	2,305
13	跑出	12,652	63	画出	4,363	113	窜出	2,201
14	开出	12,163	64	抛出	4,302	114	贴出	2,200
15	反映出	12,013	65	显现出	4,094	115	结出	2,193
16	创造出	10,449	66	站出	4,072	116	吃出	2,175
17	体现出	9,416	67	释放出	4,027	117	摸索出	2,162
18	逃出	8,485	68	显露出	3,985	118	迸出	2,155
19	检出	8,463	69	制造出	3,849	119	产生出	2,134
20	道出	8,442	70	唱出	3,795	120	研究出	2,130
21	流露出	8,336	71	弄出	3,760	121	捐出	2,108
22	摆出	7,903	72	爬出	3,751	122	创作出	2,105
23	开发出	7,807	73	亮出	3,720	123	焕发出	2,103

24	涌现出	7,697	74	浮现出	3,652	124	踢出	2,102
25	笑出	7,573	75	钻出	3,649	125	表示出	2,070
26	翻出	7,450	76	求出	3,574	126	捞出	2,020
27	飞出	7,402	77	溶出	3,533	127	展示出	2,020
28	送出	7,283	78	测出	3,505	128	扔出	2,019
29	培养出	7,171	79	闪出	3,478	129	勾勒出	2,001
30	听出	7,152	80	摸出	3,417	130	留出	1,948
31	拉出	6,975	81	分出	3,414	131	闹出	1,929
32	喷出	6,672	82	踏出	3,402	132	追出	1,885
33	带出	6,604	83	设计出	3,389	133	整理出	1,885
34	装出	6,523	84	表达出	3,368	134	揪出	1,874
35	散发出	6,371	85	抓出	3,312	135	请出	1,861
36	救出	6,358	86	造出	3,306	136	制订出	1,806
37	发挥出	6,338	87	拖出	3,220	137	使出	1,778
38	透出	6,163	88	解放出	3,144	138	搜出	1,688
39	暴露出	6,139	89	干出	3,128	139	挥出	1,677
40	研制出	6,082	90	弹出	3,125	140	挖掘出	1,628
41	挖出	6,046	91	猜出	3,070	141	活出	1,607
42	拍出	6,030	92	问出	3,070	142	照出	1,599
43	赶出	5,983	93	溜出	2,970	143	发掘出	1,561
44	生产出	5,923	94	寄出	2,943	144	映出	1,560
45	制定出	5,903	95	算出	2,914	145	刺出	1,549
46	叫出	5,204	96	搞出	2,793	146	泛出	1,505
47	长出	5,121	97	闯出	2,764	147	揭示出	1,500
48	浮出	5,037	98	读出	2,692	148	分辨出	1,471
49	计算出	4,958	99	探索出	2,588			
50	滚出	4,896	100	胜出	2,521			

4. 日本語の「V1 出す/出る」と中国語の“V 出”の違い

本発表は上述した研究対象語を分類し、表 3 のようになる。(ページ制限があるため、要旨には本発表の分類の一部を示す。)

<表 3> 「V1 出す/出る」と“V 出”の前項動詞による分類 (一部)

V1 の意味		V1 出す(148 語)		V1 出る(55 語)		V1 出(148 語)	
		V1 の 自他	例 (V1)	V1 の 自他	例 (V1)	V1 の 自他	例 (V1)
I	②自	他	追い-, 駆り-	他	-	他	赶, 追

人間の肉体的動作	己運動としての動作・変化	自	飛び-(跳び-)、乗り-、駆け-、起き-、せり-、 <u>這い-</u> 、跳ね-	自	<u>飛び-</u> 、進み-、 <u>這い-</u> 、泳ぎ-、滑り-、歩み-、彷徨い-、逃げ-/逃れ-、走り-、踊り-、舞い-	自	跑、逃、飞、滾、探、跨、站、爬、钻、溜、闯、奔、蹦、窜
----------	--------------	---	---	---	---	---	-----------------------------

4.1 I 人間の肉体的動作

4.1.1 ①対象にはたらきかける動詞(略)

4.1.2 ②自己運動としての動作・変化

自己運動としての動作・変化を表す V1 と共起する場合、日本語は例(6)の「対象-ヲ 出発点-カラ V1 出す・主体-ガ 出発点-カラ V1 出す/出る」と例(7)の「主体ガ 到着点(空間)-ニ V1 出す/出る」の二つのパターンに分けられる。前者は中国語の“V 出”と対応するのに対し、後者は“V 到/入”と対応する。

(6) a.彼を家から追い出す。(把他从家里赶出来。)

b.田中さんが洞窟から泳ぎ出た。(田中从洞窟里游出来。)

(7) 新たな世界に {飛び出す/飛び出る}。({ *进出/进入 } 新的世界。)

5. おわりに

本発表は以上のように、語彙的・統語的特徴から日本語の「V1 出す」と「V1 出る」と中国語の“V 出”の違いを考察した。

引用文献

奥田靖雄 (2015) 『奥田靖雄著作集3 言語学編(2)』むぎ書房

姫野昌子 (1987) 「複合動詞「～でる」と「～だす」」『日本語学校論集』4号,pp.71-95

羅非凡 (2023) 「移動を表す複合動詞「V1 出す」と「V1 出る」の前項動詞の特徴について」『東アジア日本学研究』第9号,pp.71-80

刘月华 (1998) 《趋向补语通释》北京语言文化大学出版社

杨晓敏 (2020) 《论汉语“出”类动词的语义图式差异——从“进入宇宙”和“宇宙に出る”

的对应说起》《复旦外国语言文学从论》春季号, pp. 11-20

翟东娜 张丽虹 (2017)《复合动词 V 出ず的空间位移终点表达——兼与汉语比较》《汉日语言对比研究论丛》(第 8 辑)华东理工大学出版社,pp.169-181

BCCWJ オンライン検索システム : <https://nlb.ninjal.ac.jp/>

Web データに基づく複合動詞用例データベース (開発版) : <https://csd.ninjal.ac.jp/comp/index.php>

荀恩东, 饶高琦, 肖晓悦, 臧娇娇. 大数据背景下 BCC 语料库的研制[J], 语料库语言学, 2016(1)<http://bcc.blcu.edu.cn/>

한·일 양언어 들숨 췌소리의 소통의미와

발화의도의 중요성

서정우

1. 서론
 2. 선행연구
 3. 들숨 췌소리의 소통의미와 발화의도 분석
 - 3.1 분석목적
 - 3.2 분석방법
 - 3.2.1 발화 자료수집
 - 3.2.2 들숨 췌소리의 기호화
 - 3.2.3 발화 자료의 데이터베이스화
 - 3.3 분석 결과 및 고찰
 - 3.3.1 간투사적(공격적,비공격적)들숨 췌소리
 - 3.3.1.1 소통의미와 발화의도
 - 3.3.1.2 한·일 양언어 들숨 췌고리의 비교
 - 3.3.1.3 분석 결과
 - 3.3.2 정중도 표시자적 들숨 췌소리
 - 3.3.2.1 소통의미와 발화의도
 - 3.3.2.2 한·일 양언어 들숨 췌고리의 비교
 - 3.3.2.3 분석 결과
 - 3.3.3 국면회피적 들숨 췌소리
 - 3.3.3.1 소통의미와 발화의도
 - 3.3.3.2 한·일 양언어 들숨 췌고리의 비교
 - 3.3.3.3 분석 결과
 4. 결론 및 과제
- [참고문헌]

한·일 양언어의 음성커뮤니케이션의 기초적인 연구로서 들숨 쉼소리의 심리적 의미와 기능에 중요성을 알아보고자 한다. 외국어를 배우는 외국인 학습자들의 가장 큰 목적은 유창하고 원활하게 의사소통을 하는데 있다. 대부분 사람들이 원어민처럼 능숙한 언어를 구사하고 싶어 하는 마음일 것이다. 유창한 의사소통이란 상황에 맞게 적절하고도 효과적인 언어사용을 함으로써 언어구조와 다양한 어휘 및 문법 지식의 습득만으로 얻어지는 능력이 아니다. 실제상황에 직면하게 되면 적절한 표현과 이해에 있어 큰 어려움을 겪을 수 있다.

예를 들어 일본어의 ‘ばか’의 경우 도쿄와 오사카에서 주변인에게 ‘ばか’라고 말할 때, 오사카에서는 부정적 의미의 표현이고 도쿄는 친근한 긍정적 의미에서 나타내는 표현이다. 그리고 그 상황에서의 분위기와 몸짓 행위를 하는 동안에 언어를 사용하지 않고도 간단히 의사 표현을 할 수 있다. 이 때문에 제 2언어로 외국어를 배우는 학습자들을 대상으로 하는 교육에서 부차언어 표현이 중요하다고 생각된다.

커뮤니케이션에 사용하는 대표적인 도구는 음성언어이다. 그러나, 전적으로 음성언어에만 의지하는 것은 아니다. 대화를 할 때 상대의 얼굴 표정, 눈빛, 목소리, 제스처, 자세, 접촉 등과 같은 비언어적 요소들을 살피게 된다. 비언어적 표현으로 메시지를 주고받을 수 있으며 말로써 표현하기 힘든 경우는 부차언어를 사용하는 양상에 따라서 들숨 쉼소리의 소통의 의미와 발화의도의 중요성이 드러나기 때문이다. 그래서 부차언어의 사용 양상은 여러 문화권의 사람들과 함께 어울려 사는 다문화사회로 진행됨에 따라서 의사소통 전달에 언어적 표현과 동시에 비언어적 표현의 중요성도 커지고 있다. 같은 언어를 쓰는 경우에도 비언어적 요소에 따른 오해의 소지는 다분하다. 다른 언어, 다른 문화를 지닌 사람들끼리의 의사소통은 훨씬 어려울 수 밖에 없다. 어느 나라의 언어를 숙지한다고 하더라도 비언어적 표현을 무시해서는 효과적인 의사소통을 할 수 없고 오해로 인해 불편한 상황이 일어날 수 있다.

따라서 본고에서 의사소통 과정에서 언어적 표현 못지않게 비언어적 표현이 큰 비중을 차지하고 있지만, 아직 교육 현장에서 거의 다루어지지 않고 있는 비언어적 표현의 개념과 특성 나아가 부차언어의 심리적 의미와 기능에 대하여 알아보고, 또한 단계별 교육에서 알아야 할 기능을 제시하고 그 기능에 어울리는 상황과 비언어적 행위, 언어표현 등 학습자들이 비언어적 표현에 대한 이해를 높이고 언어능력과 비언어적 표현을 적절히 구사하여 성공적인 의사소통을

할 수 있도록 하고자 한다.

한일 만화에서 나타난 놀람표현 대조연구

고원영(고려대학교)

1. 들어가며

우리는 뜻밖의 일을 겪고 가슴이 두근거릴 때, 신기하거나 놀라운 것을 볼 때 놀람의 감정을 느낀다. 놀람의 감정은 기쁨, 슬픔, 분노 등과 같이 우리의 생활에서 자주 느끼는 감정표현 중 하나이다. 하지만 놀람의 감정은 다른 감정과 달리 느끼는 정도가 짧으며, 몇 초밖에 지속되지 않고, 다양한 감정적 원인에 영향을 받기 때문에(Pual Ekman, 2020), 놀람의 감정은 우리의 생활에서 빈번하게 느끼는 감정이라 할 수 있다. 본 연구에서는 한국어와 일본어에서 나타나는 놀람의 감정어휘와 감정표현을 대조하여 고찰함으로써, 학습자들의 감정어휘 학습과 감정표현의 능력향상을 도모하는 것을 목적으로 한다.

2. 선행연구

일본어 놀람표현 연구는 中村(1993), 김광태(2005), 송연희(2013, 2019), 고원영(2020) 등이 있다. 中村(1993)에서는 문예 작품을 자료로 삼아 기쁨, 화남, 두려움, 슬픔, 부끄러움, 좋음, 싫음, 격앙, 안도, 놀람 10종류의 감정을 분류하여 어구편과 표현편으로 나누어 정리하였다. 송연희(2019)에서는 일본어 놀람 표현의 발화유형과 사용양상을 고찰하였는데, 직접적으로 감동사나 감정어를 표출하는 경향이 높았고, 간접적으로 표출할 때는 이유설명이나 확인요구를 사용하는 양상을 보였다. 고원영(2020)에서는 한국 원작만화와 일본번역만화를 분석자료로 하여, 놀람의 감정표현을 대조 분석하였다. 놀람을 나타내는 한국어 감정어휘는 ‘오악’, ‘헉’, ‘충격적’, ‘이상하다’, ‘기막히다’, ‘놀라다’, ‘기절하다’가 추출되었고, 이에 해당하는 일본어 감정어휘에는 ‘うわっ’, ‘あっ’, ‘ハッ’, ‘え’, ‘ショック’, ‘変だ’, ‘妙だ’, ‘不思議だ’, ‘ベタベタする’, ‘理解に苦しむ’, ‘可笑しい’, ‘前と違う’, ‘まづい’, ‘毒する’, ‘やってられない’, ‘驚く’, ‘心配だ’, ‘びっくり’가 추출되었다. 추출된 감탄사는 한국어와 일본어가 대부분 유사한 발음으로 나타났으며, 한 가지 한국어 어휘가 10가지 일본어 양상으로 표현할 수 있음을 확인할 수 있었다. 이 연구에서는 한가지의

스토리의 만화만을 대상으로 하였기에 작품과 번역가의 다양성이 한계로 보인다.

이상의 일본어 놀람표현 연구는 감정에 대한 분류, 감정표현의 발화유형과 사용양상을 분석하는 연구가 대부분이다. 따라서 놀람의 감정에 대한 한국어와 일본어의 감정어휘와 감정표현을 대상으로 분석한 대조연구는 찾아보기 어렵다. 이에 본 연구에서는 한일 만화에서 나타나는 감정표현 중 놀람의 감정을 대상으로 한국어와 일본어의 감정어휘와 감정표현을 추출하고 사용양상과 언어적 특성을 고찰하고자 한다.

3. 연구방법

3.1 놀람의 정의 및 분석범위

놀람의 감정을 추출하기 위해, 놀람의 의미에 대해 살펴보하고자 한다. 먼저, 국립국어원 표준대사전에서는 ‘놀라다’를 ①뜻밖의 일이나 무서움에 가슴이 두근거리다, ②뛰어나거나 신기한 것을 보고 매우 감동하다, ③어처구니가 없거나 기가 막히다¹로 정의하고 있다. 놀람의 감정에 대한 연구(김광태:2005, 송연희:2019)에서 김광태(2005)는 놀람에는 긍정적 감정의 표출과 부정적 감정의 표출로 구분할 수 있다고 하였다. 긍정적 감정의 표출로는 뜻밖의 좋은 일이 생겨 놀랐을 경우와 신기한 장면 목격한 경우로 나누었으며, 부정적 감정의 표출로는 뜻밖의 나쁜 일이 생겨 놀라는 경우와 무서움이나 공포감 등으로 놀라는 경우로 나누었다. 송연희(2019)에서는 경고 없이 불시에 이루어지는 행위, 예기치 못했거나 깜짝 놀랄 만한 것, 마음의 준비가 없이 갑자기 닥친 그리고 돌발적인 사건이나 상황에서 생기는 느낌이나 감정이라 하였다. 이를 통해, 놀람의 감정은 다른 감정과 달리, 좋은 감정과 나쁜 감정을 공유하는 감정임을 확인할 수 있었다. 따라서 본 연구에서는 놀람의 감정표현을 (1)보통의 놀람장면, (2)감격의 놀람장면, (3)공포의 놀람장면, (4)당혹의 놀람장면으로 장면에 따른 놀람표현을 고찰하고자 한다. 장면의 자세한 설명은 다음과 같다.

- (1) 보통의 놀람장면은 가장 기본적인 형태의 놀람으로, 예상하지 못한 사건이나 대상을 마주하거나, 갑작스러운 일이 발생했을 때 놀라는 장면이다.
- (2) 감격의 놀람장면은 신기하거나 감동적인 장면을 목격할 때 놀라는 장면이다. 예를 들어, 누군가의 친절한 행동에 감동하거나, 놀라운

¹ <https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do>(2023.08.19 열람)

풍경이나 예술작품을 보았을 때 느끼는 장면이다.

- (3) 공포의 놀람장면은 놀람과 공포가 결합한 감정으로 두렵고 무서운 상황을 마주하거나, 이해하기 어려운 사건에 놀라는 장면이다.
- (4) 당혹의 놀람장면은 분노나 분개가 섞인 놀람의 장면으로, 누군가의 부주의한 행동으로 인해 놀랐지만 동시에 화가 나고, 분개하는 장면이다.

3.2 분석자료

지금까지의 한일 감정표현 연구에서는 주로 사진, 문학작품, 드라마 등의 분석자료를 고찰하였다. 그러나 본 연구에서는 만화를 분석자료로 활용함으로써 새로운 접근을 시도하고자 한다. 만화는 우리의 일상에서 자주 접하는 대화체 형식의 외적감정표현과 말풍선과 독백을 통한 내적감정표현을 함께 확인할 수 있다. 이는 감정을 언어화하고 시각적인 요소를 통해 주인공의 마음을 이해하는 데 도움을 주어 대화의 상황적 맥락이나 다양한 화용언어를 이해할 수 있다.

본 연구의 분석자료는 한국원작만화와 일본번역만화, 일본원작만화와 한국번역만화이다. 본 연구에서 다루는 한일 만화에서 나타난 놀람표현은 각각 115건, 167건이 추출되었다. 자세한 분석자료는 아래 <표1>에서 제시한다.

한국원작만화(일본번역만화)	자료수	일본원작만화(한국번역만화)	자료수
치즈인더트랩 (チーズ・イン・ザ・ラップ) 10화, 미완	40건	私の家政婦はナギサさん (남자 가정부를 원해) 11화, 완결	14건
여신강림 (女神降臨) 10화, 미완	39건	ハチミツとクローバー (히니와 클로버) 10화, 완결	110건
그래서 나는 안티팬과 결혼했다 (だから俺はアンチと結婚しました) 10화, 미완	36건	思い思われ、ふりふられ (사랑하고 사랑받고, 차고 차이고) 12권, 완결	43건
합계	115건	합계	167건

<표1>분석자료

4. 결과 및 분석

한일 만화에서 (1)보통의 놀람장면, (2)감격의 놀람장면, (3)공포의 놀람장면, (4)당혹의 놀람장면에서 나타난 놀람표현을 추출했다. 출현건수는 아래 <표2>와 같다.

<표2> 놀람장면에서 나타난 놀람표현 출현건수

놀람장면	한국	일본	합계
보통의 놀람장면	53건	58건	111건
감격의 놀람장면	21건	41건	62건
공포의 놀람장면	30건	55건	85건
당혹의 놀람장면	11건	13건	24건
합계	115건	167건	282건

위의 결과를 바탕으로 장면별 감정어휘와 감정표현에 대하여 분석하고자 한다.

(1)보통의 놀람장면에서는 한국어와 일본어에서 공통적으로 반응성이 높고 강한 단순한 형태의 감정표현이 나타났다. 예를 들어, 한국어는 ‘응?’, ‘엇?’, ‘어?’, ‘앗?’, ‘헐?’, ‘앵?’, ‘정말?’, ‘어라?’, ‘뭐?’, ‘헉?’, ‘네?’로 나타났으며, 일본어는 ‘え?’, ‘あっ?’, ‘わ?’, ‘はっ?’, ‘あれ?’, ‘お?’로 나타났다. 양 언어 모두 간단하고 직관적인 놀람표현을 사용한 것을 확인할 수 있다. 차이점으로는 먼저, 한국어에서 ‘엄마야’라는 감탄사를 통해, 놀람을 표현하는 문화적 요소를 확인할 수 있었다. 예1)은 식사하는 도중 식탁에 있던 물잔이 갑자기 옷에 쏟아져서 놀라는 장면이다.

예1) 엄마야!! 까악! 내 치마

うああ!!きゃあ!!スカートが!!

[자료:치(チ)]

예1)과 같이 ‘엄마야’는 한국어에서 자주 쓰이는 일상어로 사람들 간의 대화에서 자연스럽게 나타나는 놀람표현 중 하나이다. 엄마를 자신의 안전판이라고 믿고, 심리적으로

로 가장 중요한 상대를 놀랐을 경우 찾게 된다²는 심리학적인 견해도 있다. 이는 한국의 정서가 나타난 것으로 보인다. 이에 해당하는 일본어 번역도 직역하지 못하고 생략한 것을 확인할 수 있다. 이에 반해, 일본어에서는 문화적인 요소는 보이지 않았고, ‘びっくりした’, ‘不思議だわ’등과 같이 놀람을 나타내는 어휘를 직접적으로 명시하는 경향을 확인할 수 있었다.

(2)감격의 놀람장면에서는 한국어와 일본어에서 공통적으로 먼저, [감탄사+형용사]의 형태로 놀람을 표현하는 경향이 나타났다. [감탄사+형용사]의 형태는 예2)와 3)과 같다. 예2)는 가난한 대학생인 남자주인공의 집에서 무료 크로켓이 집안에 가득 쌓여 있는 것을 보고 행복해서 놀라는 장면이다. 예3)은 좋아하는 밴드 영상을 보면서 여자주인공이 잘생김에 놀라는 장면이다.

예2) うわっ すげー量 どーしたんだ このコロケの山は
우와, 장난아니네. 뭐야 이 크로켓 더미는 [자료:ハ(허)]

예3) 우와... 진짜 너무 멋있다.
うわ〜すごくカッコイイ! [자료:여(女)]

다음으로 예4)와 예5)처럼 상대방에게 정말로 그렇게 해도 되는지 확인하는 경향이 나타났다. 예4)는 남자주인공이 여자주인공이 가지고 싶었던 한정판 만화책을 전해 받아서 깜짝 놀라는 장면이다. 예5)는 회사원인 남자주인공이 친구들에게 음식을 배달시켜 준다고 원하는 것을 고르라고 하는데, 남자주인공의 너그러움을 믿지 못해서 놀라는 장면이다.

예4) 네에?!? 히익 이.. 이걸 저한테요?
ハイ?! ヒイー こっ.....これを私にですか? [자료:여(女)]

예5) ええっっ いいんですか?!
에엑, 그래도 돼요? [자료:ハ(허)]

² 사람들은 왜 “엄마야” 외치며 놀라는 걸까?

<https://www.hani.co.kr/arti/culture/culture_general/553946.html>(2023.08.16 열람)

(3)공포의 놀람장면에서는 한국어와 일본어에서 공통적으로 감탄사나 의성어를 사용하여, 놀람을 강조하는 경향을 보였다. 대표적으로 한국어는 ‘까악’, ‘뿡야 갑자기’, ‘끄아악’, ‘으아아아앙’, ‘끼에엑’, ‘히익’등으로 나타났고, 일본어는 ‘うわっ’, ‘ぎゃー’, ‘はっ’, ‘え’, ‘あっ’등으로 나타났다. 일본어에서 나타난 특징으로 예6)과 같이 상대에게 의아한 상황에 대해 원인이나 이유를 묻는 점이다. 이는 놀란 상황에 대한 궁금증이나 놀람을 더욱 강조하고, 상대방의 의도나 맥락을 확인하거나 더 깊게 이해하려는 경향이라고 생각한다. 예6)은 남자선배가 남자주인공의 방에서 에어컨이랑 선풍기를 켜 채로 잠들어 버린 것을 다음 날 아침에 발견하는 장면이다. 몸이 너무 차가운 선배를 발견하고 혹시나 잘못된 것은 아닌지 놀라는 장면이다.

예6) 森田さん! ? 何やってんすか? うわっ体冷たっ!

모리타 선배?! 지금 뭐하는 거예요? 으앗, 몸이 얼음장이야! [자료:ハ(허)]

(4)당혹의 놀람장면에서는 한국어와 일본어에서 공통적으로 의문사와 감탄사를 사용했다. 한국어는 대표적으로 ‘뭐?’, ‘네?’, 일본어는 ‘あ?’, ‘あっ?’, ‘ああ?’, ‘ギャアアア’으로 나타났다. 한국어에서 나타난 특징으로는 놀람을 표현한 후에 왜 자신이 이 상황에서 놀라고 분노했는지 다시 한번 상황을 제시하는 경향이 나타난 점이다. 예7)은 여자주인공의 엄마가 자기 가방을 세탁한 사실을 몰랐다가 다음날 알게 돼서 가방이 없어진 것에 놀라고, 자신에게 물어보지 않고 세탁한 엄마에게 화를 내는 장면이다.

예7) 뭐!?! 아 뭐야 나 가방 하나밖에 없는데 어떡하라고!!

あれじゃないとダメなの! [자료:여(女)]

5. 결론 및 향후과제

본 연구에서 한일 만화에서 나타난 놀람표현을 (1)보통의 놀람장면, (2)감격의 놀람장면, (3)공포의 놀람장면, (4)당혹의 놀람장면으로 나누어 고찰하였다. 그 결과, 공통적으로 감정의 반응성이 높고 강한 단순한 형태의 감탄사, 의문사, 의성어로 놀람의 감정을 표현했다. 또 음성이나 발음의 강도에 따라 다양한 감탄사를 사용하는 경우가 많음을 확인할 수 있었다. 차이점으로는 한국만화에서는 문화적 요소가 반영된 어휘사용과

놀람을 표현한 후에 왜 자신이 이 상황에서 놀라고 분노했는지 다시 한번 상황을 설명하는 태도를 취했다. 이에 반해, 일본만화에서는 직접적인 감정어휘 사용과 감정의 원인 제공자에게 원인이나 이유를 물어 상대방의 의도나 맥락을 확인하거나 더 깊게 이해하고자 하는 태도를 취했다.

본 연구에서는 놀람장면에서 나타나는 한국어와 일본어의 감정어휘 및 감정표현을 대조하여 분석하였지만, 이러한 감정표현의 원인에 대한 상세한 고찰까지는 이루어지지 못했다. 감정표현의 원인에 대한 분석은 향후의 과제로 하고자 한다.

참고문헌

고원영(2020) 『한·일 감정표현 양상에 관한 연구 한국원작만화와 일본번역만화 대조 분석을 중심으로』 고려대학교 교육대학원, 석사학위논문.

김광태(2005) 『日韓兩言語の感情のオノマトペ研究』 한국외국어대학교, 박사학위논문.

송연희(2013) 『일본어 담화상의 감정표현에 관한 연구』 한국외국어대학교 대학원, 박사학위논문.

_____ (2019) 「일본어 감정표현 ‘놀람’에 관한 연구」 『일어일문학연구』 111, 한국일어일문학회, pp.101-115..

中村明(1993) 『感情表現辭典』, 東京堂出版, pp.23-417.

Paul Ekman(2020) 『표정의 심리학: 우리는 어떻게 감정을 드러내는가?』 허우성, 허주형 옮김, 바다출판사, pp.8-450.

[인터넷자료]

국립국어원 표준국어대사전

<<https://stdict.korean.go.kr/search/searchView.do>>(2023.08.19 열람)

사람들은 왜 “엄마야” 외치며 놀라는 걸까?

<https://www.hani.co.kr/arti/culture/culture_general/553946.html>(2023.08.16 열람)

日本語の動詞「受ける」と中国語の“受到”、“得到”、“被～”の対照研究

郝文文（名古屋大学院生）

1. はじめに

本研究は日本語の「受ける」と中国語の“受到”“得到”についての研究したものである。下記の例文(1)と(2)では、「信頼される」に対する「信 頼を得る」、「誤解される」に対する「誤解を招く」のような迂言的な表現が存在している。

- (1) a.市場の影響を受ける。
b.市場に影響される。
- (2) a.そして国民の批判を受け、政策の改善に生かす。
b.そして国民に批判され、政策の改善に生かす。

それにつきまして、「受ける」は受動的意味を表す動詞として、例文(3)の「評価を受ける」は“受到/得到/被高度评价”言える。それに対して、例文(4)の「被害を受ける」は中国語で“受到/被影响”翻訳可能であるが、例文(5)の「許可を受ける」は中国語で“受到许可”は不自然で、“得到/被许可”は自然である。

- (3) a.証券界の評価を受けている。
b. {受到/得到/被} 证券行业高度评价。
- (4) a.被害を受けた農家が借入金を多額にしている。
b. {受到/*得到/被} 影响的农民借了很多钱。
- (5) a.委員長の許可を受けて発言してください。
b. {*受到/得到/被} 委员长的许可后请再发言。

以上のように、日本語の「受ける」と中国語の“受到”“得到”“被”は対応する場

合もあれば、対応しない場合もある。そこで本研究では、日本語の「受ける」と中国語“受到”“得到”“被”の違いを見ることにより、用法の違いを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1 日本語の「受ける」に関する先行研究

下記の例文(6)と(7)では、「影響される」に対する「影響を受ける」、「評価される」に対する「評価を受ける」のような迂言的な表現が存在している。

- (6) a. 体は精神の影響を受ける。
b. 体は精神に影響される。
- (7) a. 学生は先生に高い評価を受ける。
b. 学生は先生に高く評価される。

これらの表現における「受ける」のような動詞は実質的な意味が希薄で、述語形式をつくるための文法的な機能をはたしている。村木(1991: 203)はこのような動詞を「機能動詞」と呼び、「誤解を招く」「反発を招く」のような機能動詞と名詞との結び付きを機能動詞結合と呼んでいる。

また、孟(2012)は村木(1983)の「迂言的な表現」の考えを踏まえ、最も生産性の高い「～を受ける」を中心に考察した。孟(2012)は「名詞性が強い場合、一般名詞が「～を受ける」の前に現れる際に「受ける」は本動詞として働き、文は能動文であると考えられる。それに対し、動詞性が強い場合、「受ける」は機能動詞であり、文はいわゆる村木で言う迂言的受身表現であると考えられる」と指摘しているが、動作性の判断基準は不明確ではないので、詳しく考察する必要があると考える。

3. 日本語動詞「受ける」

3.1 日本語の「受ける」の調査方法と結果

「受ける」と共起するヲ格名詞の実態を明らかにするために、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)、検索ツール『中納言』を使って、「受ける」と共起するヲ

格名詞を検索した。検査の結果はヲ格名詞の延べ語数は 33,355 語、異なり語数は 629 語で、その異なり語数の上位 100 語を表 1 に示す。

表 1 「受ける」と共起するヲ格名詞とその出現数(上位 100 語)

順位	名詞	出現数	順位	名詞	出現数	順位	名詞	出現数	順位	名詞	出現数
1	影響	1663	26	提供	236	51	接種	142	76	支持	101
2	教育	731	27	打撃	221	52	命	139	77	助成	100
3	被害	640	28	評価	207	53	ダメージ	133	78	執行	97
4	ショック	570	29	処分	203	〃	電話	133	79	アドバイス	90
5	許可	520	30	扱い	199	〃	連絡	133	〃	教え	90
6	認定	515	31	サービス	195	56	医療	132	〃	指摘	90
7	認可	511	32	依頼	195	57	贈与	126	82	損害	88
8	適用	474	33	援助	190	58	こと	122	83	テスト	86
9	承認	467	34	診察	190	〃	授業	122	84	決定	83
10	治療	454	35	刺激	189	60	支給	121	〃	勧告	83
11	検査	452	36	保護	187	61	レーザー	120	〃	宣告	83
12	手術	356	37	支援	186	62	弁済	115	87	光	82
13	報告	341	38	洗礼	185	〃	検診	115	88	災害	80
14	試験	334	39	命令	176	64	虐待	112	89	面接	77
15	印象	328	40	控除	174	〃	批判	112	〃	知らせ	77
16	指導	325	41	感銘	173	〃	生	112	91	レッスン	75
17	交付	320	42	要請	170	67	制約	109	〃	罰	75
18	衝撃	301	43	判決	168	68	感じ	108	93	審査	73
19	登録	299	44	通知	167	69	講習	107	〃	誘い	73
20	攻撃	279	45	融資	163	〃	利益	107	95	障害	72
21	訓練	275	46	診断	157	71	免許	106	96	措置	70
22	相談	273	47	恩恵	153	72	裁判	105	〃	賞	70
23	指定	263	48	給付	150	73	支払	103	98	確認	69
24	説明	259	49	質問	146	74	制限	102	〃	診療	69
25	委託	249	50	指示	145	75	研修	101	〃	注文	69

表 1 を見ると、「影響」が 1 位で、次いで「教育」「被害」「ショック」「許可」の順

になる。100語のうち、「印象」「試験」「光」「利益」「罰」のような20語は具体物や抽象名詞なので、動作性がないので、この場合、「受ける」は機能動詞ではないと考える。また、この場合では、「を受ける」と付いても受動的意味にはならず、研究対象から除外する。また、「こと」は形式名詞として、動作性も感じられないので、研究対象から除外する。

一方、影響、教育、許可、認定、認可などの68語は動名詞(VN)である。このうち、「影響」「許可」「認定」などの語は「を受ける」がつくと受動的意味を表す。「扱い」、「感じ」、「支払」のような6語は動詞連用形転成名詞(DN)である。また、「被害」「ショック」「衝撃」「打撃」「ダメージ」の5語は「する」を伴って動詞化できないが、動作性が感じられ、「ヲ招く」がつくと受動的意味を表すので、研究対象にすると考えられる。

すなわち、本研究では、受動的意味を表す日本語の機能動詞「受ける」と共起するのは、動名詞、動詞連用形転成名詞、非動名詞の動作性名詞の3種類と考える。

3.2 日本語の「受ける」と共起するヲ格名詞の意味分類

まず、「受ける」と共起するヲ格名詞を動作性の有無に基づいて、一般名詞と動作性名詞に分類する。次に、目に見えるかどうかという基準で、具象名詞(例:試験)、抽象名詞(例:印象)と形式名詞(例:こと)に分類する。一方、動作性名詞は動名詞(例:影響)、動詞連用形の転成名詞(例:扱い)、非動名詞の動作性名詞(例:被害)に分類される。以上の分類を表2に示す。

<表2> 「受ける」と共起するヲ格名詞の意味分類 (出現数)

一般名詞	具象名詞	試験 (334)、電話 (133)、授業 (122)、レーザー (120)、テスト (86)、レッスン (75)、賞 (70)
	抽象名詞	印象 (328)、サービス(195)、恩恵 (153)、命 (139)、医療 (132)、贈与 (126)、生 (112)、利益 (107)、アドバイス (90)、光 (82) 災害 (80) 罰 (75)、面接 (77)、
	形式名詞	こと (122)、

動作性名詞	動名詞	影響 (1663)、教育 (731)、許可 (520)、認定 (515)、認可 (511)、適用 (474)、承認 (467)、治療 (454)、検査 (452)、手術 (356)、報告 (341)、指導 (325)、交付 (320)、登録 (299)、攻撃 (279)、訓練 (275)、相談 (273)、指定 (263)、説明 (259)、委託 (249)、提供 (236)、評価 (207)、処分 (203) 依頼 (195)、援助 (190)、診察 (190)、刺激 (189)、保護 (187)、支援 (186)、洗礼 (185)、命令 (176)、控除 (174)、感銘 (173)、要請 (170)、判決 (168)、通知 (167)、融資 (163)、診断 (157)、給付 (150)、質問 (146)、指示 (145)、接種 (142)、連絡 (133)、支給 (121)、弁済 (115)、検診 (115)、虐待 (112)、批判 (112)、制約 (109)、講習 (107)、免許 (106)、裁判 (105) 制限 (102)、研修 (101)、支持 (101)、助成 (100)、執行 (97)、指摘 (90)、損害 (88)、決定 (83)、勧告 (83)、宣告 (83)、審査 (73)、障害 (72)、措置 (70)、確認 (69)、診療 (69)、注文 (69)
	動詞連用形の転成名詞	扱い (199)、感じ (108)、支払 (103)、教え (90)、知らせ (77)、誘い (73)
	非動名詞の動作性名詞	被害 (640)、ショック (570)、衝撃 (301)、打撃 (221)、ダメージ (133)

3.3 日本語の「受ける」と共起するヲ格名詞の意味分類

以下、動作性名詞の場合について論じる。動作性名詞の場合、「受ける」は広い意味で受動的意味として使われている。また、「衝撃を受ける」のような語彙的受身文がある。「刺激を受ける」と「刺激される」のような「刺激」は語彙的受身文と文法的な受身文の両方が存在している。本研究では、まず、語彙的受身文のみ成立、語彙的受身文と文法的受身文の両方成立という二つに分類して、機能動詞「受ける」の用法を考察する。考察した結果をまとめると表3に示す。

<表3> 日本語の「受ける」の用法と対応する中国語

分類	下位分類	ヲ格名詞	対応する中国語
語彙的受身文のみ成立	外的活動と心的活動の両方	ショック、被害、衝撃、打撃、ダメージ	受到/被
	心的活動	感じ	觉得
語彙的受身文と文法的受身文の両方成立	外的活動	交付、登録、攻撃、指定、処分、援助、保護、保護、支援、洗礼、控除、判決、融資、虐待、制約、免許、裁判、制限、助成、執行、審査、障害、措置、損害	受到/被
		適用、支給、支持、注文、給付、弁済、確認、提供	得到
	外的活動と心的活動の両方	影響、刺激	受到/被
	言語活動	許可、認定、認可、承認、報告、説明、評価、命令、通知、勧告、質問、指示、連絡、批判、指摘、宣告、決定	得到
依頼活動	相談、委託、依頼、要請、質問	接受	

	医療活動	治療、検査、手術、診察、診断、接種、検診、 診療	接受
	教育活動	教育、指導、講習、研修、訓練	接受

4. おわりに

本発表では、本研究は日本語の「受ける」と中国語の“受到”、“得到”、“被”についての研究したものである。結果は以下ようになる。

1. 語彙的受身文のみ成立の場合、ヲ格名詞の特徴は外的活動と心的活動である。中国の“被～”と翻訳すると自然であるのに対し、中国語の“受到”“得到”は対応しない。また、心的活動の「感じ」は「感じられる」のラレルは受身のマーカ―ではなく、自発のマーカ―であるので、中国語の“受到”“得到”“被”とも対応しない。

2. 語彙的受身文と文法的受身文の両方成立する場合、ヲ格名詞の意味特徴によって、「外的活動」「外的活動と心的活動」「言語活動」「依頼活動」「医療活動」「教育活動」という六つに分けて考察した。ヲ格名詞は外的活動（例：攻撃、指導など）である場合、中国語の“受到”と対応する。ヲ格名詞は外的活動と心的活動（例：影響、刺激など）の場合、中国語の“受到”“被”と対応する。ヲ格名詞は言語活動（例：許可、指示など）の場合、中国語の“得到”と対応する。ヲ格名詞は依頼活動（例：相談、依頼、委託など）や医療活動（治療、検査など）、教育活動（講習など）の場合、中国語の“受到”“得到”と対応しなくて、“接受”と訳すと自然である。

引用文献

- 朱薇娜（2018）『能動的及び受動的意味を表す日本語の機能動詞結合の研究』名古屋大学博士学位論文。
- 孟熙（2016）「～を得る」に関する一考察『筑波応用言語学研究』23号,31-44.
- 村木新次郎（1980）「日本語の機能動詞表現をめぐって」『国立国語研究所研究報告集2』
- 村木新次郎（1983）「迂言的なうけみ表現」『研究報告集4』（国立国語研究所報告74）
- 村木新次郎（1991）『日本語動詞の諸相』ひつじ書房。
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語文法2』第4部.くろしお出版。
辞書

小泉保他（1989）『日本語基本動詞用法辞典』，大修館書店。
中国社会科学院语言研究所 2012，《现代汉语词典（第 6 版）》
例文出典
国立国語研究所現代日本語書き言葉均衡コーパス
北京大学中国言語学研究中心 CCL コーパス

日本語と中国語の逐次通訳の遂行における実行機能の予測

—通訳訓練経験の有無による検討—

宋啓超（広島大学大学院）

1. 問題と目的

通訳は入力される言語、即ち、起点言語（source language, 以下, SL）の理解、コードスイッチング（code switching）、目標言語（target language, 以下, TL）の産出とモニタリングなどといった複雑な言語処理過程を有する認知活動である。それらの認知処理を下支えするのは作動記憶（working memory, 以下, WM）である。近年、通訳の遂行に関わる認知的要因が研究焦点の一つとなっており、とりわけ、一度に情報を処理・保持できる容量、即ち WM 容量が通訳の遂行成績に与える影響が検討されている（e.g., Lin et al., 2018）。通訳時の認知活動に焦点を当てた研究により、WM 容量が大きい者は言語情報を素早く処理することができ、通訳の遂行成績が高いことが実証されている。しかしながら、WM 容量を測定するスパンテストにおける想起は、通訳のプロセスを正確に反映できないことが指摘されている（Mizuno, 2005）。通訳の認知メカニズムを解明するには、処理資源の配分を司る中央実行系の機能を深く検討する必要があると考えられる。Miyake et al. (2000) の均一性と多様性（unity and diversity）モデルによれば、実行機能は抑制機能、切替機能、更新機能の 3 要素から構成されている。この三者は一定の相関があるが、相対的に独立して機能することがわかっている。

これまで、通訳経験の有無によって、実行機能に変化がみられるか否かを中心に、検討されてきた（e.g., Morales et al., 2015）。しかし、通訳経験による特定の実行機能の向上を検討するよりも、通訳過程における実行機能の関わり方を探究したほうが、各実行機能と通訳の遂行との関係を明確にすることができ、通訳訓練法に有益な示唆を提供できると考えられる。しかし、それについての検討はまだ不十分である。また、通訳訓練の有無によって、実行機能が通訳の遂行成績への予測が変化するか、いかに変化するかについての検討も発展途上にある。

以上をふまえ、本研究では日本語から中国語への逐次通訳に焦点を当て、通訳訓練

経験をもたない上級学習者（以下、非通訳学習者）及び一学年分の通訳訓練経験をもつ上級学習者（以下、通訳学習者）を対象に、上述の3種類の実行機能が通訳パフォーマンスをいかに予測するかを明らかにする。

2. 方法

2.1 実験参加者

実験参加者は中国人上級学習者 82 名であった。実験参加時には、全員日本語能力試験 N1 に合格していた。そのうち、非通訳学習者は 48 名であった。平均年齢は 22.7 歳であり、平均日本語学習年数は 5.9 年であった。他方、通訳学習者は 34 名であった。平均年齢は 23.6 歳であり、平均日本語学習年数は 6.1 年であった。通訳学習者は中国の大学院の日中通訳コースに在学しており、平均逐次通訳訓練歴は 8.9 ヶ月であった。

2.2 実験計画

通訳過程における3種類の実行機能の予測の仕方を解明するために、TLの産出成績を従属変数として、3種類の実行機能を独立変数としてステップワイズ重回帰分析で検討する。本研究のモデル式は以下のようにまとめられる。

$$y_i = \beta_0 + \beta_{1i} \times \textit{shifting} + \beta_{2i} \times \textit{updating} + \beta_{3i} \times \textit{inhibition} + \mu_i$$

y_i は参加者*i*の通訳成績、 β_0 は切片であり、 β_1 は切替機能の偏回帰係数、 β_2 は更新機能の偏回帰係数、 β_3 は抑制機能の偏回帰係数、 μ は誤差項である。

2.3 実験材料

2.3.1 通訳材料

通訳訓練用の参考書より「講座学習の注意点」（547字）という学生生活の関連話題の文章を抜粋した。日本語文章難易度判別システム jReadability Portal で、難易度を確認したところ、中級後半レベルであった。

2.3.2 実行機能の測定材料

切替機能、更新機能、抑制機能はそれぞれ、タスクスイッチング課題、1-back 課題、色名ストループ課題によって測定された。実験プログラムは PsychoPy (version

2021.2.3) によって作成された。

2.4 手続き

実験参加者は通訳テストを受けた後、個別形式で、3種類の実行機能の測定テストに参加した。

3. 結果

3.1 データの整理

楊（2005）の評価基準に従い、日本語教育学を専門とする中国人日本語教師2名が100点満点で採点した。具体的に、楊（2005）の評価シートを採用し、録音したデータを忠実度（誤訳や訳し漏れがあるかどうか）50%、伝達度（わかりやすさと流暢さ）30%、表現使用（文法と語彙の選択）20%とした採点方法によって評価した。評価者2名の採点の相関分析を行った結果、いずれのSLにおいても強い正の相関がみられた（非通訳学習者：Pearson's $r=.88$, $p<.001$, 通訳学習者：Pearson's $r=.82$, $p<.001$ ）。最終成績は評価者2名の平均得点であった。他方、実行機能を測定する3種類の課題を遂行する際の誤反応と平均値 $\pm 2.5SD$ から逸脱した反応時間のデータを除外した。その上で、参加者ごとに実行能力の各指標を算出した。

3.2 重回帰の分析結果

非通訳学習者の分析結果を表1に示す。モデル決定係数 $R^2=0.57$ は有意であった ($F(3,44)=19.31$, $p<.001$, $f^2=1.32$, $1-\beta=1.00$, adjusted $R^2=0.54$)。選出モデルにおける独立変数の偏回帰係数とその検定結果を表1に示す。

<表1> 上級学習者難易度の低いSLの産出成績の重回帰分析の結果

	<i>b</i>	<i>se</i>	<i>t</i> (44)	β	VIF
切 片	93.41	6.75	13.85	0.00***	-
切替機能	-15.57	9.08	-1.72	-0.20†	1.38
更新機能	-29.92	12.32	-2.43	-0.26*	1.14
抑制機能	-25.50	5.57	-4.58	-0.52***	1.30

† $p<.10$, * $p<.05$, *** $p<.001$; *b*: 偏回帰係数; *se*: 標準誤差; β : 標準化偏回帰変数; VIF: 分散

拡大要因；AIC=302.15；調整済み $R^2=0.54$ ；パラメータの推定効率を向上させるため、全ての説明変数を秒単位に変換した。

結果として、(1) 切替機能の偏回帰係数が有意傾向であり ($b=15.57, t(44)=-1.72, p=.093, \beta=0.20$)、切替能力が高い場合、産出成績が高い傾向にあること；(2) 更新機能の偏回帰係数が有意であり ($b=29.92, t(44)=-2.43, p=.019, \beta=0.26$)、更新能力が高いほど産出成績が有意に高くなること；(3) 抑制機能の偏回帰係数も有意であり ($b=25.50, t(44)=-4.58, p<.001, \beta=0.52$)、抑制能力が高いほど産出成績が有意に高くなること、の3点が示された。また、標準化偏回帰変数 (β) から、抑制機能が最も寄与する一方、切替機能の予測力が最も低いことが示唆された。

通訳学習者の分析結果を表 2 に示す。モデル決定係数 $R^2=0.54$ は有意であった ($F(3,30)=11.88, p<.001, f^2=1.19, 1-\beta=1.00, \text{adjusted } R^2=0.50$)。選出モデルにおける独立変数の偏回帰係数とその検定結果を表 2 に示す。

<表 2> 難易度の低い SL の産出成績の重回帰分析の結果

	b	se	$t(30)$	β	VIF
切 片	73.77	5.34	13.82	0.00***	-
切替機能	-39.06	10.72	-3.64	-0.47***	1.11
更新機能	13.04	8.71	1.50	0.20	1.22
抑制機能	-24.95	6.50	-3.84	-0.52***	1.23

*** $p<.001$ ； b ：偏回帰係数 se ：標準誤差； β ：標準化偏回帰変数；VIF：分散拡大要因；AIC=212.09；調整済み $R^2=0.50$ ；パラメータの推定効率を向上させるため、全ての説明変数を秒単位に変換した。

結果として、(1) 切替機能の偏回帰係数が有意であり ($b=-39.06, t(30)=-3.64, p=.001, \beta=-0.47$)、切替能力が高いほど、産出成績が有意に高くなること；(2) 更新機能の偏回帰係数が有意でなかったこと ($b=13.04, t(30)=1.50, p=.145, \beta=0.20$)；(3) 抑制機能の偏回帰係数が有意であり ($b=-24.95, t(30)=-3.84, p<.001, \beta=-0.52$)、抑制能力が高いほど産出成績が高くなること、の3点が示された。また、標準化偏回帰変数 (β) から、抑制機能が最も寄与する一方、更新機能の予測力が最も低いことが示唆された。

4. 考察

以上の結果をふまえ、日中逐次通訳の遂行における 3 種類の実行機能の予測について、非通訳学習者と通訳学習者を比較しながら考察を行う。

まず、切替機能について考察する。非通訳学習者の場合、切替機能の寄与率が最も小さく、傾向差にとどまっている。それに対して、通訳学習者の場合は、寄与率が高くなった。このことから、切替機能の予測力は通訳訓練の経験によって強化されたことが示唆される。通訳学習者は、通訳訓練で 2 言語の切替を頻繁に行うことが必要である。そのため、切替能力をフル活用する可能性が高くなる。結果として、その予測力が高くなることが推察できる。

次に、更新機能について考察する。非通訳学習者の場合では、更新機能による予測が有意であったが、通訳学習者の場合では、その予測が有意ではなかった。更新機能は情報の処理効率を表しており、通訳の訓練によって、言語情報の処理効率が向上し、更新機能の予測力が低下することが推測できる。

最後に、抑制機能について考察する。通訳訓練経験の有無にかかわらず、抑制機能の予測力が最も大きかった。宋・松見 (2022) は日本語 (L2) から中国語 (L1) への逐次通訳の遂行においては、二言語の干渉への抑制が必要であることが示唆されている。本研究の結果からも、頻繁に二言語を活性化させる必要のある通訳では、通訳訓練経験の有無にかかわらず、二言語の干渉への抑制が常に必要であることが示唆された。結果として、抑制能力が高いほど、通訳の遂行成績が高くなることが窺える。

5. おわりに

本研究では、中国人日本語学習者を対象に、通訳訓練経験の有無によって、3 種類の実行機能による日中逐次通訳の遂行成績への予測が異なるか、いかに異なるかを検討した。その結果、次の 3 点が明らかとなった。即ち、(1) 通訳訓練経験の有無によって、切替機能の予測が異なり、非通訳学習者の通訳成績への予測力が低い、通訳学習者の通訳成績への予測力が高いこと；(2) 通訳訓練経験の有無によって、更新機能の予測が異なり、非通訳学習者の通訳成績への予測力が高い、通訳学習者の通訳成績への予測力が低いこと；(3) 通訳訓練経験の有無にかかわらず、抑制機能の予

測力が最も高いこと、の3点であった。

本研究の結果から、通訳訓練を行う際に、訓練時期に相応しい認知的訓練法を選択することが重要であることが示唆された。

引用文献

- 宋 啓超・松見法男.(2022).「中国語と日本語の逐次通訳の過程における抑制機能」『広島大学大学院人間社会科学研究科紀要. 教育学研究』3, 259-267.
- 楊 承淑.(2005).『口译教学研究：理论与实践』中国对外翻译出版公司.
- Mizuno, A. (2005). Process model for simultaneous interpreting and working memory. *Meta*, 50(2), 739-752.
- Miyake, A., Friedman, N. P., Emerson, M. J., Witzki, A. H., Howerter, A., & Wager, T. D. (2000). The unity and diversity of executive functions and their contributions to complex “frontal lobe” tasks: A latent variable analysis. *Cognitive Psychology*, 41(1), 49-100.
- Morales, J., Padilla, F., Gómez-Ariza, C. J., & Bajo, M. T. (2015). Simultaneous interpretation selectively influences working memory and attentional networks. *Acta Psychologica*, 155, 82-91.
- Lin, Y., Lv, Q., & Liang, J. (2018). Predicting fluency with language proficiency, working memory, and directionality in simultaneous interpreting. *Frontiers in Psychology*, 9, 1543

初対面自由会話における話題展開分析

-在日コリアンと日本語母語話者間の会話資料を中心に-

張良光(カトリック大学)

1. はじめに

複言語・複文化主義(plurilingualism)とは、言語にある固有の文化に気づき、その文化的アイデンティティを尊重することである。複言語・複文化能力は、程度に関わらず複数言語を知り、複数文化の経験を持ち、その言語文化資本の全体を運用する行為者が、言葉でコミュニケーションし文化的に対応する能力を言う。

複言語教育は主に学校教育を通して形成されるのに対し、複文化能力は家庭や職場といった学校外の環境で形成されることが多い。在日コリアンや日韓ダブルの家庭環境で育った日本語母語話者は、家庭環境から複文化能力を持っていることが推測される。

そこで本研究は、学校教育で同一の言語教育を受け、家庭環境で複文化能力が形成された在日コリアンが、日本語母語話者と言語でコミュニケーションをする際、どのような違いをみせるのか分析を行う。

2. 先行研究

2.1 自由会話の分析について

雑談に代表される自由会話は、会話参加者が自由に話題を選び、自由な形式で意見や情報を交換する会話の形式を指す。この種の会話では、制限や制約が少なく、会話参加者は自分の意見や感情を自由に表現することができる。そのため、自分の興味や関心に基づいて話題を選び、それを広げたり深めたり、また違う話題にかえることもできる。自由会話は、自分の考えや経験を率直に共有し、他の人との意見交換や相互理解を深めることができるものであり、会話参加者は他者の視点や経験、異なる意見や知識に触れることにより、対話を通じて相互学習や成長を促進することができる。したがって、自由会話は個人間の関係構築や社会的な繋がり形成に大きく寄与し

ているものと言える。Brown & Yule(1983)によると、自由会話が情報伝達の道具であるだけでなく、人間関係の構築に重要な役割を果たすことを示唆している。つまり、日常のコミュニケーションの会話は、特定の情報伝達を目的としたやりとりだけではなく、共通の話題を探りながら会話をし、それは相手と会話を続けながら打ち解け合うことを目的とした相互作用的なものが多く存在しているのである。このような会話は、情報交換よりも会話の維持、そしてそれによる円滑な人間関係の構築が最優先であり、仮に情報が伝わらなかったとしても後に支障が出るのが少ないことがわかっている(村田 2000)。

会話の入り方や話題転換、話題展開の仕方、話題の構造、ストラテジーなどについて考察したりする研究として、エスノメソドロジーの会話分析がある。エスノメソドロジーの会話分析は、社会学や人類学の研究方法の一つであり、言語や会話の実践的な側面に焦点を当て、会話の構造やパターンを詳細に分析することを目的としている。この手法では、実際の会話の録音やビデオ録画を使用し、会話参加者の相互作用やコミュニケーションのルール、構造を研究している。人々が日常的にどのようにコミュニケーションを行い、社会的な意味を作り出すかを理解するための研究として、会話の実践を研究するだけでなく、文化や社会的な関係の理解にも貢献しており、言語学やコミュニケーション学分野でも重要な手法として活用されている。

雑談を代表とする自由会話を構造面と内容面という二つの側面から分析を行った研究として筒井(2012)と張良光(2022)がある。その結果、筒井は話題の中に発話機能の連鎖があることを明らかにし、張良光(2022)はお互いが情報を持たない初対面という場面では質問だけでなく、自己開示からはじまるものが少なくないことや質問からはじまる話題展開は参加者が選ばれやすいこと、自己開示からはじまる話題展開は事柄が選ばれやすいこと、あらかじめ共有している情報からはじまる話題展開は事柄が選ばれやすいことを明らかにした。

また、在日コリアンや日本語学習者との接触場面自由会話の構造を分析した研究として張良光(2019)によると、在日コリアン-日本語母語話者間会話と日本語母語話者同士の会話の構造に大きな違いは現れず、話題の対象に違いがあったという言及にとどまっている。

2.2 初対面会話での話題の分析について

初対面会話と話題に関連した調査研究として、Berger et al.(1976)がある。Berger et al.によると、アメリカ人は、まず身の上情報と表面的な情報が選択され、後半ではより深刻な内容であると思われる話題が選択されるということがわかり、また話題として使われないのが年収、年齢、家族や自分に関する社会的に否定的な情報であることが分かった。

韓国人および在日・在米韓国人の初対面の話題については、任榮哲(1993)の意識調査がある。任榮哲の意識調査の結果、韓国人は男女ともに初対面の相手の最も知りたいところは「職業」であることがわかり、年齢別では老年層は経済状況や出身地、中年層は職業、若年層は年齢や趣味が最も知りたい話題であることがわかった。このように、初対面会話での話題選択には文化的な問題、および社会的な階層の問題があることがわかる。

自由会話の構造や内容面の研究により、日本語母語話者の話題展開のパターンが明らかになり、話題選択では複文化話者の文化的な問題、および社会的な階層の問題があることがわかったが、複文化話者の会話の構造や内面性、そして日本語母語話者との比較分析については言及がなかった。

本研究は、自由会話の構造面と内容面という二つの側面から分析を行うために、発話機能の連鎖を連鎖組織とし、そのひとまとまりを話題と仮定する張良光(2022)の分析方法を参考に、複言語話者と日本語母語話者の初対面自由会話、そして日本語母語話者同士の自由会話を比較し、話題の対象や話題展開パターンについて分析を行う。

3. 分析方法および資料

3.1 分析方法

本研究は、発話ひとつひとつの発話機能¹を連ねていき、それをボトムアップ式に積み上げ、その発話連鎖組織を話題と仮定する。そして話題の範囲の認定としては、Schegloff & Sacks(1973)の隣接ペア(adjacency pair)を参考にする。情報を会話参加者一方が所有している場合は、要求ではじまるものと提示ではじまるものとし、それ

¹ 発話機能については、山岡(2008:2)によって提唱されている定義に従い、「話者がある発話を行う際に、その発話が聴者に対して果たす対人的機能を概念化したもの」と定める。発話機能を決めるには、ザトラウスキー(1993)、山岡(2008)、筒井(2012)を援用した。

それを「質問からはじまる話題展開」、「自己開示からはじまる話題展開」とする。そして、既知情報を扱う場合も同様に、要求・提示からはじまるものとし、「予め共有している情報(以降、共有)からはじまる話題展開」とする。

また、話題の認定上、話題のラベルをどの単語にするかによっても、分析者の主観性が強く働く可能性がある。そのため、本研究は話題の下位分類として、話題の対象について分類する。分類方法としては、その話題が会話している現場なのか、現場外なのか、あるいは人物や事物を対象としているかを考慮し、現場の人物であれば「会話参加者(会話に参加している)」、現場外の人物であれば「第三者(会話に参加していない者)」、そして事物であれば「事柄」と分類する。

話題と話題開始の認定、そして発話機能について、次の会話例 1 に例を示す。会話例 1 は大学について 96B から話題がはじまったものである。文字化の方法は曹英南(2013)にしたがった。

発話機能にある数字は、発話連鎖のグループを示している。したがって、会話例 1 には 5 つの発話連鎖組織があることがわかる。会話例 1 を見ると、91B~95B の会話では、<情報要求-情報提供-(笑い)-情報提供-理解>という発話連鎖組織があり、「韓国語」について話されていることがわかる。そして、96B からまた<情報要求>が現れ、<情報要求-情報提供-理解>という発話連鎖組織が繰り返され「大学」について話されている。このときの発話連鎖組織 2・3・4・5 を発話連鎖の構造とし、これを話題と仮定する。これによって話題の展開構造が見えてくる。本研究では、発話連鎖組織の構造を話題とし分析を行う。

会話例 1 大学の専攻を聞いている

発話番号	発話内容	発話機能	話題
91B	じゃあ、だいがく一で韓国語はじめて/へーどうですか？そのうまくなりました？	情報要求 1 ²	
92A	★うん、はい ☆はい(少し間)どうなんですかねー？、ははは(2人笑う)	情報提供 1+笑い	韓国語
93B	あっはっはっは(笑)	笑い	
94A	よくわかんないですけど[けどでも[なんか来た時よりは、まああのびたのかなあと[思いま-す	情報提供 1

² 発話機能の後にある番号は隣接ペアを参考にしたものである。

95B	★あ、そうですかー(笑い) ★うんうん	理解 1	
96B	☆へー、え、もともとじゃあ専攻は何なんですか?/その	情報要求 2	
97A	☆専攻は、政治学です、はー(笑い)	情報提供 2	
98B	あっ、なるほどー?あでも、政治学って確かに、なんか色々使 いますよね、外国語/ですよね?	理解 2+情報要求 3	
99A	☆そうー、使おうと思えば、でなんか[韓国に留学するって なったんで[やっぱり政治、卒論とか書くときになっても [ちょっと韓国に関連したことにしようかなって思って	情報提供 3	
100B	★はあ ★ええええ ★うんうんうん	理解 3	大学
101B	あーなるほど、え、それは来る前にそういう風に決めて?/そ れとも来て	理解 3+情報要求 4	
102A	☆そうです、なんか、もうゼミの方で先生に[(少し間)もう研 究テーマ決めて行けて言われて[なんか、こう、定まった ものは持っていた方がいいとか言われて[それで	情報提供 4	
103B	★うん ★ふっはは、おう ★はい	理解 4	
104B	あ、じゃもう、大体決まってきた感じですか?	情報要求 5	
105A	そうーですね、一応	情報提供 5	

3.2 分析資料

本研究では、初対面場面の男女間自由会話に限ってデータ収集を行った。これは、友人同士や同性同士と比べて初対面の男女間の方がよりお互いの情報がない状態ではじまるため、予め共通する話題が準備できず、それにより使用率の高い連鎖組織が現れる可能性があると考えたからである。ただし、自由会話とは初対面だけに関わらず幅広いため、本研究の資料データだけで、自由会話一般について論じることはできない。また、会話データを用いたこれまでの研究では大学生同士の会話がデータとして用いられることが多く、共通の話題が探しやすい状況であった。よって、大学生だけでなく大学院生も含み、さらに様々な経歴で社会人として生活している 19 歳から 38 歳までを調査協力者とすることにした。さらに、複文化能力の違いを表すため、どちらも韓国在住の日本語母語話者と在日コリアンに協力をお願いした。

本研究のデータ収集の方法としては、録音協力者同士の面識がないように、それぞれいくつかのグループから男女の組になるように選び、協力をお願いし、在韓日本語母語話者同士の会話と複文化話者-在韓日本語母語話者間の会話 5 件の録音を行った。本研究の初対面会話の被験者の属性を<表 2>に示す。

〈表2 被験者の属性〉³

在韓日本語母語話者同士の会話					複文化話者と在韓日本語母語話者の会話				
		会話参加者 (年齢/性別)					会話参加者 (年齢/性別)		
A	Ja (38/男)	大学院生	Jb (22/女)	大学生	F	Ka (30/男)	社会人	Jk (19/女)	留学生
B	Jc (28/女)	大学院生	Jd (31/男)	大学院生	G	Kb (28/男)	社会人	Jl (20/女)	留学生
C	Je (36/男)	大学院生	Jf (31/女)	日本語教師	H	Kc (25/男)	留学生	Jm (24/女)	留学生
D	Jg (33/女)	大学院生	Jh (21/男)	交換留学生	I	Kd (19/男)	留学生	Jn (22/女)	社会人
E	Ji (28/男)	大学院生	Jj (23/女)	大学院生	J	Ke (24/男)	交換留学生	Jo (28/女)	大学院生

4. 分析結果

4.1 話題の選択および対象について

全体の平均値では在韓日本語母語話者同士の初対面男女間自由会話と複文化話者-在韓日本語母語話者の初対面男女間自由会話には有意差が見られなかったものの、各資料別にみると質問と自己開示からはじまる話題展開の出現率においては、複文化話者-在韓日本語母語話者間の会話が在韓日本語母語話者同士の会話より出現率の幅が広がった。また、話題の対象別分類を行い比較した結果、どちらの会話も質問からはじまる話題展開では会話参加者を対象とした話題が多く、自己開示と共有からはじまる話題展開では事柄を対象とした話題が多く現れる傾向があることがわかった。また、第三者を対象にした話題は、複文化話者-在韓日本語母語話者間会話が、在韓日本語母語話者同士の会話より5倍の出現率で現れることが明らかになった。

そして、話題の下位分類を行い比較した結果、在韓日本語母語話者同士の会話では会話参加者の経験について質問することが多く、また自身の個人情報や自己開示する傾向が見られ、事柄の文化においては質問、自己開示両方から多く現れる傾向があることが明らかになった。また、複文化話者-在韓日本語母語話者間の会話では会話参加者のプロフィールや状況について質問することが多く、事柄の場所においては質

³ 在韓日本語母語話者は「J」、在日コリアンは頭に「K」を表記した。

問、自己開示両方から多く現れる傾向があることが明らかになった。共有からはじまる話題展開では、第三者を話題に取り上げて確認するという行為が、在韓日本語母語話者同士の会話では扱わない傾向があり、複文化話者-在韓日本語母語話者間会話においては、あえて扱う傾向があるということがわかった。

在韓日本語母語話者同士の会話は、会話参加者が日本人として韓国文化に触れた者同士であったため、お互い共感しやすいであろう文化に関する話題が多く現れたと考えられる。また、複文化話者-在韓日本語母語話者間の会話ではプロフィールから場所の話題になり、知人という流れが見られた。

4.2 話題の発話連鎖パターンについて

紙面の都合上、詳細は口頭で発表する。

5. まとめ

本研究から、文化と話題には相関性があり、韓国文化が融合した日本での生活環境で育った在日コリアンと在韓日本語母語話者との会話は、同じ環境同士の在韓日本語母語話者同士の会話に比べて差異が生じていることが明らかになった。しかし、在日コリアンの民族意識としてのアイデンティティは世代が若くなるにつれ希薄化が進んでおり、その生活は多様である。したがって、どのような生活環境で育ってきたのかを調査することが必要であり、今後も、在日コリアンの調査データを増やし、在日コリアン同士の会話や生活環境と話題の相関性についてさらに分析を進めたいと考え、今後の目的としたい。

参考文献

紙面の都合上、割愛する。

드라마를 통해 본 한중일 불만표명행위의 특징

·‘미생’의 한중일 버전을 분석하여·

ドラマを通して見た韓中日の不満表明行為の特徴- '未生' の韓中日版を分析-

정현아(명지대학교)

1. 들어가며

불만표명은 ‘상대로부터 자신 또는 자신과 관계된 사람들이 불이익을 당했다고 느끼거나 부정적인 평가를 받고 있다’고 생각되어 불만상황을 제공한 상대에게 자신의 불쾌한 감정을 전달하는 발화행위이다. 이와같은 불만표명행위는 상황의 부담도, 상하 힘의 관계 및 친소에 따른 인간관계에 의해 나타나는 언어전략이 다를 수 있다(Brown and Levinson, 1987). 정현아(2022a, 2022b)는 불만표명자가 동기와 선배에게 불만을 표명하는 상황, 즉, 상하 힘의 관계가 존재하는 상황을 설정하여 한중일 여학생의 불만표명행위의 언어전략을 대조한 결과, 중일에 비해 한국여학생의 불만표명자는 선배에게 보다 상대방의 Face를 존중해주는 대인배려의 언어전략을 많이 구사하는 특징이 있음을 보고하였다. 이들 연구는 실증적인 대화데이터를 분석자료로 사용하여 결과를 도출하였으며, 특히 한중일 여학생을 연구대상자로 설정하여 그 특징을 살펴보았다. 상기의 결과에서는 불만표명자가 직·간접적인 불만표명을 하거나 적극적으로 개선을 요구하는 등의 언어전략을 구사하고 있었지만, 실제 비즈니스 상황에서 상하 힘의 관계가 존재하는 경우에 이와같은 불만표명을 언급하는 것은 쉽지 않을 것으로 사료된다. 본연구는 이와같은 문제점을 보완하여 고찰의 폭을 넓히기 위해 한중일 불만표명에 대한 상호작용의 특징을 ‘미생’이라는 비즈니스 드라마의 한중일판을 분석하여 살펴보고자 한다. 특히 한중일 불만표명자와 제공자가 상하 힘의 관계가 존재하는 상황에서 어떠한 언어운용을 하고 있으며 그 유사점과 차이점은 무엇인지를 분석·고찰한다.

2. 연구방법

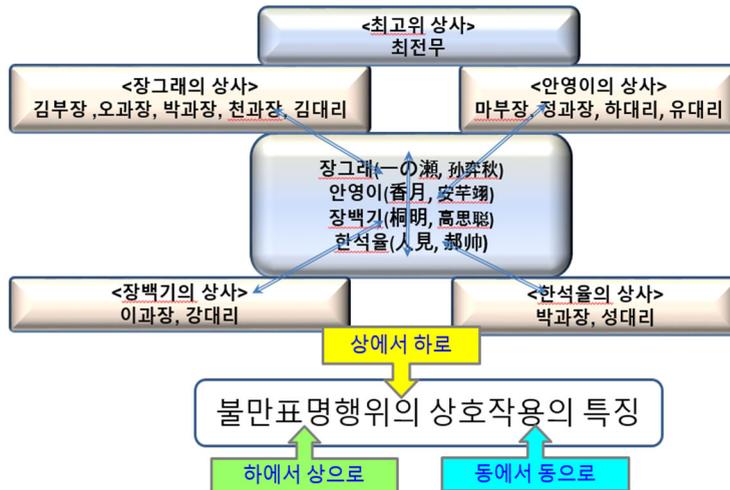
본연구는 아래의 <표1>에서 제시한 드라마 자료를 분석자료로 하였으며 2014년도에

제작된 한국의 비즈니스 드라마 ‘미생’을, 2016년에 리메이크한 일본판 미생, 2020년에 리메이크한 중국판 미생을 연구자료로 사용하였다.

	드라마명	년도	회차
한국	미생(未生)	2014	20부작
중국	平凡的榮耀(평범한 영광)	2020	42부작
일본	HOPE期待ゼロの新入社員	2016	9부작

<표 1> 분석자료 정보

아래의 <그림1>은 미생에서 나타나는 상하 인간 관계를 설명한 것이다. 본연구는 주인공인 장그래와 동기인 안영이, 장백기, 한석울 등이 불만상황에서 상사 또는 동기와 대화할 때 어떠한 상호작용의 특징이 나타나는지를 분석·고찰하고자 한다.



<그림1>. 미생에서 나타나는 상하 인간 관계도

3. 분석방법

아래의 <표2>과 <표3>에 본연구의 분석항목 및 발화예를 기술하였으며, 이들 발화는 언어 및 비언어전락을 중심으로 분석하였다.

<표 2> 불만표명자의 언어 및 비언어전략의 분석항목과 발화에

분석항목		발화에
직접적인 불만표명	막말형	상사: 너 진짜 짤리고 싶어!, 인턴은 못 짜를 줄 알아?? <미생2화>
	명령형	상사: 전화기만 붙들고 있지 말고 당장 튀어가. 가서 결판 내. <미생6화>
	빈정형	김대리: 아니 근데, 26개 먹을 동안 도대체 뭘하고 살았길래, 할 줄 아는 게 하나도 없네. 아주 그냥 요즘 보기도문 청년이네. <미생1화>
	행동형	하대리: 그래 분석하다 보니깐 내 보고서가 시장에 맞지도 않고 자료조사도 안 됐다는 것 아니야!![서류를 얼굴에 던진다] <미생7화>
간접적인 불만표명	확인형	강대리: 이 들도 보도 못한 양식은 뭐니까? 신입 때 원데이터 통일 양식 안 배웠어요? <미생7화>
	거절형	박과장: 과장님 이거 안돼요, 중동 여기가 의욕만 가지고 되는데가 아니라니깐. <미생9화>
	변명형	동기: 아 근데, 장그래 씨는 대학 어디 나왔어요? 하버드? 스탠포드?//[주변사람들이 비웃는다] 아 내가 궁금한 것을 못 참는 성격이라. <미생1화>
	반문형	김대리: 아니 회사에서 어떻게 장그래한테 이렇게까지 할 수 있어요? <미생17화>
	설명형	오과장: 내가 알아서 한다고 그랬잖아, 장그래 잘 들어라, 오늘 니가 한 이 행동이 오히려 팀을 더 위험에 빠뜨릴 수 있어. <미생19화>
	요청형	김대리: 앞으로 이런 일이 생기면 미리 나랑 의논해 줬으면 좋겠어. 나도 장그래랑 그 정도 사이는 된다고 생각해. <미생12화>
	호칭형	김대리: 과장님!! 진짜!! <미생8화>
	침묵형	오과장: 가자, 가. 김대리: [가지 않고 허리에 팔을 두르고 밖을 보고 있다.] <미생6화>

<표 3> 불만제공자의 언어 및 비언어전략의 분석항목과 발화에

분석항목	발화에
사죄	장그래: 죄송합니다. <미생1화>

이유	장그래: 뭘 해야 할지 몰라서.<미생1화>
확인	안영이: 네 지금 보완해서 진행하려고 합니다.<미생12화>
개선	장그래: 다시 만들어 오겠습니다.<미생9화>
부정	안영이: 제 말씀은 그게 아니고.<미생5화>
감사	안영이: 아, 감사합니다.<미생8화>
독백	장그래: [속으로] 다행스럽게도 나만 변한 것이 없었다.<미생4화>
행동	오과장: [부장을 뒤로 하고 나와 버린다] <미생6화>
호칭	최전무: [웃음] 오상식. <미생16화>
침묵	오과장: [침묵한다]<미생13화>

4. 결과 및 고찰

<표4>는 ‘미생’ 한중일판에서 불만표명행위의 상호작용이 나타난 장면을 추출한 결과이다. 한국은 총20부작의 드라마 내용 중에 상에서 하로, 동에서 동으로, 하에서 상으로의 불만표명행위의 상호작용이 100장면 추출되었고, 중국은 총42부작의 드라마 내용 중에 119장면, 일본은 총9부작의 드라마 내용 중에 50장면을 추출하였다. 상에서 하로 불만표명의 상호작용이 많이 나타난 순은 중국>한국>일본 순이었고, 동에서 동으로 나타난 순은 일본>한국>중국, 하에서 상으로 나타난 순은 일본>한국>중국 순이었다. ‘미생’의 한중일판에서는 주로 상에서 하로의 불만표명이 많이 나타나는 경향을 보였다.

<표 4> 불만표명행위의 상호작용이 나타난 장면에 대한 추출결과

	상->하	동->동	하->상	합계
한국	69(69%)	16(16%)	15(15%)	100(100%)
중국	84(71%)	18(15%)	17(14%)	119(100%)
일본	30(60%)	9(18%)	11(22%)	50(100%)

4.1. 상에서 하로 불만표명행위의 상호작용의 한중일 특징

상사가 부하에게 불만표명을 하는 상황의 상호작용을 살펴보기 위해 불만표명자(좌)와 불만제공자(우)의 언어 및 비언어전략의 빈도와 비율을 아래의 <표5>에 제시하였다.

<표5> 불만표명자와 제공자의 언어 및 비언어전략의 빈도와 비율(상에서 하로)

	한국		중국		일본	
	빈도	비율	빈도	비율	빈도	비율
막말형	91	26.5%	82	18.6%	14	10.6%
명령형	53	15.5%	73	16.6%	26	19.7%
빈정형	15	4.4%	11	2.5%	4	3.0%
행동형	29	8.5%	64	14.5%	8	6.1%
확인형	121	35.3%	157	35.6%	57	43.2%
거절형	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
변명형	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
반문형	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%
설명형	31	9.0%	54	12.2%	22	16.7%
요청형	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
호칭형	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
침묵형	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
합계	343	100.0%	441	100.0%	132	100.0%

	한국		중국		일본	
	빈도	비율	빈도	비율	빈도	비율
사회	28	13.1%	21	14.8%	19	25.7%
이유	12	5.6%	12	8.5%	4	5.4%
확인	139	65.0%	78	54.9%	27	36.5%
개선	7	3.3%	4	2.8%	6	8.1%
부정	8	3.7%	5	3.5%	9	12.2%
감사	1	0.5%	2	1.4%	0	0.0%
독백	5	2.3%	0	0.0%	0	0.0%
행동	12	5.6%	2	1.4%	1	1.4%
호칭	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
침묵	2	0.9%	18	12.7%	8	10.8%
합계	214	100.0%	142	100.0%	74	100.0%

먼저 불만표명자의 전략을 살펴보면, <막말형, 명령형, 빈정형, 행동형>과 같은 직접적인 불만표명은 한국54.9%, 중국52.2%, 일본39.4%로 한국>중국>일본 순으로 나타났다. 특히 한국은 막말형과 빈정형을, 일본은 명령형을, 중국은 행동형을 다용하는 특징이 있음을 알 수 있었다. 이들 직접적인 불만표명의 전략을 제외한 간접적인 불만표명은 한국45.1%, 중국47.8%, 일본60.6%로 일본>한국>중국 순으로 나타났다. 특히 한중일 모두 간접적인 불만표명의 언어전략 중에 <확인형>을 압도적으로 많이 사용하는 경향이 나타났으며, 이와같은 경향은 일본에서 강하게 나타났다. 그리고 <설명형>도 한중에 비해 일본에서 약간 다용하는 특징을 보였다.

다음으로 불만제공자의 전략을 살펴보면, <사회>는 일본>한국>중국 순이었고, <이유>는 중국>한국=일본 순으로 많이 사용하였다. 특히 한중일 모두 불만제공자가 불만상황을 확인하는 언어전략을 다용하는 특징이 나타났는데 한국>중국>일본 순으로 많이 사용하는 특징을 보였다. 자신의 행동을 개선할 것을 언급하는 <개선>은 일본>한국=중국 순으로, 상대의 불만표명에 대해 자신은 그와 같은 의도로 언급한 것이 아님을 강조하는 <부정>은 일본>한국=중국 순으로 많이 나타났다. 또한 상대의 불만표명에 대해 대응하지 않고 그 자리를 나온다거나 하는 비언어전략인 <행동>은 한국에서 많이 나타났고, 발화로서 대응하지 않는 <침묵>과 같은 비언어전략은

중국과 일본에서 많이 사용되고 있음을 알 수 있었다.

드라마를 리메이크하였지만 각국의 문화적인 배경에 따라 나타나는 언어 및 비언어 전략을 사용하는 특징이 있음을 알 수 있었다.

4.2. 동에서 동으로 불만표명행위의 상호작용의 한중일 특징

동기가 동기에게 불만표명을 하는 상황의 상호작용을 살펴보기 위해 불만표명자(좌)와 불만제공자(우)의 언어 및 비언어 전략의 빈도와 비율을 아래의 <표6>에 제시하였다.

<표6> 불만표명자와 제공자의 언어 및 비언어 전략의 빈도와 비율(동에서 동으로)

	한국		중국		일본	
	빈도	비율	빈도	비율	빈도	비율
막말형	20	24.1%	20	24.1%	2	7.4%
명령형	11	13.3%	12	14.5%	3	11.1%
빈정형	11	13.3%	1	1.2%	3	11.1%
행동형	8	9.6%	6	7.2%	0	0.0%
확인형	20	24.1%	20	24.1%	14	51.9%
거절형	2	2.4%	4	4.8%	0	0.0%
변명형	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
반문형	1	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
설명형	7	8.4%	18	21.7%	2	7.4%
요청형	2	2.4%	2	2.4%	0	0.0%
호칭형	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
침묵형	0	0.0%	0	0.0%	3	11.1%
합계	83	100.0%	83	100.0%	27	100.0%

	한국		중국		일본	
	빈도	비율	빈도	비율	빈도	비율
사죄	1	3.4%	3	9.4%	1	11.1%
이유	2	6.9%	4	12.5%	1	11.1%
확인	19	65.5%	17	53.1%	4	44.4%
개선	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
부정	0	0.0%	3	9.4%	2	22.2%
감사	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
독백	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%
행동	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
호칭	5	17.2%	0	0.0%	0	0.0%
침묵	1	3.4%	4	12.5%	1	11.1%
합계	29	100.0%	32	100.0%	9	100.0%

먼저 불만표명자의 전략을 살펴보면, 직접적인 불만표명은 한국60.3%, 중국47%, 일본29.6%로 한국>중국>일본 순으로 나타났다. 특히 일본은 한중에 비해 막말형을 적게 사용하였고, 빈정형은 중국이 한일에 비해 적게 사용하였으며, 한국은 동기와의 대화에서 <막말형, 명령형, 빈정형, 행동형>과 같은 직접적인 불만표명을 다용하는 경향이 있음을 알 수 있었다. 이들 직접적인 불만표명의 전략을 제외한 간접적인 불만표명은 한국39.7%, 중국53%, 일본70.4%로 일본>중국>한국 순으로 나타났다. 특히 <확인형>을 한중일 모두 다용하였지만, 일본은 한중에 비해 2배 가까이 다용하는 특징을 보였다. 또한 <설명형>도 한일에 비해 중국이 압도적으로 많이 사용하고 있었으며, 동기와의 대화에서 불만표명자가 아무 말도 없이 잠잠히 있는 <침묵>은 일본에서만 나타났다.

다음으로 불만제공자의 전략을 살펴보면, <사죄>는 일본>중국>한국 순이었는데, 일중에 비해 한국에서 적게 나타났다. <이유>는 중국>일본>한국 순으로, <확인>은 한국>중국>일본 순으로 많이 사용하고 있었다. 한국은 동기와의 대화에서는 <사죄

>나 <이유>를 언급하기보다는 불만상황에 대해 <확인>을 하려는 경향이 강함을 알 수 있었다. <개선>은 동기와의 대화에서는 나타나지 않았고, <부정>은 일본과 중국에서만 나타났는데 특히 일본에서 약간 다용되는 특징을 보였다. 상대의 불만표명에 대해 상대의 이름이나 호칭을 사용하는 <호칭>은 한국에서만 나타났고, <침묵>은 중국>일본>한국 순으로 나타났다.

4.3. 하에서 상으로 불만표명행위의 상호작용의 한중일 특징

부하가 상사에게 불만표명을 하는 상황의 상호작용을 살펴보기 위해 불만표명자(좌)와 불만제공자(우)의 언어 및 비언어전략의 빈도와 비율을 아래의 <표7>에 제시하였다.

<표7> 불만표명자와 제공자의 언어 및 비언어전략의 빈도와 비율(하에서 상으로)

	한국		중국		일본			한국		중국		일본	
	빈도	비율	빈도	비율	빈도	비율		빈도	비율	빈도	비율	빈도	비율
막말형	15	22.7%	19	27.9%	6	25.0%	사죄	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%
명령형	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%	이유	1	6.7%	1	12.5%	0	0.0%
빈정형	3	4.5%	0	0.0%	1	4.2%	확인	11	73.3%	5	62.5%	8	100.0%
행동형	7	10.6%	1	1.5%	1	4.2%	개선	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
확인형	14	21.2%	19	27.9%	11	45.8%	부정	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
거절형	6	9.1%	5	7.4%	0	0.0%	감사	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
변명형	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	독백	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
반문형	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	행동	1	6.7%	1	12.5%	0	0.0%
설명형	10	15.2%	19	27.9%	5	20.8%	호칭	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%
요청형	7	10.6%	3	4.4%	0	0.0%	침묵	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%
호칭형	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	합계	15	100.0%	8	100.0%	8	100.0%
침묵형	2	3.0%	1	1.5%	0	0.0%							
합계	66	100.0%	68	100.0%	24	100.0%							

먼저 불만표명자의 전략을 살펴보면, 직접적인 불만표명은 한국37.8%, 중국30.9%, 일본33.4%로 한국>일본>중국 순이었으며 한중일 모두 30%대의 사용비율을 보였다. 특히 불만을 표명하는 비즈니스 상황에서 부하가 상사에게 명령하는 경우는 거의 나타날 수 없으며, 상사에게 <행동>으로서 자신의 불만스러운 감정을 표명하려는 경향은 일중에 비해 한국에서 많이 사용되는 특징이 있음을 알 수 있었다. 간접적인 불만표명은 한국62.2%, 중국69.1%, 일본66.6%로 중국>일본>한국 순으로 나타났다. 특히 <확인형>을 한중일 모두 다용하였지만, 일본은 한중에 비해 2배 가까이 다용하는 특징을 보였다. 또한 상사의 요구를 거절하여 우회적으로 불만을 표명하는 <거절형>과 불만상황에서 상사에게 어떤 일이나 행동을 부탁하는 <요청형>은 한중에서만 나타났고, <설명

형>은 일중에 비해 한국이 적게 사용하는 경향을 보였다.

다음으로 불만제공자의 전략을 살펴보면, 일본은 <확인>만을 사용하였고, 한국과 중국도 <확인>을 높은 비율로 사용하고 있었다. 부하가 상사에게 불만을 표명하는 경우 상사는 사죄를 하거나 이유를 설명하거나 개선을 언급하는 등의 언어전략보다는 행동이나 침묵과 같은 비언어전략을 오히려 사용하려는 경향이 한중일 모두에게서 나타나는 특징이 있는 것은 아닐지 사료된다. 비즈니스 상황을 다룬 드라마에서는 상사가 부하에게 불만을 표명하는 상황이 많이 다루어지고 있으며, 동기가 동기에게 또는 부하가 상사에게 불만을 표명하는 상황은 상대적으로 적게 다루어지는 경향이 나타났지만, 비즈니스 드라마의 스토리에 따라 차이를 보일 것으로 생각된다.

참고문헌(지면상의 사정으로 미기재, 발표 PPT에 게시)

接客場面におけるホテルスタッフの断り談話

意味公式の分析から

林千賀（城西国際大学）

1. はじめに

最近の外国人学習者のための日本語教育は多様化しており、一般的な日本語教育（JGP: Japanese for General purposes）に加え目的別の専門日本語教育（JSP: Japanese for Specific Purposes）にも注目が集まっている。近年は職業目的別の教育が求められるようになっており（黄 2021）、中間言語語用論の研究成果が大いに役立つのではないかと筆者は考える。特に宿泊・飲食業における接客場面においては、言語形式のみではなく、接客の際の語用論的能力が不可欠である。具体的には客の要望を察し応える力、客の要望に添えない時は、断ったり謝ったりするコミュニケーション能力である。それを解明するためには、まずは、実際の接客場面の分析が不可欠である。そこで、本発表では、日本人ホテルスタッフの接客場面の談話をもとに客の要望（依頼）に対する「断り談話」を意味公式から検討する。そして、最後に日本語教育の観点から示唆を述べる。

2. 研究背景と先行研究

従来「断り」に関する研究は、中間言語語用論の観点から、日本語母語話者と日本語学習者との断り行動を比較するものが多く対照研究がほとんどであった（蒙 2008、グエン 2012 など）。そして日本語母語話者同士を対象とした研究も挙げられる（カノックワン 1995 など）。いずれも学生同士のやりとりを対象とした研究がほとんどで、宗（2018）は、今後は仕事におけるビジネス場面を設定した「断り」談話の研究が必要であると指摘している。社会人やビジネス場面における断り研究は、荒巻（1999）、喬（2016）、林（2019）などがあげられるが、ホテルの接客場面に特化した研究は管見の限りではない。

Beebe et al.(1990)は、断りには直接的断りと間接的断りの区別があるとし、「要ら

ない」のような否定や拒否の形で直接的に表現したり、相手にできない理由を述べ間接的に断ったりしている。藤森(1995:89)は、「発話を社会的相互作用の中で見た場合の発話行為の具現化のための最小の機能単位」を意味公式と定義した(本要旨では意味公式を{ }内に示す)。伊藤(2010:38)は、依頼に関する断り談話を分析し、日本人の目上の相手に対する応対順序は、< {詫び} - {弁明} - {結論} >の後に{代案}がくるとまとめた。

喬(2016)は、ビジネス場面における依頼に対する断り談話の分析を行なった。その結果、ビジネス場面の断り談話には、通常の断りに見られる要素の他、補助部があるとして「確認」や「協調」の要素をあげた。「確認」は、依頼内容が伝えられた後、受け手は、その内容を再度確認するという現象が複数回見られ、「協調」では、依頼側の要望に添えない時、「理解・共感」や「感謝」を示す協調的な言語行動をとるとした。

航空関係など接客業務を行うスタッフを被験者とした林(2019)の断り談話の分析においても通常に見られる、いわゆる断りの言語行動< {結論} {弁明} {詫び} {代案} (「断りの意味公式」群) >に加え、それらの前後に{確認} {事情説明} {行動表明} {接遇} {呼びかけ}などの意味公式(「接遇応対の意味公式」群)が、現れるという研究結果が出た。また、断り談話が長くなる現象については、藤森(1994)のほか、伊藤(2006:156)が「言語表現の長さは、丁寧さの一指標」と言及している。談話が長くなる点について、林(2019:17)では、「客への配慮を示し、客を厚く遇している」からではないかと分析している。そして「客の要望に対して負担が大きくなれば談話の長さはポライトネスの度合いを高め、丁寧度が上がることになる」と述べ、丁寧さを上げるために{事情説明}や{行動表明}などの意味公式が多く付与されると考察を加えた。しかし、負担度の違いによる分析は行なっていなかった。

本研究においては、ホテルの接客場面における「断り談話」の分析として、客の要望に対する作業の負担度の異なる2つの場面を設定した。

3. 調査方法

3.1 調査内容と調査被験者

「断り」の調査方法としては、談話完成テスト(Discourse Completion Test;以下、DCT)とロールプレイなどの方法が主流である。DCTの研究では、ほとんどが断る側の一

度の発話を分析しており、それを反省としてロールプレイ調査による自然談話からの分析が有効とされている。従って、本研究でもロールプレイで断り談話の意味公式を抽出する。ロールプレイは依頼を遂行する際の負担度の違いによる場面を2つ設定した。負担の軽い場面1では、客がホテルスタッフに「10階の和食レストランに行きたいが、席が空いているか確認してもらいたい」という依頼で、ラストオーダーの時間が過ぎてしまっているという設定である。場面2は、「部屋をダブルルームに変更してもらいたい」という依頼で、ダブルルームは満室であるため、それを伝えなければならないという設定で、それぞれロールプレイを行なった。

被験者は、東京都内の大手ホテル5社にそれぞれ従事する日本人ホテルスタッフ5名（全員、ホテルでの勤務が15年以上である）を被験者とし、2つのロールプレイをおこなった。そして全てのデータを文字化し、分析の資料とした。分析の対象とした断り談話は、先行研究を参考に客の要望を受けた後から客が承諾するまでの一連の言語行動と定義し、断り談話を分析する。

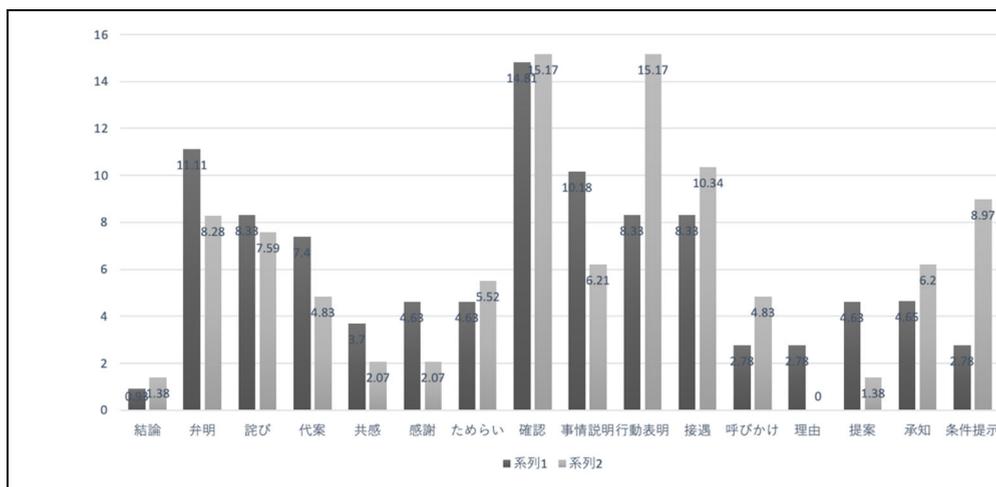
3.2 分析方法

まず「断り談話」データは、「客の要望に対するスタッフの応答についての意味公式」から分析する（林2019:6-7）。今回は、藤森(1994:5-6)、蒙(2008:247)などを参考に、修正を加えた。分析対象とする意味公式は16種類ある。①の{結論}は直接的な断りで、できないことを表明する。②の{弁明}は、できない理由の表明で間接的な断りを示す。③の{詫び}は謝罪で、④の{代案}は要望には添えないが、その代わり代案や解決案を提示する。⑤は{共感}で、客の要望や主張に対して共感する意味公式である。⑥は{感謝}、⑦は{条件提示}で「もし、よろしかったら・・・」と{代案}などの前に出現する。⑧の{ためらい}は断りを予測させるフィラーである。⑨は客の要望に対する{確認}で、⑩は状況説明の{事情説明}、⑪の{行動表明}はスタッフがこれからする行動についての表明で、⑫の{接遇}はクッション言葉である。⑬は「お客さま」と{呼びかけ}、⑭の{理由}は謝罪の理由の意味公式である。⑮は{提案}、最後の⑯は、「かしこまりました」などの{承知}である（それぞれの意味公式の意味機能や例の詳細は、林(2019)を参照のこと）。

分析手順は、場面1と2の5組ずつの談話データ（合計10組）から、16種類の意味公式の総数を出し、それぞれの意味公式の割合を計算する。そして作業の負担度の軽い場面1とやや重い場面2の意味公式の頻度を比較する。

4. 結果と分析・考察

場面 1（5 組の断り談話）からは小計 108 の意味公式、場面 2（5 組の断り談話）からは小計 145 の意味公式が検出された（合計 253 の意味公式）。場面 2（部屋の変更依頼）の意味公式は、場面 1（レストランの席の確認依頼）と比べ意味公式の回数は 1.5 倍と多かったことから場面 2 の断り談話が長かったことが窺える。先行研究で述べたように依頼を受けたスタッフの作業の負担度の差によって談話が長くなることが明らかとなった。次に場面 1 と場面 2 をそれぞれ比較するため、それぞれの場面の意味公式の総数を分母として 16 種類の頻度の平均値を算出した。小数点第 3 位を四捨五入し分析したことから、種類別頻度の平均値の総数は、場面 1 は 100% で場面 2 は 100.1% であった。図 1 は場面 1 と 2 の意味公式の頻度の内訳である。場面 1 は系列 1 で場面 2 は系列 2 の棒グラフである。



<図 1> 場面 1 と場面 2 の意味公式の頻度の内訳

4.1 意味公式の頻度からの分析と考察

場面 1 の第 1 位は、{確認} で 14.8 回の頻度であった。第 2 位は {弁明} (11.11 回)、第 3 位は {事情説明} (10.18 回)、第 4 位は {詫び} {行動表明} {接遇} (8.38 回) であった。場面 2 の第 1 位は {確認} と {行動表明} であった、第 2 位は {接遇} で、第 3 位は、{条件提示}、第 4 位は {弁明} であった。場面 1 も場面 2 も上位を占めていた主な意味公式は、断り行動を補足するための意味公式であり、喬 (2016)

と林(2019)を検証する結果となった。

4.2 断り談話からの分析

10組の断り談話全体から断り行動の意味公式の順を分析すると、場面1と場面2の9組(残りの1組は代案回避のストラテジーが見られた)は、客からの要望を受け、ホテルスタッフは、「< {詫び} - {弁明} (複数回) >- {代案}」という共通の断り行動の順があることが明らかとなった。これは伊藤(2010:38)の結果とほぼ同じ結果が出たが、異なる点は、大きく2つある。

まず1つは、{弁明}が複数回にわたって多数行われている点である。{弁明}には、「テ型」「ノダ型」「ノデ型」「命題型」「言いさし型」の種類(藤森1994)があり、場面1と2の合計10組の場面には、24回(19.41%)の頻度で{弁明}が出現していた。つまり、ホテル接客場面の断り談話では、客の要望に対し複数回の異なる種類の{弁明}で間接的に断っていたのである。

2つ目は、{弁明}や{代案}を言う前後に{確認}や{承知}{行動表明}{接遇}{ためらい}{呼びかけ}{承知}{条件提示}などの意味公式が出現することである。これらの現象は、喬(2016)の「確認」や「協調」の補足部、林(2019)の「接遇対応の意味公式」と共通の特徴が見られた。つまり、ビジネス場面と同様に、ホテル接客場面においても断り行動(< {詫び} - {弁明} (複数回) >- {代案})の前後に補足として他の意味公式が使用され談話が構成されていることが明らかとなった。本発表では、具体例として場面1から実際の断り談話(要望を受けてから客が承諾するまで)を提示し、さらに考察を加えることとする(誌面の関係で本要旨では省略する)。

4.3 JSP 日本語教育への示唆

「ホテル日本語」の教材として「客の要望に対するスタッフの断り談話」を提示することが重要と考える。特に客の要望(依頼)に対してお断りをしなければならない場合は、「< {詫び} - {弁明} (複数回) >- {代案}」を柱とし、補足部として客の要望を{確認}したり、客の要望に少しでも近づけるために{条件提示}や{行動表明}{接遇}{呼びかけ}などを繰り返し使用しながら、接客する姿勢が重要であることを学ぶ必要がある。従って、本研究の成果は、JSPの日本語教育に還元できるものであると考える。

5. おわりに

本発表では、ホテル接客場面における客の依頼に対するスタッフの断り談話においてどのような意味公式が出現するのか出現頻度を分析し、「断り談話」から断り行動の特徴を明らかにした。

これまでの「断り」の研究対象は、多くの場合、学生同士のデータが中心であり、今後の JSP 日本語教育に示唆を与える研究ではなかった。本研究においては、実際のホテルに従事するホテルスタッフを被験者に客の要望から客の承諾までの断り談話を分析することで接客の断り行動の全体が見えてきた。

本発表においては、意味公式の頻度と「< {詫び} - {弁明} (複数回) > - {代案}」の断り行動を示したが、確認や行動表明など、それぞれの役割について、さらに考察の余地がある。今後は、中間言語語用論における文化的背景による相違点も考察していく必要があると思われる。外国人ホテルスタッフによる日本語での断り談話と母語での断り談話の分析が喫緊の課題である。

引用文献

- 荒巻朋子 (1999) 「アメリカ人と日本人の断り表現の比較」『長崎大学留学生センター紀要』第 7 号、pp.105-137 長崎大学留学生センター
- 伊藤恵美子 (2006) 「日本人は断り表現において丁寧さをどう判断しているか—長さや適切性からの分析—」『異文化コミュニケーション研究』18,145-160
- 伊藤恵美子 (2010) 「依頼場面に見られる断り表現の特徴—日本語・ジャワ語・インドネシア語・マレーシア語・タイ語の比較」、『留学生教育』, 第 16 号, 35-44.
- カノックワン・ラオハプラナキット(1995) 「日本語における「断り」—日本語教科書と実際の会話との比較—」『日本語教育』87, pp.日本語教育学会
- 喬 曉筠 (2016) 「ビジネス場面における依頼への断り—日本語母語話者と台湾人日本語学習者の比較から—」『専門日本語教育研究』18 卷 pp.45-48
- グエン・イエン ティ ハイ (2012) 「依頼に対する断り談話：日本語母語話者とベトナム語母語話者との比較」『言語・地域文化研究』18,pp.181-192
- 黄海洪 (2021) 「JSP (Japanese for Specific Purposes) の一考察—職業目的の日本語 (JOP) の下位分類の整理を通して」『BJ ジャーナル』第 4 号 pp.58-70

- 宗 甜甜 (2018) 「日本語の「断り」に関する研究の動向-依頼に対する場合」『日本大学大学院
総合社会情報研究科紀要』 No. 19, pp. 207-2018
- 林千賀 (2019) 「接遇ビジネスにおける『客の要望に添えない場合のスタッフの断り談話とそ
の応対』-意味公式の観点から-」『城西国際大学紀要』第 27 巻第 2 号 pp. 1-27. 城西国際大
学
- 藤森弘子 (1994) 「日本語学習者にみられるプラグマティック・トランスファー—『断り』行
為の場合—」, 『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』, 名古屋学院大学第 1 号, pp.1-
19.
- 藤森弘子 (1995) 「日本語学習者にみられる『弁明』, 意味公式の形式と使用—中国人・韓国人
学習者の場合—」『日本語教育』第 87 号 pp.79-89 日本語教育学会
- 蒙韁 (2008) 「中国人日本語上級学習者の語用論的転移の一考察-依頼に対する断り表現のポ
ライトネスの表し方から-」『国際開発研究フォーラム』第 36 号 pp.241-254
- Beebe, L. M. Takahashi, T, and Uliss-Weltsz, R. (1990) Pragmatic transfer in ESL refusals,
in R.C. Scarcella et al (eds), *Developing communicative competence in a second language*,
pp.55-73 New York : Newbury House

話し手の視点の捉え方に関する日韓対照

－4 コマ漫画のストーリーテリングの調査を通して－

許 明子（名古屋大学）

1. はじめに

本研究は、日本語母語話者と韓国人日本語学習者がある出来事や事象を捉え言語化する際に、話し手としてどのように視点を捉え、どのような言語形式を用いて言語化するのかを明らかにすることを目的としている。そのために、日常で起こり得る出来事や事態を4コマ漫画でストーリーを描写するストーリーテリングの調査を実施した。

本研究では、許ほか（2021）日本語母語話者26名の分析結果に基づいて、韓国人日本語学習者29名を対象に実施した調査の結果について、話し手の視点の捉え方、そして言語化する際の言語形式の2つの観点から比較分析を行う。

2. 先行研究と研究課題

木村（2014：99）は現実を言語化するにあたって言語化という行為を介して、客観的現実がどのような形で主観的現実として組み立てられるかについて、慣習的な要因の一つとして、話し手が客観的現実を捉える際の認知的な「視（perspective）」という現象に焦点をあてて対照研究の観点から分析している。木村（2014）によれば以下の2つの視点があるという。

- 「**当事者現場立脚の視点**」：話し手は、表現の対象となる現場に立脚し、当事者としての自らの視点を通して、現場に存在する事物の関係づけを行なう。話し手が現場に一実際に、あるいは概念上一立脚して現実を捉える」という視点の捉え方
- 「**傍観者俯瞰型の視点**」：話し手は現場に立脚するわけではなく、あたかも傍観者が眼下の風景を俯瞰するかのような視点で、東西南北という絶対座標に

照らして、参照点と目標のみの位置関係を捉える。このような視点の取り方を「傍観者俯瞰型の視点」とする

木村（2014）では中国語母語話者は事態認知において傍観者的な視点を取り、ステージを見る観客ごとく「ひと事」として事態を捉えるのに対して、日本語母語話者は現場立脚型の視点をとりがちであり当事者的な視点を取り「わが事」として捉える傾向が強いと述べている。南（2015）では前述の木村（2014）の視点の捉え方を認めており、日本語母語話者の語りでは視点が主人公に固定される傾向が認められると述べられている。その結果、日本語母語話者の語りには中国語話者や英語話者より受動文の使用頻度が高く、I-JAS の会話データの分析結果から有意差が認められていると指摘している。

以上の先行研究の指摘を踏まえて本研究では韓国人日本語学習者が話し手である自身に視点をおいて出来事を捉えた際にどのような表現形式を用いて言語化するかについて分析を行う。

3. 調査概要

調査対象は 20 歳代の日本語母語話者 26 名（大学生、大学院生、社会人）と、中上級以上の日本語力を有している韓国人日本語学習者 29 名である。韓国人日本語学習者 29 名は韓国もしくは日本国内に在住している学習者が含まれているが、日本永住者で幼児期から日本語を L1 として獲得している 2 名は分析対象から排除し、27 名の調査結果を分析した。調査を実施する際に、被調査者自身が主人公になり、話し手自身に起きた出来事として描写するよう指示した。調査方法は Zoom ミーティングを使ってオンラインで実施し、4 コマ漫画を画面共有しながらストーリーを考えた後、音声で述べてもらった。調査の内容はすべて録画し、描写した音声データを文字起こしした後、テキストのデータを用いて分析を行った。

本研究で設定した 4 コマ漫画は次の 3 つの場面である。各場面それぞれ①～④のストーリーになっており、それぞれの場面とストーリーは以下の通りである。（調査に使用した 4 コマ漫画は資料を参照されたい。）

- 場面(1) : ①テスト中、②隣の人にテストを見られ、③テスト後に注意、④逆に怒られた。
- 場面(2) : ①空港に両親を迎えに行くで電話で約束、②両親と一緒に空港からバスで移動、③空港にキャリアを置き忘れたことを思い出し、④空港に戻る
- 場面(3) : ①突然雨が降り出し、②友人に傘を貸すと言われたが、③母に迎えに来てもらうよう電話で話し、④母に迎えに来てもらった。

調査を行う際の指示としては、自分をマンガの主人公として捉えて表現すること、4コマ漫画をすべて表現するように伝えた。各場面の4コマの漫画を見て、ストーリーを考えた後、音声でストーリーを話してもらった。また、調査後に任意で自由に感想を述べてもらった。韓国人日本語学習者は先に日本語で表現し、次に日本語の翻訳ではなく自然な韓国語の表現で描写するよう指示した。

4. 分析結果と考察

南(2015)ではI-JASのストーリーテリングのタスク1(ピクニック)とタスク2(鍵)の分析を通して、日本語の受動態の使用頻度と視点の固定について相関があると述べ、日本語母語話者の語りでは、トピックに関わらず受動態の使用頻度が高く視点が主人公に固定される傾向が認められたと述べている。

本研究では話し手が主人公として視点を捉えた表現形式として受身、テクル、テモラウ、テクレルの4つの表現形式に絞って、日本語母語話者と韓国人学習者の使用頻度、出現頻度を分析した。4.1では日本語母語話者と韓国人学習者の表現形式の使用頻度について述べ、4.2では使用例と韓国語の表現の詳細について述べる。

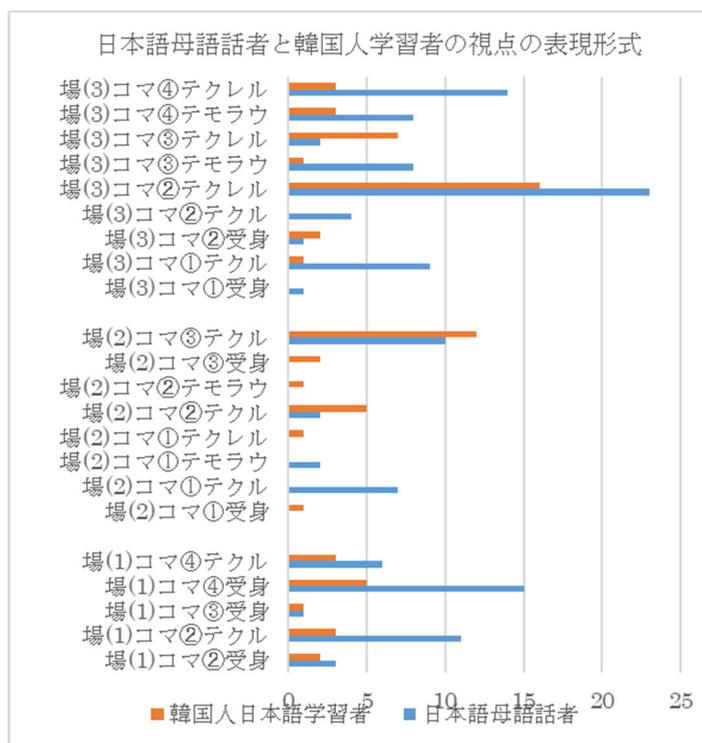
4.1 話し手の視点を捉えた表現形式の使用

日本語母語話者と韓国人学習者の視点を表す表現形式の使用回数を次の表1にまとめる。

表 1 日本語母語話者(J)と韓国人学習者(K)表現形式の使用回数

場面	表現 コマ	受身		テクル		テモラウ		テクレル	
		J	K	J	K	J	K	J	K
場面(1)	②コマ目	3	2	11	3				
	③コマ目	1	1						
	④コマ目	15	5	6	3				
場面(2)	①コマ目		1	7		2			1
	②コマ目			2	5		1		
	③コマ目		2	10	12				
場面(3)	①コマ目	1		9	1				
	②コマ目	1	2	4				23	16
	③コマ目					8	1	2	7
	④コマ目					8	3	14	3

上記の表 1 の結果をグラフで示すと次の図 1 のようになる。



両グループの表現形式の出現頻度について t 検定を行った結果、場面(1)と場面(3)の日本語母語話者の視点を表す表現形式の使用は韓国人学習者の使用頻度より有意

差が認められた¹。上記表 1 の使用回数の数値に色を付けてある回数が日本語母語話者と韓国人学習者に差が見られた表現形式である。場面(1)では②コマ目のテクル(動作の移動)、④コマ目の受身文の使用回数に差が見られた。場面(3)では①コマ目のテクル(動作の移動)、②③④コマ目のテモラウ、テクレルの使用回数に大きな差が見られた。いずれの表現形式も日本語母語話者のほうが韓国人学習者より使用回数が多い。これらの日本語の表現形式は韓国語では該当する文法的な表現が存在しないことから使用回数に差が生じていると考えられる。

一方、場面(2)では日本語母語話者と韓国人学習者の表現形式に有意差が認められず、②③コマ目でテクルが用いられている。移動の方向を表すテクルは日本語と韓国語に共通していることから類似した使用回数を示しているものと考えられる。

以上の表現形式の使用回数の結果から、日本語母語話者と韓国人学習者の両方も話し手として視点を捉えて言語化する傾向があることが分かった。しかし、受身、テクル(動作の移動)、テクレルの形式を用いて視点を捉える表現形式は日本語母語話者の使用回数は多いが、韓国人学習者の使用回数は少ない。一方、移動の方向を表すテクルは日本語と韓国語の両方に存在するため、両言語の話者に視点を捉える表現として用いられる傾向があることが分かった。

4.2 視点を捉えた表現形式の使用例

本節では 4.1 で明らかになった視点を表す表現形式の使用について、日本語母語話者と韓国人学習者がどのように言語化したのかについて描写例を紹介する。紙面の関係上、本研究では両話者に顕著な差が見られた場面(1)の②コマ目のテクルと④コマ目の受身、場面(3)の②コマ目のテクレルと④コマ目のテモラウの描写例を紹介する。

表 2 各場面の視点の描写例

場面	コマ	選択された表現	
		日本語母語話者	韓国人学習者
場面	2 コマ	・隣の女の子が私の答案を	・テストを受けていたら、隣

¹ t 検定の結果は以下の通りである。

場面 (1) : $t(4)=2.24, p=0.08(p<0.1)$ 、場面 (2) : $t(7)=0.1, p=0.9, (p<0.1)$ 、場面 (3) : $t(8)=2.47, p=0.03(p<0.1)$

(1)	目：テク ル	見て来たので、(J4) ・テストをのぞき込んで きました。(J5) ・隣の席の男の子が、 テストをカンニングして 来ました。(J17)	の子が見てきました。(K18) ・私の試験用紙を見て きました。(K19) ・いきなり隣の友達が ちらっと私の試験用紙 を見てきました。(K22)
場面 (1)	4コマ 目：受身	・注意されて、えっと 逆切れをされました。 (J9) ・逆に怒られたちょっと ぐらいいいでしょうって 怒られてしまいました。 (J14) ・逆ギレをされました。 (J22)	・あいつから叱られて すぐ絶交しました。(K3) ・逆に怒られちゃって なんの反応もできずに (K23) ・僕が怒鳴られる羽目 になりました。(K24)
場面 (3)	②コマ 目：テク レル	・声をかけてくれました。 (J13) ・傘を貸してくれよう としました(J16)	・女の人が私の傘を 渡してくれました。(K9) ・彼女がわたしに傘を 貸してくれたんですが、 (K21)
場面 (3)	④コマ 目：テモ ラウ	・母親に車で迎えに 来てもらいました。(J14) ・母に迎えに来てもら って、帰りました。(J24)	・大丈夫とってお母 さんに迎えてもらいま した。(K24) ・結局母に迎えに 来てもらってよかっ たです。(K29)

表 2 に見られるように、韓国人学習者の中にも受身文やテクルを用いて話し手の視点を捉えて言語化している例が見られた。

ここで興味深いことは、韓国人学習者が日本語で受身、テクルを用いて視点を捉えて言語化した例でも韓国語では能動文を用いて表現している例が多数見られた。例えば、場面(1)の④コマ目の例を挙げる。

K3	日本語	ところが、あいつから叱られてすぐ絶交しました。
	韓国語	그랬더니 오히려 저에게 화를 내서 바로 절교했습니다.
K23	日本語	逆にちょっとぐらいいいでしょうと逆に怒られちゃってなんの反応もできずにえ～って言っちゃいました。
	韓国語	그런데 반대로 애가 화를 내서 어처구니가 없어서 응하고 말을 못했습니다.
K22	日本語	いきなり隣の友達がちらっと私の試験用紙を見てきました。
	韓国語	옆자리 친구가 제 시험지를 보았습니다.

さらに、日本語と韓国語の両方とも話し手に視点が捉えられておらず、単なる出来事として描写している例が多く見られた。例えば次のような例である。

K7	日本語	逆に友達がもっと怒って、私は驚きました。
	韓国語	친구는 절대 बे끼지 않았으며, 오히려 나에게 화를 내었다.
K9	日本語	友達はむしろちょっとぐらいいいでしょうって私を叱りました。
	韓国語	그런데 친구는 오히려 조금정도는 괜찮잖아 라며 저에게 화를 냈습니다.
K19	日本語	隣に座っている友達が、私の試験用紙を見ました。
	韓国語	옆자리에 앉은 친구가 제 시험지를 봤습니다.

以上の言語化の描写例で分かるように、韓国語は話し手に視点を固定しないで表現しても不自然ではなく、自然な韓国語として理解される。つまり、一つの文の中に、動作主の動作に視点を置いて描写し、話し手がそれをどう受け止めたかについて述べるような二つの視点が含まれている例が多く見られる。これらの描写例から、韓国語は木村（2014）が指摘している「傍観者俯瞰型視点」から言語化しており、日本語とは異なる視点の捉え方をしていると考えられる。

5. まとめと今後の課題

本研究では日本語母語話者を対象に、3つの場面の4コマ漫画の主人公としてストーリーを描写する調査を行った。分析の結果、日本語母語話者と韓国人学習者のストーリーの言語化には表現形式や描写例において顕著な違いがあることが明らかになった。韓国語の言語形式や表現内容、視点の捉え方については今後さらに精緻な分析を行う必要がある。それは今後の課題としたい。

参考文献

- 木村秀樹（2014）「こと・ところ・ことば—現実をことばにする視点—」『人文知』東京大学出版会. pp 97-118
- 許明子・西澤萌希（2021）「日本語母語話者と日本語学習者の視点の捉え方と表現形式—4コ

マ漫画と I-JAS のストーリーテリングの比較を通して」『JALP10 周年記念シンポジウム予稿集』日本語プロフィシエンシー研究学会

益岡隆志 (1997) 『表現の主観性 視点と言語行動』くろしお出版、pp1-11

水谷信子 (2015) 『感じのよい英語感じのよい日本語』くろしお出版

水谷信子 (1985) 『日英比較 話ことばの文法』くろしお出版

南雅彦 (2015) 「日本語学習者の「形」から見えてくる習熟度—語彙・時制・視点—」LSAJ 4 回目シンポジウム予稿集

台湾日本語関係学科における観光関連授業の現状と課題

銘傳大学応用日本語学科 林玉恵

1. はじめに

台湾交通部観光局の統計（日本の観光庁に相当）によると、過去10年間、コロナ期間を除いて、日本へ旅行した台湾人は、海外旅行総人数の10～15%を占めている。そのうち、旅行の目的が観光である人々は9割を占めているとのことである。また、同局の発表によると、2015年から4年連続で、台湾を訪れた海外旅客数が1,000万人を突破している。さらに、2018年には、訪台旅客数が過去最多の延べ1,107万人に達した。そして、同局の統計によると、過去10年間において、日本人は国別訪台者数で2番目に多く、台湾を訪れた外国人のうち、日本人が占める割合は16～23%となっている。そして、そのうち7割が観光を目的とする旅行者であることが分かっている。

以上で述べたように、台日観光は活況を呈していることと、台湾と日本は互いに重要な観光客源国ということもあるため、日本観光関係の人材育成が非常に大事と言うのは論を待たない。観光関係学科の学生だけでなく、観光業への就職を目指す日本語関係学科の学生も少なくない。観光業は日本語だけでなく、旅行の目的地に関する豊富な知識も重要である。本稿は、台湾日本語関係学科における選択科目である観光関連授業の現状や開設状況などを調べてみる。具体的には、台湾の教育部大学院課程资讯网における観光関連授業の開設状況を調べ、台湾日本語関係学科における観光関連授業の現状と課題を考察する。本発表の意義は、以下の3点にまとめることができる。

- (1) 台湾日本語関係学科における観光関連授業の現状および課題を明らかにすることが、日本語教育・日本文化教育の中にどのように位置づけられるかを考えることができる。
- (2) 本発表の研究成果を応用することで、観光関連授業をデザインする際によりよい指針を構築することができる。また、特色ある観光関連授業を開発・提供することで、台湾日本語関係学科における日本語教育の質的充実を図りたいと考

えている。

- (3) 観光関連授業を例として、台湾日本語関係学科における選択科目あるいは教養科目の開設の問題点を明らかにする。

2. 台湾日本語関係学科における観光関連授業の現状

日本の観光ブームに対応して、国内の大学や専門学校の日本語および観光関連科目の割合が非常に高くなっている。林長河（2014）の調査によれば、台湾の日本語関係学科において、日本語関連科目を設置している42校中、観光関連授業を設置しているのは25校（59.5%）であった。また、「大学院校課程資源網」¹で、「日本観光」「日本旅行」「日本史地」「日本地理」「観光旅行」などの科目名で検索を行ったところ、過去10年間（102～110学年度）においても日本語観光関連授業が多数開講されていることがわかった。毎年、日本語観光関連授業が開講されている学校は異なっているが、過去10年間においては、世新大学と銘傳大学の2校が継続して開講しており、5年間開講されているのは東海大学、建国科技大学、義守大学の3校である。筆者が教鞭をとっている大学（銘傳大学日本語応用日本語学科）は、日本の観光旅行需要に応じて、93学年度から「日本旅行概論」という科目を開講しており、現在まで18年間続いている。この授業は筆者が担当しており、111学年度の前期にも開講された。この授業は大学2年生の選択科目で、2単位の授業で、毎年90～120人の学生が受講している。

101学年度から110学年度までの10年間において、5年以上にわたって日本語観光旅行関連の授業が開講されたシラバスの概要によれば、これらのコースには日本の観光旅行、地理、日本文化、社会の現状、風土民情、ガイドライセンスなどが含まれており、コースの内容には大きな差異があることがわかる。また、授業科目名も学科によって異なっている。例えば、「日本旅遊地理」、「日本旅遊概論」、「日本旅遊史地」、「日本観光地理」の科目名が見られ、バリエーションが富んでいる。まとめると、台湾の日本旅行関連授業には、使用される教材の種類が多く固定されていない、授業の内容に大きな差異があるなどの主な問題が存在していると言える。

¹ <https://ucourse-tvc.yuntech.edu.tw/webu/index.aspx>

3. 台湾日本語関係学科における観光関連授業の課題

観光関連授業の課題として、まず、挙げられるのは台湾の学生にとっては、日本での実地体験が難しいため、教室内での学習に頼ることになることである。また、日本の観光情報は日々変化しており、教員は、情報の更新や実践的な学習方法の導入に努める必要がある。さらに、観光関連授業のほとんどは選択授業であるため、学習意欲が低く、モチベーションと集中力の欠如、疲労やストレス、スマートフォンへの過度な依存などの課題も存在する。以下は、銘傳大学応用日本語学科の「日本旅遊概論」の授業を例に、位置づけ、教材、多人数の観点から、具体的に台湾日本語関係学科における観光関連授業の課題について考察したい。

3.1 「日本旅遊概論」の授業について

筆者が担当する銘傳大学「日本旅遊概論」の授業は、93 学年度²に 2 年生の選択科目として開設され、週 2 時間（1 時間は 50 分）開講されている。また、当該授業は 98 学年度まで、毎学期開かれている。しかし、1 学期と 2 学期はそれぞれ異なるクラスを対象にしているため、1 学期も 2 学期も同じ授業内容である。この点は、他の科目と異なっている。ただ、99 学年度以降、学科の開講**単位数**が大幅に**削減されたため**、「日本旅遊概論」は年に一度しか開講していない。なお、筆者が設定した授業目的は、履修者のニーズおよび銘傳大学応用日本語学科の特色と教育目標と核心能力から、以下の 5 点に設定した。

- (1) 日本への個人旅行の基礎知識の獲得。
- (2) 個人旅行プランの作成。
- (3) 日本語習得の動機づけ。
- (4) 日本を案内する添乗員になるための基礎知識の獲得。
- (5) ワーキングホリデーに役に立ちそうな情報の獲得。

つまり、「日本旅遊概論」の授業目的は、日本を案内する添乗員になるための基礎

² 「学年度」とは学校で定められた、1 年間で単位とした修学の期間のことである。93 学年度は民国 93 年の 8 月から始まる学年のことで、2004 年 8 月 1 日～2005 年 7 月 31 日を指している。

知識を学ぶことである。より授業目的を具体的に言えば、日本への個人旅行の基礎知識の獲得と、個人旅行プランの作成と、日本語習得の動機づけという3つである。

3.2 位置づけからみる観光関連授業の課題

「話す・聞く・書く・読む・訳す」という5つの技能は、言語学習者にとって基本的な目標であり、もっとも重要な能力とも言える。外国語習得に欠かせないことは、その言語の背後にある歴史や文化などへの理解である。極端に言えば、ことばを学ぶためには、語彙や文法を身に付けただけでは不十分である。目標言語の学習を巡っては、本質的な異文化理解なしには語れないといっても過言ではない。それゆえ、従来、外国語学科において異文化理解関連授業は、教養科目として開設されてきた。台湾の外国語学科においても異文化理解関連科目を「概論的授業」として、2年生と3年生で選択科目として開設していることが多い。

銘傳大学応用日本語学科では、「日本旅行概論」という科目を2年生で開講し、選択科目として位置づけている。この科目は「概論的な授業」として位置づけられており、比較的興味深い授業名「日本旅行概論」を付けることで、学生の日本語学習への興味を引き出し、より日本について知る機会を提供し、目標言語である日本語の上達に繋がるような授業にしたいと考えている。また、就職をサポートするため、銘傳大学応用日本語学科では、単位取得プログラムを提供しており、ビジネス単位取得プログラム、観光旅行プログラム、日本語教育プログラムなどがある。「日本旅行概論」は観光旅行プログラムの中の一つの授業である。

3.3 教材からみる観光関連授業の課題

台湾で数多くの日本語関係の教科書を出版している、大新書局、致良出版社、尚昂文化事業國際有限公司、および博客來網路書店の出版物を調査した結果、初級・中級・上級日本語、文法、会話、聴解、翻訳、日本語学習辞典、日本語能力試験、日本留学試験などに関するジャンルの教科書や教材はおびただしい数が出版されているが、日本旅行関連のものはほとんど見られなかった。唯一と言って良い日本旅行関連の教科書は、2000年に大新書局から出版された『日本旅遊入門』である。同書の情報はすでに十数年前のものであるが、その後新版や改訂版は出されていない。表1の日本語と観光旅行関連の開講科目における教科書や教材は、各学科のホームページと教育部大学院課程資訊網および教育部技職院校課程資訊網によって調べた結果

および表 2 によれば、教材からみる「日本旅遊概論」の特徴は以下の通りである。

- (1) 観光関連授業の教材は決まったテキストを使用しない傾向が見られる。同じ教材を使う学科は見られず、各大学でそれぞれ異なるものを使用し、特定テキストを使用していない。
- (2) 教材の種類が多い。旅行や観光関係以外に、例えば世新大学日本語文学系の「日本旅遊地理」では、地理関係の『日本・東京の地理』を主教材として使用している。
- (3) 一つの教材のみを使用することはなく、複数の教材を適宜組み合わせ活用している。
- (4) 主教材に加え副教材が使われている。
- (5) 台湾で出版された教材も使用されているが、日本出版の教材の方がより多く使用されている。

3.4 多人数からみる観光関連授業の課題

「日本旅遊概論」の授業の履修生は 80～90 人であるため、効率的に教室活動を行うのは容易なことではない。しかし、履修生が主体的に学習に参加することによって、授業で取り扱ったテーマへの理解も深まるはずである。また、日本旅行や観光に関する生教材が多くあるため、履修生の学習動機を高めることと能動的な学びを促すのに、教室活動を積極的に取り入れる必要があると思われる。

多人数の観点からみる「日本旅遊概論」の課題として、時間、授業運営、教室活動とグループ分け、評価方法などが挙げられる。まず、「時間」に関しては、履修する学生数が一クラス 80～90 人であるから、授業での口頭発表、教室活動、発表を聞きながら書く感想文の時間が短縮されてしまった。80～90 人のクラスでは、授業における口頭発表の時間が従来の 3 分から 2 分ほどに短くなってしまった。

次に、「授業運営」も履修生の人数と大きく関係している。というのは、履修生が多ければ多いほど、出席を取る時間や、授業中の学生の様子を把握することに時間がかかってしまうため、時間を節約するために教員が早口で講義をすることもある。

「日本旅遊概論」の教室活動は、まず話し合いのグループ分けをしてから始まる。1 グループの人数は 4～5 人で、80～90 人を 18～22 組に分ける。そして、教室活動の内容は教師が指定したテーマに従うものである。各テーマの講義が終わったら、15

分間をグループの討論時間や意見交換とし、その後、グループの発表になり、発表が終わったら、クラス討論および教員による振り返りの時間になる。なお、各組の発表時間は5分以内と決めてある。授業時間に限りがあるため、二週間に一回、一回3組までの発表を行う。履修生全員に緊張感を持って教室活動を行ってほしいため、発表してもらう3組は事前には指定しない。各テーマの講義が終わったら、抽選で発表してもらう3組を決める。

そして、「教室活動とグループ分け」の課題は、a.～e.のようにまとめることができる。

- a. クラス規模が大きい：授業の雰囲気づくり、履修者の把握、評価の公平さ、効率的に運営することなどは難しい。
- b. 限られた授業時間数：授業は週2時限（100分）、中間試験と期末試験の週を除き、実際授業を行っているのは16週というような時間的制約がある。
- c. 参加の度合の評価は困難：プレゼンテーションやパワーポイントによる教材作成はグループごとに行うため、個人への評価は難しい。
- d. グループ編成：自由グループの場合、好きな人同士がリラックスして話せるが、一人になってしまう履修生が出る。一方、指定グループの場合、仲間への不満が見られる。
- e. 大学生の学習態度の変化：例えば、授業中のスマートフォン使用、授業に関係のない勉強をする、私語、昼寝などである。

最後に、「評価方法」の課題として、グループ内の個人を評価することは困難であることが挙げられる。集団になると人々は怠けてしまう傾向があり、グループ内にはサボる人がいる可能性ややる気のない人と同じグループになることがしばしば見られる。そのため、グループ活動において個人評価の客観性と公平性を確保することが重要である。また、メンバー間の相互比較によって個人を評価することも必要である。「日本旅遊概論」において評価したい個人能力には、授業での口頭発表、発表内容のパワーポイント制作、プレゼンテーション、グループディスカッション、コミュニケーション能力、メンバー同士の相互交流などといった多様なものがある。評価方法としては、グループ活動の役割分担表、授業で使用した評価シート（口頭発表の相互評価と自己評価の二種類）、成果物の提出、発表終了後に書く小レポート、フィ

ードバックへの参加、授業への出席点を総合するなどの方法が挙げられる。また、授業の活性化を考慮して、グループ間で競わせて、グループ発表の終わりに履修者が投票して各グループの成果と個人のパフォーマンスを評価する活動も行う。つまり、グループ活動における個人の評価は多面的な評価を行っていくことが必要である。

表「日本旅遊概論」の評価シート

観点	項目	評価					コメント
		良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る	
1.内容 (内容)	①テーマに沿った内容であった (與主題相符)	1	2	3	4	5	
	②面白かった (有趣)	1	2	3	4	5	
	③ためになった (有用)	1	2	3	4	5	
2.話し方 (説話方式)	①声は適切 (音量適中)	1	2	3	4	5	
	②しゃべる工夫あり (説話有魅力、有下工夫)	1	2	3	4	5	
	③スピードは適切であった (速度適中)	1	2	3	4	5	
3.PPT 資料 (PPT 資料)	①理解しやすかった (易懂)	1	2	3	4	5	
	②字の大きさは適切 (字體大小適中)	1	2	3	4	5	
	③図、写真などは見やすかった (圖、照片清晰)	1	2	3	4	5	
4.チームワーク (團隊精神)	①役割分担は適切であった (工作分配得當)	1	2	3	4	5	
	②発表の時間配分は適切であった (發表時間分配得當)	1	2	3	4	5	
	③コミュニケーションが取れた (小組成員溝通良好)	1	2	3	4	5	
5.その他 (其他)	良い点 (優點) : 改良点 (缺點) :						

4. おわりに

本稿では、台湾の教育部大学院課程资讯网を通じて観光関連授業の開設状況を調査し、台湾日本語関係学科における現状と課題を考察した。さらに、日本語教育・日本文化教育の中での位置づけや観光関連授業のデザイン指針の構築、日本語教育の質的充実を図るための特色ある授業の提供、選択科目や教養科目の開設に関する問題点の明確化を述べた。また、「日本旅遊概論」という銘傳大学応用日本語学科の観光関連科目を例に挙げ、多人数クラスの課題についても触れた。観光関連授業は、少子高齢化による大学入学者の増加とスマートフォンの普及率の影響で、さまざまな問題に直面している。具体的には、授業内容の構成、学生の日本語能力と授業内容のバランス、授業の運営方法、教育的成果と課題の対策などがある。これらの課題に取り組むことで、より実践的で充実した観光関連の授業を提供することができる。今後は、学生の興味を引き出すために努力し、特色ある観光関連授業を開発・提供し、銘傳大学応用日本語学科や台湾の日本語教育の質的充実を図りたいと考えている。

参考文献

- 植村仁他 (2015) 「大人数講義科目における双方向実現の可能性を探る」『教育開発センタージャーナル』 6 神戸学院大学 pp.15-25
- 林玉恵 (2015) 「台湾日本語関係学科における日本地理の授業の現状と課題—日本語学習者のニーズの観点から—」『台湾日語教育學報』 25 台湾日語教育學會 pp.375-404
- 林玉恵 (2016) 「外国語学科における「概論的授業」の位置づけと問題点—「日本旅遊概論」の授業を例として—」『淡江日本論叢』 33 pp.49-72
- 林長河 (2014) 「龍山寺を例にした自国文化を説明する日本語教育の模索—語学教育理論の応用と課題—」『台湾日本語文學報』 35 pp.351-374

台湾日本語教育における ICT 活用研究の現状と課題

—AI 関連を中心に

台湾日本語文学会理事長
中国文化大学国際外語学院院長
教授 葉淑華

1. はじめに

2021年にフェイスブックなどの大手企業がメタバース参入を宣言してから、メタバースは今後のデジタルコミュニケーションの形として認識されるようになった。そして、2022年11月に高度なAIチャットボットのChatGPTは公開されてから、大きな話題を呼んでいる。また、韓国・ソウル市は2023年1月16日に、公共メタバースプラットフォーム「メタバース・ソウル (Metaverse Seoul)」の運用開始は大きな注目を集めている。

ICT技術の著しい進展により、AI.VR.メタバースなどはビジネスの利活用に限らず、教育現場でも事例が登場し始めている。2022年秋に東京大学では、「メタバース工学部」を設立した事例がとりあげられる。日本文部科学省は2023年8月4日、公立中学校・高校などを対象として「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」に示されたパイロット的な取組みを進める生成AIパイロット校を公募することを発表した。台湾の教育部は2023年2月23日に教育分野におけるChatGPTの活用について、「学習ツールとして合理的で責任感のある態度で活用するよう、学生を指導すべき」との見解を示した。よって、今後教育の更なる効率化のためにVR.AI.メタバースなどのICT利活用が推進されていくと思われる。

本研究では、AIなどのICTの効果的な運用方法について明らかにしていくための前提として、台湾国内の研究動向に焦点をあてて先行研究をレビューする。まず、過去5年間台湾で行われた国際シンポジウムを調査データにし、台湾の日本語教育におけるAIなどのICT活用研究の現状を考察する。次にAIを活用した実践事例をとりあげて解説する。それらを踏まえた上で、日本語教育でのAIなどのICT活

用の今後の展望について述べる。

2. 研究方法

研究対象の AI などの ICT 関連論文選定には、「台湾日本語学会」「台湾日本語教育学会」「台湾応用日本語学会」といった 3 大会及び村上春樹センターの国際シンポジウムを利用した。近年台湾での AI などの ICT 活用の現状や課題を明確にすることができると考えたからである。予稿集の論文テーマから、「AI」「VR」「オンライン」「デジタル」「機械翻訳」などの ICT 関連キーワードをもとに、論文を抽出した。調査期間は 2019 年～2023 年 7 月とした。

3. 結果と考察

台湾における日本語関連学会には、主に「台湾日本語教育学会」「台湾日本語学会」「台湾応用日本語学会」といった 3 つの学会がある。そのほか、台湾の淡江大学村上春樹センターでは、2019 年以来ほぼ毎年 AI を主題とする国際シンポジウムを行っている。よって、ここでは、この 4 つの機関で開催された国際シンポジウムの論文を考察し、台湾国内の AI などの ICT の研究動向を明らかにし、今後の展望を示す。

まず、「台湾日本語教育学会」で開催された国際シンポジウムについてみる。

(1)各年度開催された国際シンポジウムには、それぞれ主題が設定され、2019 年は「AI と日本語教育との対話」、2020 年は「クリエイティブラーニングを目指す日本語教育」、2021 年は「with コロナ時代の日本語教育を目指して」、2022 年は「『世界』に繋がるための日本語・日本語教育」、2023 年は「DX 時代における日本語教育の挑戦と課題¹⁾」である。

(2) 論文総数は 89 本であり、2019 年は 16 本 (15²⁾、2020 年は 16 本 (5)、2021 年は 20 本 (5)、2022 年は 37 本(8)である。AI などの ICT に関する論文は合計 33 本、37.1%である。

(3) 2019 年「AI と日本語教育との対話」を主題とした国際シンポジウム³⁾には、AI

¹ 2023 年 11 月 25 日に行われる予定なので、調査対象に入れなかった。

² () 内の数字は AI などの ICT に関する論文数をさす。以下、同様。

³ 主催は淡江大学日本語文学科、台湾日本語教育学会、淡江大学村上春樹研究センターである。

関連論文は 15 本もある。それに対して、2020 年～2022 年は AI などの ICT 関連論文は 5 本か 8 本である。

次に「台湾日本語文学会」で開催された国際シンポジウムについてみる。

(1) 各年度開催された国際シンポジウムには、それぞれ主題が設定され、2019 年は「日本語・日本文学研究の人文知・社会知」、2020 年は「日本語文学研究の境界線」、2021 年は「ポストコロナの日本語文学研究」、2022 年は「SDGs に向けた日本語文学研究の展望」、2023 年は「国際教育としての台湾日本語文研究のブレイクスルー⁴」である。

(2) 論文総数は 82 本であり、2019 年は 9 本 (1)、2020 年は 26 本 (1)、2021 年は 23 本 (2)、2022 年は 24 本 (0) である。AI などの ICT に関する論文は合計僅か 4 本、4.8% である。

さらに「台湾応用日語学会」で開催された国際シンポジウムについてみる。

(1) 2019 年、2020 年開催された国際シンポジウムには、特に主題が設定されず、2021 年は「東アジア社会応用日本語教育と文化国際学術シンポジウム」、2022 年と 2023 年は同じ主題「ニューノーマル時代における日本語教育と日本研究の未来」である。

(2) 論文総数は 76 本であり、2019 年は 13 本(0)、2020 年は 11 本(2)、2021 年は 17 本(2)、2022 年は 18 本(5)、2023 年は 17 本(2)である。AI などの ICT に関する論文は合計 11 本、14.5% である。

最後に淡江大学村上春樹研究センターについてみる。

(1) 各年度開催された国際シンポジウムには、それぞれ主題が設定され、2019 年は「AI と日本語教育 (3 月 9 日)」、2019 年は「AI と日本語教育との対話 (11 月 30 日)」、2020 年は「AI と日本語教育との協働」、2021 年は「クリエイティブラーニングを目指す AI と日本語教育」、2022 年は「アクティビティラーニングを目指す AI と日本語教育」、2023 年は「AI 人工知能メタバースと日本語教育」である。

(2) 2023 年に開催された「第 6 回 AI と日本語教育国際シンポジウム【AI 人工知

⁴ 2023 年 12 月 9 日に行われる予定なので、調査対象に入れなかった。

能メタバースと日本語教育】の会議予稿集に「現在までの歩み」が掲載されている。それを次のように整理する。第 1 回目の主催は淡江大学日本語文学科、淡江大学村上春樹研究センター、第 2 回目の主催は淡江大学日本語文学科、台湾日本語教育学会、淡江大学村上春樹研究センター、第 3 回目の主催は淡江大学日本語文学科、淡江大学村上春樹研究センター、第 4 回目の主催は淡江大学日本語学科、淡江大学村上春樹研究センター、第 5 回目の主催は淡江大学日本語学科・村上春樹研究センター、第 6 回目の主催は淡江大学村上春樹研究センターである。6 回の主催には淡江大学村上春樹研究センター以外、それぞれ異なっている。

(3) 論文総数は 81 本であり、2019 年は 15 本(14)、2019 年 16 本(15)、2020 年は 14 本(13)、2021 年は 7 本(5)、2022 年は 14 本(13)、2023 年は 15 本(13)である。AI などの ICT に関する論文は合計 73 本、90.1%である。

(4) 韓国の AI などの ICT にふれた論文は合計 8 本である。

以上、4 つの機関で開催された国際シンポジウムをみてきたが、次のようなことが読み取れる。

①各学会はほぼ各年度の社会状況やニーズに合わせて主題を設定し、国際シンポジウムを開催した。設定された主題から、各学会が重要視したところが異なっているが、似ているところもある。

②春樹研究センターでは 2019 年以来毎年 AI とかわりのある主題を設定し、国際シンポジウムを開催した。淡江大学村上春樹研究センターが日本語教育への AI 活用を重視していることがいえよう。

③収集された論文は合計 328 本であるが、AI などの ICT 関連論文は 121 本、36.8%占めている。AI などの ICT 関連論文は、「春樹研究センター(90.1%)」が一番多く、その次は「台湾日本語教育学会(37.1%)」「台湾応用日本語学会(14.4%)」「台湾日本語文学会(4.8%)」の順となる。

④韓国の AI にふれた関連論文は「春樹研究センター」のみである。

4. AI ロボット教材作成の実践授業

4.1 授業概要

ICT の活用例としては、メール、チャット、SNS などのコミュニケーションツ

ールや、AI、XR (AR/VR/MR 等) など様々がある。ここでは AI 機器を活用して日本語教材作成を試みる。実践授業の目的は未来日本語教員を養成し、日本語教育の質の向上を目指すものである⁵。実践対象は K 大学の修士課程『日語教学研究』の履修者 16 名⁶である。本実践科目では単なる知の転移のみならず、学習者が自ら知の構築を体験できるようにする学習パラダイムを工夫している。

授業設計においては、ICT スキルを学ぶとともに、プログラミング的思考の育成にも目を向けている。そして、実際の体験授業では学習者は自ら考え、AI ロボット教材の「テーマ」を自由に設定し、プログラミングを試行錯誤しながら、AI ロボット教材作成に取り組む。

4.2 学習成果

学習者の作成した AI ロボット教材は、主に読解向けのもの (B 組)、会話向けのもの (A、G 組)、試験向けのもの (E 組)、聴解向けのもの (C、D、F 組)、の 4 種類に分類される。教材の多様化を呈している。

さらに、AI ロボット教材には、言語情報 (主に音声情報) 以外にも、非言語情報 (表情、動作、音楽などの要素) が盛り込まれたクリエイティブな教材が確認される。これらは大きく 1 要素のもの (E 組)、2 要素のもの (B、C、D、F 組)、3 要素のもの (A、G 組)、3 種類に分類される。2 要素のものはさらに「音声+音楽」「音声+動作」「音声+表情」の 3 種類に小分けできる。

4.3 学習者のフィードバック

授業後、学習者の考えを可能な限り読み取れるために、実際に経験してみて、感じたこと、考えたことなどを自由記述という形式で Jamboard に書き込んでもらう。

学習者にとっては AI ロボット教材を作成することは、それほど難しいことではないことがわかる。学習者は生活において ICT などを使いこなすからだと考えられる。

しかし、学習者にはプログラミング言語の操作が難しいと書いた人も何人かいる。それは履修者の中にはやや年上の方が 4 人いるからである。

「機会があったら、またやってみたいです。」「日本語学科の学生にもかかわらず、

⁵ 詳細は葉 (2023) をご参照。

⁶ 16 名の履修者は A-F の 6 組に分けられた。

AIによる体験ができて、嬉しい。」「動きのある教材が作成できたことに驚いた。こんな教材があったら、学習意欲が格段に高まると思う。」「このようなAI教材作成のチャンスを提供してくださった先生に感謝している。」などの考え方もみられる。

4. おわりに

以上、4つの機関で開催された論文を考察し、ここ5年間台湾での最近のAIなどのICT研究動向を例示した。台湾ではICTの新しい技術に敏感し、すぐに教育現場への活用を導入する傾向が確認された。AIなどのICTに関する論文数は、学会の設定主題と深い関わりがあることが確認された。村上春樹センターは、2019年以来、各年度に「AI」とかかわりのある主題を設定したので、他の学会と比べてAIなどのICT論文数は一番多いが、最も少ないのは台湾日本語学会である。

一方、実践授業の場合、AIロボット教材作成過程においては、「うまく話せない。思ったとおりには動けない。」などといった遭遇問題を、学習者はお互いに協力していちいち解決しながら、教材を作成していた。また、他の学習者の作品をみることで、様々なイノベーションを理解し、学習者に良い刺激になったと思われる。人文系学習者はICT機器に疎いため、最初は授業が不安であるが、体験を通して日本語教育へのAI活用の大切さを感じる事が確認される。

将来的に生成系AIと人間の協働作業は避けられないことで、これから前向きに向き合い、効率的に活用すべきだと思う。本論では台湾の4つの機関で開催された論文テーマのみを取り上げて考察したが、具体的な応用領域や問題点などについての分析は今後の課題とする。

参考文献

- 落合由治 (2019) 「日本語教育における AI の自然言語処理の応用—教室で利用できるアプリケーションを活かして—」『2019 台湾日本語教育研究国際シンポジウム—AI と日本語教育との対話』
- 曾秋桂 (2021) 「世界をジブンゴト化する日本語翻訳授業デザイン—SDGs と AI 技術の融合—」『2021 年度「台湾日本語教育研究」国際シンポジウム with コロナ時代の日本語教育を目指して』

- 武田浩一(2020)「自然言語処理の発展と応用」『台湾日語教育学報』第 35 号、1-11
- 吉満貴志(2022)「教育分野での XR の活用と今後の展望」『通信ソサイエティマガジン No.63 冬号 小特集 教育分野における ICT 利活用の実例と展望』185-196
- 頼錦雀(2020)「AI 時代における台湾の日本語教師の役割」『台湾日語教育学報』第 35 号、26 - 55
- 葉淑華(2021)「日本語教育における教育ビッグデータの活用—MOOC を例に」『日本比較文化学会第 43 回全国大会・2021 年度国際学術大会』日本比較文化学会
- 葉淑華(2023)「未来教員の ICT 活用力向上の試み—AI と VR の日本語教材作成を例に」『2023 年第 6 回 AI と日本語教育国際学術シンポジウム「AI 人工知能メタバースと日本語教育」
淡江大学村上春樹研究センター

SEL の日韓における留学生教育への応用の可能性と意義

鄭 惠先（北海道大学）

永岡 悦子（流通経済大学）

1. はじめに

技術革命と社会の多様性が進み、人間の行動様式や対人関係のあり方が急速に変化する中で、混沌とする新時代を生き抜くために必要な資質、能力とは何か、そのために教育は何をすべきかを考えることが喫緊の課題となってきた。また、パンデミックという未曾有の出来事を経て、世界中の教育界では社会性や感性の発達に関する議論がより活発になってきている。このような時代の中、アメリカで学校生活における学生の不適応行動を減らし、予防するための教育として提唱された概念が「社会性と情動の学習」(Social and Emotional Learning、以下 SEL と略す)である。

本研究では、高等教育における外国人留学生の教育と支援への SEL の有効性を検証することを目的とする。発表者らは、これまで「日本の大学に在籍する外国人留学生が必要とする異文化間能力」に注目し、そういった能力を育てるための教育支援について研究を続けてきた。本研究は、これらの一連の研究の連続線上にある。まず、今回の発表では、SEL の成り立ちと共通の枠組みをもとに SEL の概念を整理した上で、韓国と日本における SEL 研究の動向と教育現場での現状について述べつつ、両国の共通点と相違点について考える。それをもとに、将来的に SEL を高等教育、さらに留学生教育の異文化適応、学力向上に資する学習プログラムとして活用していくことへの可能性を探る。

2. SEL とは何か

アメリカで SEL を推進する団体のキャセル (Collaborative for Academic, Social, and Emotional Learning、以下 CASEL と略す) による SEL の定義は以下のとおりである。

すべての子どもや大人が、健康なアイデンティティを発達されること、情動（感情）をコントロールして個人や集団の目標を達成すること、他者への思いやりを持ちそれを表すこと、支持的な関係を作りそれを維持すること、そして責任と思いやりのある決定ができるように、知識とスキルと態度を身につけて使えるようになる過程（渡辺・小泉 2022:8）

SEL の概念は、1968 年にアメリカのイェール大学のカマー（Comer.J）教授のグループが、コネチカット州ニューヘブーン市の 2 つの学校で行った社会性発達プログラムがその始まりとされる。その後、1994 年に SEL の考え方に共感する研究者、教育者、子どもの擁護者などが集まって発足したのが NPO 法人の CASEL であり、この組織によって研究、実践が本格化したことで SEL の概念が世界中に普及、拡大したといえる。

CASEL では、SEL が目指す中心的な能力（Social and Emotional Learning Skills、以下 SEL スキルと呼ぶ）として、①自己への気づき、②自己のコントロール、③他者への気づき、④対人関係、⑤責任ある意思決定の 5 つを示し、独自の評価基準と方法をもとに SEL プログラムの評価を行っている。

SEL スキルについては、それに含まれる下位項目に多少の違いはあっても、すでにさまざまな分野や業界において広く言及、注目されている。世界企業の人事や戦略企画の担当者が集う 2015 年の World Economic Forum（WEF）では、未来社会の人材像に求められるスキルとして協調、意思疎通、問題解決力、他者コントロール、他者との調整、感性知能などを取り上げ、これらを総じて SEL スキルと命名している（김은정 2020:26）。また、2015 年の経済協力開発機構（以下 OECD と呼ぶ）調査書の“Skills for Social Progress: The Power of Social and Emotional Skills”では、これまで認知スキルばかりを重視してきた教育から脱却すべく、社会情動的スキル、いわゆる SEL スキルを含む非認知スキルとのバランスの取れた教育が重要であると指摘している（経済協力開発機構 2018:3）。その上で、社会情動的スキルを「学生が自身の思考、感情、行動を調節する能力」と定義し、「目標の達成」、「他者との協働」、「感情のコントロール」という 3 つの領域に分類している（経済協力開発機構 2018:52）。

3. SEL は日本と韓国でどのように定着しているのか

3.1 韓国の現状

韓国は、OECD が 2017 年から 2020 年の間に実施した、世界 10 か国の学生を対象とする「社会情動的スキル」に関する国際比較分析（The Study on Social and Emotional Skills : SSES）に参加してきた。OECD は 2021 年に調査結果報告書の“beyond Academic Learning; First results from the survey of social and emotional skills”を公表し、「各国は長期的な市民リテラシーの観点から、社会情動的スキルの開発と涵養のための教育政策を支援すべきだ」と勧告している（주오이시디 대한민국 대표부:2021、発表者訳）。

このような世界の流れと韓国政府の積極的な姿勢に歩調をあわせ、韓国の教育界でも SEL の重要性を唱える声が高まってきている。しかし、韓国における SEL 関連の先行研究は、そのほとんどが初中等教育を対象とするものであり、高等教育における SEL に焦点を当てた先行研究は少ない。また、その内容も SEL 概念の重要性や効果について論じたものや、理論的背景と海外の関連法案の紹介、または SEL プログラムと他教科との統合に関するものが主である。

高等教育における関連研究として、大学新入生や外国人留学生の「大学生活適応」に注目した調査研究は少なくないが、SEL プログラムの開発と教育現場への応用にフォーカスした実践的な研究は皆無といっても過言ではない。이서연（2020）と 김벌아（2020）では、それぞれ大学生と外国人留学生に対する質問紙調査を通して、それぞれ「共感能力」と「社会的支持」を主な媒介要素として示し、SEL スキルと大学生活適応の間に有意な関連があると述べている。

また、大学生のための SEL プログラム開発を目的に掲げた研究として注目すべきなのが 김은정（2020）である。質問紙調査と FGI 調査を用いて SEL スキルに関する大学生の要求分析を行った結果、韓国の大学生は 5 つの SEL スキルの中で「自己への気づき」と「自己のコントロール」がもっとも必要だと認識し、実際にこれらの部分で困難を感じると述べている。ただし、この研究も現段階ではニーズ調査のステップに留まっている。

興味深いのは、就職や進路、成績といった個人的な事柄が韓国の大学生にもっとも影響を与えているという実態が、「他者への気づき」や「対人関係」より「自己への気づき」と「自己のコントロール」を重要視するという調査結果に反映されただろう

と分析している点である。今後、本研究の成果とともに、日本人学生、韓国人学生、在日外国人留学生、在韓外国人留学生のそれぞれが直面する現状や課題の違いによって重視される SEL スキルの違いが可視化すると期待する。

3.2 日本の現状

日本では、いじめや学級崩壊など学校が抱える問題解決に向けて、中央教育審議会が 1996 年の答申において「生きる力」をキーワードに子供たちの生活や社会性、自立、健康の向上と家庭や地域社会の連携の重要性などが指摘した。そして、子供たちの学習の基盤となる人間性や人間関係作りといった社会的能力の育成に注目が集まるようになった（小泉 2005）。このような背景から、社会性を育成するための社会的スキル訓練などが多く行われ、効果を上げてきた。しかしながら、効果が一時的であり、長期的な予防効果が明らかでないことや、仲間との関係の改善などが必ずしも達成されないことが課題としてあげられ、その背景に感情の理解や気づきなど感情へのアプローチが欠けていることが指摘されるようになった（山田 2008）。これに焦点を当てる新たな教育プログラムとして、日本の学校では、2000 年以降に SEL プログラムの実施が加速した。瀧澤・松本（2022）の SEL プログラムのメタ分析によれば、学級内の全児童生徒を対象に行われるユニバーサル設定の SEL に関する実践は、日本全国の幼稚園・小中学校・高等学校で実施され、200 本以上の論文が発表されている。瀧澤・松本（2022）の調査では、幼稚園・小学校の研究数が最も多く、次いで中学校、高校での研究数の順となっているが、SEL のプログラム効果としては中学生より高校生のほうが高い傾向があることが指摘されている。また、SEL プログラムを受けた子供は、受けなかった子供に比べ、SEL スキル、社会性、暴力行動、情緒問題に改善が認められたと報告されている。

SEL の導入が進む中で、SEL スキルが文化の影響を強く受けることから、SEL-8 研究会を中心に日本の文化に適した内容のプログラムが開発されるようになった（SEL-8 研究会 HP）。大学生を対象とした研究は、教職課程用のプログラムが中心であるが、高校から大学への生活環境の変化への適応や、大学生としての新たな役割の自覚のために SEL を導入する動きがみられる。

八田ほか（2018）は大学の運動部に所属する大学生アスリートを対象に、勉強と競技活動を両立し、ストレスや心理的な葛藤を乗り越え、ポジティブな感情や人生の意味や希望を見出す支援として、SEL のプログラムと尺度の開発と効果検証を行っ

ている。北見・八田（2019）では、大学生への SEL の実践に先立ち、SEL 評価指標の開発が行われている。先行研究の数はまだ少ないが、SEL スキルは、全人的な視点から生涯にわたって育成するべきものであり、高等教育に導入する有用性を唱える指摘が増えてきている。

4. SEL は留学生教育にどのように応用できるか

4.1 本研究の経緯

発表者らは、2017 年から日本で学ぶ外国人留学生を対象に、留学生の視点に立った異文化理解や異文化間能力について研究を開始し、「異文化理解に対する意識調査」の質問紙調査を用いた計量テキスト分析（永岡・鄭 2022）と、インタビュー調査を用いた質的分析（鄭・永岡 2022）をまとめた。その結果、(1)母国と日本の比較、(2)日本語学習への気づき、(3)ネットワークを作る・参加する、(4)必要とする異文化間能力、(5)留学のメリットという 5 つのコアカテゴリが生成され、留学生が「必要とする異文化間能力」のカテゴリには、(a)問題解決能力、(b)組織への適応能力、(c)日本人のコミュニケーションスタイルへの理解、(d)積極的な態度という 4 つの概念が生成された。この 4 つの概念は、SEL スキルの「自己への気づき」「自己のコントロール」「他者への気づき」「対人関係」「責任ある意思決定」と非常に密接な関係がある。そして日本の大学で学ぶ外国人留学生にとって、日本語能力とコミュニケーション能力、そしてネットワークの形成や参加が重要であることが明らかになった。日本語力の上達とともにネットワークに主体的に参加できた成功体験が、日本留学に対する肯定的な自己評価につながっている。異文化での不安をコントロールし、積極的な思考や行動、そして外国語としての言語表現に転換していくために、SEL は留学生教育や外国語教育を支える重要な構成要素ではないかと考える。

4.2 留学生教育のための SEL プログラム開発に向けて

これまでの研究成果を外国人留学生の受け入れ政策に共通点が多い韓国との国際比較を通じて、さらに継続・発展させたいと考えている。日本と韓国の高等教育を取りまく環境は、公用語が英語ではないことや、私学の割合が高く、少子化と供給過剰の問題が起きていることなど共通点が多い。両国とも、高等教育の国際化と優秀な人材の確保を目的に外国人留学生を積極的に受け入れてきた。一方、外国人留学生の急

増によって、受け入れの質の低下が問題になっている点でも共通している。特に、外国人留学生の対人関係をめぐる心理的ストレスは異文化不適應の大きな要因となっている。両国の異文化適應の先行研究において、文化適應ストレス、社会情緒的適應、大学生活での人間関係、在留期間は有意な関連性があるという指摘が多い。しかし、鄭・永岡（2022）、永岡・鄭（2022）で明らかになったとおり、言語能力、コミュニケーション能力は異文化適應や人間関係の構築に大きく影響される。そのため、外国人留学生の異文化適應に関する研究において、言語能力と社会性、態度、価値観、すなわち SEL スキルとの関連性を精査していくことが重要である。学習環境の共通性が高い日韓の外国人留学生を対象に異文化適應を比較し、その教育方法として SEL を導入することは、両国の留学生教育の改善と発展に役立つものであると考える。

引用文献

- 北見由奈・八田直紀（2019）「大学生における社会性と情動の学習プログラムの評価指標の開発」日本健康心理学会 第 32 回記念大会プログラム p.114
- 経済協力開発機構(OECD) [編著] ベネッセ教育総合研究所 [企画・製作] 武藤隆/秋田喜代美 [監訳] 荒巻美佐子/都村聞人/木村治生/高岡純子/真田美恵子/持田聖子 [訳] (2018) 『社会情動的スキル：学びに向かう力』明石書店
- 小泉令三（2005）「社会性と情動の学習(SEL)の導入と展開に向けて」『福岡教育大学紀要第 4 分冊』, 54, 113-121.
- 瀧澤悠・松本有貴（2022）「第 2 章 SEL の導入と実践 1. SEL プログラムを学校に導入する」渡辺弥生・小泉令三（2022）『ソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL) 非認知能力を育てる教育フレームワーク』福村出版 pp.62-80
- 鄭惠先・永岡悦子（2022）外国人留学生の「異文化間能力」に対する意識の形成プロセス：質的分析を通して見える社会・文化的な相互作用」『日本語・国際教育研究紀要』 25, pp.1-24, 北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部
- 永岡悦子・鄭惠先（2022）「外国人留学生が考える日本留学に必要な能力とは：テキストマイニングによる共起ネットワークと特徴語の分析から」『流通経済大学流通情報学部紀要』26 巻第 2 号, pp.137-166
- 八田直紀・邑木隆二・下嶽進一郎・笹尾敏明（2018）「大学生アスリートにおける社会性・情動コンピテンス尺度の開発と妥当性の検討」日本健康心理学会 第 31 回記念大会プロ

グラム 日本健康心理学会,p.114

山田 洋平 (2008) 「社会性と情動の学習 (SEL) の必要性和課題」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第一部』第 57 号 pp.145-154

渡辺弥生・小泉令三 (2022) 『ソーシャル・エモーショナル・ラーニング (SEL) 非認知能力を育てる教育フレームワーク』福村出版

SEL-8 研究会 HP 「SEL & SEL-8 とは」 (2023 年 8 月 8 日更新)

<http://www.sel8group.jp/information.html> (最終閲覧日 2023/08/18)

김별아(2020). 국내 외국인 유학생의 사회정서역량이 대학생활적응에 미치는 영향: 지지원별 사회적지지의 매개효과를 중심으로. 이화여자대학교 석사학위 논문

김유리, 정재우, 소정옥, 박진옥, 권선향, 박상현, 박옥선 (2022). 학교 사회정서학습 프로그램 개발 및 적용 방안 연구: 초등학교 도덕과 교육과정을 중심으로(서교연 2022-78). 서울: 서울특별시교육청교육연구정보원.

김은정(2020). 대학생의 사회정서역량 프로그램 개발을 위한 요구분석. 教育方法研究 제 32 권 제 1 호. pp.25-44

이서연(2020). 대학생의 공감과 대학생활 사회적 적응 간의 관계에서 사회정서역량의 매개 효과. 성균관대학교 석사학위 논문

주오이시디 대한민국 대표부 (2021) ”사회정서역량 함양의 중요성”

https://overseas.mofa.go.kr/oced-ko/brd/m_20807/list.do (最終閲覧日 2023/08/18)

インクルーシブな社会を実現するための言語教育実践

「日本人のマジョリティ性」をテーマにしたヒューマンライブラリーの試み

中川正臣（城西国際大学）

福村真紀子（茨城大学）

本間祥子（千葉大学）

1. はじめに

現在、日本国内の日常生活の中で外国人を見かけない日はない。しかし、在日コリアンに対するヘイトデモの問題や技能実習生を取り巻く劣悪な労働環境の問題など、いまだ日本社会には差別や偏見が山積しており、多様性や寛容性が尊重される社会の実現には至っていない。筆者らは、言語教育とは、学習者が自己や他者の多様性を認め、インクルーシブな社会を形成する担い手を育む営みという立場に立つ。インクルーシブな社会とは、すべての人々が対等な立場でよりよく生きていける社会を意味する。このインクルーシブな社会の実現に一步でも近づけるよう、言語教育実践の一つとしてヒューマンライブラリー（以下：HL）に取り組んできた¹。本発表で取り上げるHLは、上記のような問題意識をふまえ「日本人のマジョリティ性」をテーマとした。このHLは対話を通じて、自己と他者のマジョリティ性を認識し、社会参画を促す言語教育実践である。本発表ではこのHLを通じて、参加者（「本」「読者」「司書」）がマジョリティ性の何に気づき、どのような意思を芽生えさせたか、また、マジョリティ性に目を向けた言語教育実践にいかなる意義があるのかについて明らかにする。

2. 実践の背景と目的

筆者らは普段意識しづらい「日本人のマジョリティ性」という一見偏った、センシ

¹ HLとは、話し手である「本」と参加者である「読者」で行う一種のお話会のようなもので、「読者」は興味・関心に即して「本」を選び、約30分間「本」と対話をし、「本」の気持ちを尊重しながら「本」に質問ができるという活動である（駒澤大学社会学科坪井ゼミ、2012,p.13）。

ティブなテーマを設定し、「本」を「日本人」に限定した上で、「本」「読者」「司書」という参加者すべてがマジョリティ性について考えるという実践を試みた。

HLはマイノリティに対する理解と偏見の低減を目的に始まった。したがって、従来のHLの目的は、生きにくさを抱えた人々の声に耳を傾けることに焦点が当てられてきた。言語教育実践としてのHLは、2012年10月の日本語教育学会においてHLが紹介され、教育実践の中で活用されたり、援用されたりしている。宮崎(2018)ではマイノリティの日本語母語話者が「本」、日本語学習者が「読者」となり、対話するHLの実践が報告されている。また、近藤(2020)では日本語学習者が「本」や「読者」になることで、日本語そのものや聞き手・話し手としての学び、多様性への気づきが促されることがわかっている。

さらに、近年、HLでは様々な職業の人々を本として招くなど(宮崎,2018)、「テーマ」や「本」をマイノリティに限定せず、多様な市民の交流機会や相互理解の場として活用する動きもある(坪井,2020, p.185)。しかし、HLの「本」をマイノリティに限定しない場合、何が目的やテーマになりうるのか、その可能性や価値、意味についての議論はいまだ不十分である。

本稿で取り上げるHLは二つの独自性を持つ。一つ目は、HLを言語教育実践として捉えることである。筆者らは、社会に開かれたHLが「個人の内面を変容させるためのことばの活動」へと転換させることができると考え、言語教育実践そのものがインクルーシブな社会を考えるきっかけ、あるいはインクルーシブな社会づくりそのものにつながると考える。二つ目は、HLのテーマを「日本人のマジョリティ性」とした点である。マイノリティへの差別、偏見の問題はマイノリティや偏見を受けやすい人側の問題ではなく、マジョリティや偏見を持つ側が解決していく問題である。したがって、マジョリティや偏見を持つ側、あるいは何らかの特権を持つ集団が自身の価値観や偏見に気づき、その気づきを言語化するための仕掛けが必要となる。

3. HLと調査の概要

筆者らが実践したHLの概要は【表1】のとおりである。「日本人のマジョリティ性」について語ってもらう本の選定は、日本国籍を有し、自分のマジョリティ性を少なからず自覚し、それに基づいたなんらかの活動を実践している人々を対象とした。具体的には、地域の日本語教育に携わる人、定時制高校の支援活動を続ける高校教

師、在日コリアンの問題を学ぶ中で日本人としての特権を強く意識するようになった大学生などである。

この HL の実践を通じて、「本」「読者」「司書」にどのような気づきがあったか、どのような意思が芽生えたかについて明らかにするために、HL 終了後、「本」「読者」「司書」一名ずつに半構造化インタビューを行った。調査の概要は、【表 2】のとおりである。

【表 1】 HL の概要

開催日	2022 年 1 月 22 日
形式	オンライン会議システム（言語文化研究教育学会の 2021 年度のイベント）
参加者	「本」役：7 名（依頼）※、「読者」役：35 名（公募）
手順	①「本」に対し 30～60 分程度のインタビュー実施 ②①を元に「司書」があらすじ作成 ③「読者」が申し込みの際、あらすじを元に読書する本を選定 ④「本」と「読者」の対話セッション実施（1 回 30 分、2 回実施） ⑤全セッション終了後、「本」「読者」の意見交換

【表 2】 調査の概要

インタビュー	HL の役割	調査日	調査時間	インタビュアー
駿介	「本」	2022 年 2 月 2 日	41 分	筆者 2 および 3
ゆう	「読者」	2022 年 1 月 28 日	60 分	筆者 1
リサ	「司書」	2022 年 3 月 31 日	37 分	筆者 2

4. 「本」「読者」「司書」の気づきと意識の芽生え

「本」である駿介は、日本人の父と日本ではないアジアの A 国（国名）を出自とする母を持つ日本人の会社員である。子どもの頃は、母から「ハーフ」であることが周りにわかるといじめられるので、言動に気をつけるように頻繁に言われていた。駿介自身も人前で母が A 国の言語を使うと恥ずかしいと感じ、A 国の言語を使わないでほしいと母に告げていた。高校時代から、度々海外旅行をして、異言語異文化に触れる経験をしてきた。さまざまな背景を持つ人々が暮らす海外では、周りから日本人として見られ、その結果、宿泊施設の予約などがスムーズにできるなど、日本国籍を

有していることのメリットを感じていた。よって、海外では「ハーフ」ではなく日本人というアイデンティティを持って過ごしていたと言う。駿介は、HLに参加する前、年齢を重ねることで「ハーフ」という「マイノリティ性」がいつの間にか日本社会に溶け込み「日本人」という「マジョリティ性」に移行していくと考えていたが、この日本人も多様であることをに気づかされる。駿介はHLの実践を通じて「読者」との対話によって、自身を取り巻く環境を改めて振り返ったのである。駿介は中高一貫教育の私立に通い、私立大学からいい会社に入り、恵まれた環境で育ったと言う。一方、「その他の世界をあんまり知らない」と語るように、「日本人」の多様な生き方をHLを通じて知ることになる。駿介はマジョリティ性、マイノリティ性について一時停止して考えること、気づくことの重要性について語り、自分とは異なる世界の人々の話を耳を傾け、今、自分ができることを社会活動をしていきたいと語った。

「読者」の一人であったゆうは、以前にも「読者」や学生スタッフとして何度かHLに参加した経験がある大学生である。今回のHLには、X（「本」の一人）のあらすじに特に興味を持ったことから参加してみようと考えた。Xは定時制高校で外国人生徒の日本語学習支援に取り組んでいる教師である。ゆう自身もかつて定時制高校に通った経験を持っており、同じ高校に通う友人には外国から来た生徒が多くいたと言う。ゆうは、Xの話聞きながら自分の定時制高校時代の経験や記憶を振り返り、それまで自分が感じていたマイノリティ性に加え、自分には日本語母語話者としてのマジョリティ性が存在するというを自覚していった。ゆうはXの思いや活動に共感を覚え、自分自身でも定時制高校の支援活動してみたいと考えるようになったと言う。さらにゆうはHLに過去数回参加している経験から、既存のマイノリティの声に耳を傾けたHLと、今回のような自身のマジョリティ性を語るHLの対比について、マイノリティの話聞くのは、マイノリティからマジョリティへの願いや訴えについて対話をすることであるが、今回のような「本」の「マジョリティ性」の話聞くのは、マジョリティへの語りかけ、問いかけであり、より強さを感じると述べた。

リサは日本人ではなくB国人である。過去に日本語を学ぶために渡日し、1年間東京の大学で留学生活を送った経験がある。留学を終えてB国に帰国し、母国の大学も卒業した後、オンライン授業を受けながら日本の日本語学校に所属していたが、その時期にHLの企画を知り、「司書」として協力することになった。地域日本語教育に従事しているY（「本」の一人）担当の「司書」の一人として、もう一人の「司